

**平成27年度  
住まいに関する県民アンケート**

**調査報告書**

平成27年(2015年)12月8日～12月22日

**長野県建設部**

# 目 次

|                        |    |
|------------------------|----|
| I 調査の概要                | 1  |
| II 集計結果                | 7  |
| I 住宅・居住環境に関する意識・志向について |    |
| 問10 現在の住まいの評価          | 8  |
| 問11 持・借家志向             | 10 |
| 問12 新築・中古住宅志向          | 12 |
| 問13 中古住宅を希望する理由        | 15 |
| 問14 中古住宅を希望しない理由       | 17 |
| 問15 希望する住宅の構造・建て方      | 19 |
| 問16 希望する構造材の加工         | 22 |
| 問17 設計・建設の依頼先          | 24 |
| 問18 設計・建設の依頼先の理由       | 27 |
| 問19 重視する住宅の性能          | 30 |
| 問20 リフォームの予定・希望        | 34 |
| 問21 リフォームの予定・希望内容      | 36 |
| 問22 リフォームの予算上限額        | 39 |
| 問23 リフォームの予定時期         | 41 |
| 問24 リフォームを行わない理由       | 43 |
| 問25 住宅周りの環境            | 46 |
| II 住宅建設における環境対策について    |    |
| 問26 新築・リフォームに使用する木材    | 50 |
| 問27 重視する木材の産地          | 52 |
| 問28 環境負荷軽減のために必要なこと    | 54 |
| 問29 住宅の省エネルギー化への関心     | 57 |
| 問30 長期優良住宅への関心         | 60 |
| 問31 低炭素建築物(住宅)への関心     | 62 |
| III 住宅の地震対策について        |    |
| 問32 住宅の耐震性             | 64 |
| 問33 希望する耐震対策           | 67 |
| 問34 耐震対策を行わない理由        | 71 |
| IV 高齢社会における住宅対策について    |    |
| 問35 高齢時の住まいへの不安理由      | 73 |
| 問36 高齢時の住まい方           | 77 |

|     |                             |     |
|-----|-----------------------------|-----|
| V   | 公営住宅のあり方について                |     |
|     | 問37 老朽化した公営住宅の整備            | 79  |
|     | 問38 公営住宅の供給                 | 82  |
|     | 問39 住宅を借りる際に重要視する条件(場所)     | 84  |
|     | 問40 住宅を借りる際に重要視する条件(新しさ・家賃) | 86  |
| VI  | 景観・地域コミュニティについて             |     |
|     | 問41 地域の景観に対する満足度            | 89  |
|     | 問42 景観への不満の理由               | 91  |
|     | 問43 これからの景観育成               | 94  |
|     | 問44 市街地居住の阻害要因              | 97  |
|     | 問45 周囲の空き家の状況               | 100 |
|     | 問46 空き家に対する不安・問題            | 102 |
| VII | その他(自由回答)                   |     |
|     | 問47 「信州らしい住まい」のイメージ         | 107 |
|     | 問48 行政に期待すること               | 108 |
| III | 調査票                         | 109 |



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

この調査は、平成28年度を初年度とする長野県住生活基本計画の見直し等にあたり、県民の住宅及び住環境に関する現状、意識、ニーズ等を把握し、基礎資料とする目的で実施された。

## 2 調査の項目

- I 住宅・居住環境に関する意識・志向について
- II 住宅建設における環境対策について
- III 住宅の地震対策について
- IV 高齢社会における住宅対策について
- V 公営住宅のあり方について
- VI 景観・地域コミュニティについて
- VII その他

## 3 調査の設計

この調査は、次の通り設計した。

- (1) 調査対象 長野県内に住む満20歳以上の男女個人
- (2) 調査対象者数 2,000人
- (3) 抽出方法 層化2段無作為抽出法(対象者は各市町村の選挙人名簿から抽出)
- (4) 調査方法 郵送
- (5) 調査時期 平成27年(2015年)12月8日(火)～12月22日(火)
- (6) 調査地点 19市23町35村の計200地点(1地区各10人)

## 4 回収結果

有効回収数(率) 986人 (49.3%)

## 5 回収対象者の分類

### 【地域】

|      |      | 実数  | 割合   |
|------|------|-----|------|
| 東信地域 | 上田市  | 72  | 7.3% |
|      | 小諸市  | 20  | 2.0% |
|      | 佐久市  | 45  | 4.6% |
|      | 東御市  | 16  | 1.6% |
|      | 南佐久郡 | 9   | 0.9% |
|      | 北佐久郡 | 22  | 2.2% |
|      | 小県郡  | 4   | 0.4% |
|      | 南信地域 | 岡谷市 | 19   |
| 飯田市  |      | 46  | 4.7% |
| 諏訪市  |      | 24  | 2.4% |
| 伊那市  |      | 34  | 3.4% |
| 駒ヶ根市 |      | 16  | 1.6% |
| 茅野市  |      | 20  | 2.0% |
| 諏訪郡  |      | 13  | 1.3% |
| 上伊那郡 |      | 29  | 2.9% |
| 下伊那郡 |      | 37  | 3.8% |

|      |      | 実数  | 割合    |
|------|------|-----|-------|
| 中信地域 | 松本市  | 112 | 11.4% |
|      | 大町市  | 14  | 1.4%  |
|      | 塩尻市  | 30  | 3.0%  |
|      | 安曇野市 | 42  | 4.3%  |
|      | 木曾郡  | 20  | 2.0%  |
|      | 東筑摩郡 | 11  | 1.1%  |
|      | 北安曇郡 | 15  | 1.5%  |
|      | 北信地域 | 長野市 | 193   |
| 須坂市  |      | 28  | 2.8%  |
| 中野市  |      | 15  | 1.5%  |
| 飯山市  |      | 10  | 1.0%  |
| 千曲市  |      | 24  | 2.4%  |
| 埴科郡  |      | 4   | 0.4%  |
| 上高井郡 |      | 10  | 1.0%  |
| 下高井郡 |      | 9   | 0.9%  |
| 上水内郡 |      | 10  | 1.0%  |
| 下水内郡 |      | 0   | 0.0%  |

|     |    |      |
|-----|----|------|
| 無回答 | 13 | 1.3% |
|-----|----|------|

【居住地】

|     | 調査対象者数<br>(注) | 回収者数        | 回収率    |
|-----|---------------|-------------|--------|
| 東信  | 390           | 188 (48.2%) | 19.1%  |
| 南信  | 520           | 238 (45.8%) | 24.1%  |
| 中信  | 490           | 244 (49.8%) | 24.7%  |
| 北信  | 600           | 303 (50.5%) | 30.7%  |
| 無回答 |               | 13 ( - )    | 1.3%   |
| 合計  | 2,000         | 986 (49.3%) | 100.0% |

(注)調査対象者数：上記4地区(東・南・中・北信)ごとの、有権者数(平成27年10月1日現在)により、2,000の調査対象者数を比例配分した。

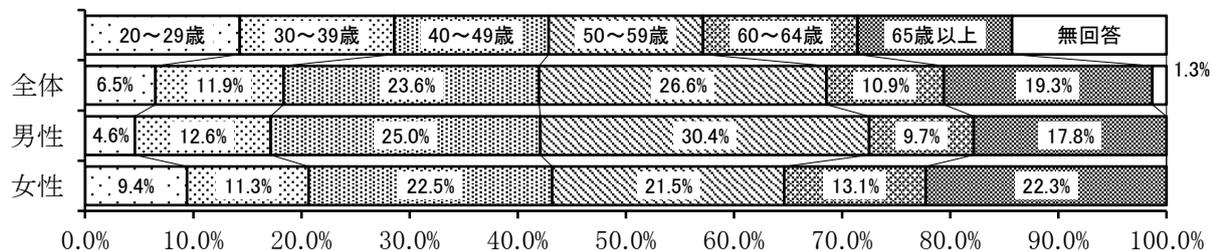
【住まいの地域】

|                          | 実数  | 割合     |
|--------------------------|-----|--------|
| 市街地(大きな都市の中心部)           | 114 | 11.6%  |
| 郊外の住宅地(大きな都市の中心部周辺や隣接町村) | 349 | 35.4%  |
| 町村の中心部(中心集落)             | 122 | 12.4%  |
| 農山村集落                    | 351 | 35.6%  |
| その他                      | 27  | 2.7%   |
| 無回答                      | 23  | 2.3%   |
| 合計                       | 986 | 100.0% |

【性別と年代】

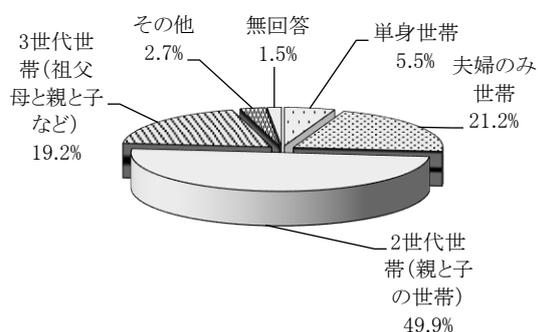
(上段実数：下段割合)

|     | 総数     | 20～29歳 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～64歳 | 65歳以上 | 無回答   |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| 総数  | 986    | 64     | 117    | 233    | 262    | 107    | 190   | 13    |
|     | 100.0% | 6.5%   | 11.9%  | 23.6%  | 26.6%  | 10.9%  | 19.3% | 1.3%  |
| 男性  | 589    | 27     | 74     | 147    | 179    | 57     | 105   | 0     |
|     | 100.0% | 4.6%   | 12.6%  | 25.0%  | 30.4%  | 9.7%   | 17.8% | 0.0%  |
| 女性  | 382    | 36     | 43     | 86     | 82     | 50     | 85    | 0     |
|     | 100.0% | 9.4%   | 11.3%  | 22.5%  | 21.5%  | 13.1%  | 22.3% | 0.0%  |
| 無回答 | 15     | 1      | 0      | 0      | 1      | 0      | 0     | 13    |
|     | 100.0% | 6.7%   | 0.0%   | 0.0%   | 6.7%   | 0.0%   | 0.0%  | 86.7% |



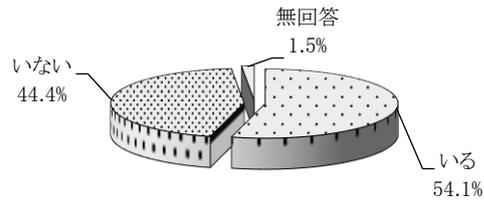
【世帯構成】

|                  | 実数  | 割合     |
|------------------|-----|--------|
| 単身世帯             | 54  | 5.5%   |
| 夫婦のみ世帯           | 209 | 21.2%  |
| 2世代世帯(親と子の世帯)    | 492 | 49.9%  |
| 3世代世帯(祖父母と親と子など) | 189 | 19.2%  |
| その他              | 27  | 2.7%   |
| 無回答              | 15  | 1.5%   |
| 合計               | 986 | 100.0% |



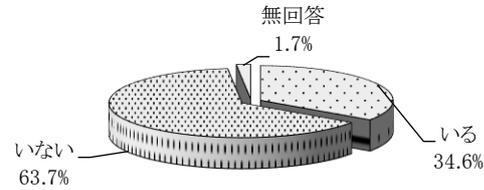
【65歳以上の方】

|     | 実数  | 割合     |
|-----|-----|--------|
| いる  | 533 | 54.1%  |
| いない | 438 | 44.4%  |
| 無回答 | 15  | 1.5%   |
| 合計  | 986 | 100.0% |



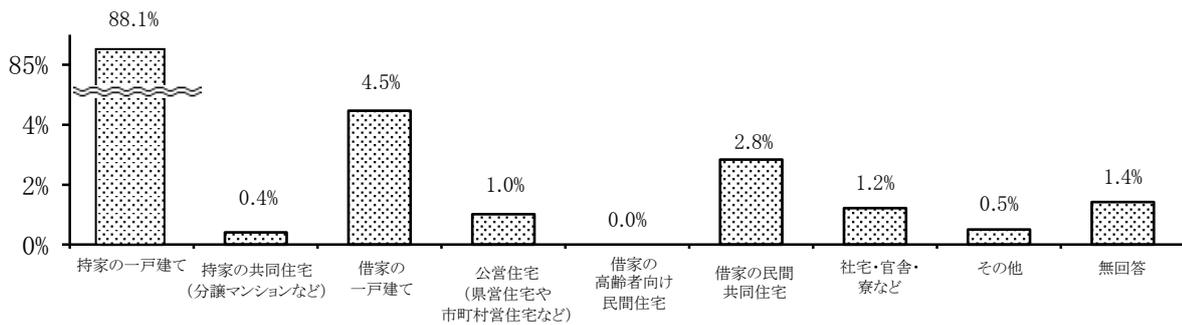
【18歳未満の方】

|     | 実数  | 割合     |
|-----|-----|--------|
| いる  | 341 | 34.6%  |
| いない | 628 | 63.7%  |
| 無回答 | 17  | 1.7%   |
| 合計  | 986 | 100.0% |



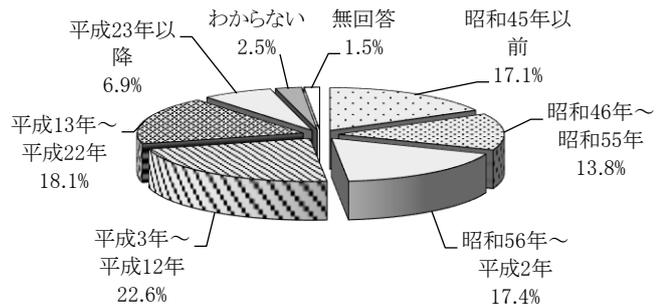
【住宅形態】

|   | 実数  | 割合     |
|---|-----|--------|
| 持家の一戸建て                                 | 869 | 88.1%  |
| 持家の共同住宅(分譲マンションなど)                      | 4   | 0.4%   |
| 借家の一戸建て                                 | 44  | 4.5%   |
| 公営住宅(県営住宅や市町村営住宅など)                     | 10  | 1.0%   |
| 借家の高齢者向け民間共同住宅(高齢者専用住宅、サービス付き高齢者向け住宅など) | 0   | 0.0%   |
| 借家の民間共同住宅(高齢者向け以外のアパート、賃貸マンションなど)       | 28  | 2.8%   |
| 社宅・官舎・寮など                               | 12  | 1.2%   |
| その他                                     | 5   | 0.5%   |
| 無回答                                     | 14  | 1.4%   |
| 合計                                      | 986 | 100.0% |



【築年数】

|             | 実数  | 割合     |
|-------------|-----|--------|
| 昭和45年以前     | 169 | 17.1%  |
| 昭和46年～昭和55年 | 136 | 13.8%  |
| 昭和56年～平成2年  | 172 | 17.4%  |
| 平成3年～平成12年  | 223 | 22.6%  |
| 平成13年～平成22年 | 178 | 18.1%  |
| 平成23年以降     | 68  | 6.9%   |
| わからない       | 25  | 2.5%   |
| 無回答         | 15  | 1.5%   |
| 合計          | 986 | 100.0% |



## 6 その他

- (1) 調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。従って、比率の内訳を合計しても100%に合致しない場合がある。
- (2) アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が100%を上回る場合がある。
- (3) 設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において便宜上短く省略している場合がある。



## II 集計結果

## 問10 現在の住まいの評価

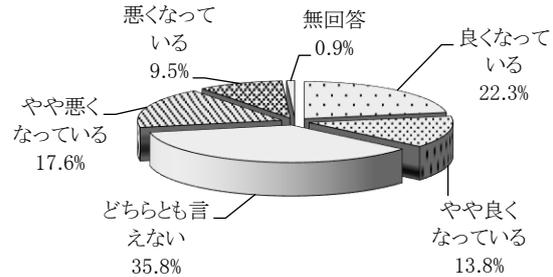
(H22調査 問11)

### ◆ 10年前に比べて「住まい向上」3割強

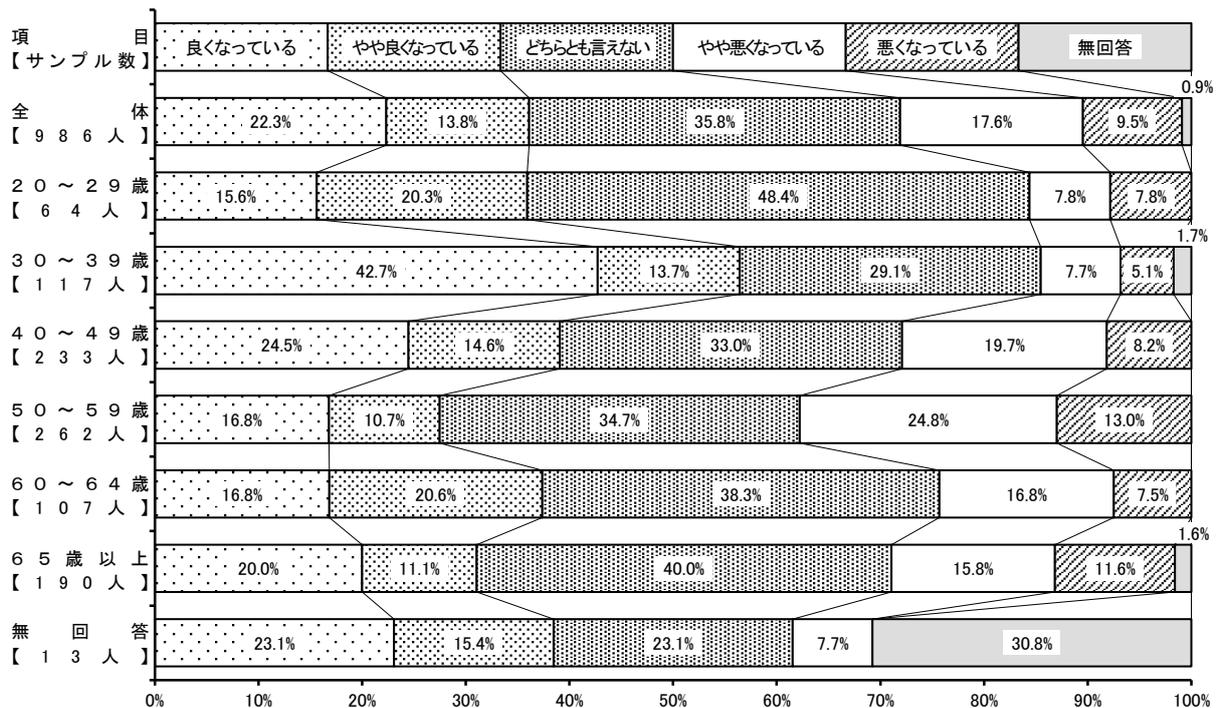
- 現在の住まいについて10年前に比べ良くなっているかの問いに対し、22.3%が「良くなっている」とし、「どちらとも言えない」とする割合が35.8%と上回り、住まい向上とまではなっていないようである。
- 住まいの向上については、各年代とも「どちらとも言えない」の割合が高くなっているが、30代のみ「良くなっている」が42.7%と非常に高くなっている。
- 築年数が浅いほど住まいが良くなっていると感じる傾向は高く、築年数が25年を超える頃から良い、やや良いと感じる傾向は半数程度に減少、反してやや悪い、悪いと感じる傾向が増加する。

問10 生活の基本的な要素は「衣」・「食」・「住」であるといわれていますが、あなたの「住」(住まい)は、10年前に比べて良くなっていますか。

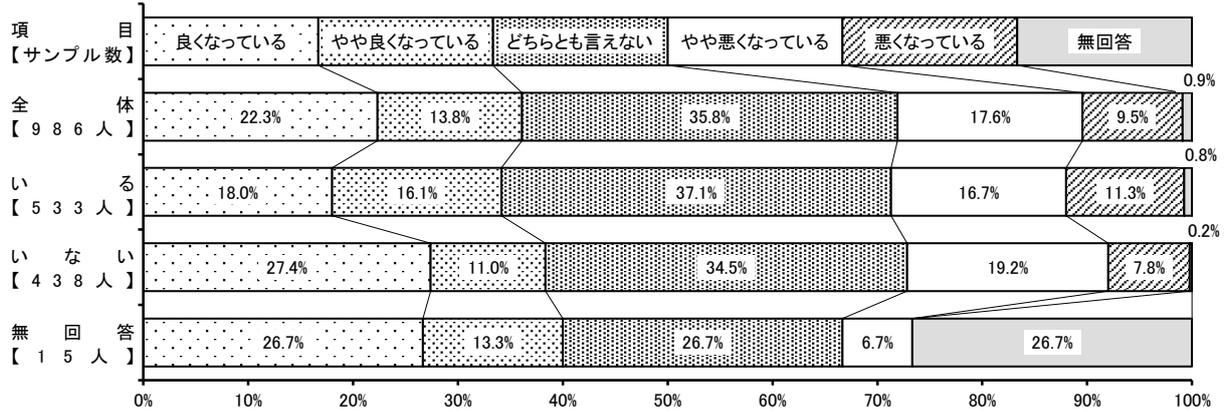
|             | 回答者数 | 割合     |
|-------------|------|--------|
| 1 良くなっている   | 220人 | 22.3%  |
| 2 やや良くなっている | 136人 | 13.8%  |
| 3 どちらとも言えない | 353人 | 35.8%  |
| 4 やや悪くなっている | 174人 | 17.6%  |
| 5 悪くなっている   | 94人  | 9.5%   |
| 無回答         | 9人   | 0.9%   |
| サンプル数       | 986人 | 100.0% |



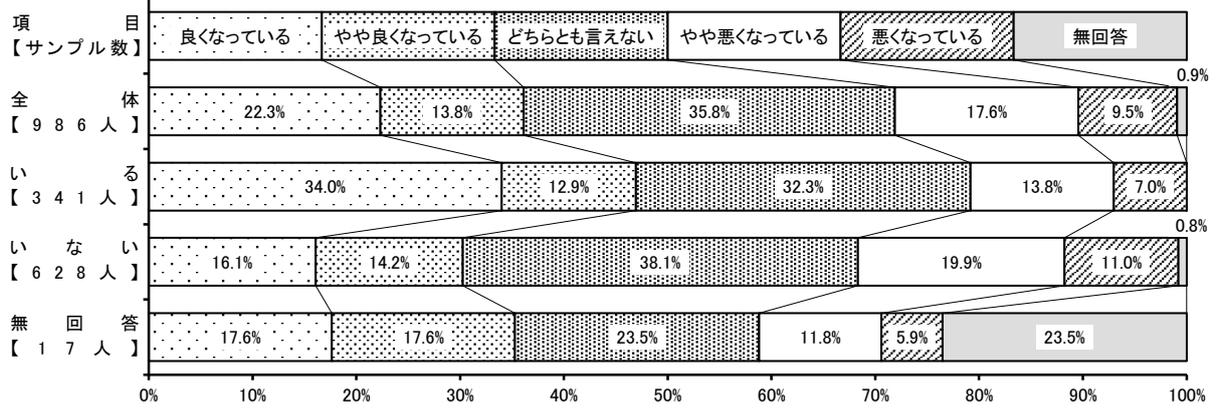
### 【年代別】



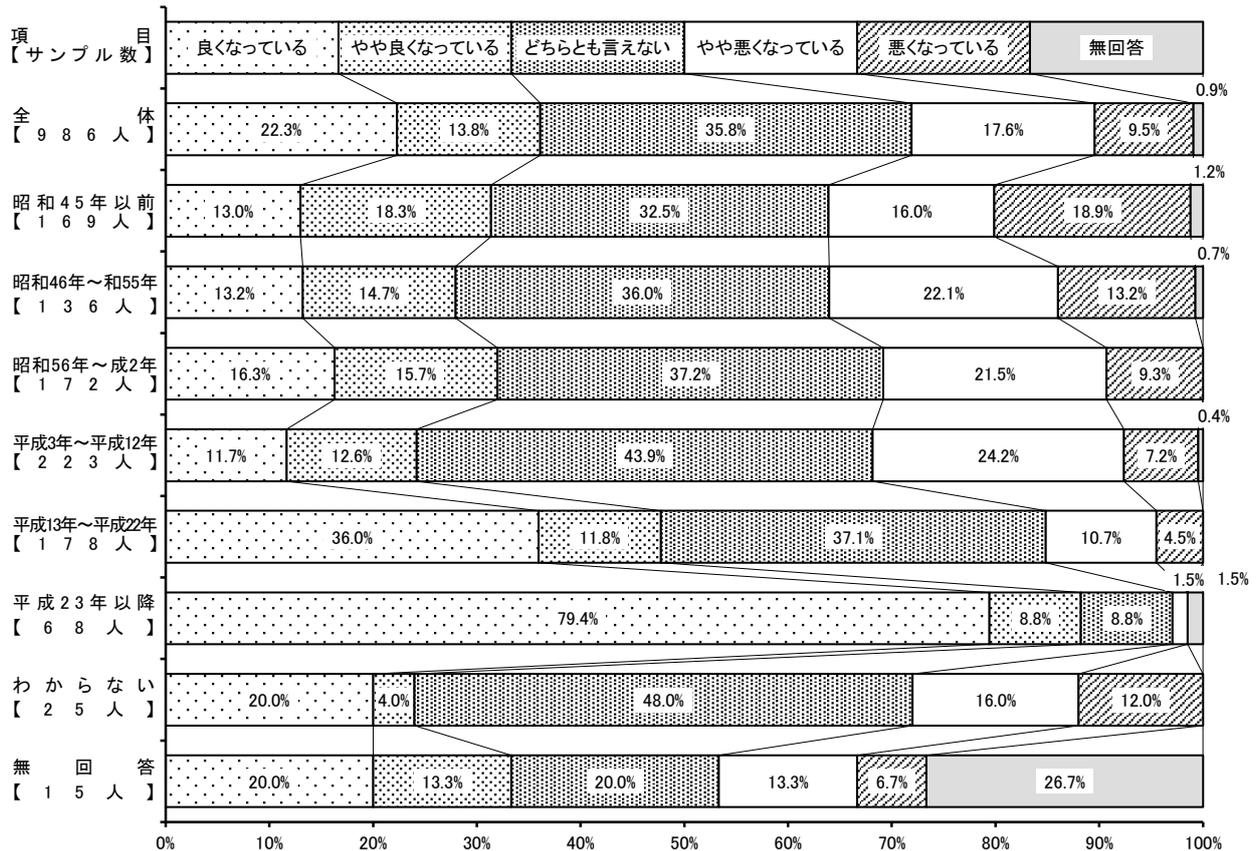
【65歳以上】



【18歳未満】



【築年数別】



## 問11 持・借家志向

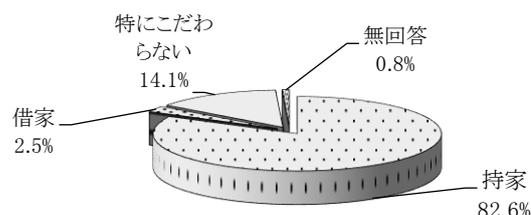
(H22調査 問12)

### ◆ 自宅は「持家が良い」が82% 「借家がよい」は2%

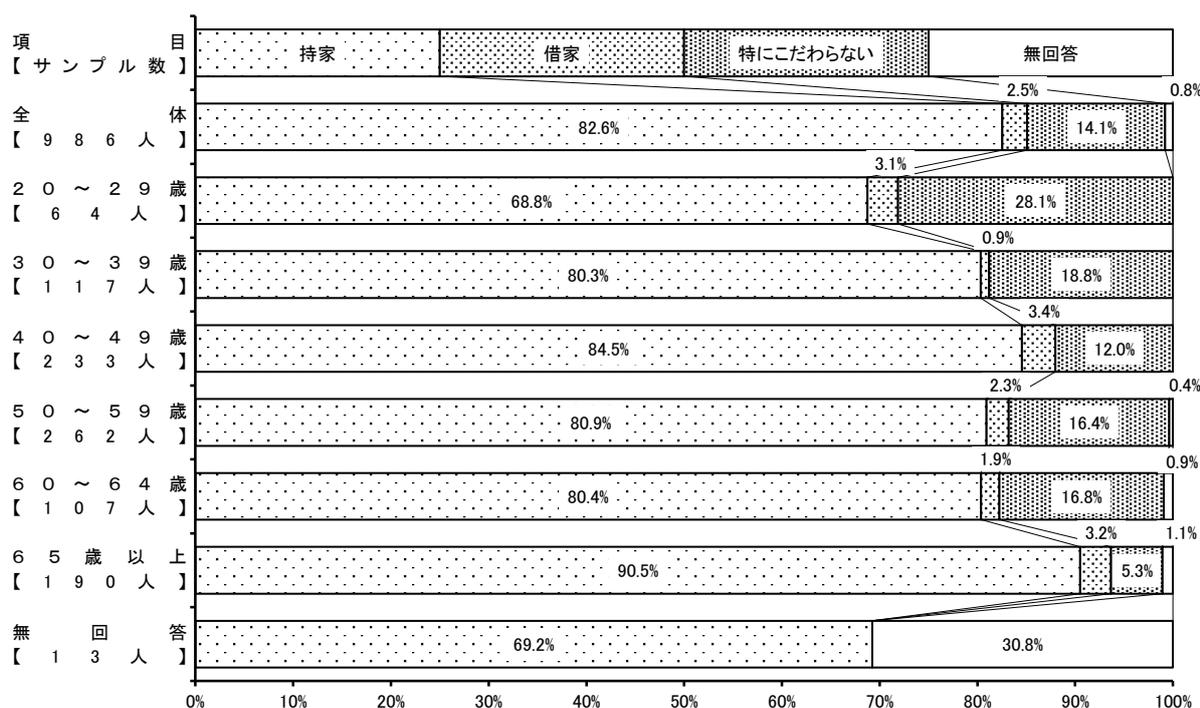
- これから住む住宅の希望として、「持家」は82.6%、「借家」は2.5%となっており、持家志向が強い結果となった。前回調査と比べ「どちらでもよい」が2.9%増えている。
- 前回調査に比べ「持家」、「借家」が約1~2%減少し、「特にこだわらない」は約3%増加している。
- 年代別にみると、30代・40代・50代・60代では「持家」が8割以上となっているのに対し、20代では7割以下と他の年代に比べやや低く、また「特にこだわらない」が28.1%とやや高くなっている。
- 単身世帯は持家志向が低くなっており、その他の世帯では5%以下となっている「借家」が、1割を超える結果となった。

問11 あなたは、自分が住む住宅は持家と借家のどちらがよいと思いますか。

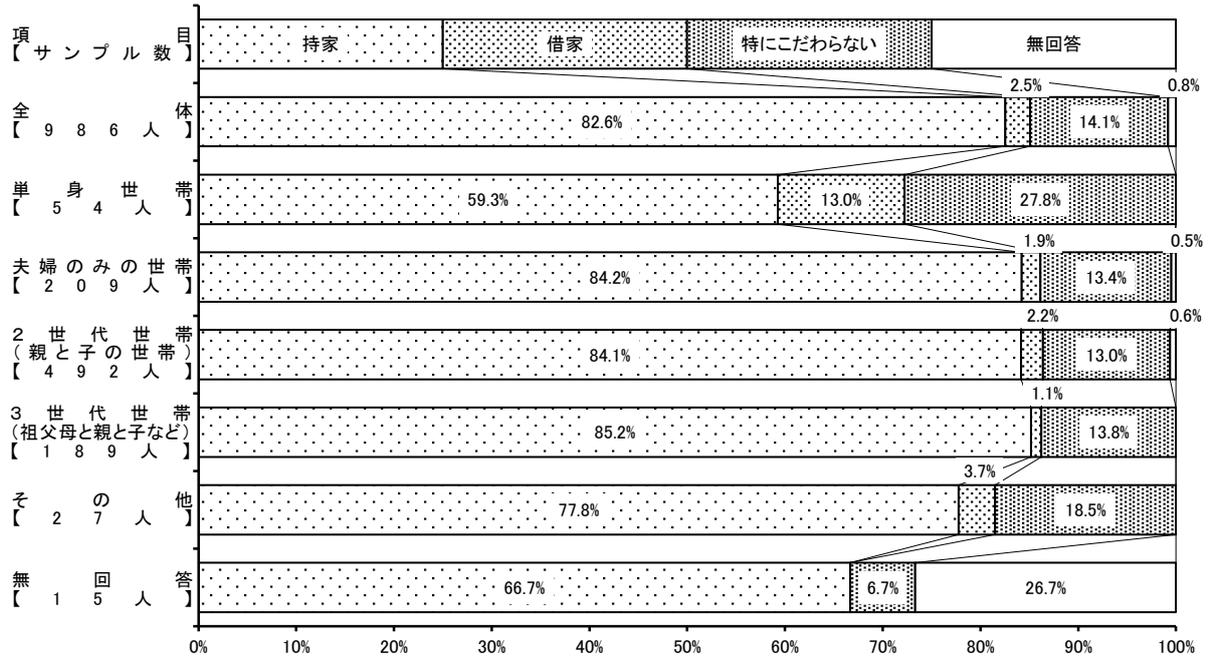
|            | 回答者数 | 割合     |
|------------|------|--------|
| 1 持家       | 814人 | 82.6%  |
| 2 借家       | 25人  | 2.5%   |
| 3 特にこだわらない | 139人 | 14.1%  |
| 無回答        | 8人   | 0.8%   |
| サンプル数      | 986人 | 100.0% |



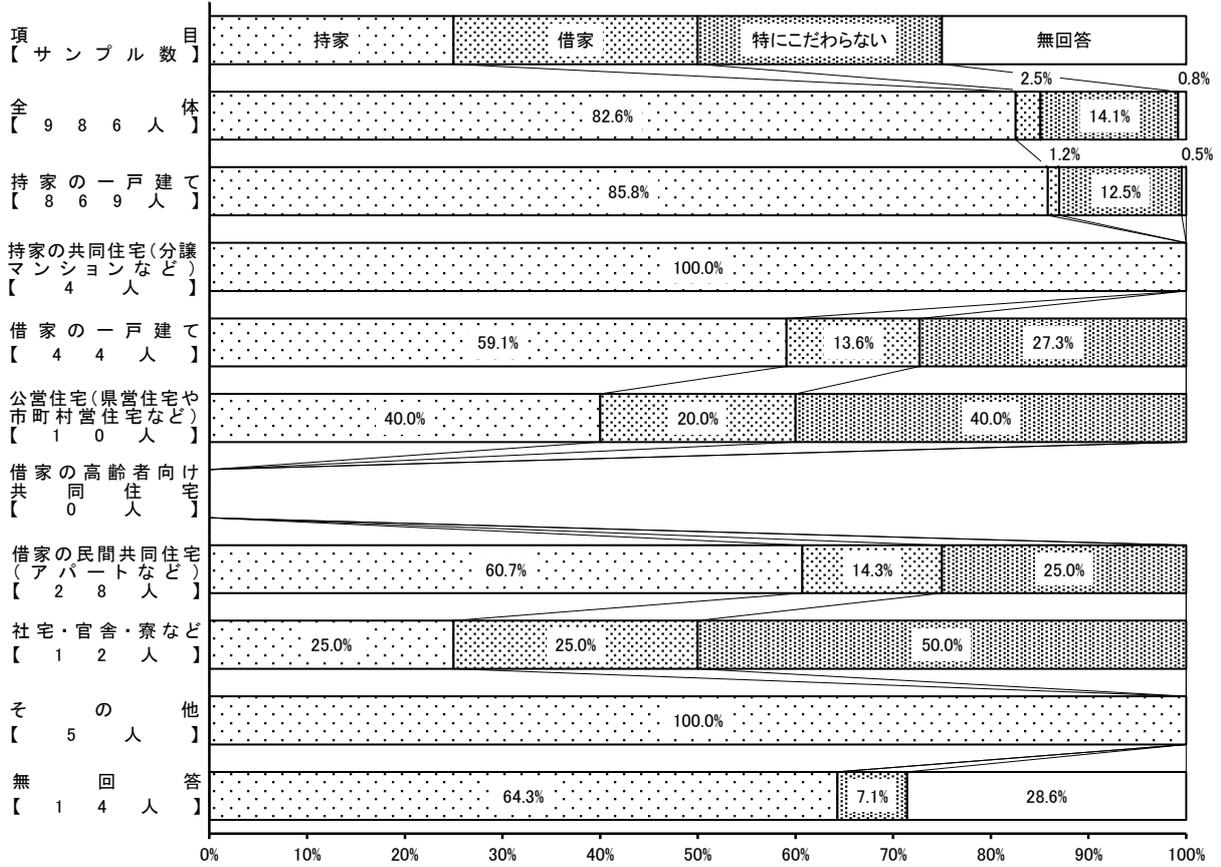
### 【年代別】



【世帯構成別】



【住宅形態別】



## 問12 新築・中古住宅志向

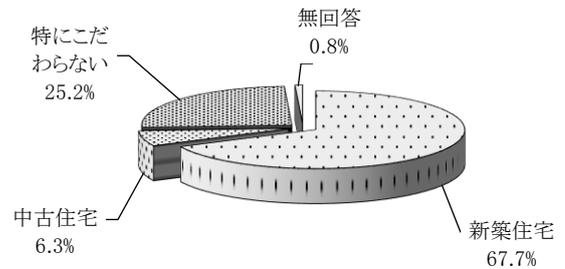
(H22調査 問17)

### ◆ 取得する住宅「新築住宅」67.7%でトップ

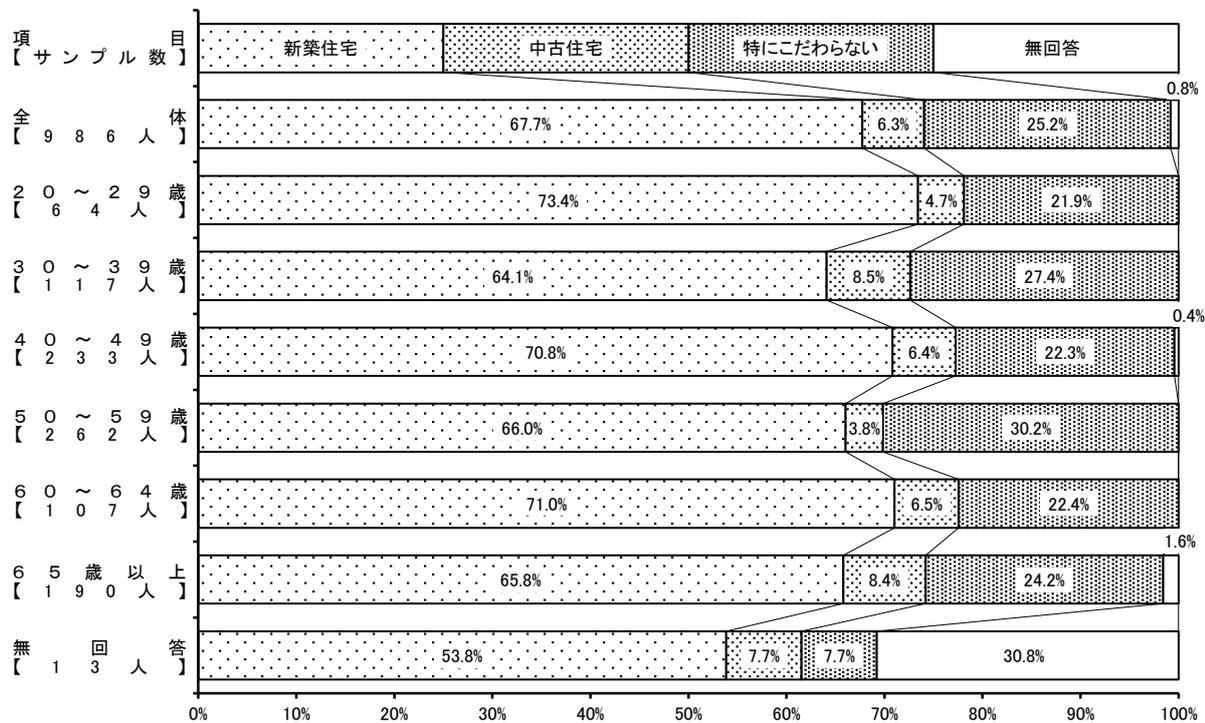
- 住宅を取得する場合、新築と中古ではどちらがよいかの問いに対し「新築住宅」の割合は67.7%と非常に高く、「中古住宅」+「特にこだわらない」は31.5%となっている。前回調査では「中古でもよい」の回答は36.0%となっており、中古志向は4.5%のマイナスとなった。
- 世帯構成別でみると、同居世代が増えるごとに新築住宅を希望する割合も増加する傾向にある。

問 12 あなたは、新たに住宅を取得するとしたら、新築住宅と中古住宅のどちらがよいと思いますか。

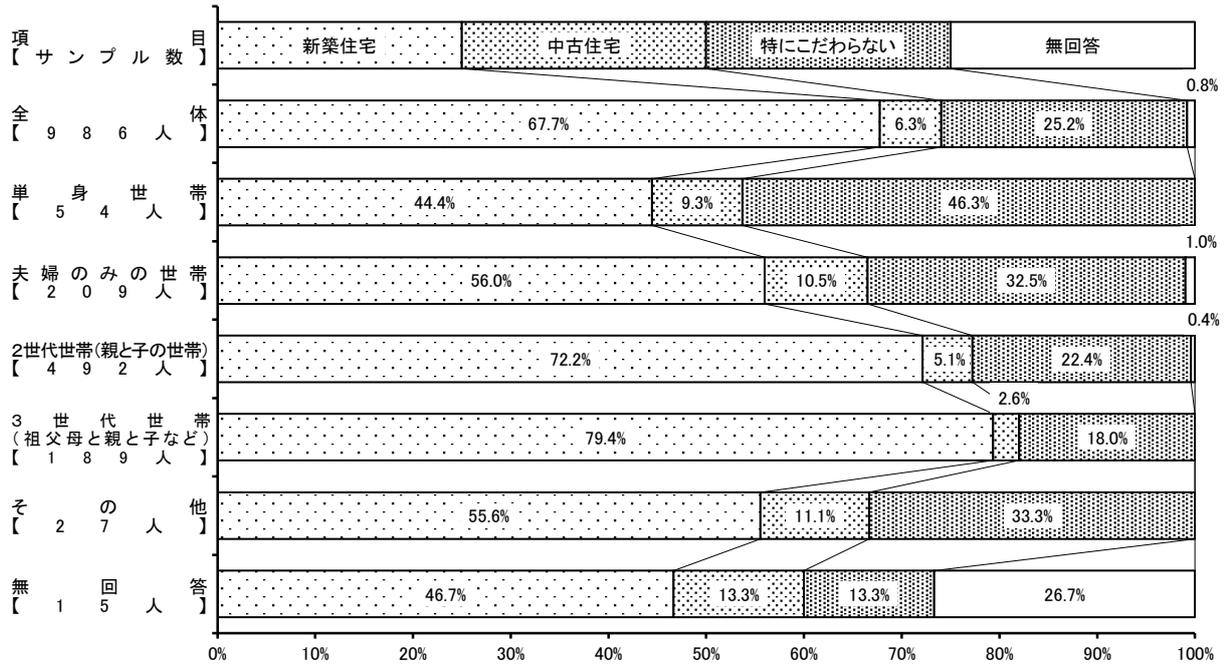
|            | 回答者数 | 割合     |
|------------|------|--------|
| 1 新築住宅     | 668人 | 67.7%  |
| 2 中古住宅     | 62人  | 6.3%   |
| 3 特にこだわらない | 248人 | 25.2%  |
| 無回答        | 8人   | 0.8%   |
| サンプル数      | 986人 | 100.0% |



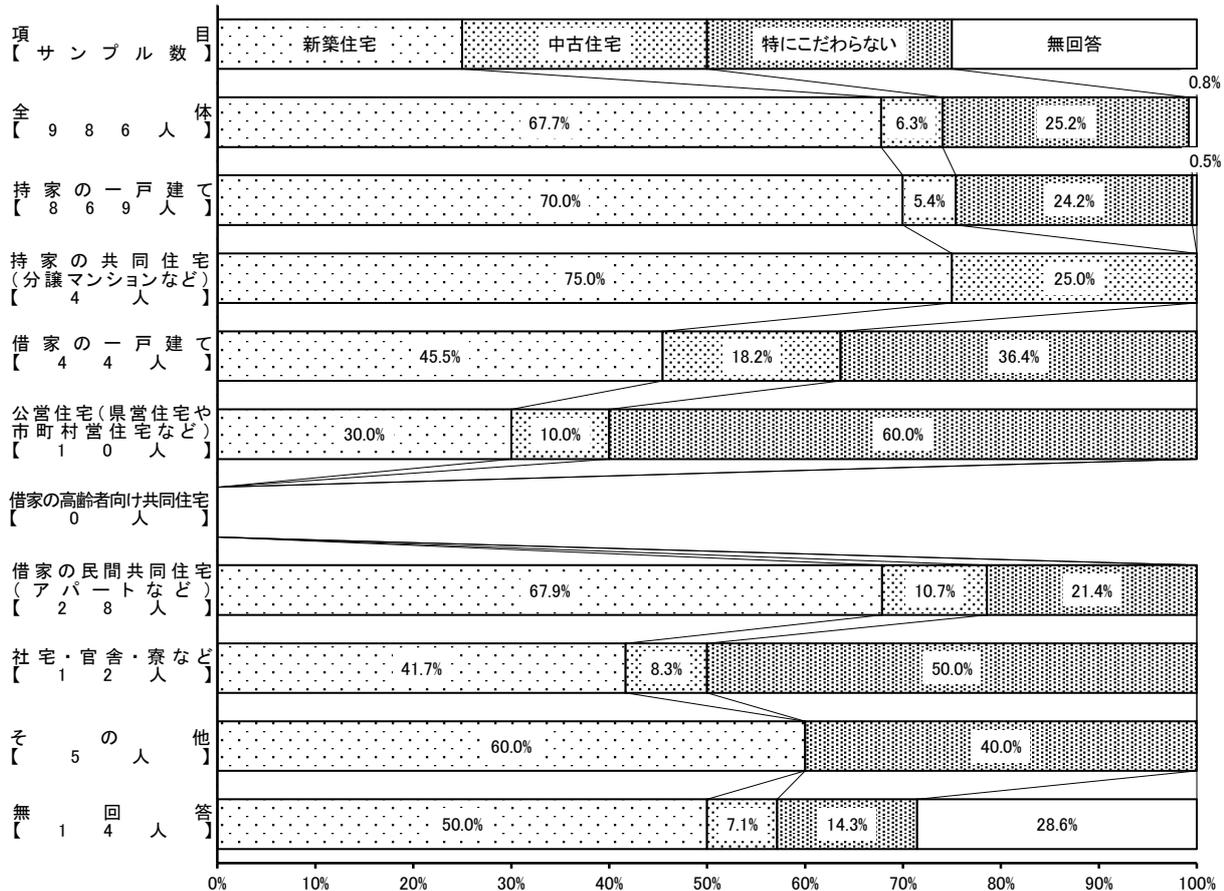
### 【年代別】



【世帯構成別】

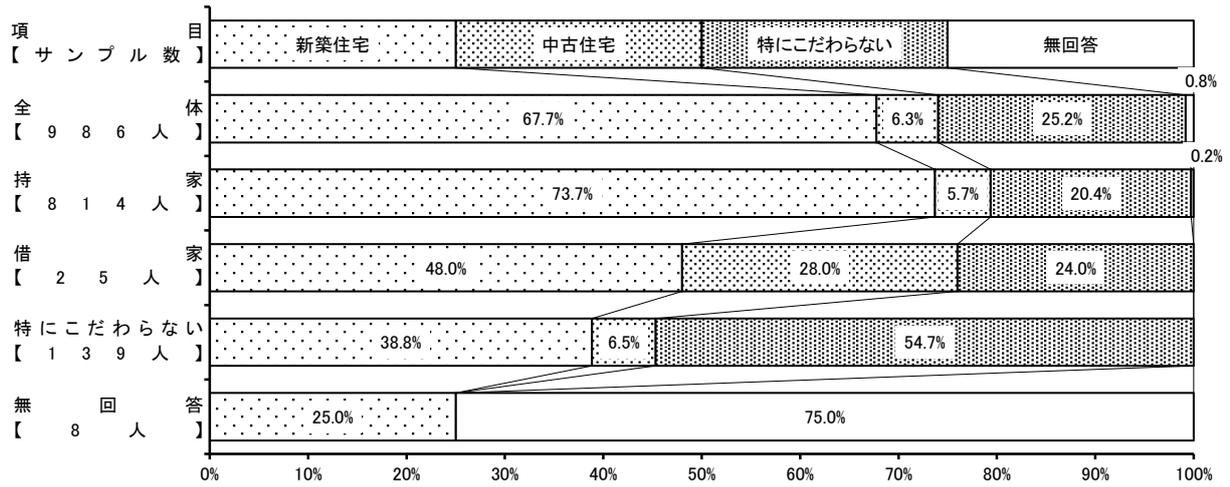


【住宅形態別】



【設問間クロス集計（問11）】

\*問11 あなたは、自分が住む住宅は持家と借家のどちらがよいと思いますか。



## 問13 中古住宅を希望する理由

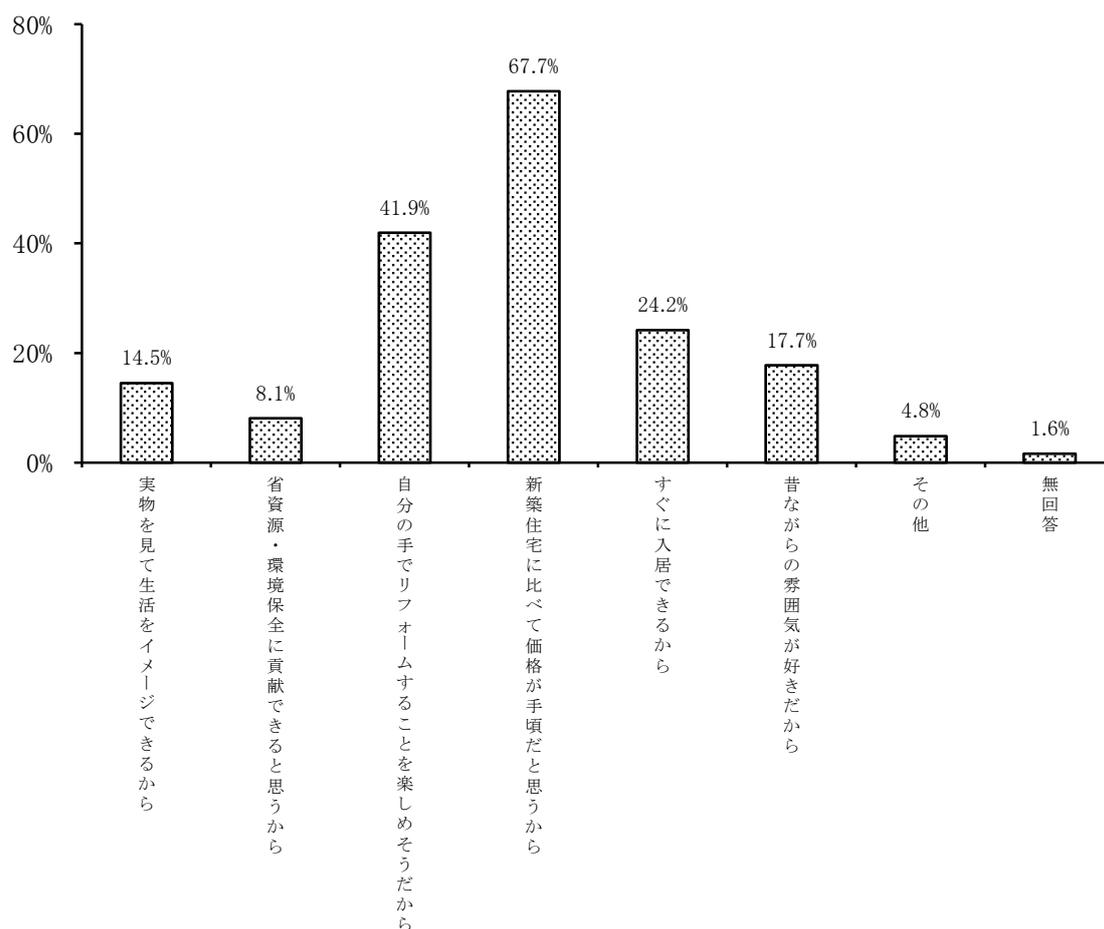
### ◆ 中古住宅を希望する理由

「新築住宅に比べて価格が手頃だと思うから」上位に

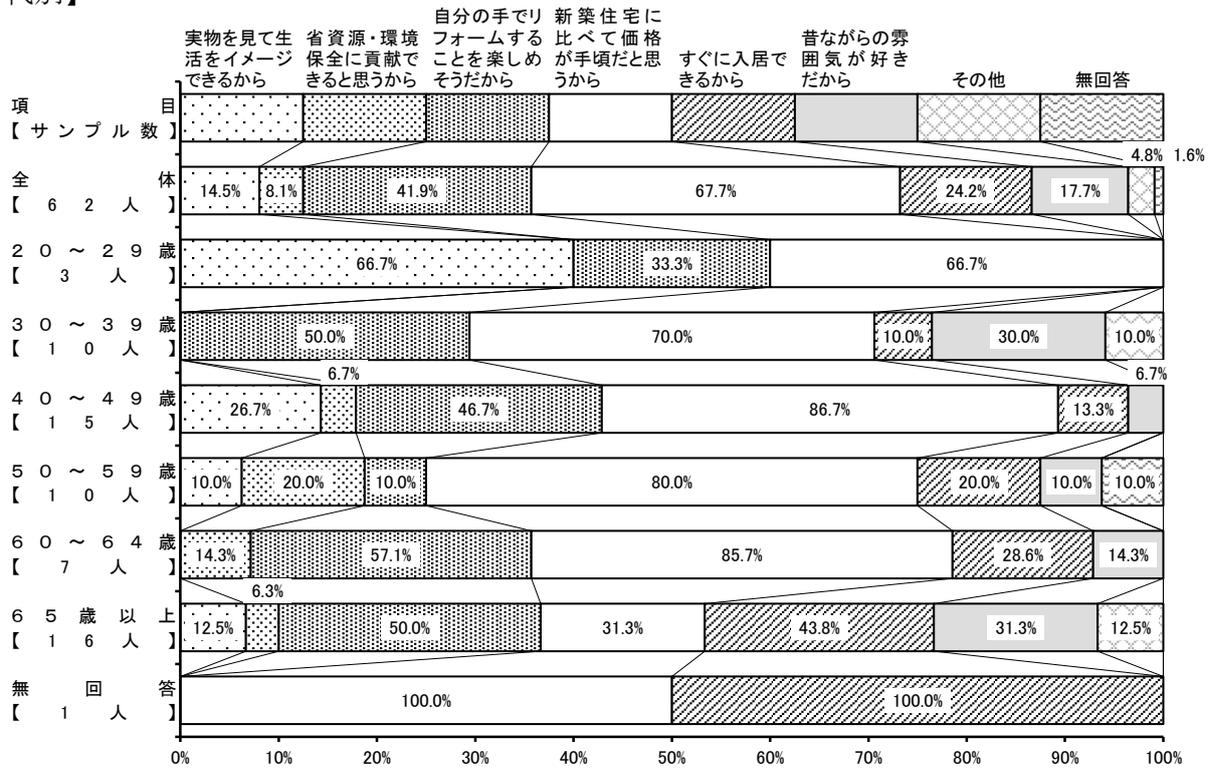
- 問12の、住宅取得の際に新築と中古のどちらがよいかの問いで「中古住宅」と回答した方の理由として、「価格の手頃感」が67.7%で最も多く、次いで「リフォームを楽しめそう」41.9%、「すぐに入居できる」24.2%と続いた。
- 年代別でみると、20代～65歳未満の年代では「価格の手頃感」がトップとなっているが、65歳以上では「リフォームを楽しめそう」が最も多く、価格の重要性は高くないように思われる。

問13 問12で2を選んだ方におたずねします。中古住宅がよいと思う理由を次の中から2つ以内で選んでください。

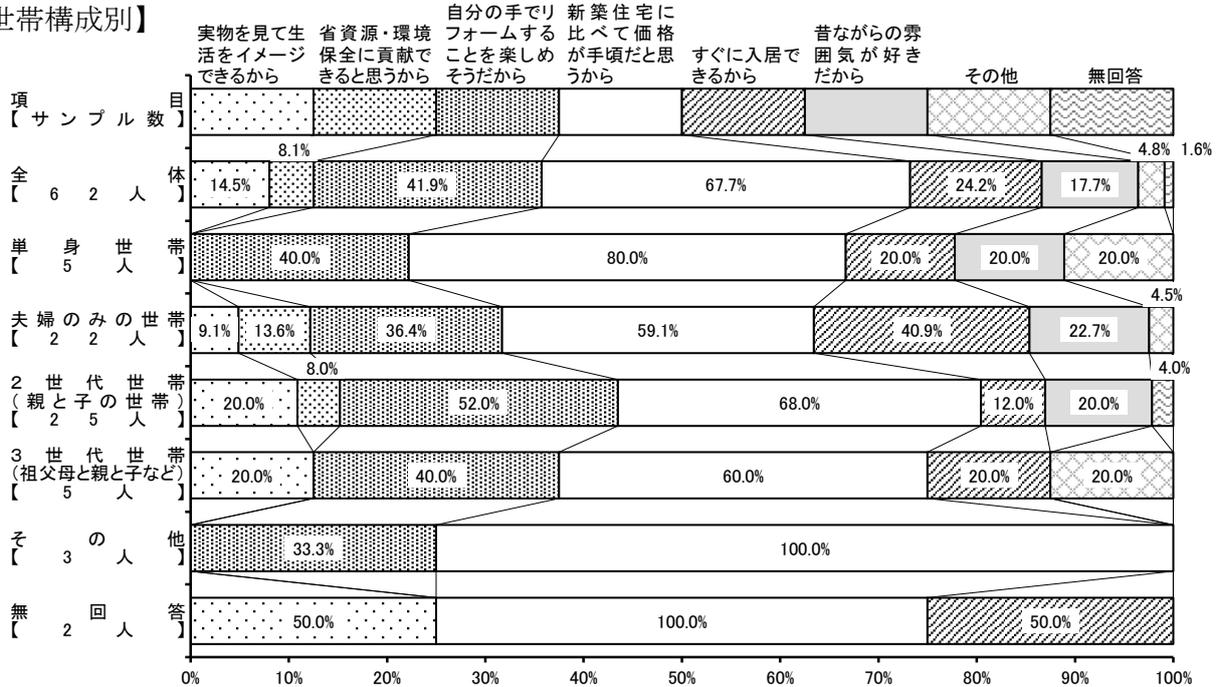
|                           | 回答者数 | 割合     |
|---------------------------|------|--------|
| 1 実物を見て生活をイメージできるから       | 9人   | 14.5%  |
| 2 省資源・環境保全に貢献できると思うから     | 5人   | 8.1%   |
| 3 自分の手でリフォームすることを楽しめそうだから | 26人  | 41.9%  |
| 4 新築住宅に比べて価格が手頃だと思うから     | 42人  | 67.7%  |
| 5 すぐに入居できるから              | 15人  | 24.2%  |
| 6 昔ながらの雰囲気が好きだから          | 11人  | 17.7%  |
| 7 その他                     | 3人   | 4.8%   |
| 無回答                       | 1人   | 1.6%   |
| サンプル数                     | 62人  | 100.0% |



【年代別】



【世帯構成別】



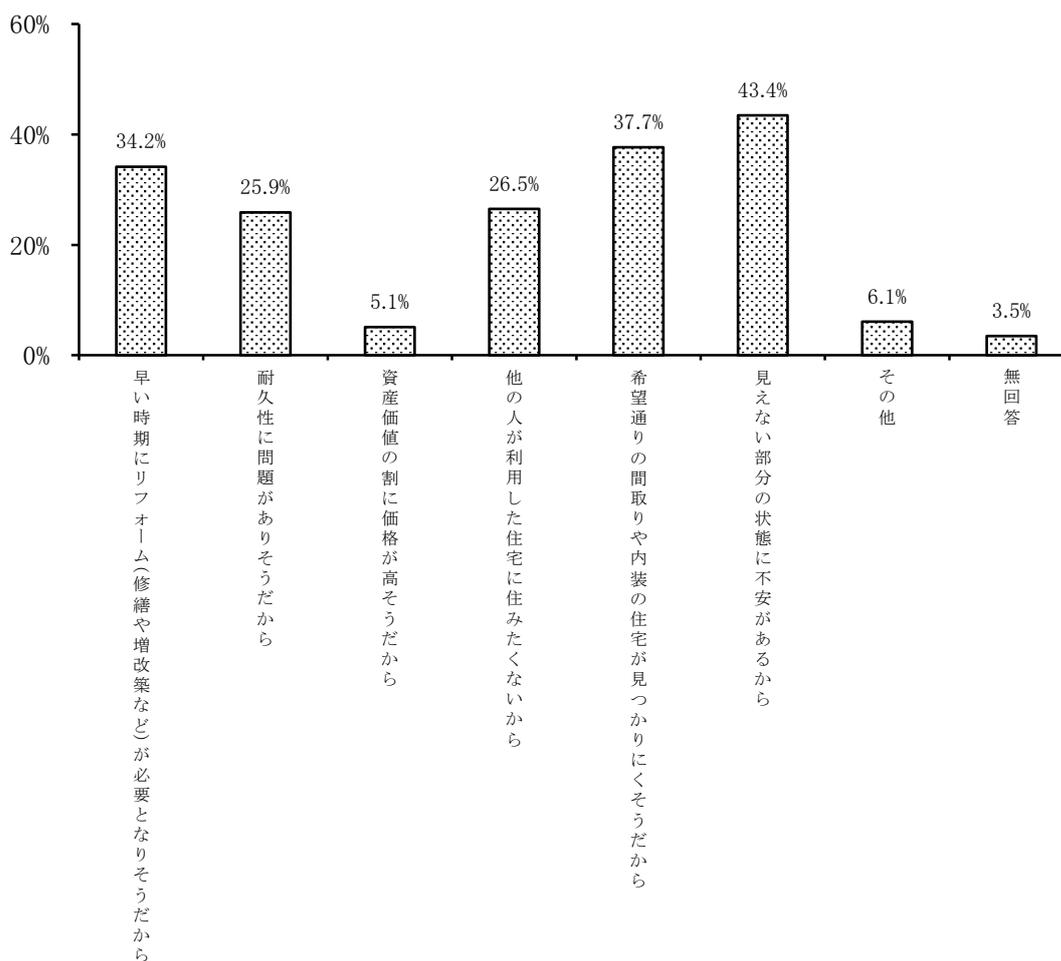
◆ 中古住宅を希望しない理由

「見えない部分の状態に不安があるから」最も多く

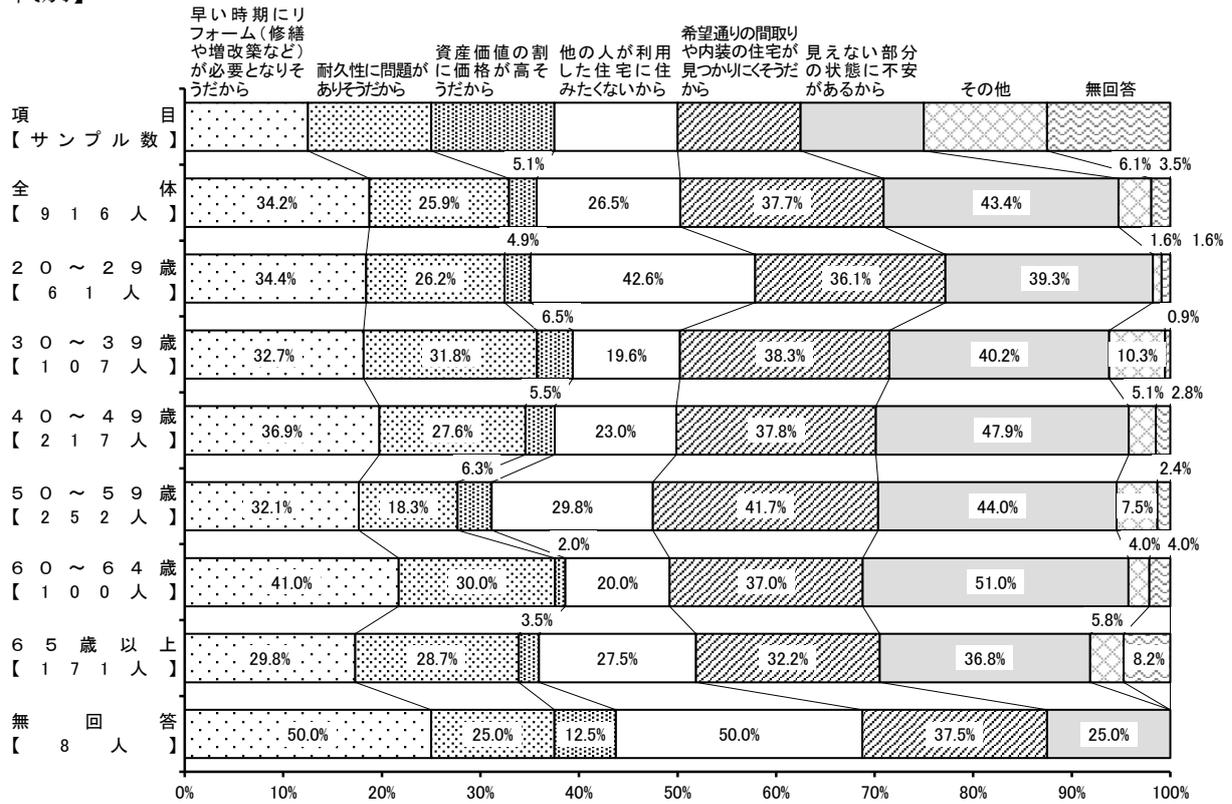
- 問12の、住宅取得の際に新築と中古のどちらがよいかの問いで「新築住宅」もしくは「特にこだわらない」と回答した方の理由として、「見えない部分の状態が不安」が43.4%で最も多く、次いで「希望の間取り・内装が見つかりにくそう」37.7%、「早期に修繕・増改築の必要性」34.2%と続いた。
- 各理由の割合構成は、年代別および世帯構成別でもほぼ同程度となっており「資産価値の割に価格が高そう」が最も少なくなっている。

問14 問12で1または3を選んだ方におたずねします。中古住宅を選択しなかった理由を次の中から2つ以内で選んでください。

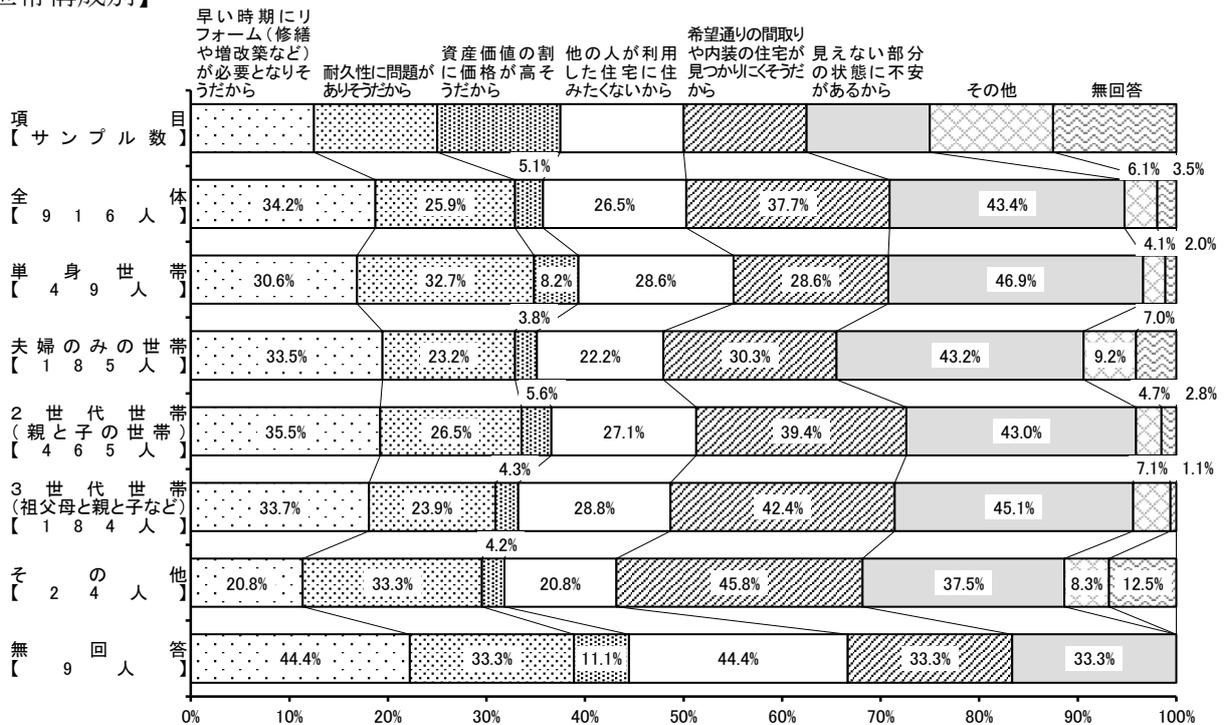
|                                   | 回答者数 | 割合     |
|-----------------------------------|------|--------|
| 1 早い時期にリフォーム(修繕や増改築など)が必要となりそうだから | 313人 | 34.2%  |
| 2 耐久性に問題がありそうだから                  | 237人 | 25.9%  |
| 3 資産価値の割に価格が高そうだから                | 47人  | 5.1%   |
| 4 他の人が利用した住宅に住みたくないから             | 243人 | 26.5%  |
| 5 希望通りの間取りや内装の住宅が見つかりにくそうだから      | 345人 | 37.7%  |
| 6 見えない部分の状態に不安があるから               | 398人 | 43.4%  |
| 7 その他                             | 56人  | 6.1%   |
| 無回答                               | 32人  | 3.5%   |
| サンプル数                             | 916人 | 100.0% |



### 【年代別】



### 【世帯構成別】



# 問15 希望する住宅の構造・建て方

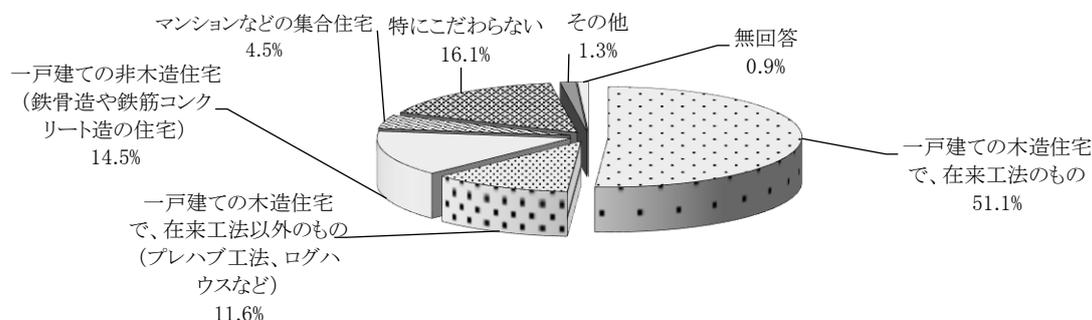
(H22調査 問13)

## ◆ 取得したい住宅「一戸建ての木造住宅で、在来工法」5割以上

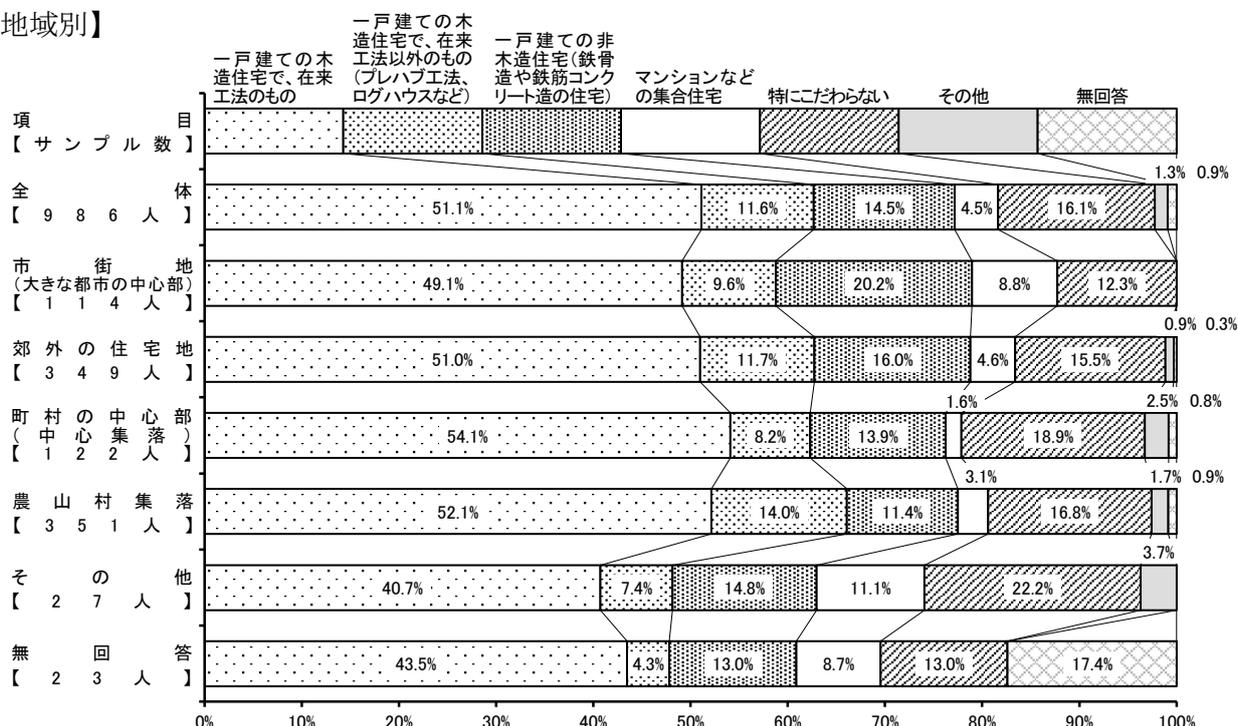
- 取得したい住宅の種類については、「一戸建ての木造住宅で在来工法のもの」と答えた方が最も多く51.1%、「一戸建て」を希望する方は8割近くとなっている。
- 地域別で見ると、「一戸建て」を希望する割合は各地域とも8割近くとなる一方、市街地地域では「マンションなどの集合住宅」が8.8%と他地域と比べて高くなっている。
- 年代別では、「一戸建て」の希望が最も高いのは40代で81.5%、「マンションなどの集合住宅」の希望は60～64歳が最も高く9.3%となった。

問 15 あなたは、新たに住宅を取得するとしたら、どのような構造の住宅を選びたいと思いますか。

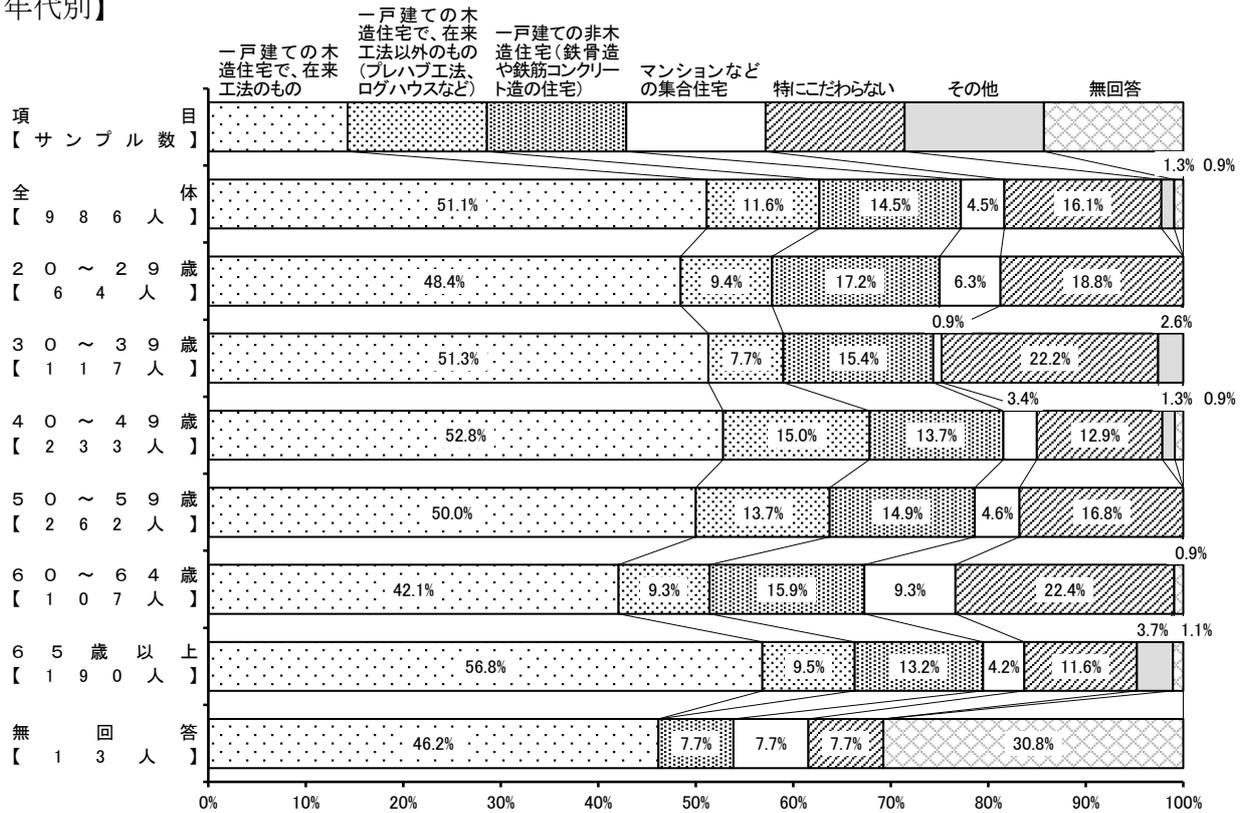
|  | 回答者数 | 割合     |
|--|------|--------|
| 1 一戸建ての木造住宅で、在来工法のもの                   | 504人 | 51.1%  |
| 2 一戸建ての木造住宅で、在来工法以外のもの(プレハブ工法、ログハウスなど) | 114人 | 11.6%  |
| 3 一戸建ての非木造住宅(鉄骨造や鉄筋コンクリート造の住宅)         | 143人 | 14.5%  |
| 4 マンションなどの集合住宅                         | 44人  | 4.5%   |
| 5 特にこだわらない                             | 159人 | 16.1%  |
| 6 その他                                  | 13人  | 1.3%   |
| 無回答                                    | 9人   | 0.9%   |
| サンプル数                                  | 986人 | 100.0% |



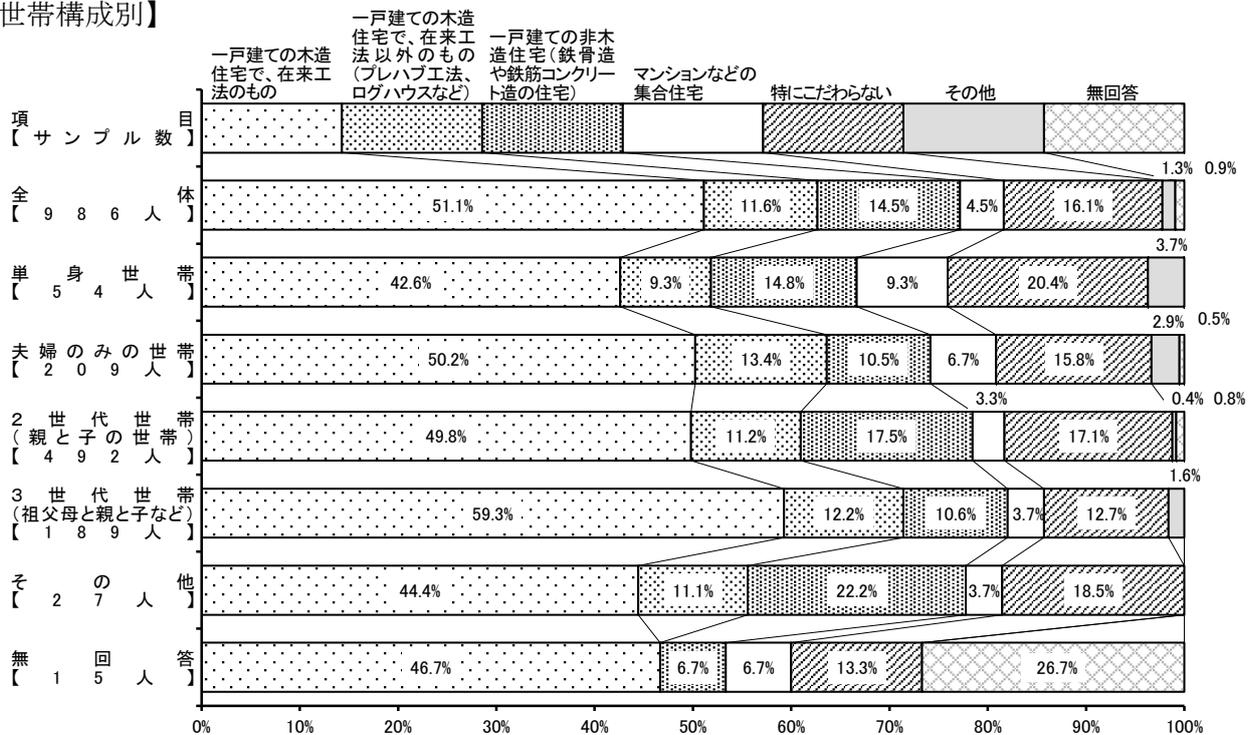
### 【地域別】



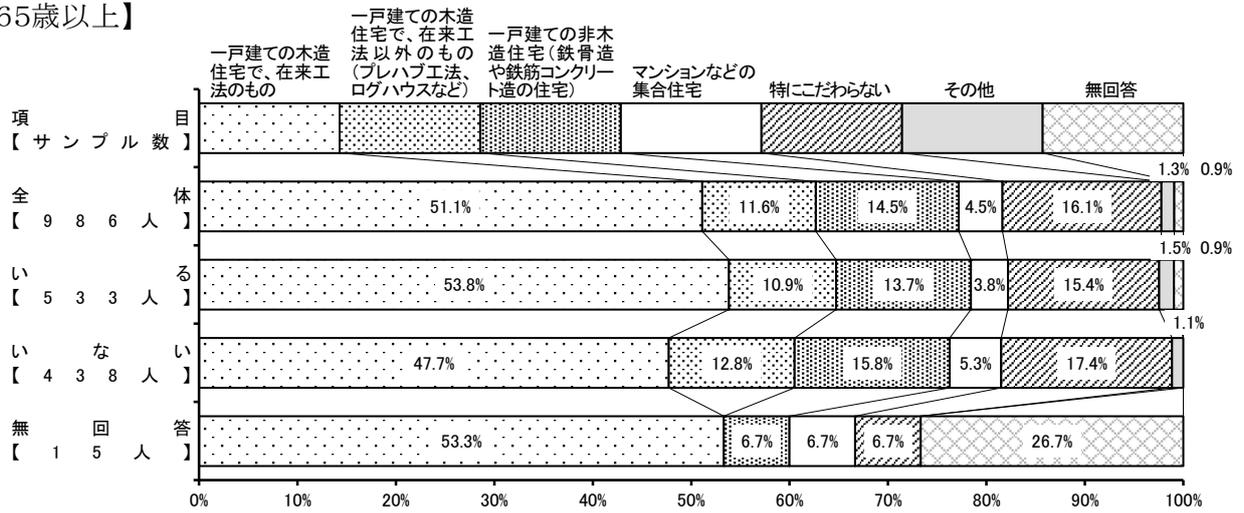
【年代別】



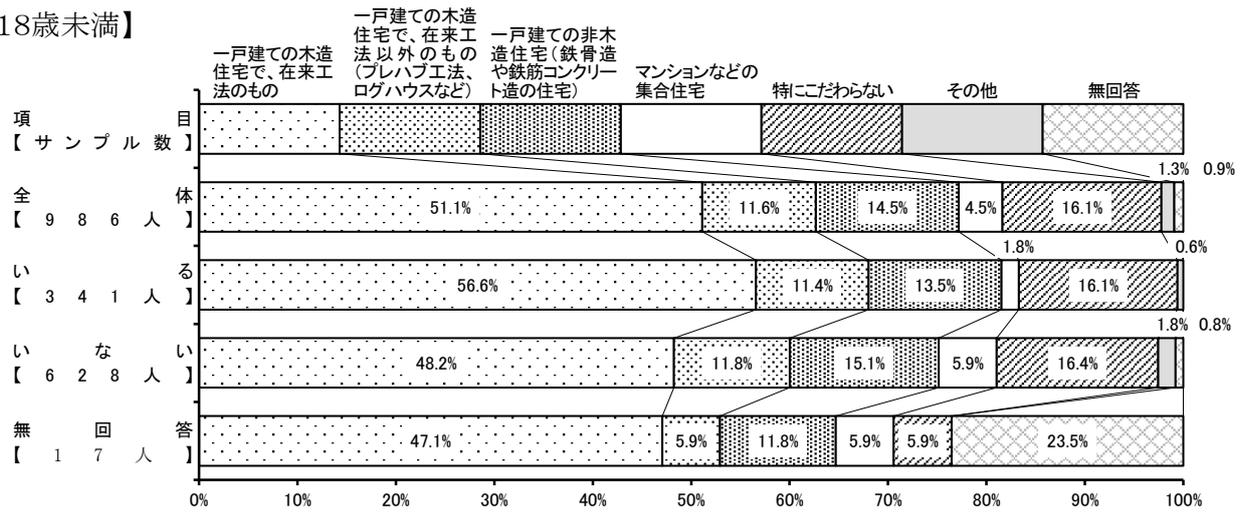
【世帯構成別】



【65歳以上】



【18歳未満】



## 問16 希望する構造材の加工

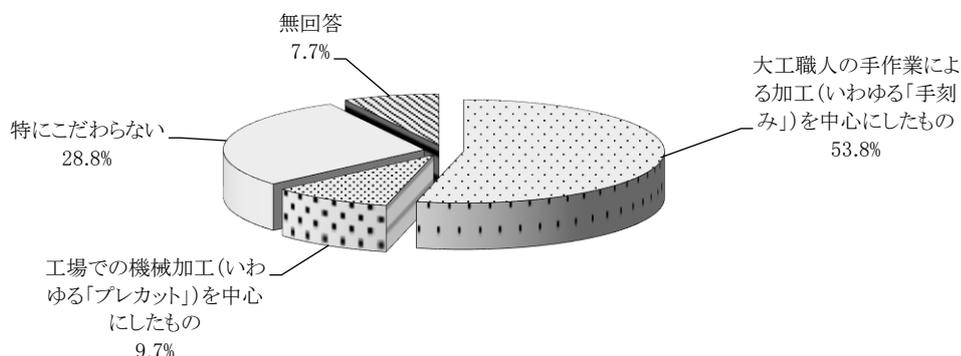
### ◆ 希望する構造材の加工

「大工職人の手作業による加工(「手刻み」)中心」トップ

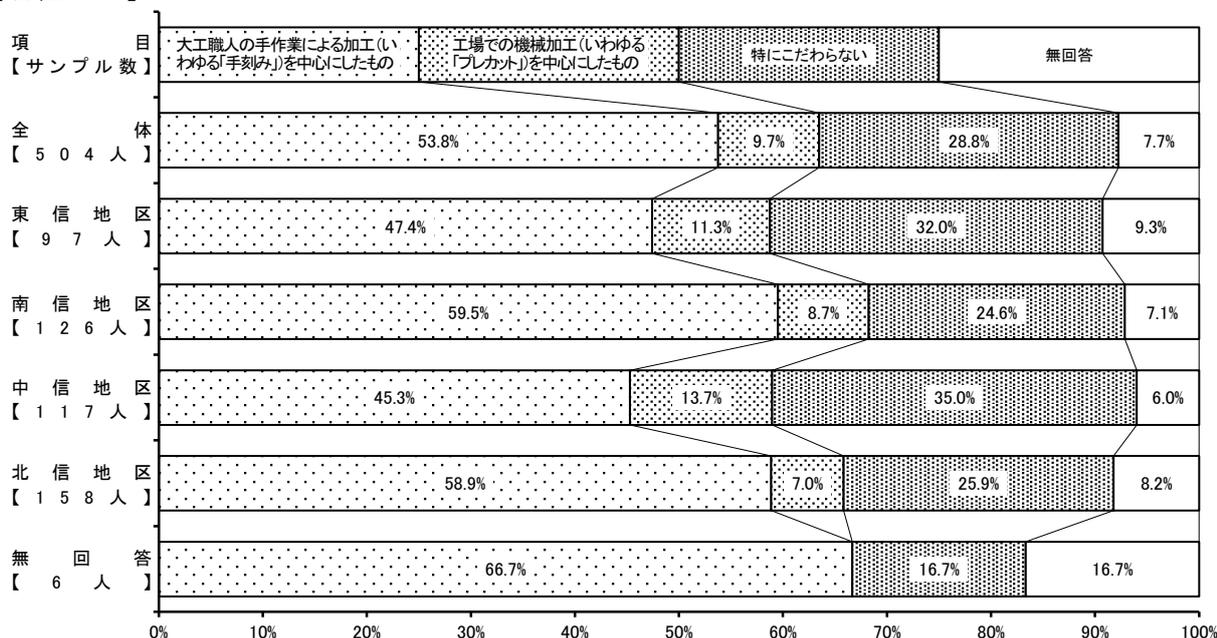
- 問15の、住宅取得の際に希望する構造についての問いで「一戸建ての木造住宅で、在来工法のもの」と回答した方に、構造材の加工の希望について聞いたところ「大工職人の手作業による加工を中心」が53.8%と半数以上となった。
- 年齢が高くなるにつれ「大工職人の手作業による加工を中心」の割合も上昇する傾向にある。

問 16 問15で1を選んだ方におたずねします。構造材(土台、柱、梁・桁等)の加工について、どのような住宅を選びたいと思いますか。

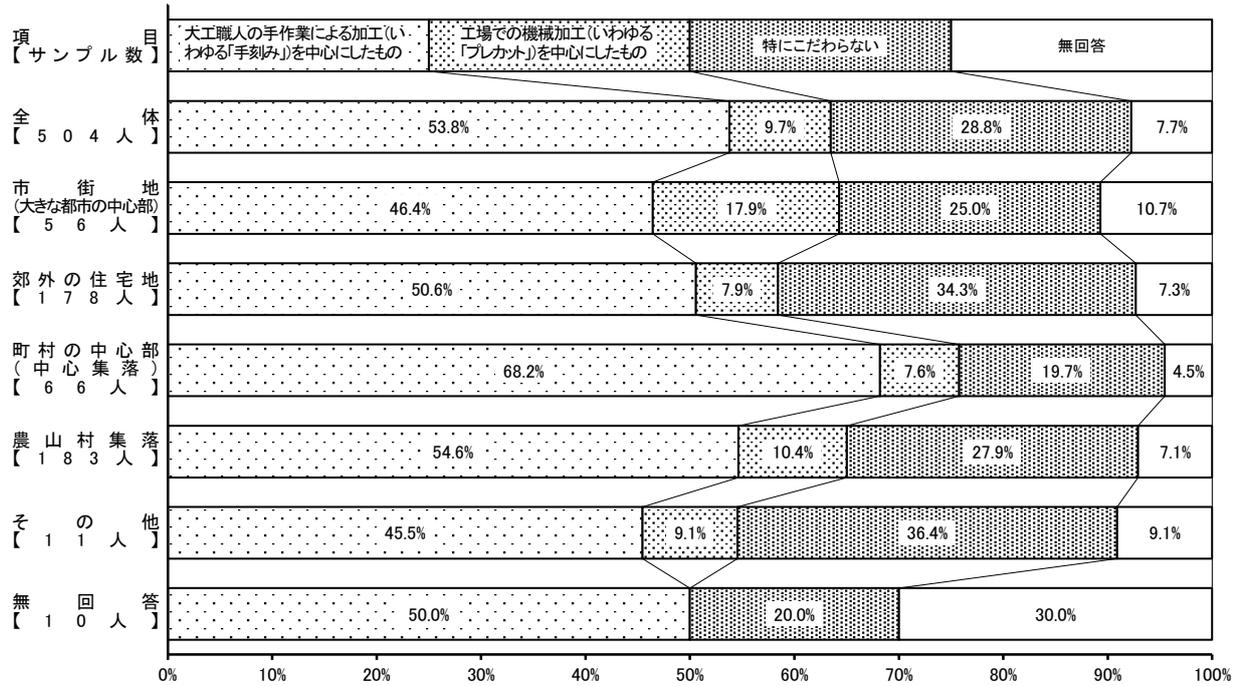
|                                    | 回答者数 | 割合     |
|------------------------------------|------|--------|
| 1 大工職人の手作業による加工(いわゆる「手刻み」)を中心にしたもの | 271人 | 53.8%  |
| 2 工場での機械加工(いわゆる「プレカット」)を中心にしたもの    | 49人  | 9.7%   |
| 3 特にこだわらない                         | 145人 | 28.8%  |
| 無回答                                | 39人  | 7.7%   |
| サンプル数                              | 504人 | 100.0% |



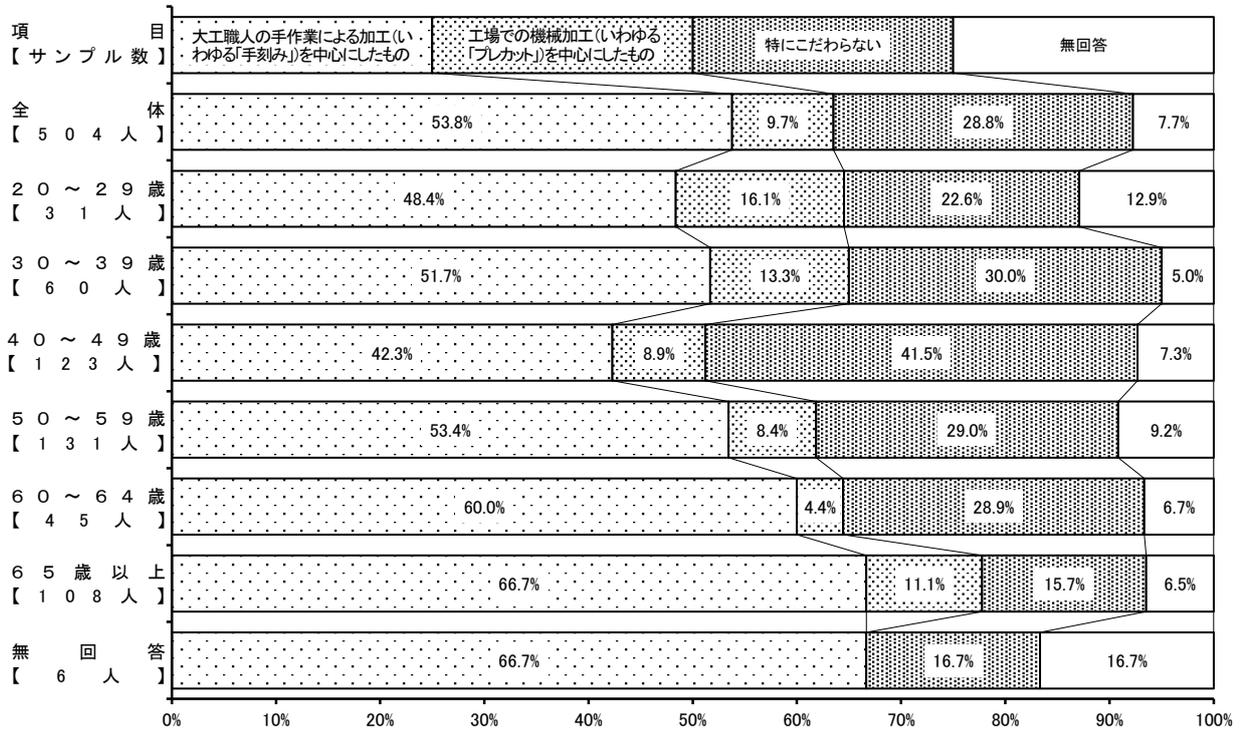
### 【居住地別】



【地域別】



【年代別】

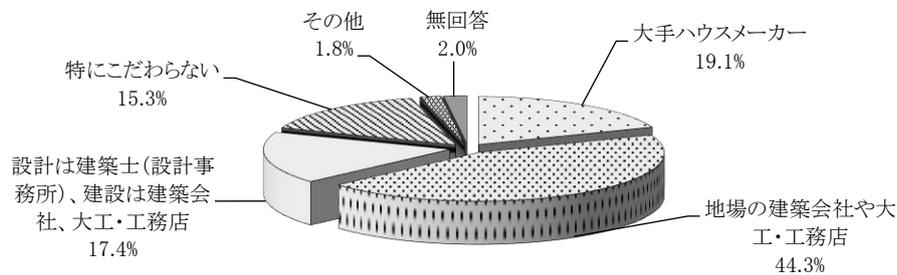


◆ 新改築の依頼「地場の建築会社や大工・工務店」44.3%

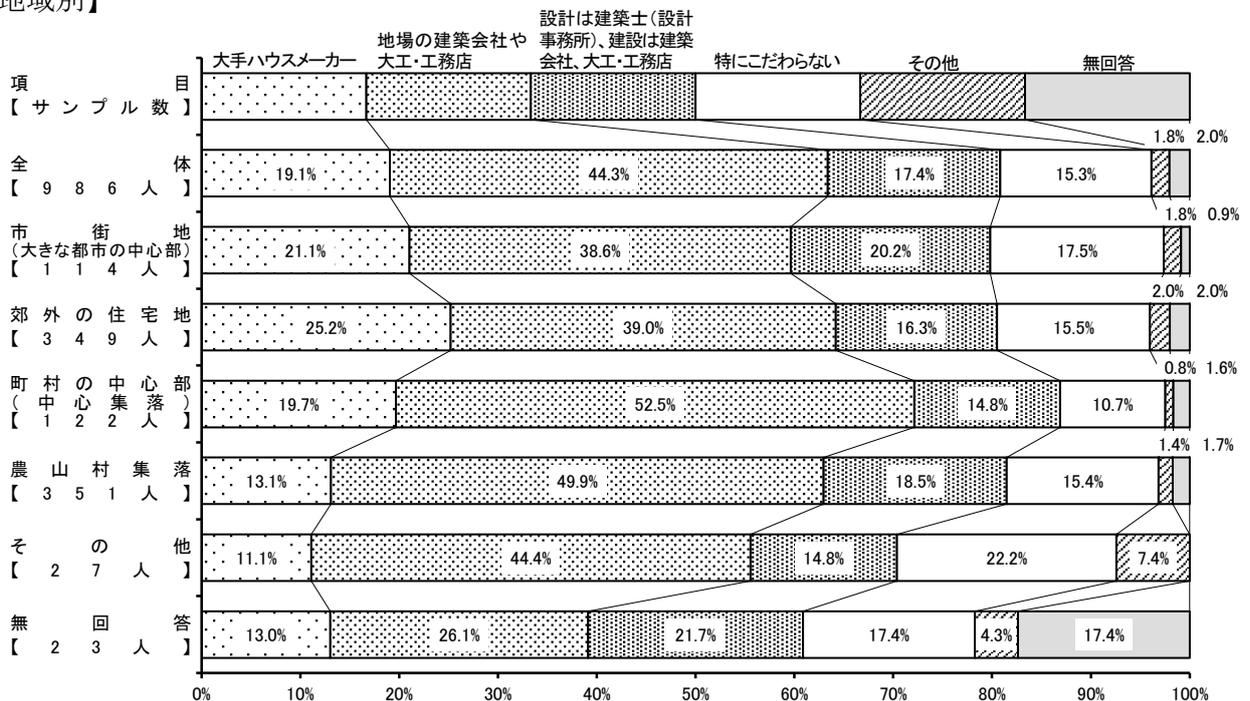
- 住宅の新築や増改築にあたり、設計や建設の依頼希望先を尋ねたところ、最も多かったのは「地場の建築会社や大工・工務店」の44.3%、次いで「大手ハウスメーカー」と「設計は建築士(設計事務所)、建設は建築会社、大工・工務店」がそれぞれ2割近くと大差なく、前回調査と同様の結果となった。
- 地域別で見ると、「地場の建設会社や大工・工務店」を希望するのが、市街地および郊外の住宅地では4割以下となっているが、町村の中心部および農村集落では5割前後となっており、都市部から離れると地場の企業への依頼を希望する割合が高くなるのがうかがえる。

問 17 あなたは、住宅を新築したりリフォームするとしたら、どこに依頼しようと思いますか。

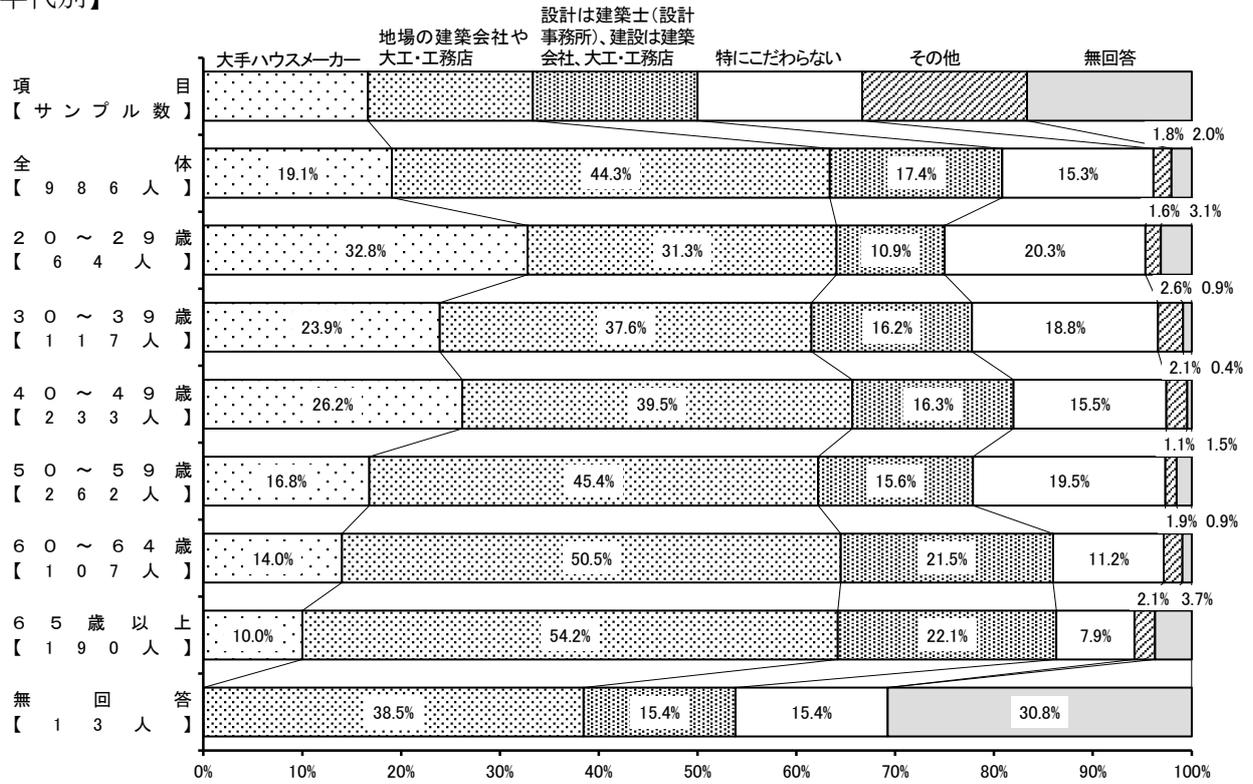
|                                | 回答者数 | 割合     |
|--------------------------------|------|--------|
| 1 大手ハウスメーカー                    | 188人 | 19.1%  |
| 2 地場の建築会社や大工・工務店               | 437人 | 44.3%  |
| 3 設計は建築士(設計事務所)、建設は建築会社、大工・工務店 | 172人 | 17.4%  |
| 4 特にこだわらない                     | 151人 | 15.3%  |
| 5 その他                          | 18人  | 1.8%   |
| 無回答                            | 20人  | 2.0%   |
| サンプル数                          | 986人 | 100.0% |



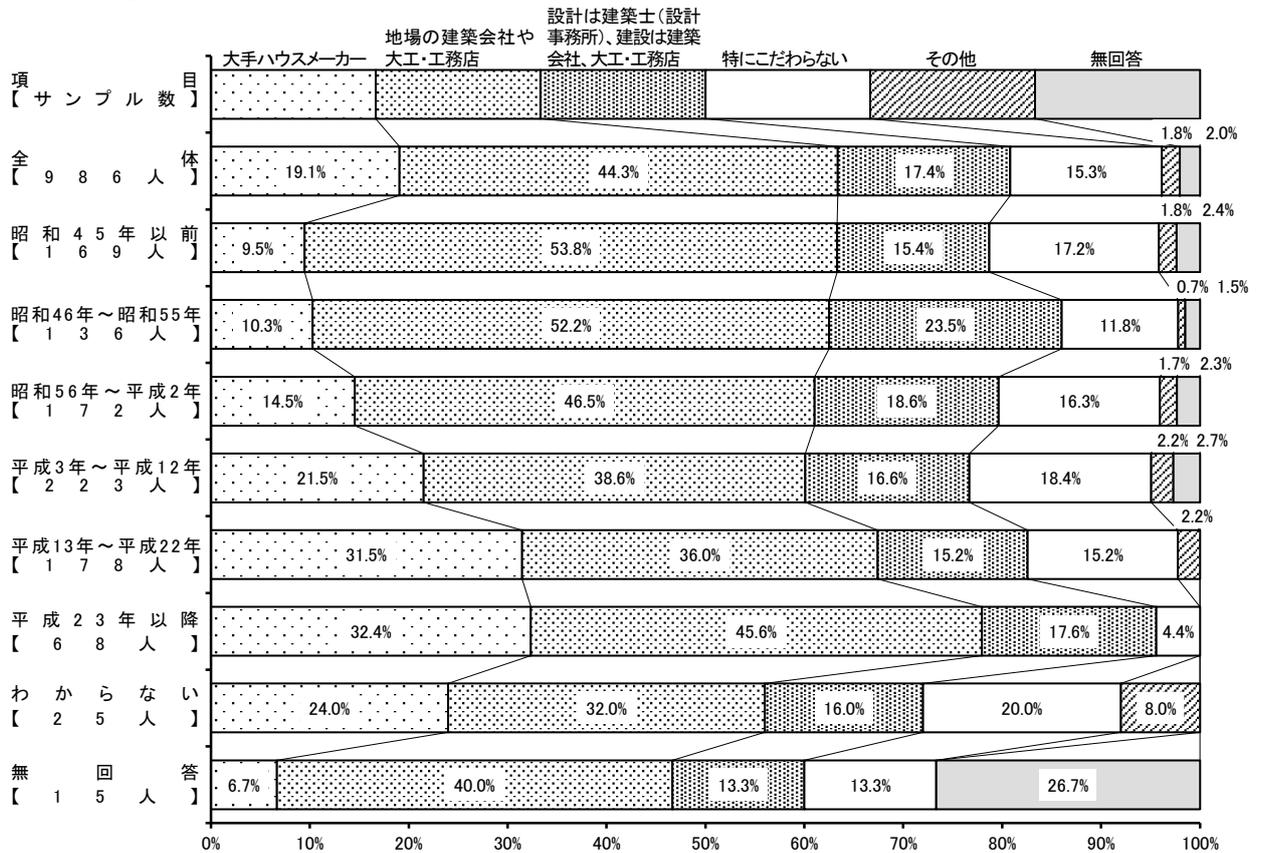
【地域別】



【年代別】

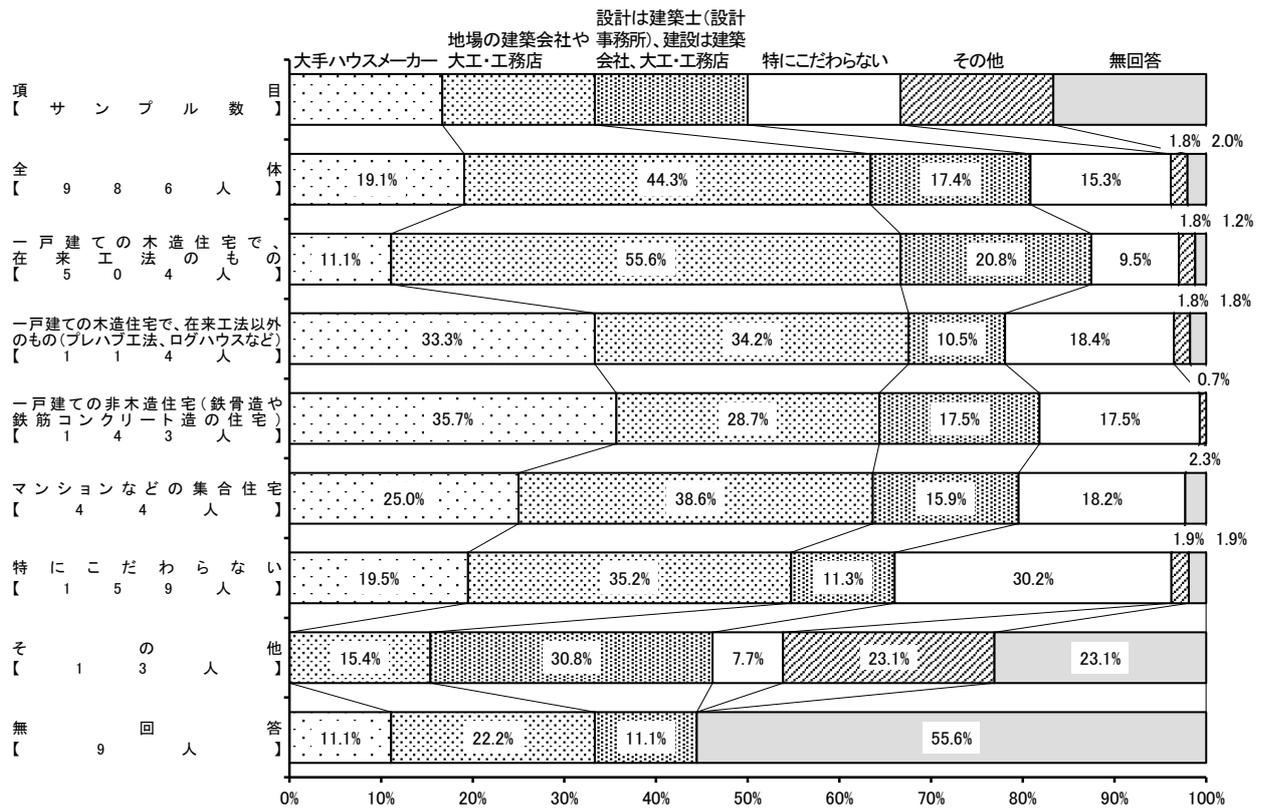


【築年数別】



【設問間クロス集計（問15）】

\*問15 あなたは、新たに住宅を取得するとしたら、どのような構造の住宅を選びたいと思いますか。



## 問18 設計・建設の依頼先の理由

(H22調査 問15)

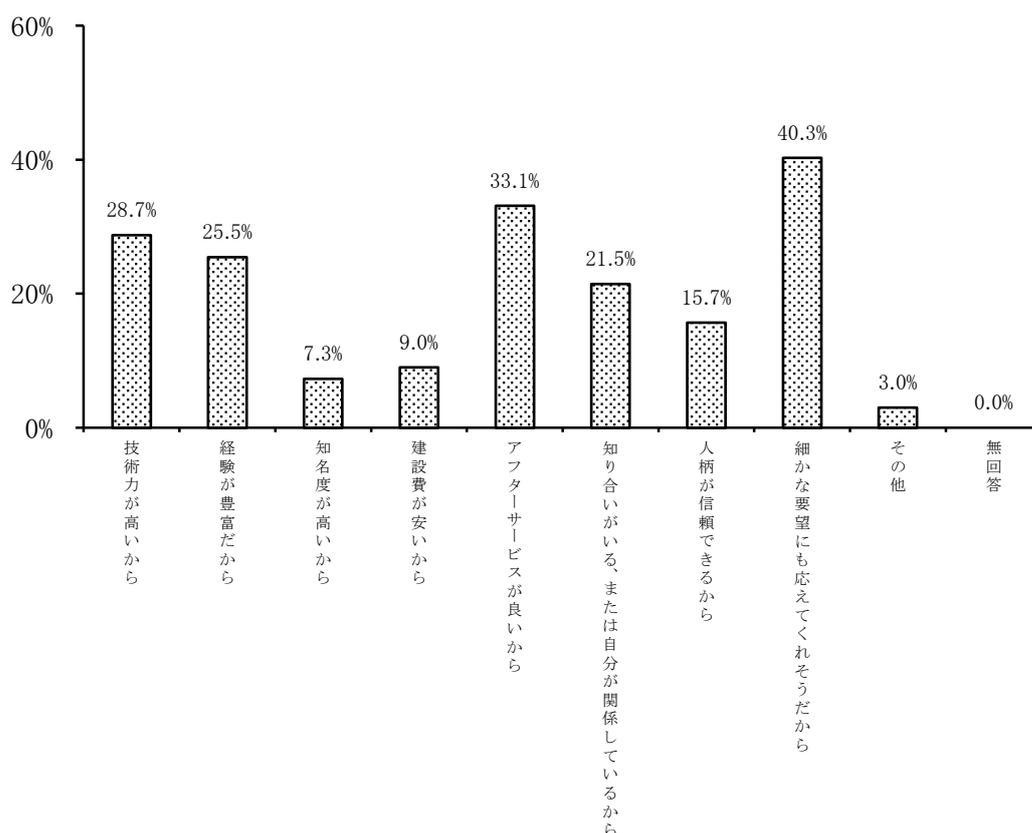
### ◆ 新改築の依頼先理由

「細かな要望にも応えてくれそう」トップ 続く「アフターサービス」

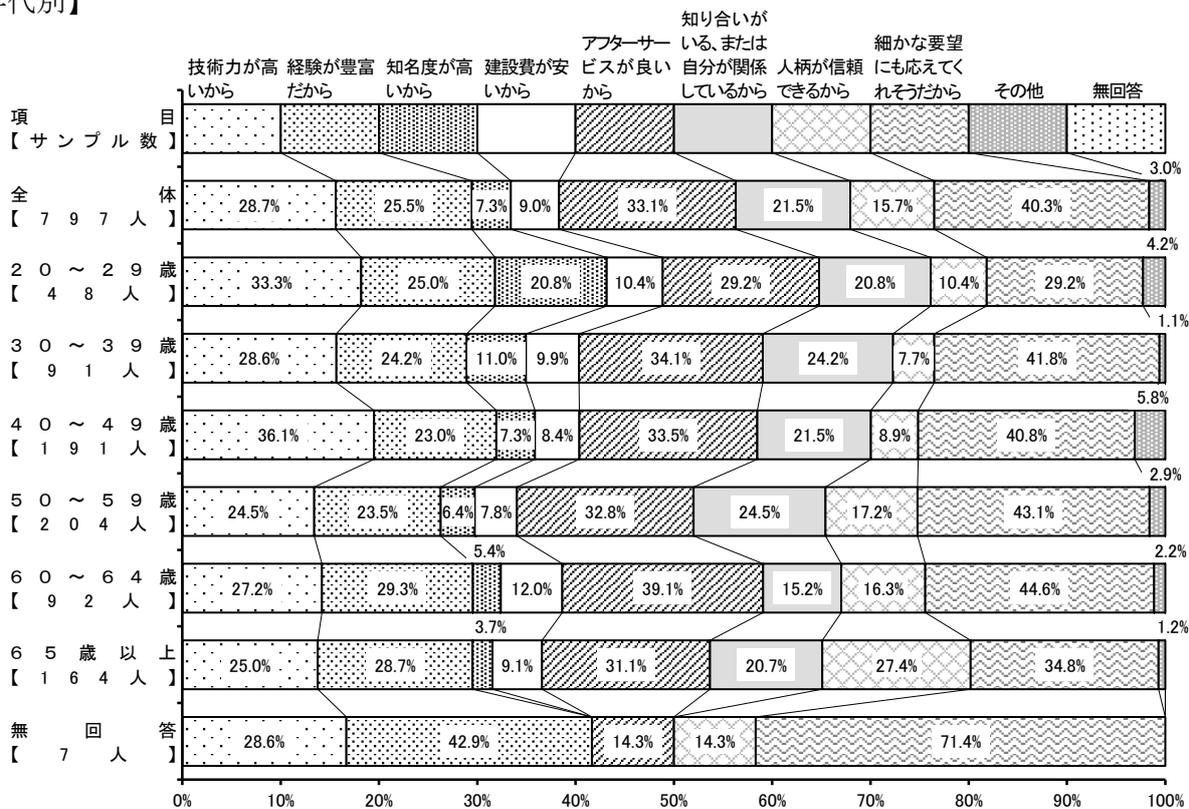
- 問17で新改築は専門業者に依頼したいと答えた方に理由をきいたところ、年代別では、30歳代～60歳代以上では「細かな要望にも応えてくれそうだから」が最も高く、20歳代は「技術力が高いから」が最も高くなる結果となった。
- 「大手ハウスメーカー」を選んだ方は技術力・アフターサービスを重視し、「建築会社や工務店等」を選んだ方は技術力・アフターサービスに加え細かな要望への対応も重視していることがわかる。

問 18 問17で1から3を選んだ方におたずねします。その主な理由を次の中から2つ以内で選んでください。

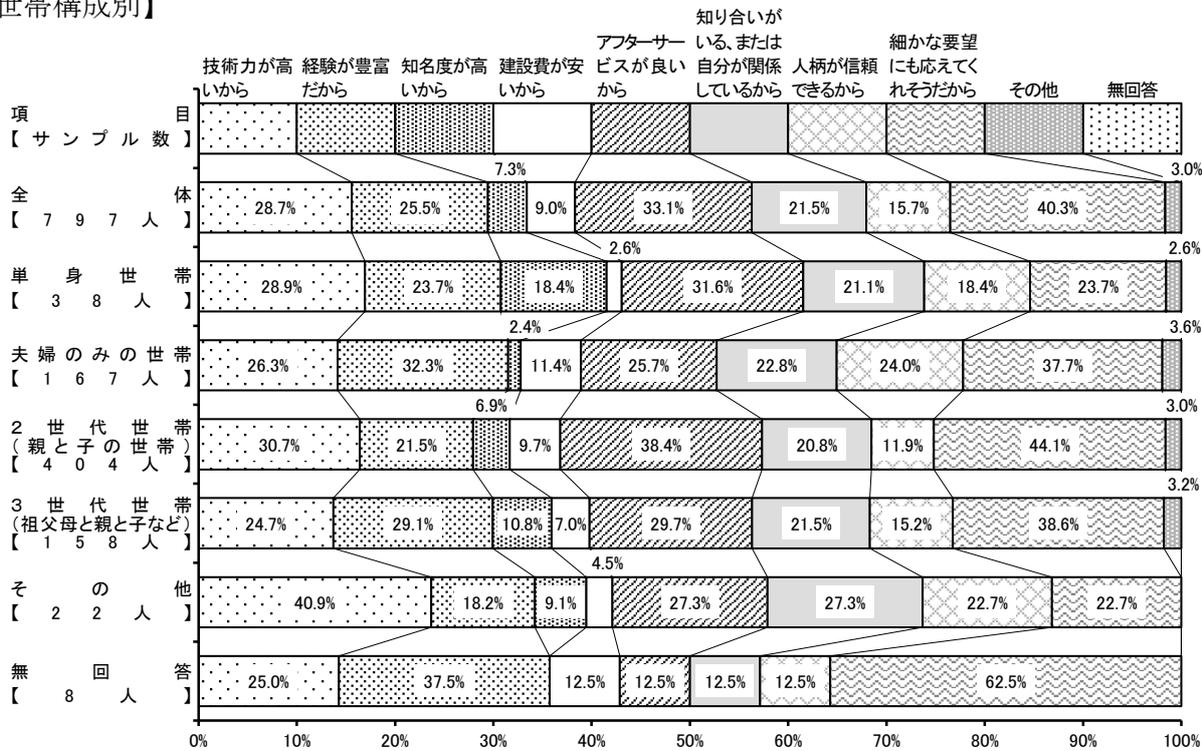
|                          | 回答者数 | 割合     |
|--------------------------|------|--------|
| 1 技術力が高いから               | 229人 | 28.7%  |
| 2 経験が豊富だから               | 203人 | 25.5%  |
| 3 知名度が高いから               | 58人  | 7.3%   |
| 4 建設費が安いから               | 72人  | 9.0%   |
| 5 アフターサービスが良いから          | 264人 | 33.1%  |
| 6 知り合いがいる、または自分が関係しているから | 171人 | 21.5%  |
| 7 人柄が信頼できるから             | 125人 | 15.7%  |
| 8 細かな要望にも応えてくれそうだから      | 321人 | 40.3%  |
| 9 その他                    | 24人  | 3.0%   |
| 無回答                      | 0人   | 0.0%   |
| サンプル数                    | 797人 | 100.0% |



【年代別】

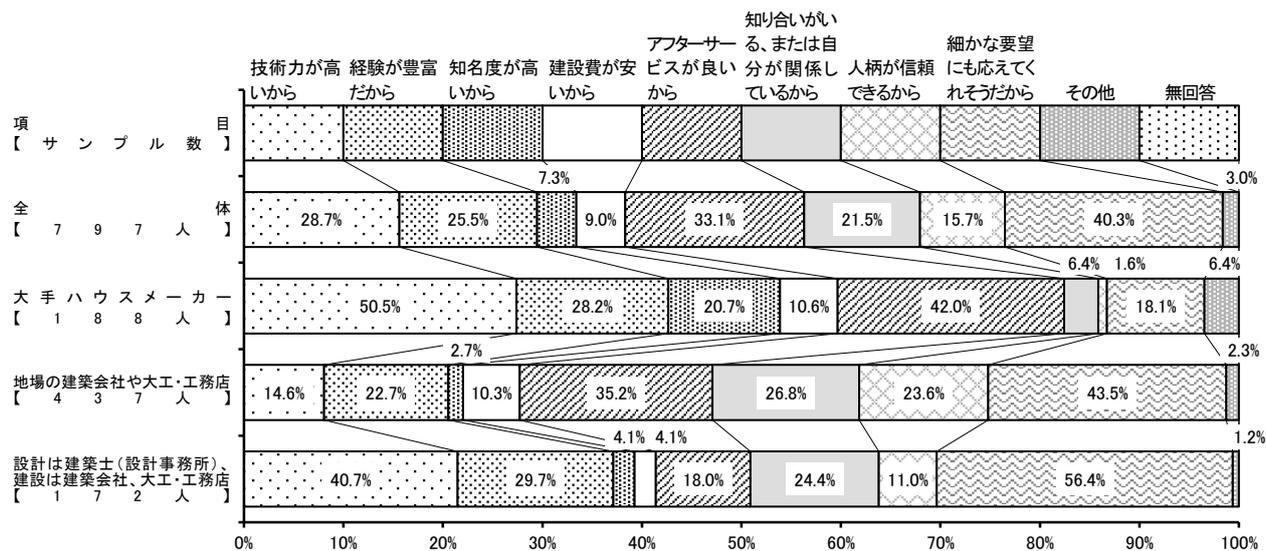


【世帯構成別】



【設問間クロス集計（問17）】

\*問17 あなたは、住宅を新築したりリフォームするとしたら、どこに依頼しようと思いますか。

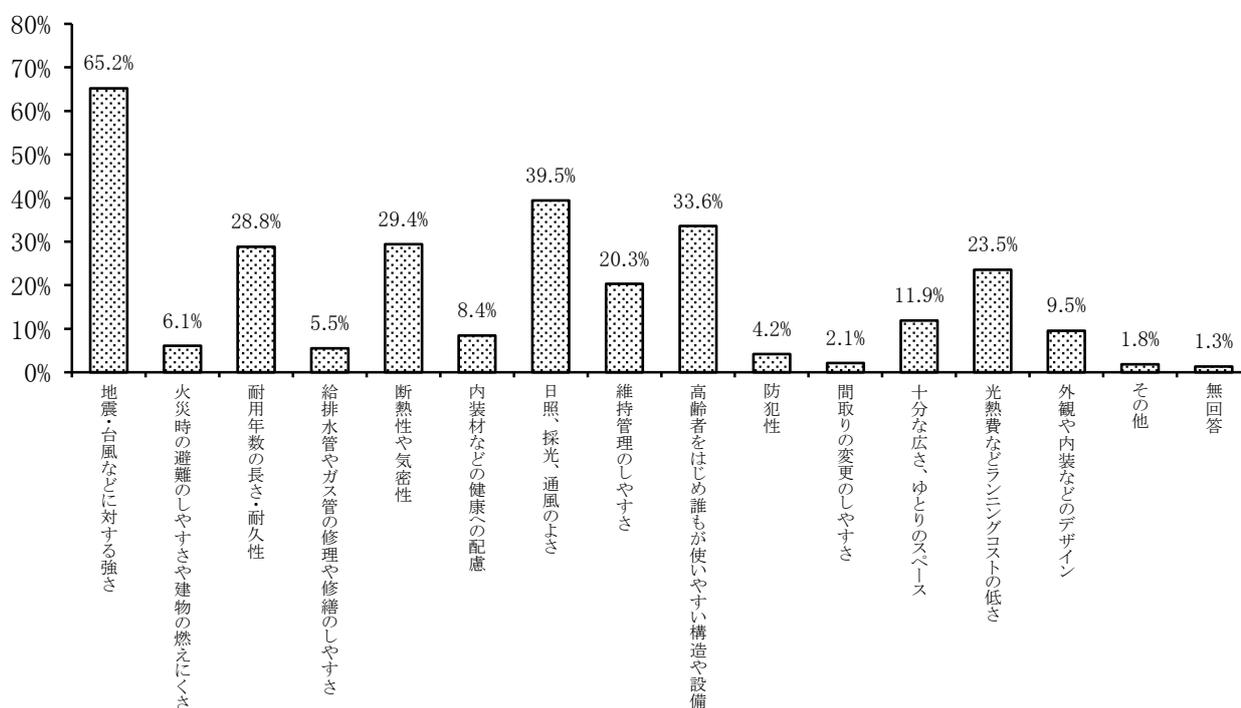


◆ 重視する住宅の質「地震・台風などに対する強さ」6割以上

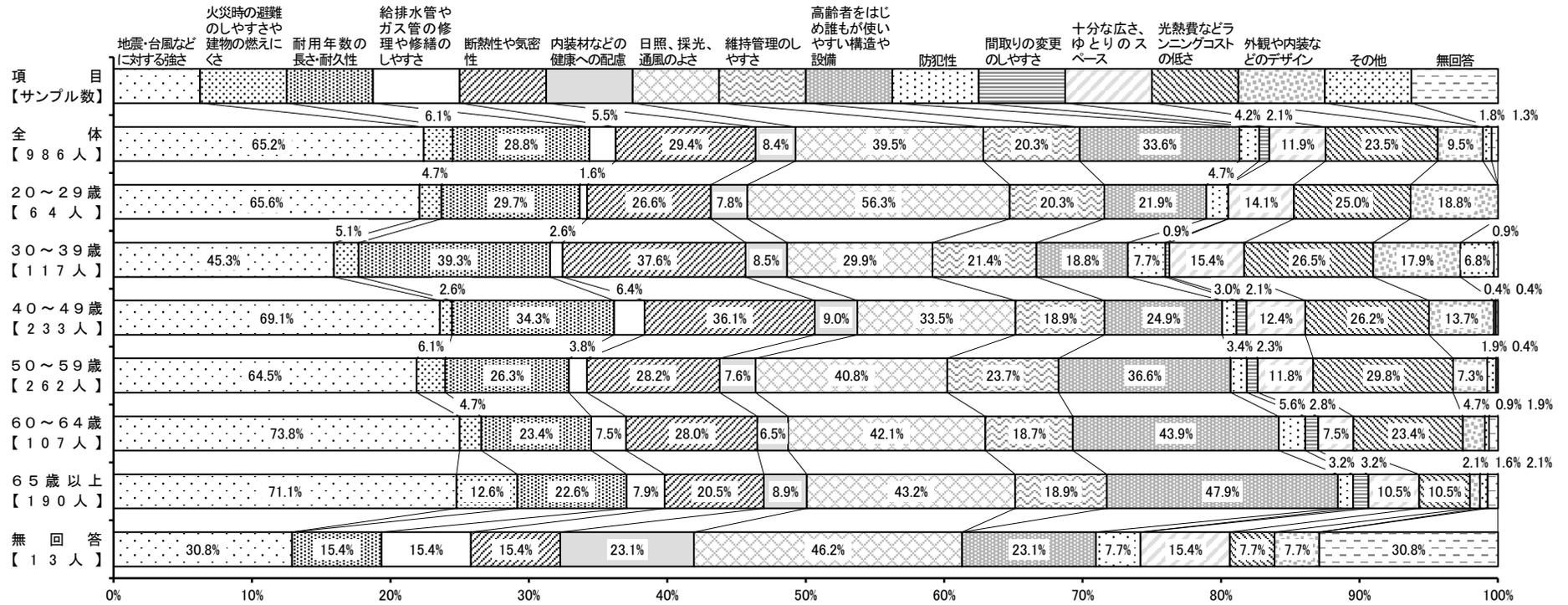
- 取得する住宅についてどのような性能を重視するかを尋ねたところ、最も多かったのは、「地震・台風などに対する強さ」65.2%、次いで「日照、採光、通風のよさ」39.5%、「高齢者をはじめ誰もが使いやすい構造や設備」33.6%が続いている。
- 65歳以上がいる世帯では、いない世帯に比べ「使いやすい構造設備」の割合が高く、「ランニングコストの低さ」は低くなっている。また、18歳未満がいる世帯では、いない世帯に比べ「耐久性」「耐熱性・気密性」の割合が高く、「日照・採光・通風のよさ」「使いやすい構造設備」は低くなっている。

問 19 あなたは、新たに住宅を取得するとしたら、どのような点を特に重視しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

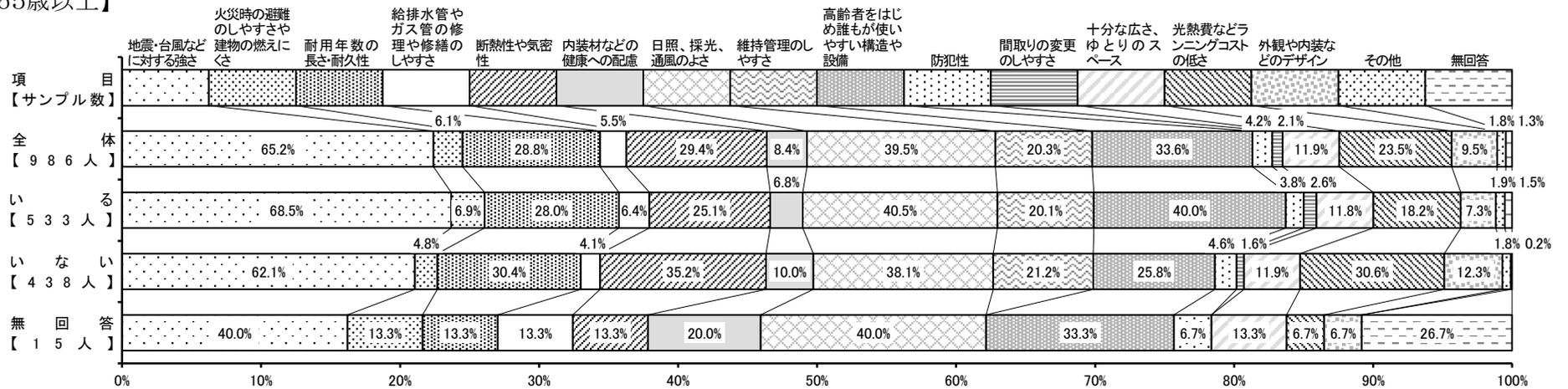
|                        | 回答者数 | 割合     |
|------------------------|------|--------|
| 1 地震・台風などに対する強さ        | 643人 | 65.2%  |
| 2 火災時の避難のしやすさや建物の燃えにくさ | 60人  | 6.1%   |
| 3 耐用年数の長さ・耐久性          | 284人 | 28.8%  |
| 4 給排水管やガス管の修理や修繕のしやすさ  | 54人  | 5.5%   |
| 5 断熱性や気密性              | 290人 | 29.4%  |
| 6 内装材などの健康への配慮         | 83人  | 8.4%   |
| 7 日照、採光、通風のよさ          | 389人 | 39.5%  |
| 8 維持管理のしやすさ            | 200人 | 20.3%  |
| 9 高齢者をはじめ誰もが使いやすい構造や設備 | 331人 | 33.6%  |
| 10 防犯性                 | 41人  | 4.2%   |
| 11 間取りの変更のしやすさ         | 21人  | 2.1%   |
| 12 十分な広さ、ゆとりのスペース      | 117人 | 11.9%  |
| 13 光熱費などランニングコストの低さ    | 232人 | 23.5%  |
| 14 外観や内装などのデザイン        | 94人  | 9.5%   |
| 15 その他                 | 18人  | 1.8%   |
| 無回答                    | 13人  | 1.3%   |
| サンプル数                  | 986人 | 100.0% |



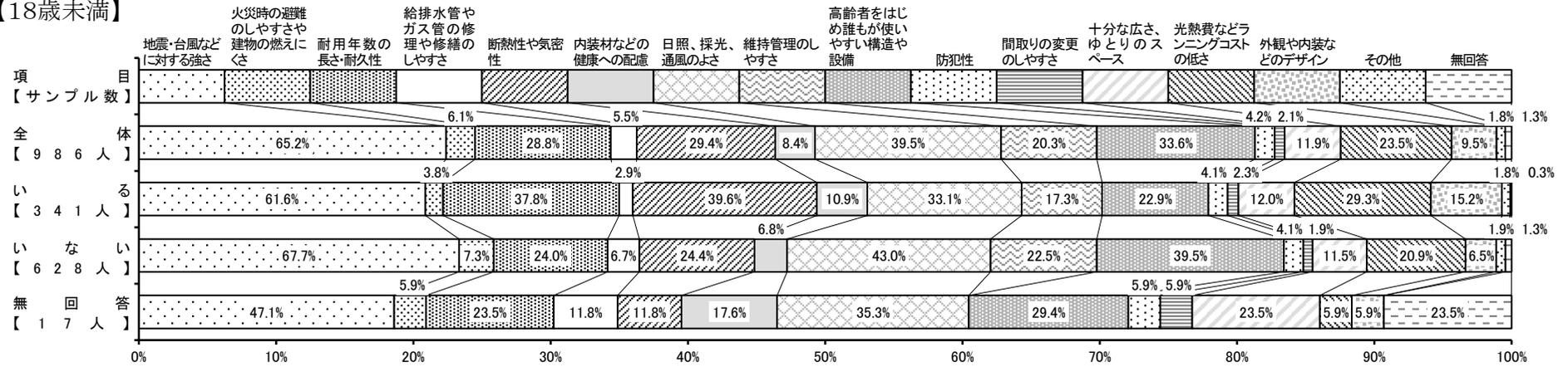
【年代別】



【65歳以上】

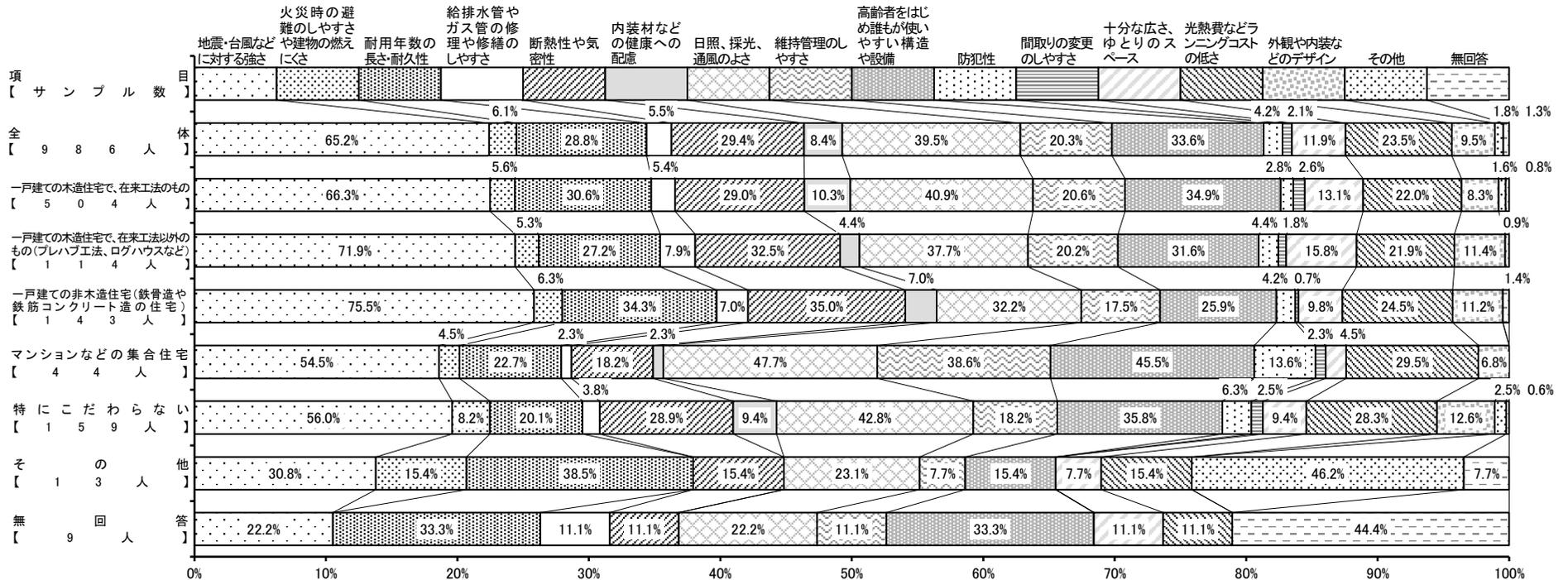


【18歳未満】



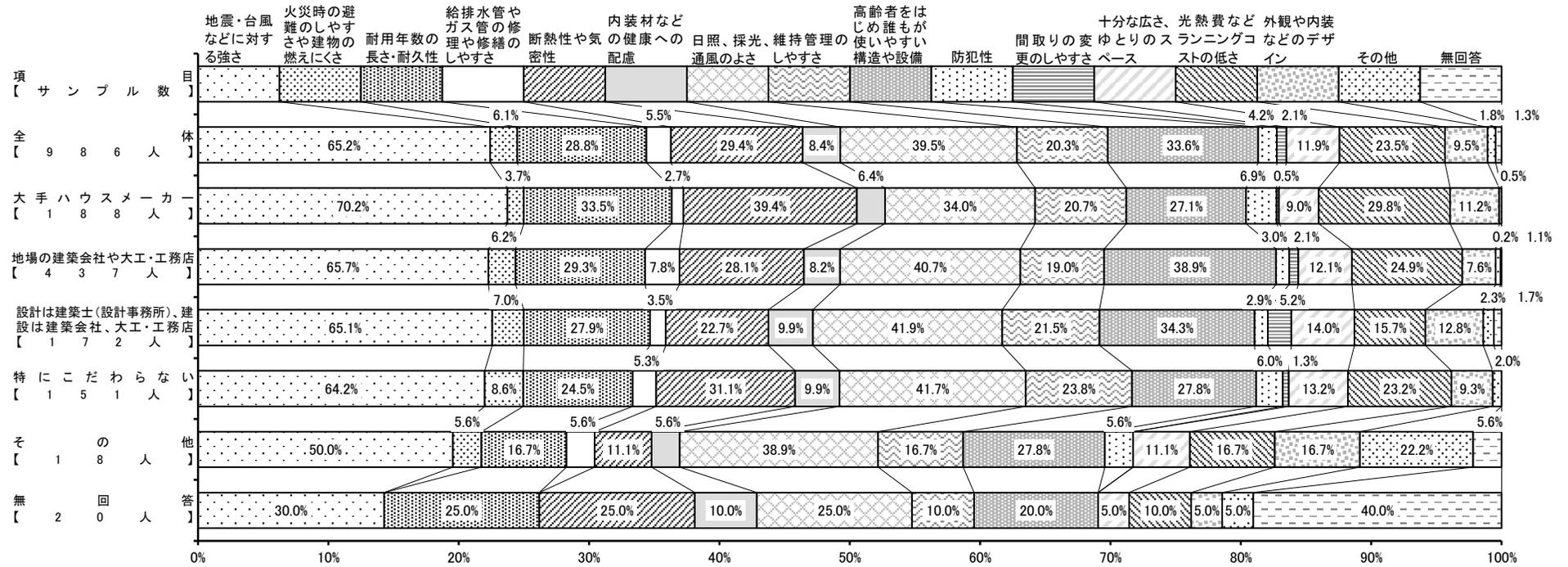
【設問間クロス集計（問15）】

\*問15 あなたは、新たに住宅を取得するとしたら、どのような構造の住宅を選びたいと思いますか。



【設問間クロス集計（問17）】

\*問17 あなたは、住宅を新築したりリフォームするとしたら、どこに依頼しようと思いますか。



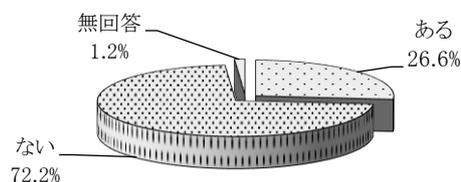
## 問20 リフォームの予定・希望

◆ リフォームの予定「ない」が72% 「ある」は26%

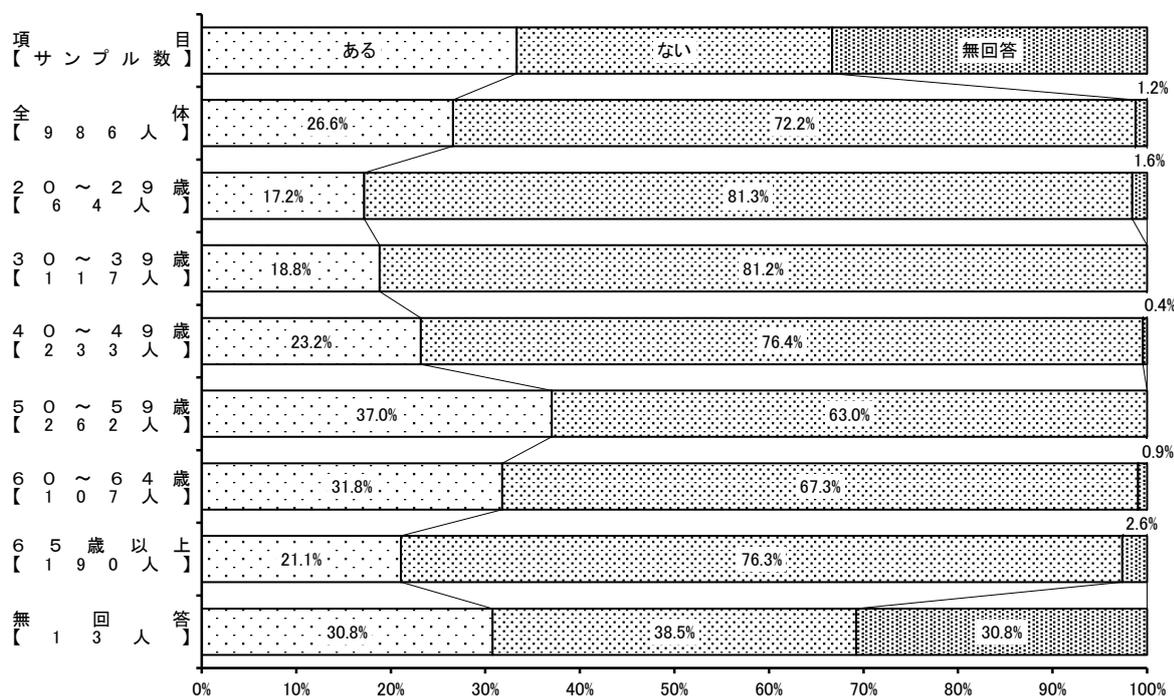
- 年代別に見ると、「ある」の割合は40代・50代が比較的高く、20代・30代は低くなっている。
- 築年数別では、築年数が経過するほど「ある」の割合も増加する傾向となっているが、築年数「昭和56年～平成2年」からは減少傾向に転じている。

問20 あなたが現在住んでいる住宅をリフォームする予定または希望はありますか。

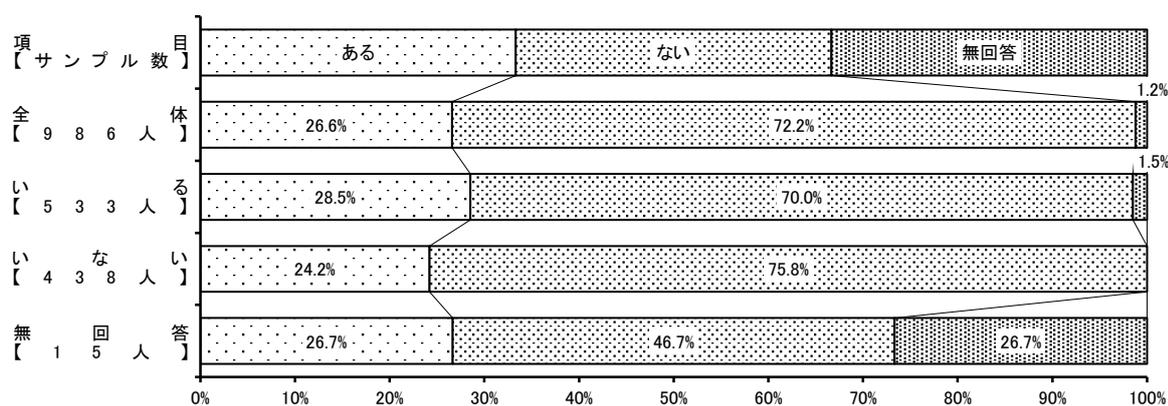
|       | 回答者数 | 割合     |
|-------|------|--------|
| 1 ある  | 262人 | 26.6%  |
| 2 ない  | 712人 | 72.2%  |
| 無回答   | 12人  | 1.2%   |
| サンプル数 | 986人 | 100.0% |



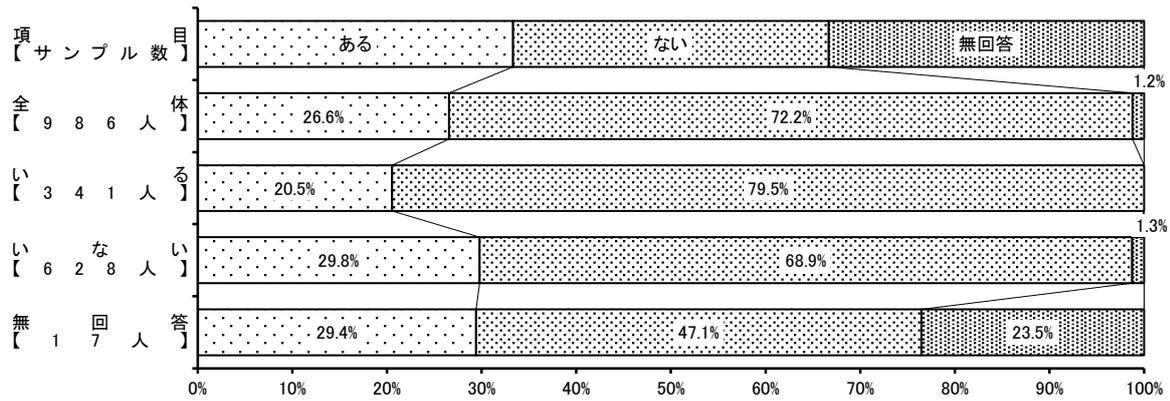
### 【年代別】



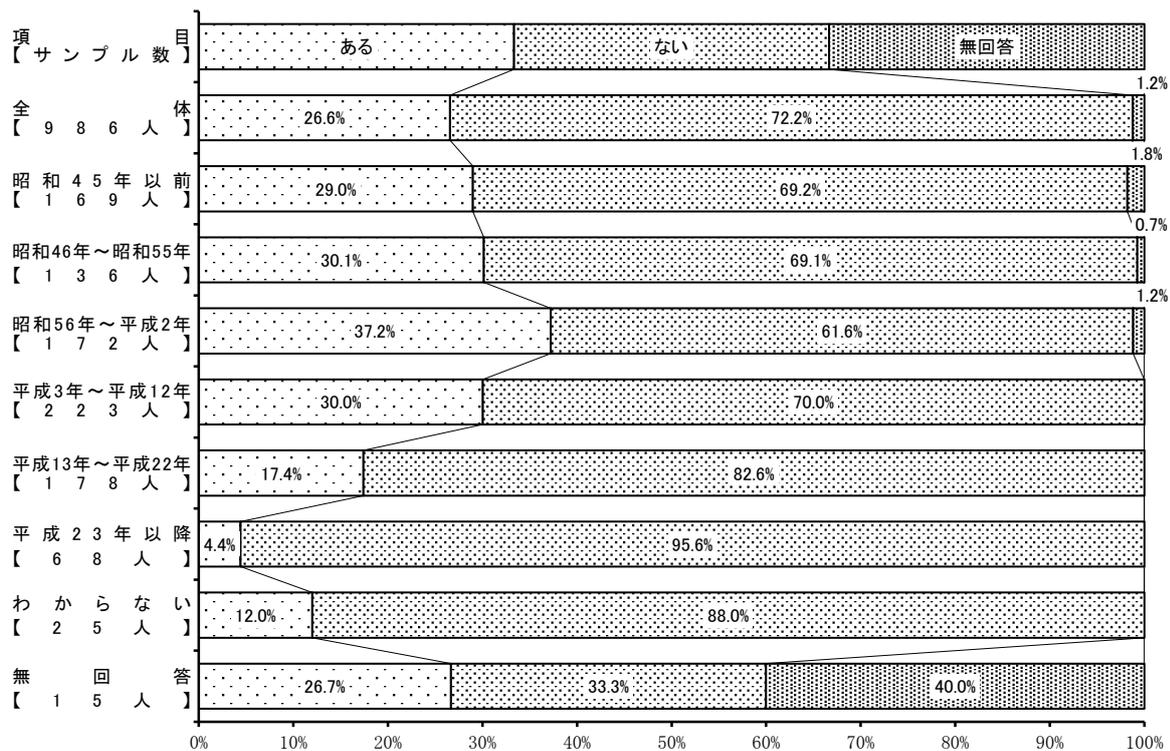
### 【65歳以上】



【18歳未満】



【築年数別】



## 問21 リフォームの予定・希望内容

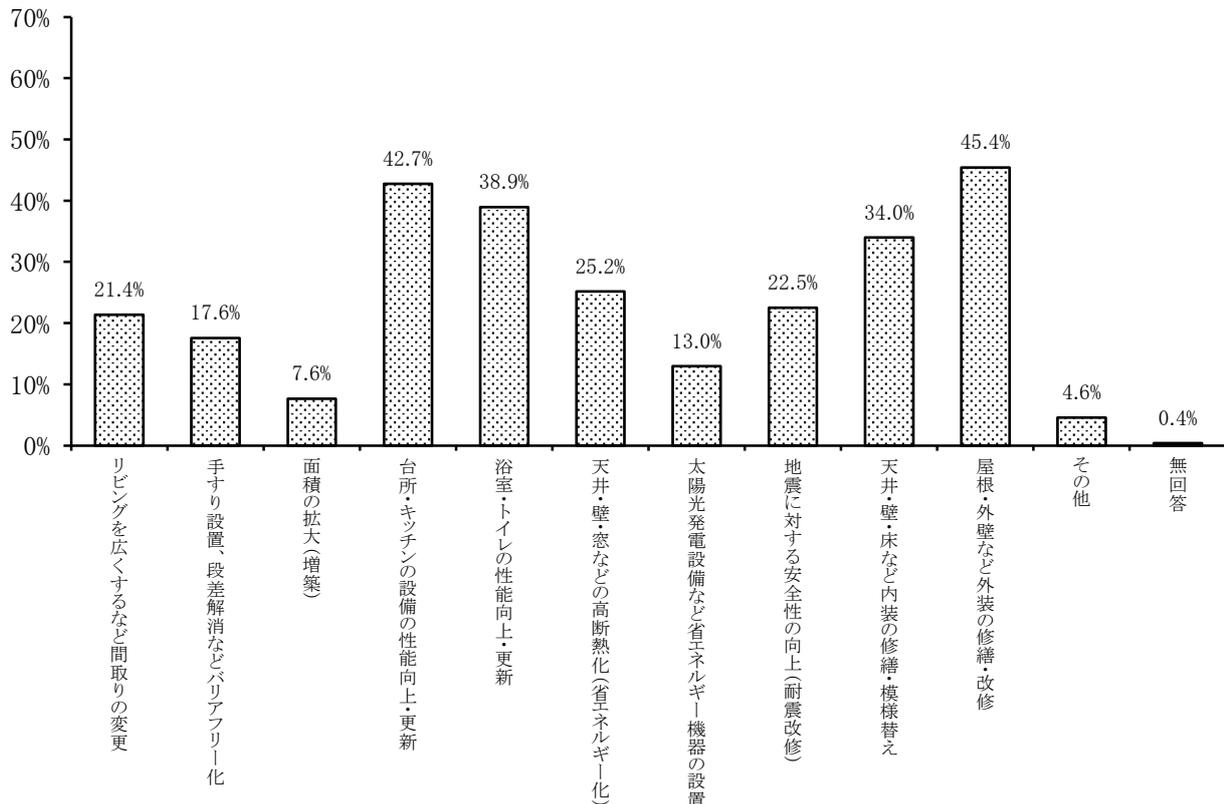
### ◆ リフォームの予定・希望内容

「屋根・外壁」「台所・キッチン」「浴室・トイレ」上位に

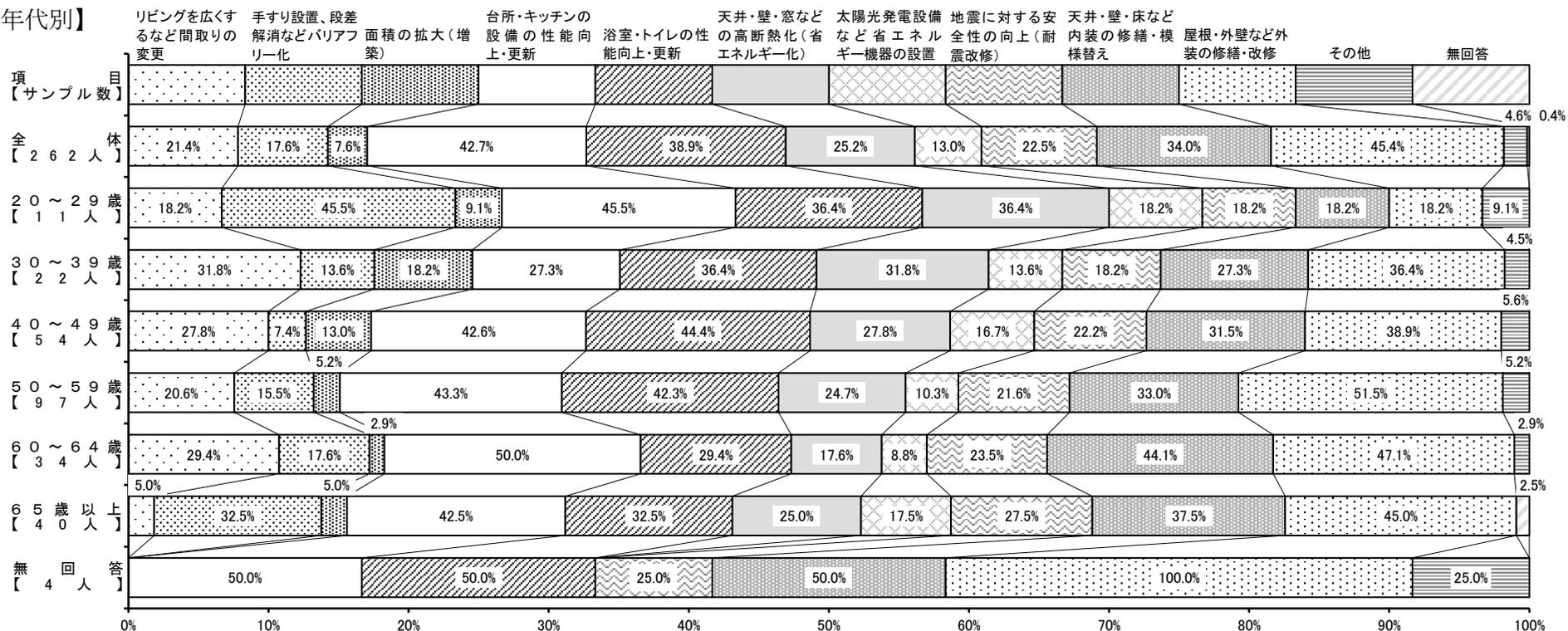
- 問20の、今後のリフォームの予定について「ある」と回答した方に、どのようなリフォームをしたいか聞いたところ最も高くなったものは「外装の修繕・改修」45.4%、低くなったものは「面積の拡大(増築)」7.6%となった。
- 65歳以上がいる世帯では、いない世帯に比べ「バリアフリー化」の割合が高く、「面積の拡大(増築)」は低く、また、18歳未満がいる世帯では、いない世帯に比べ「面積の拡大(増築)」の割合が高く、「バリアフリー化」は低くなっており、今後の生活の変化による影響がうかがえる。

問21 問20で1を選んだ方におたずねします。どのようなリフォームをしたいですか。次の中から3つ以内で選んでください。

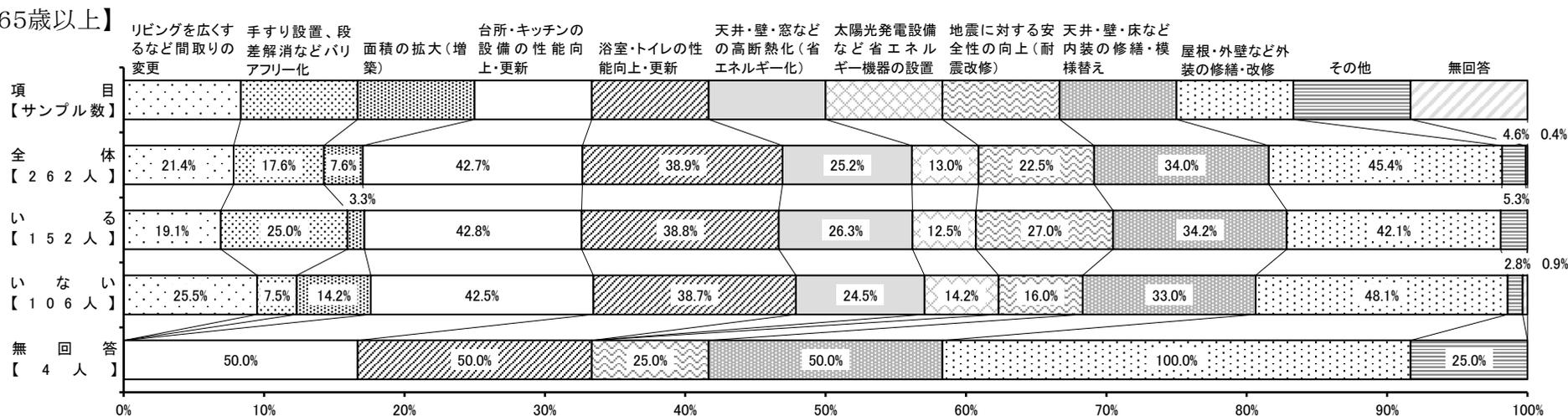
|                          | 回答者数 | 割合     |
|--------------------------|------|--------|
| 1 リビングを広くするなど間取りの変更      | 56人  | 21.4%  |
| 2 手すり設置、段差解消などバリアフリー化    | 46人  | 17.6%  |
| 3 面積の拡大(増築)              | 20人  | 7.6%   |
| 4 台所・キッチンの設備の性能向上・更新     | 112人 | 42.7%  |
| 5 浴室・トイレの性能向上・更新         | 102人 | 38.9%  |
| 6 天井・壁・窓などの高断熱化(省エネルギー化) | 66人  | 25.2%  |
| 7 太陽光発電設備など省エネルギー機器の設置   | 34人  | 13.0%  |
| 8 地震に対する安全性の向上(耐震改修)     | 59人  | 22.5%  |
| 9 天井・壁・床など内装の修繕・模様替え     | 89人  | 34.0%  |
| 10 屋根・外壁など外装の修繕・改修       | 119人 | 45.4%  |
| 11 その他                   | 12人  | 4.6%   |
| 無回答                      | 1人   | 0.4%   |
| サンプル数                    | 262人 | 100.0% |



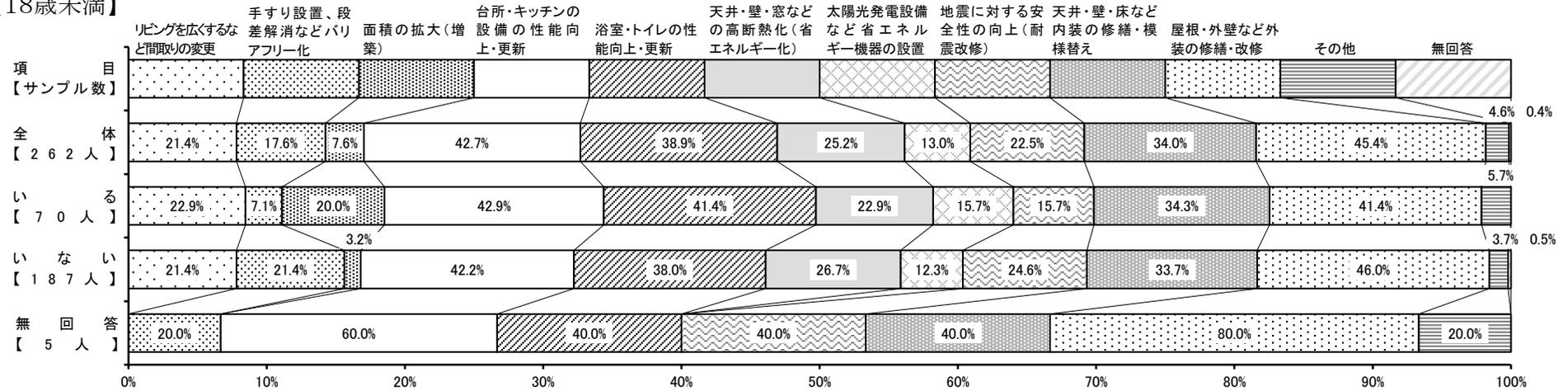
【年代別】



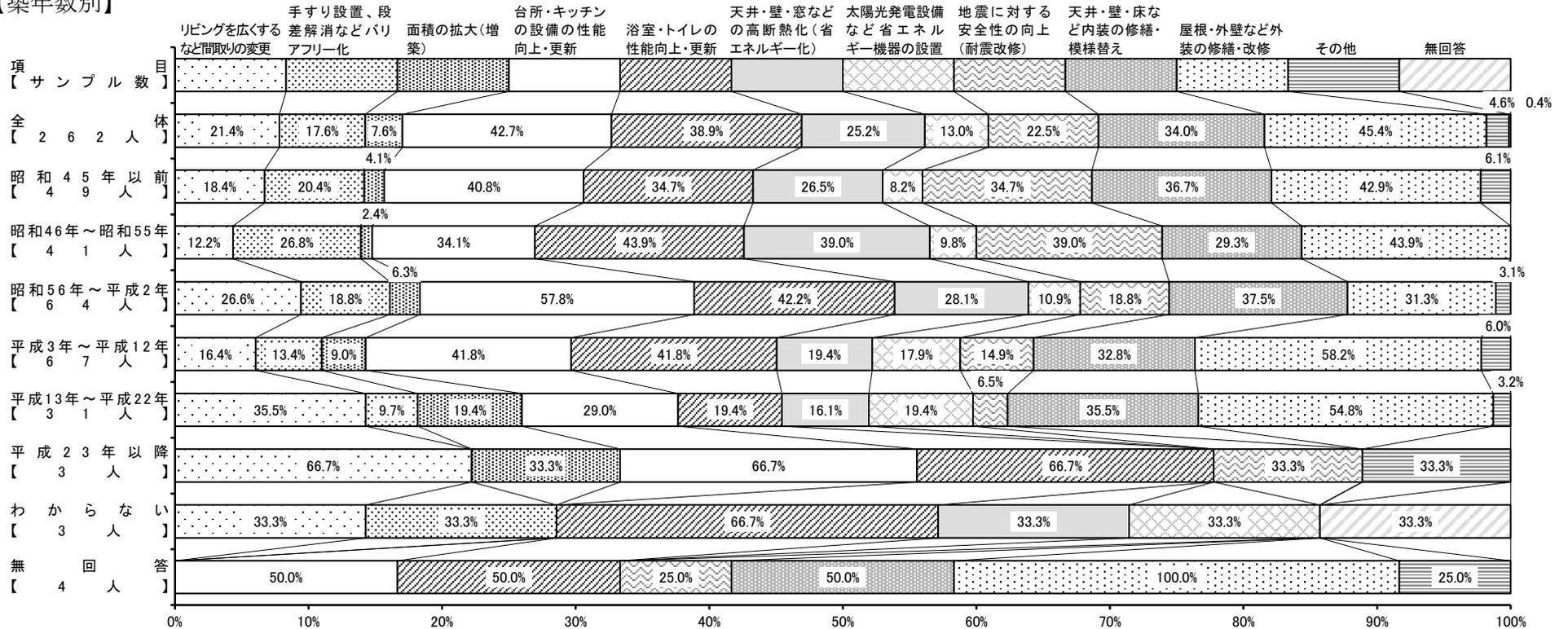
【65歳以上】



【18歳未満】



【築年数別】



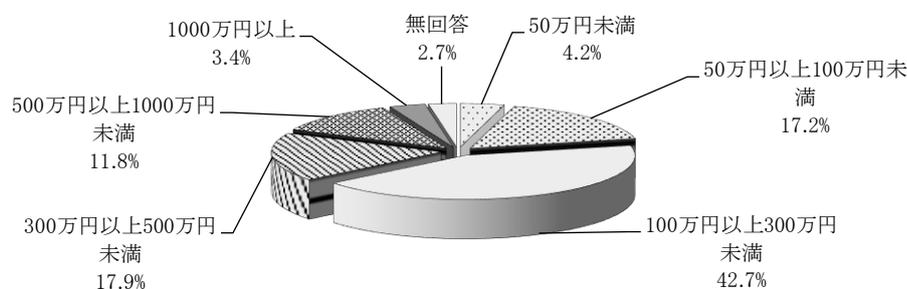
## 問22 リフォームの予算上限額

### ◆ リフォームの予算額「100万円以上300万円未満」4割以上

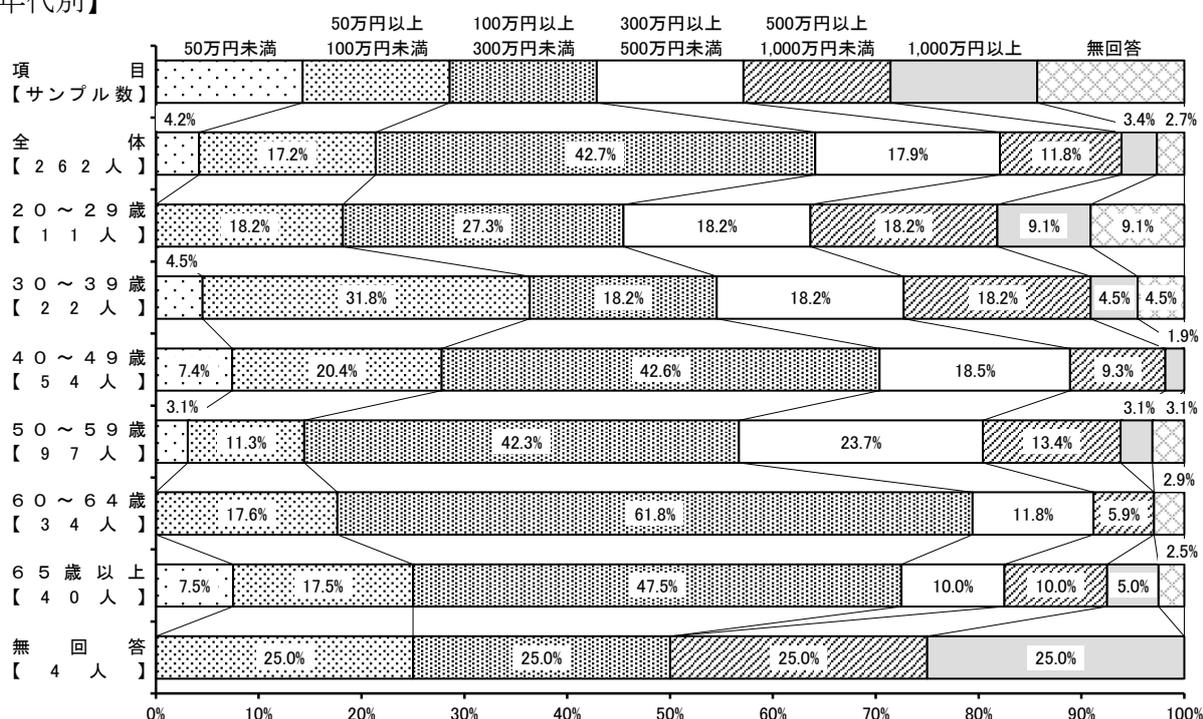
- 問20の、今後のリフォームの予定について「ある」と回答した方に予算の上限を聞いたところ、予算額は50万円以上300万円未満が半数以上を占める結果となった。
- 年代別にみると20代・40代・50代・60代・65歳以上では「100万円以上300万円未満」が最も多かったのに対し、30代では「50万円以上100万円未満」が最も多くなっている。

問22 問20で1を選んだ方におたずねします。予算の上限はどのくらいですか。

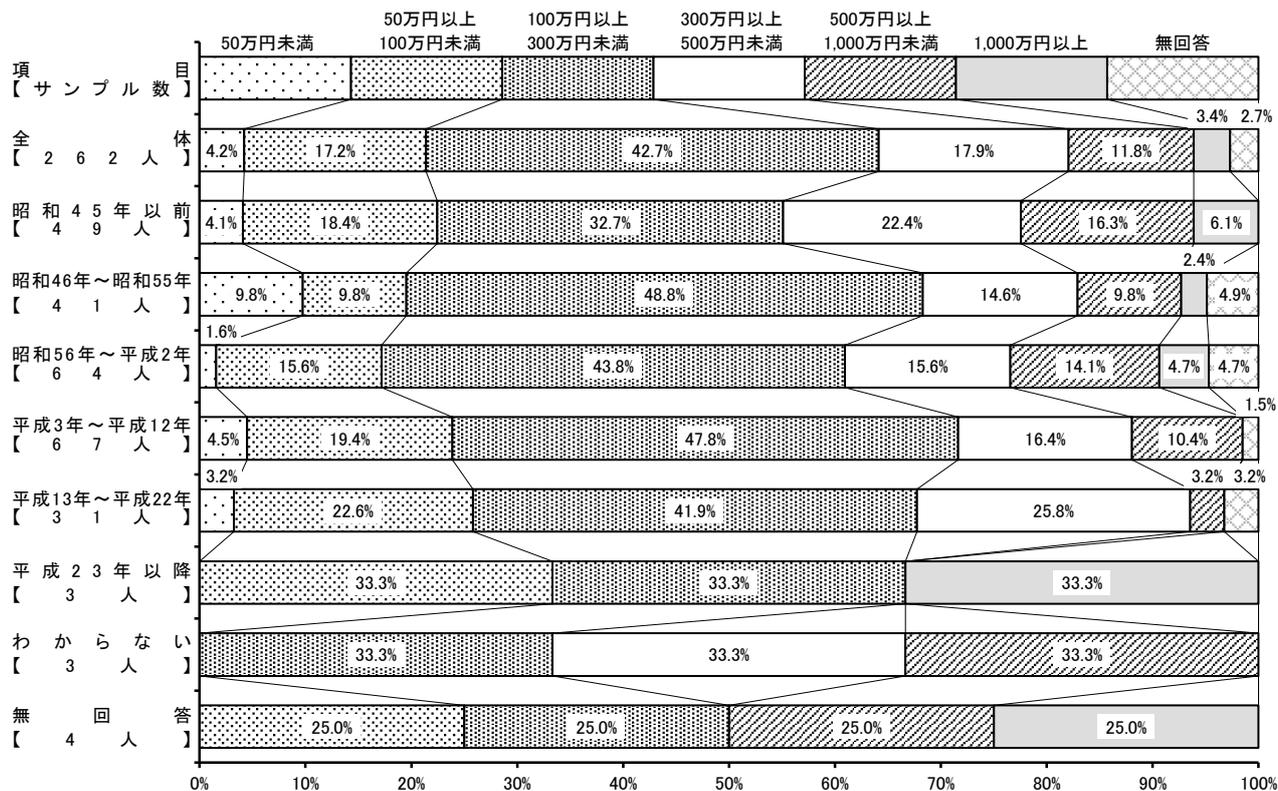
|                   | 回答者数 | 割合     |
|-------------------|------|--------|
| 1 50万円未満          | 11人  | 4.2%   |
| 2 50万円以上100万円未満   | 45人  | 17.2%  |
| 3 100万円以上300万円未満  | 112人 | 42.7%  |
| 4 300万円以上500万円未満  | 47人  | 17.9%  |
| 5 500万円以上1000万円未満 | 31人  | 11.8%  |
| 6 1000万円以上        | 9人   | 3.4%   |
| 無回答               | 7人   | 2.7%   |
| サンプル数             | 262人 | 100.0% |



### 【年代別】



【築年数別】



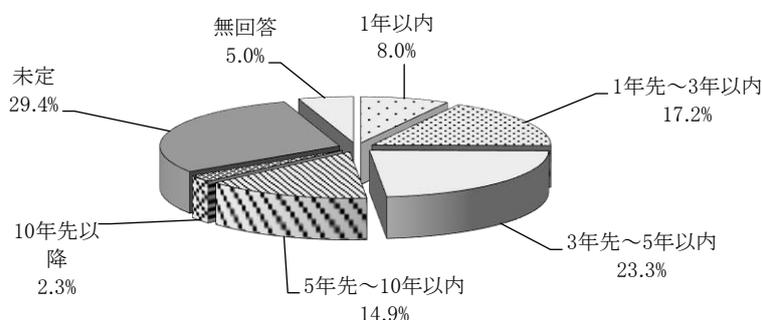
## 問23 リフォームの予定時期

### ◆ リフォームの時期「未定」29.4% 「3年先～5年以内」23.3%

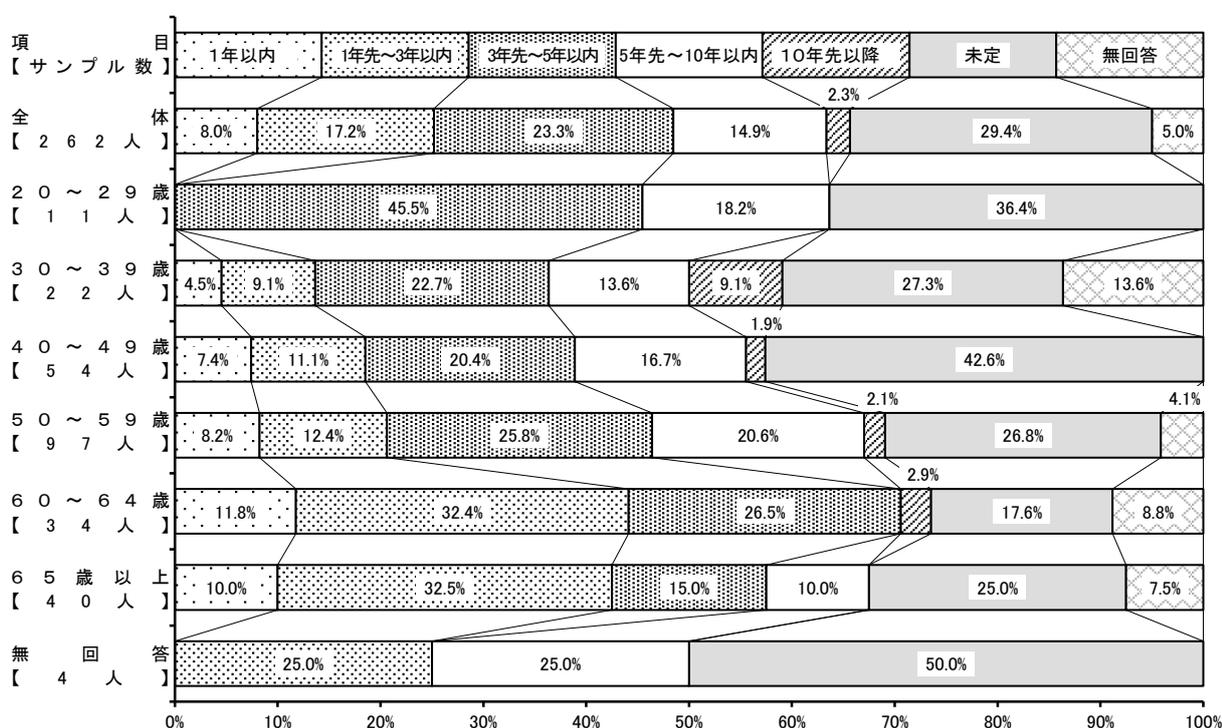
- 問20の、今後のリフォームの予定について「ある」と回答した方に予定する時期を聞いたところ、5年以内を予定している方が48.5%と約半数となったが、未定としている方も29.4%と多くなっている。
- 年代別にみると、3年以内を予定している割合は、20代は0.0%となっているが、その後年齢が上がるほど増加する傾向が見られる。

問23 問20で1を選んだ方におたずねします。時期はいつ頃を想定していますか。

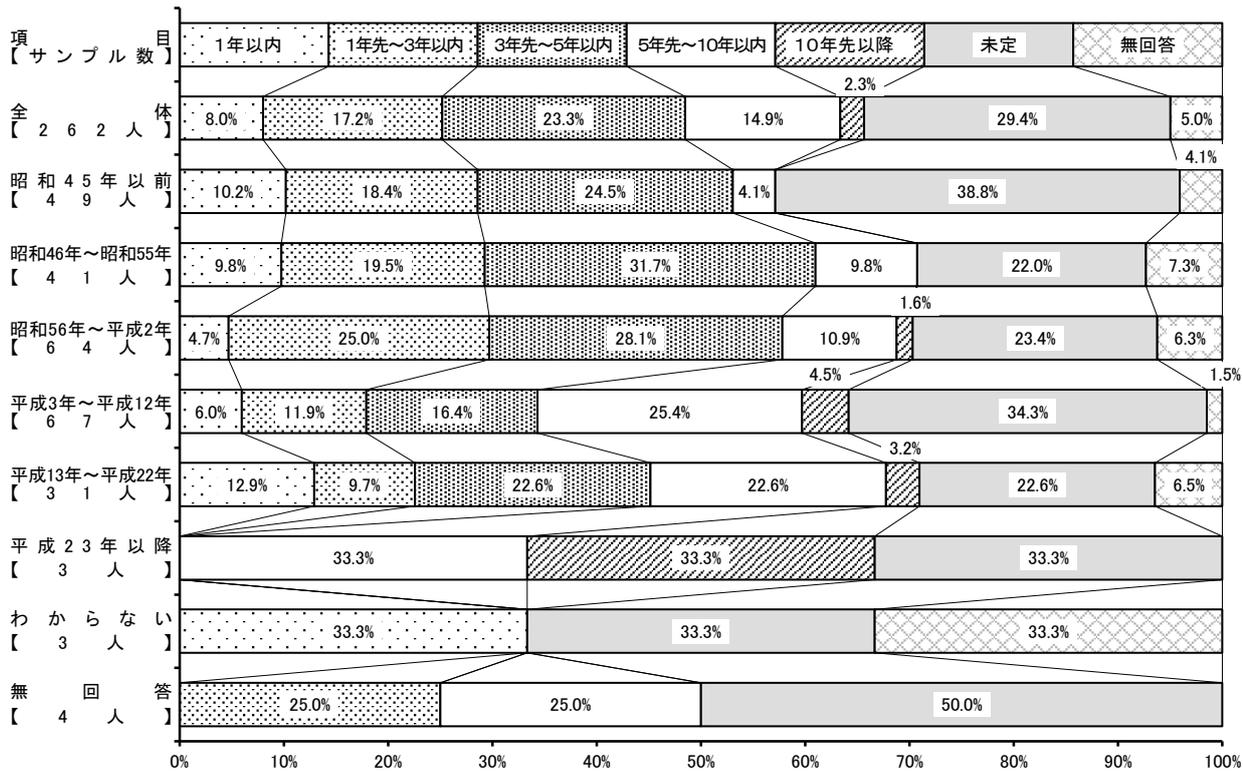
|             | 回答者数 | 割合     |
|-------------|------|--------|
| 1 1年以内      | 21人  | 8.0%   |
| 2 1年先～3年以内  | 45人  | 17.2%  |
| 3 3年先～5年以内  | 61人  | 23.3%  |
| 4 5年先～10年以内 | 39人  | 14.9%  |
| 5 10年先以降    | 6人   | 2.3%   |
| 6 未定        | 77人  | 29.4%  |
| 無回答         | 13人  | 5.0%   |
| サンプル数       | 262人 | 100.0% |



### 【年代別】



【築年数別】



## 問24 リフォームを行わない理由

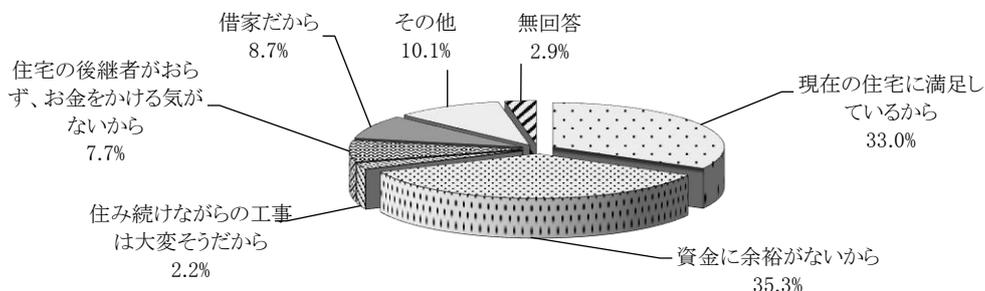
### ◆ リフォームを行わない理由

「資金に余裕がない」トップ 僅差で「現在の住宅に満足」

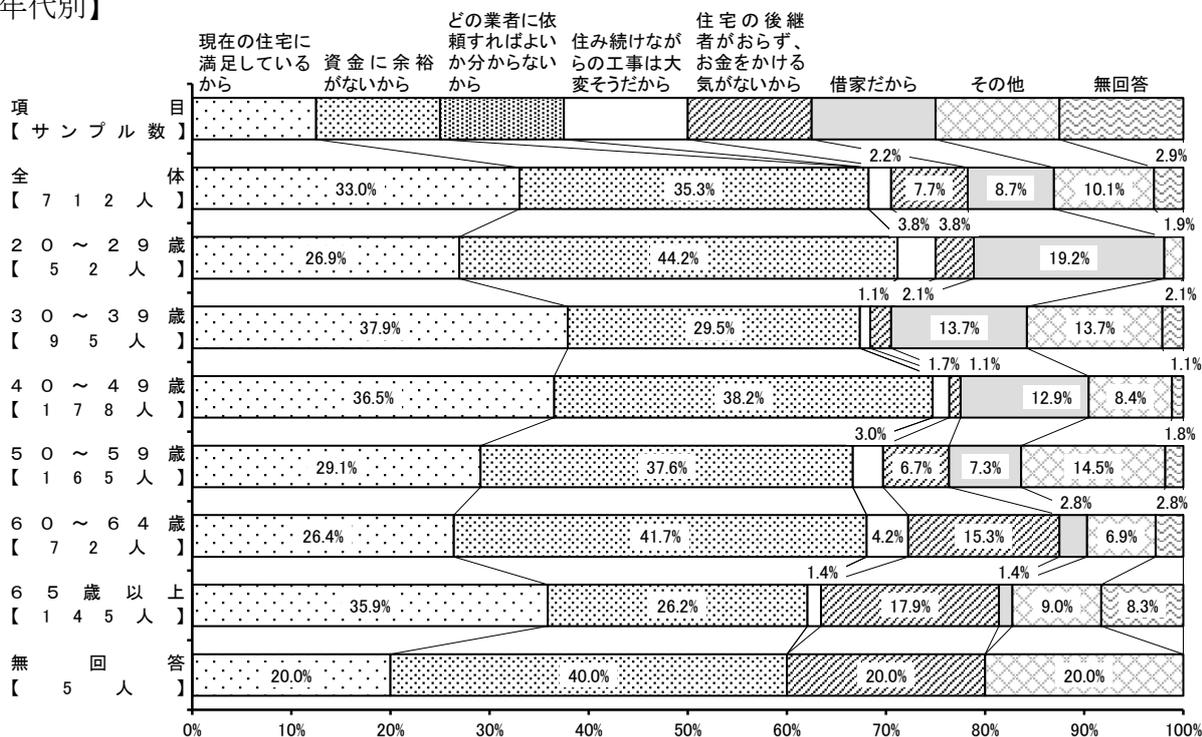
- 問20の、今後のリフォームの予定について「ない」と回答した方に主な理由を聞いたところ、「現在の住宅に満足」「資金に余裕がない」と、相反する理由が同様の割合となっている。
- 築年数別にみると、築年数が平成13年以降までの住宅では「現在の住宅に満足」が最も多くなっているが、平成12年以前の住宅から「資金に余裕がない」が最も多くなっており、住宅建築後15年がリフォームの時期になってくることがうかがえる。

問24 問20で2を選んだ方におたずねします。その主な理由を次の中から1つ選んでください。

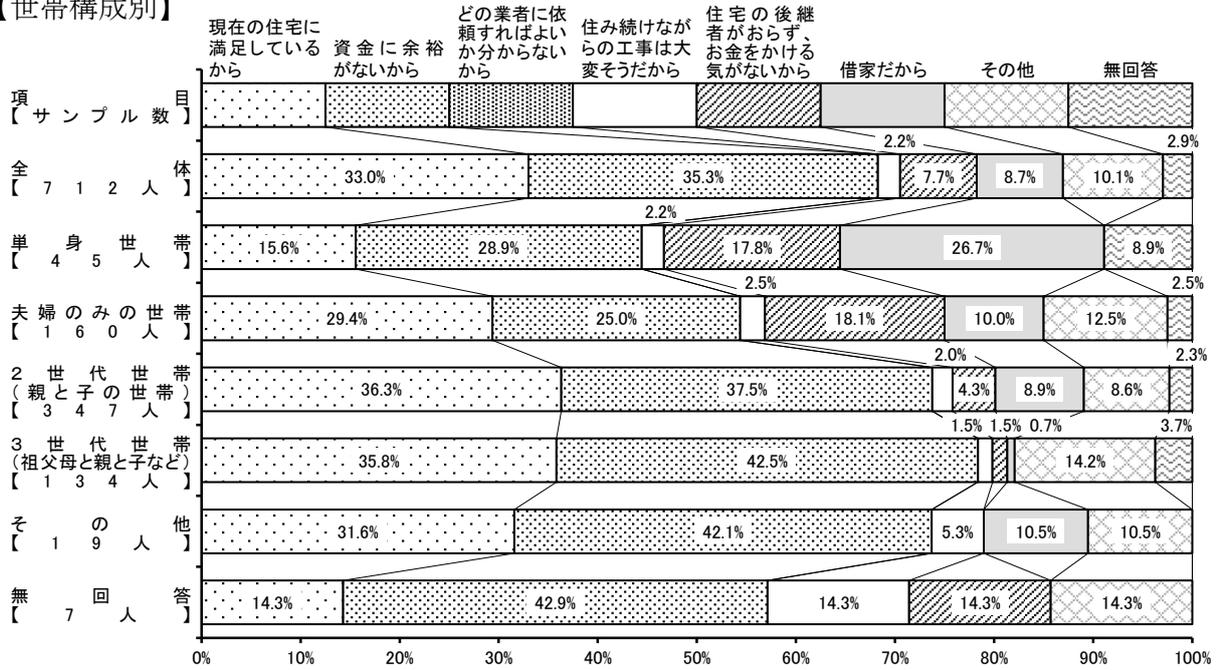
|                           | 回答者数 | 割合     |
|---------------------------|------|--------|
| 1 現在の住宅に満足しているから          | 235人 | 33.0%  |
| 2 資金に余裕がないから              | 251人 | 35.3%  |
| 3 どの業者に依頼すればよいか分からないから    | 0人   | 0.0%   |
| 4 住み続けながらの工事は大変そうだから      | 16人  | 2.2%   |
| 5 住宅の後継者がおらず、お金をかける気がないから | 55人  | 7.7%   |
| 6 借家だから                   | 62人  | 8.7%   |
| 7 その他                     | 72人  | 10.1%  |
| 無回答                       | 21人  | 2.9%   |
| サンプル数                     | 712人 | 100.0% |



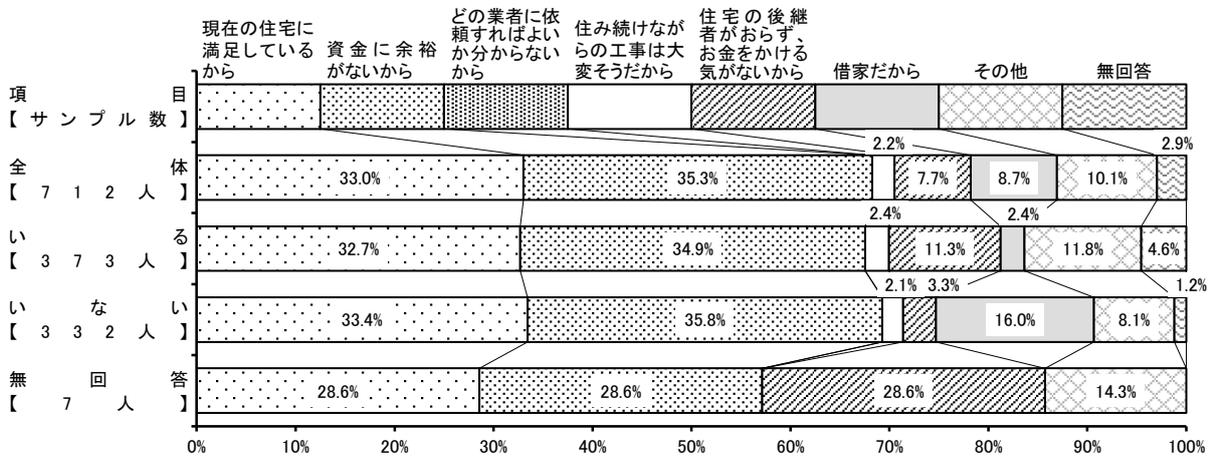
### 【年代別】



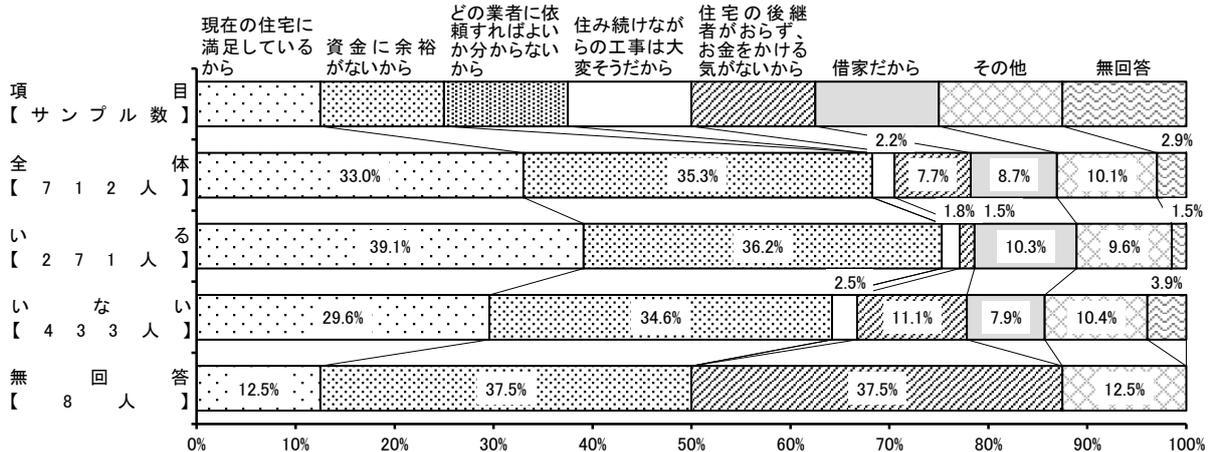
【世帯構成別】



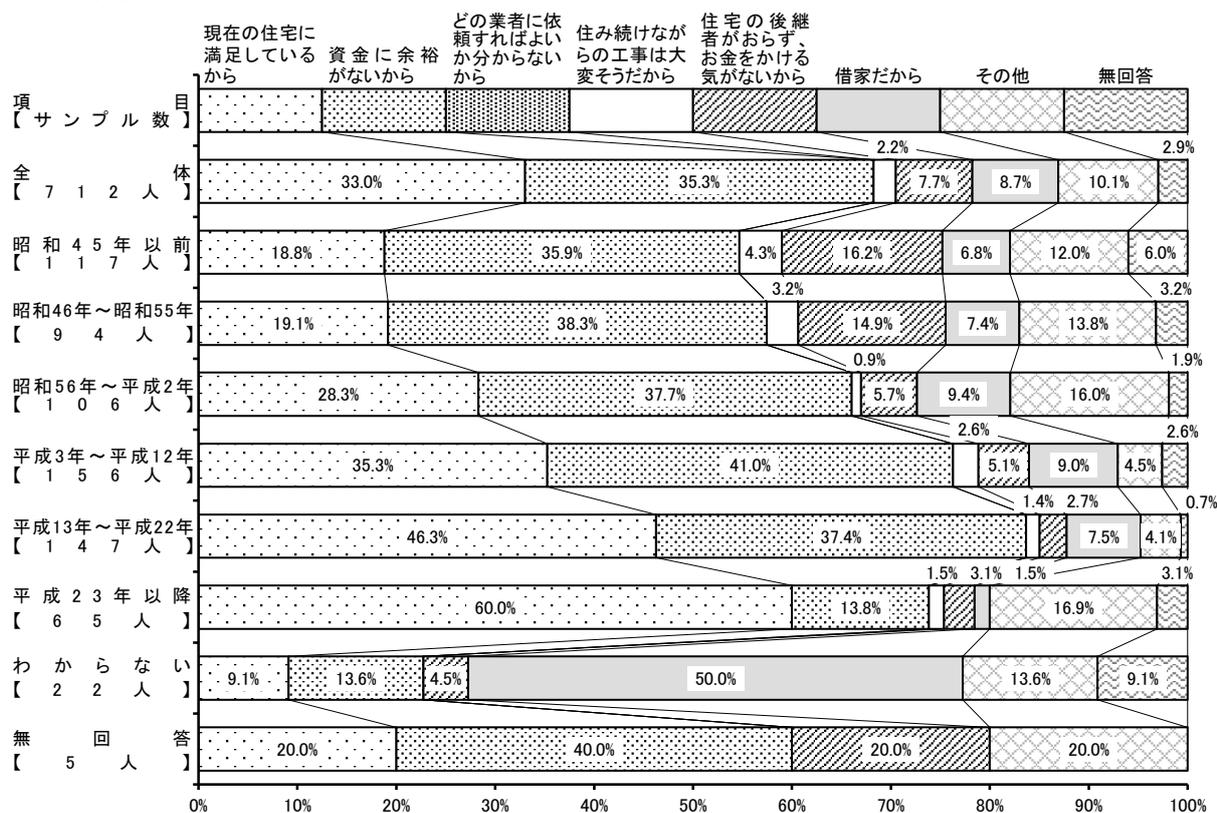
【65歳以上】



【18歳未満】



【築年数別】

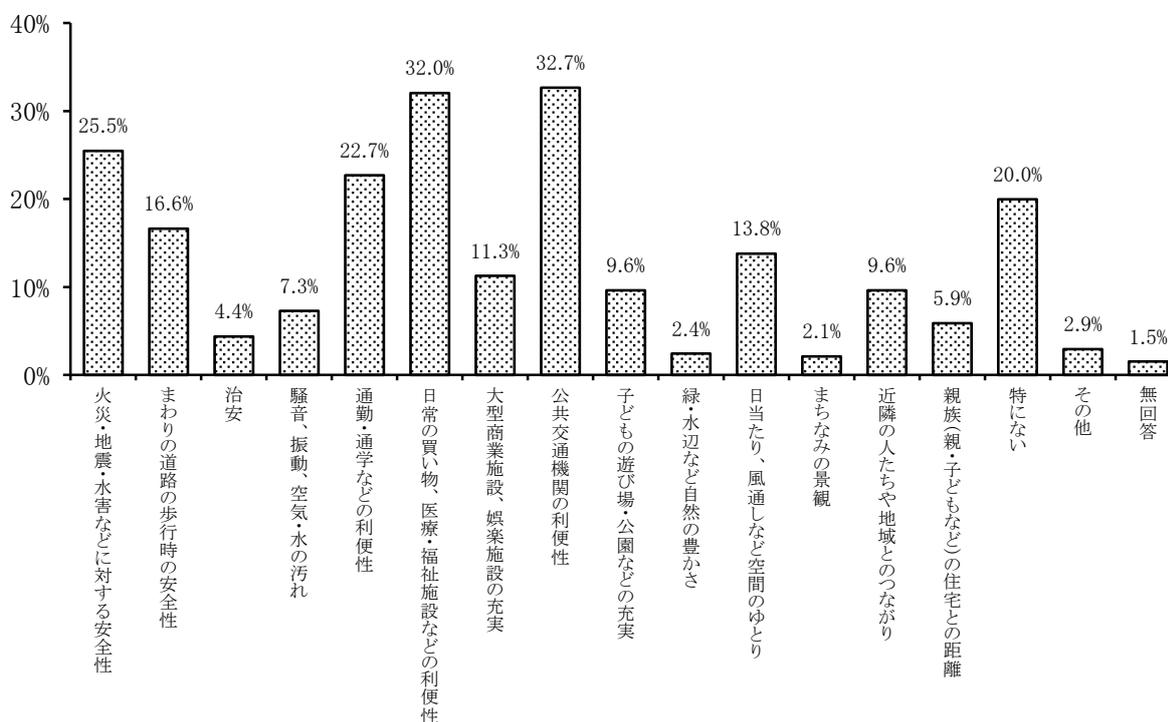


◆ 住宅周りの環境の不満トップは「公共交通機関の利便性」

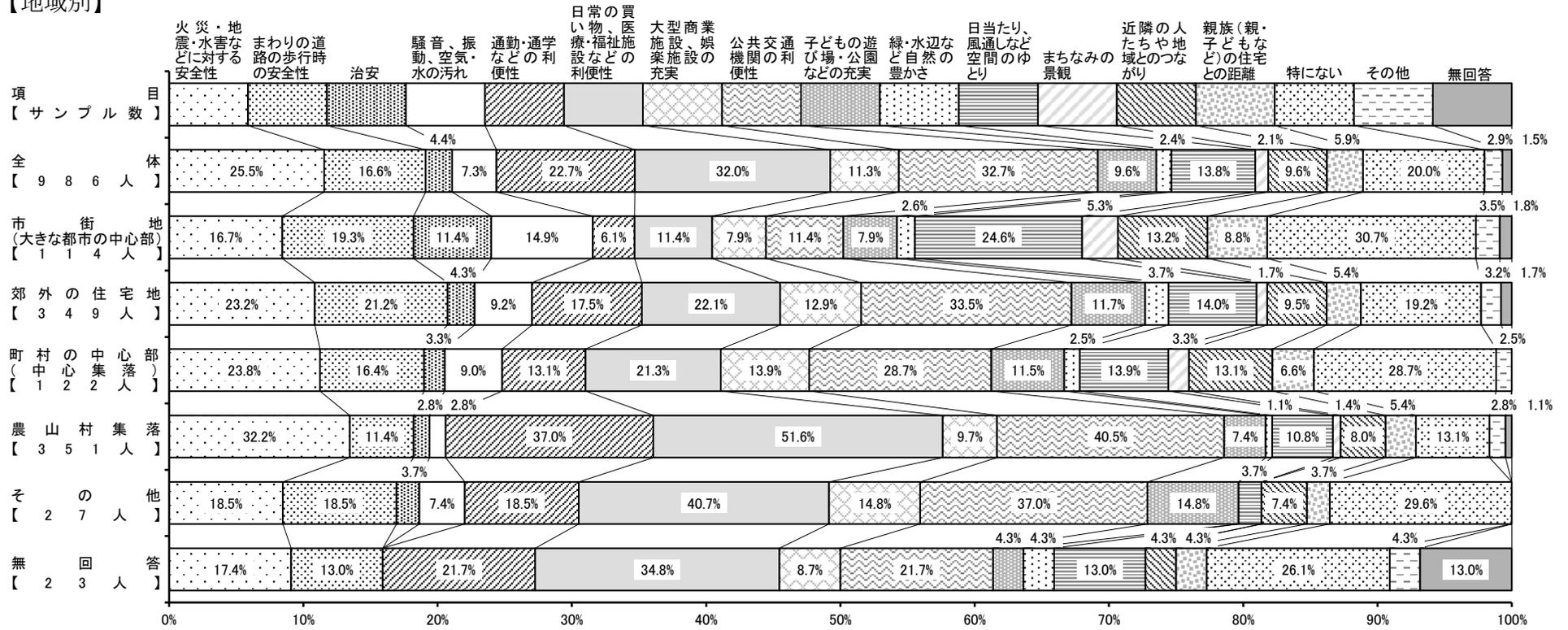
- 住宅周りの環境について、不満に思っていることがあるかとの問いに対して、「公共交通機関の利便性」32.7%、僅差で「日常の買い物、医療・福祉施設などの利便性」32.0%と続き、「火災・地震・水害などに対する安全性」25.5%、次いで「通勤・通学などの利便性」22.7%となっている。
- 年代別に見ると、全体で最も不満の多かった「公共交通機関の利便性」については若者ほど高く、年齢が上がるほど不満に感じなくなる一方、「日常の買い物、医療・福祉施設などの利便性」に対する不満は高齢者になるほど高くなっている。

問 25 あなたは、自分が住む住宅の環境について、不満に思っていることがありますか。次の中から3つ以内で選んでください。

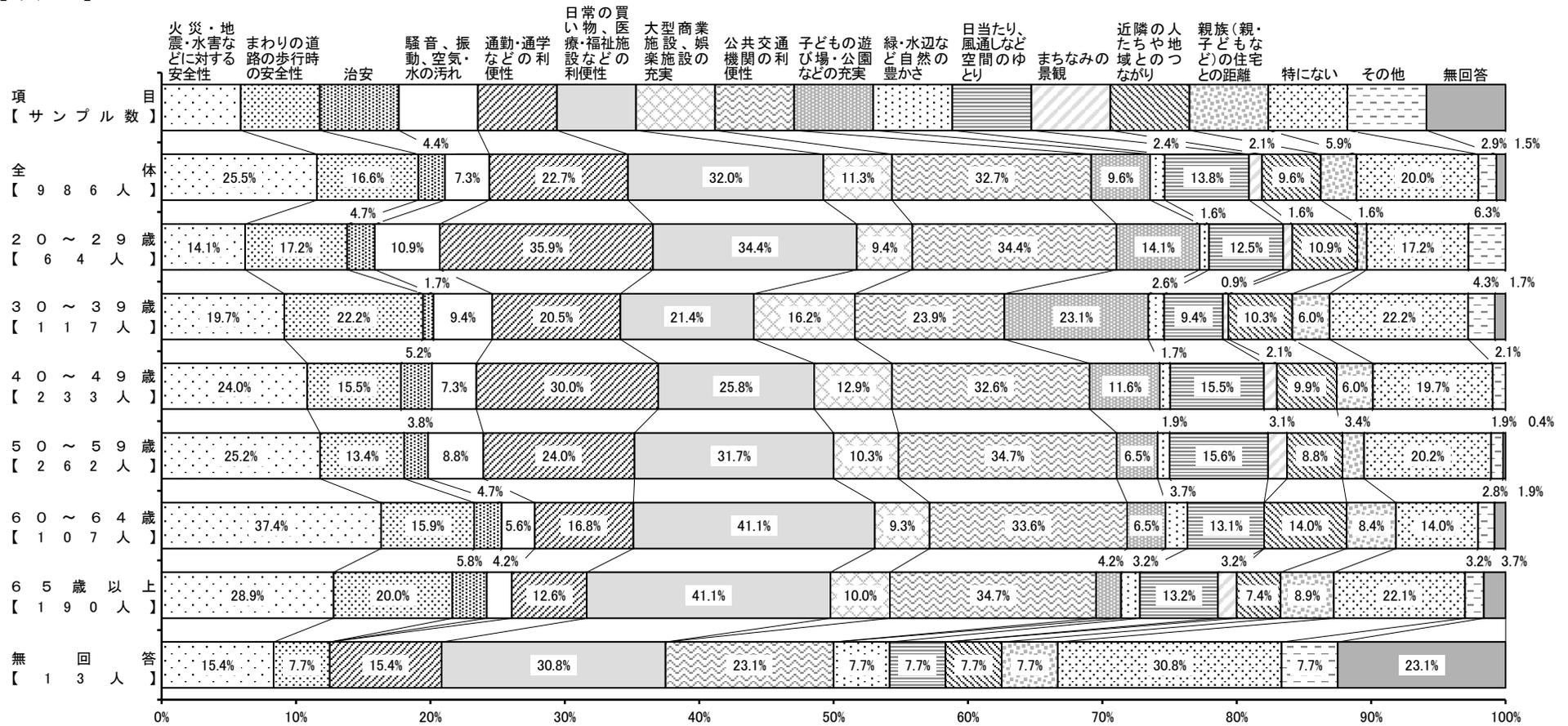
|                        | 回答者数 | 割合     |
|------------------------|------|--------|
| 1 火災・地震・水害などに対する安全性    | 251人 | 25.5%  |
| 2 まわりの道路の歩行時の安全性       | 164人 | 16.6%  |
| 3 治安                   | 43人  | 4.4%   |
| 4 騒音、振動、空気・水の汚れ        | 72人  | 7.3%   |
| 5 通勤・通学などの利便性          | 224人 | 22.7%  |
| 6 日常の買い物、医療・福祉施設などの利便性 | 316人 | 32.0%  |
| 7 大型商業施設、娯楽施設の充実       | 111人 | 11.3%  |
| 8 公共交通機関の利便性           | 322人 | 32.7%  |
| 9 子どもの遊び場・公園などの充実      | 95人  | 9.6%   |
| 10 緑・水辺など自然の豊かさ        | 24人  | 2.4%   |
| 11 日当たり、風通しなど空間のゆとり    | 136人 | 13.8%  |
| 12 まちなみの景観             | 21人  | 2.1%   |
| 13 近隣の人たちや地域とのつながり     | 95人  | 9.6%   |
| 14 親族(親・子どもなど)の住宅との距離  | 58人  | 5.9%   |
| 15 特にない                | 197人 | 20.0%  |
| 16 その他                 | 29人  | 2.9%   |
| 無回答                    | 15人  | 1.5%   |
| サンプル数                  | 986人 | 100.0% |



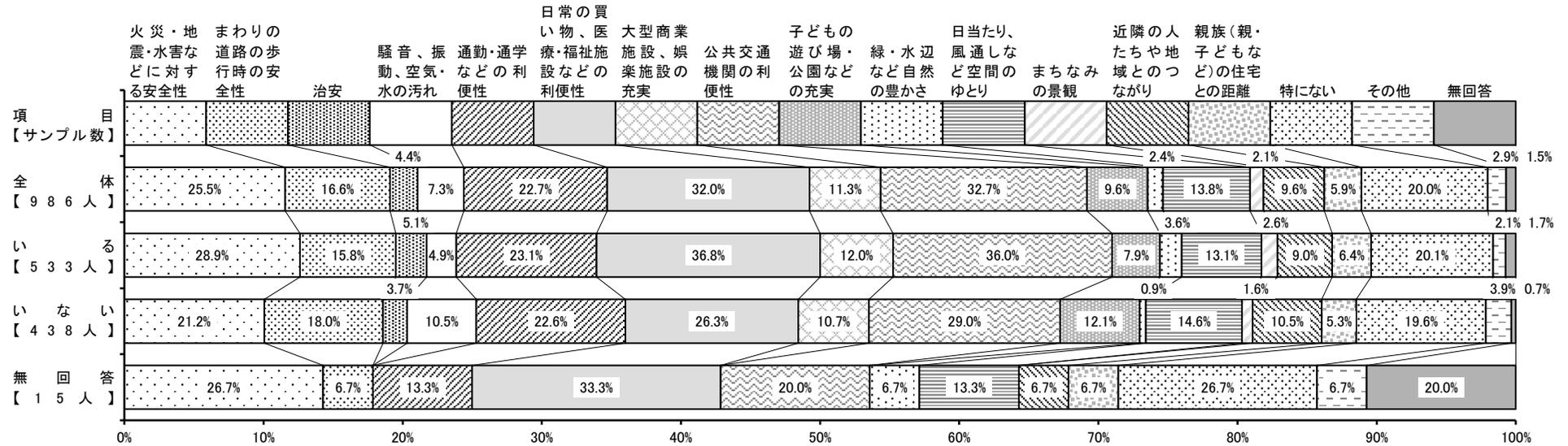
【地域別】



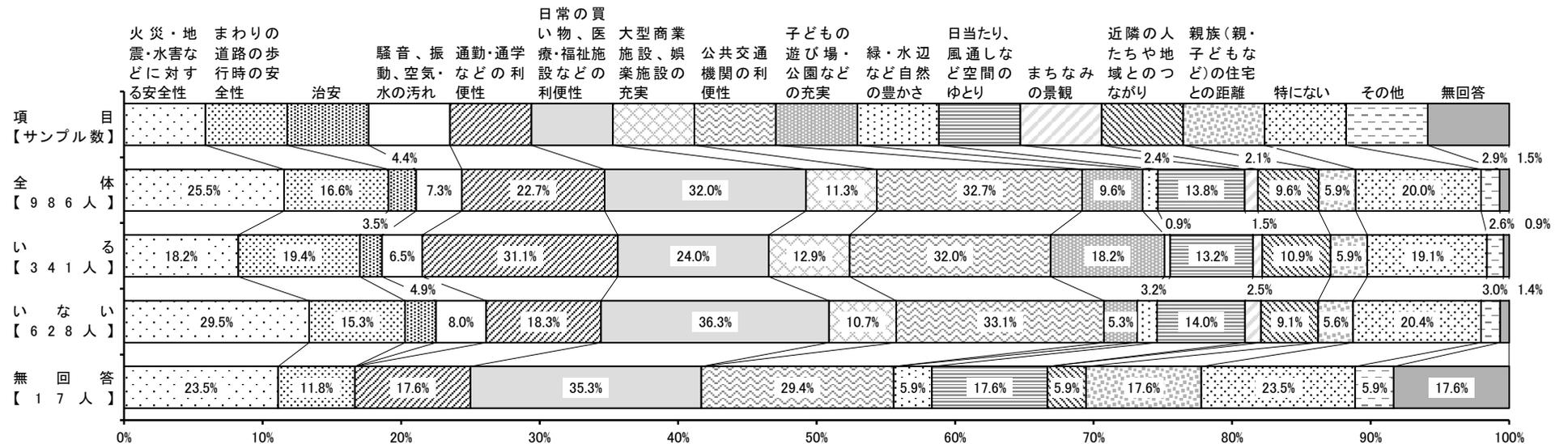
【年代別】



【65歳以上】



【18歳未満】



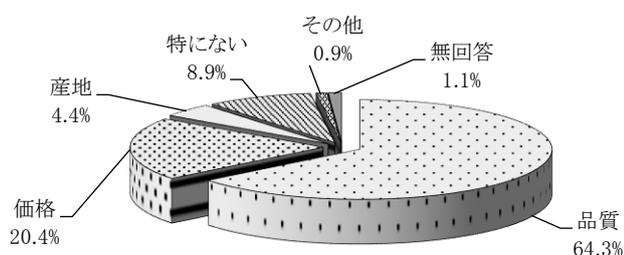
## 問26 新築・リフォームに使用する木材

### ◆ 使用木材で重視する点「品質」が最も高く

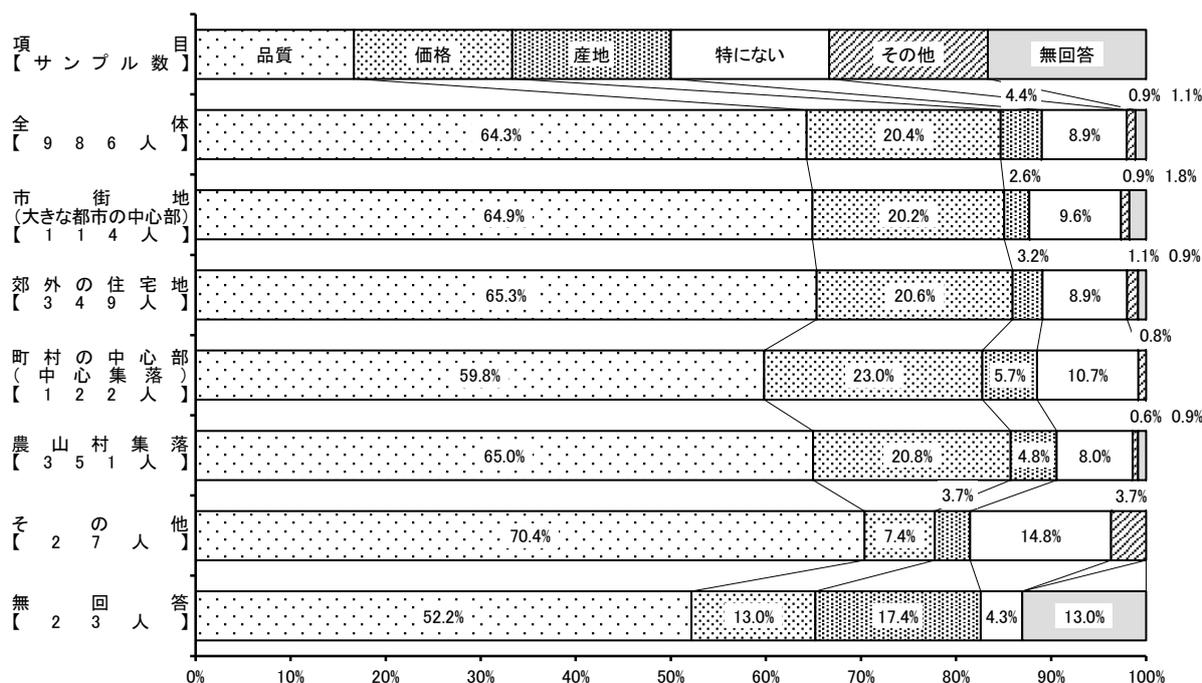
- 年代別・地域別では、重視する順は「品質」がトップとなり、次いで「価格」、「産地」、「特にない」となった。
- 20代では「特にない」が12.5%と他の年代に比べて高く、また、65歳以上では「品質」が57.9%と他の年代に比べて低くなっている。

問26 あなたは、新築やリフォームで木材を使うとしたら、どのような点を最も重視しますか。

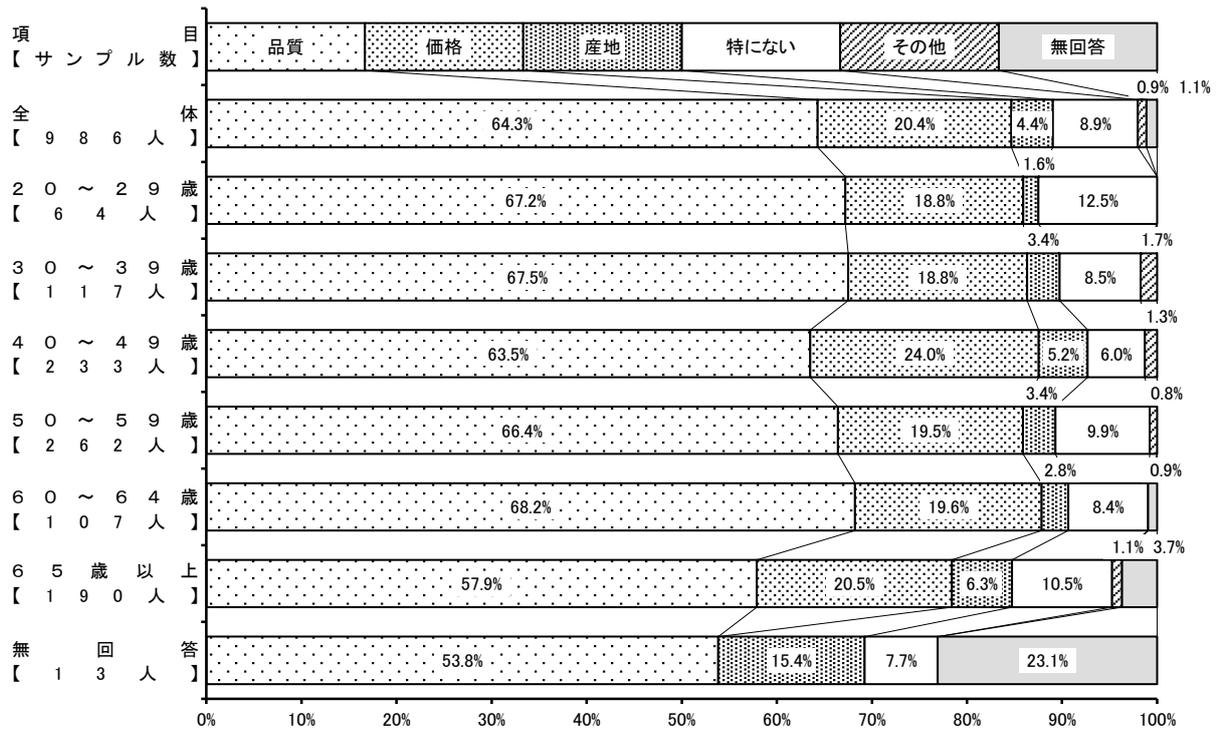
|        | 回答者数 | 割合     |
|--------|------|--------|
| 1 品質   | 634人 | 64.3%  |
| 2 価格   | 201人 | 20.4%  |
| 3 産地   | 43人  | 4.4%   |
| 4 特にない | 88人  | 8.9%   |
| 5 その他  | 9人   | 0.9%   |
| 無回答    | 11人  | 1.1%   |
| サンプル数  | 986人 | 100.0% |



### 【地域別】



【年代別】



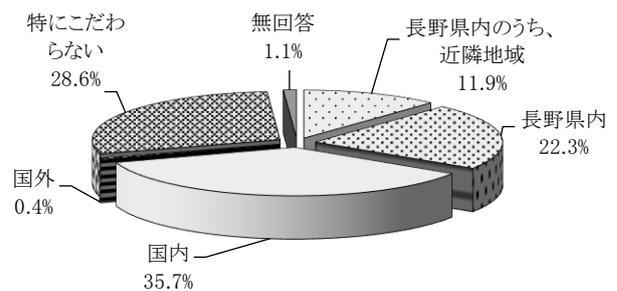
## 問27 重視する木材の産地

### ◆ 使用木材の産地「国内」35%トップ「県内」1.5%届かず

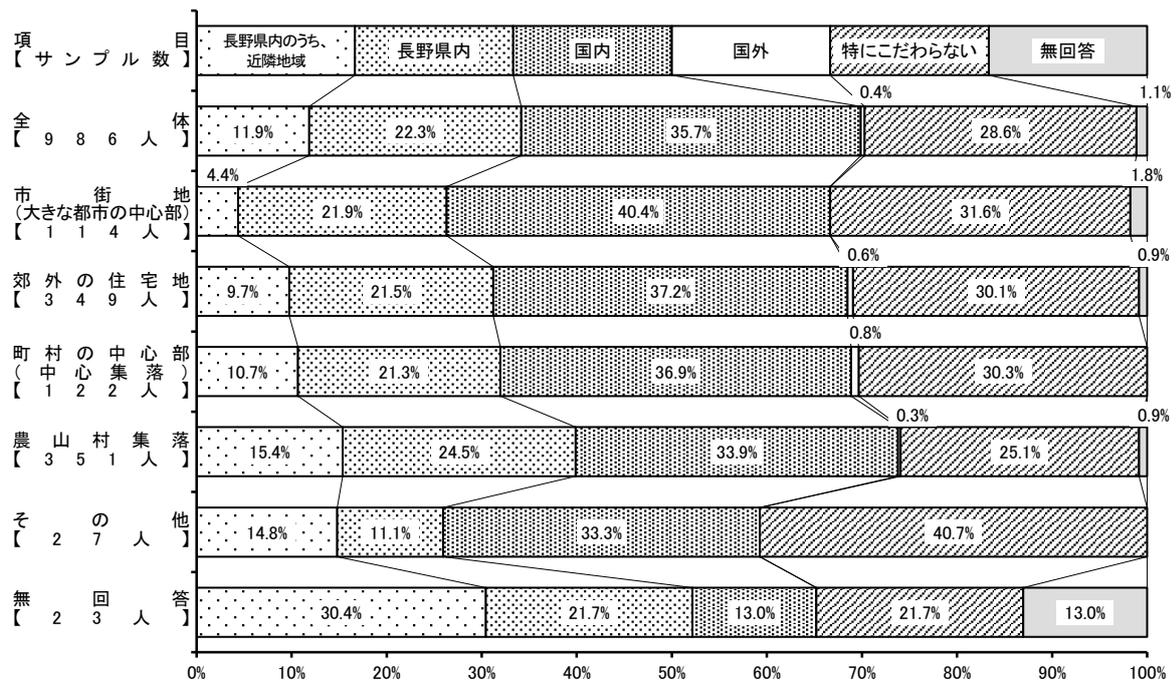
- 長野県内産を希望する人は、65歳以上では46.3%と半数近くなっている一方20代では17.2%と低くなっている。
- 20代は「国内」が54.7%となり、県内産には特にこだわらない傾向が強いがうかがえる。
- 地域別では、いずれの地域とも「長野県内」の割合は2割程度と大差ないものの、「長野県内のうち、近隣地域」については市街地から離れるほど高くなる傾向にあり、「農山村集落」では15.4%と最も高くなっている。

問27 あなたは、住宅を新築したりリフォームするとしたら、木材の産地はどこのものがよいと思いますか。

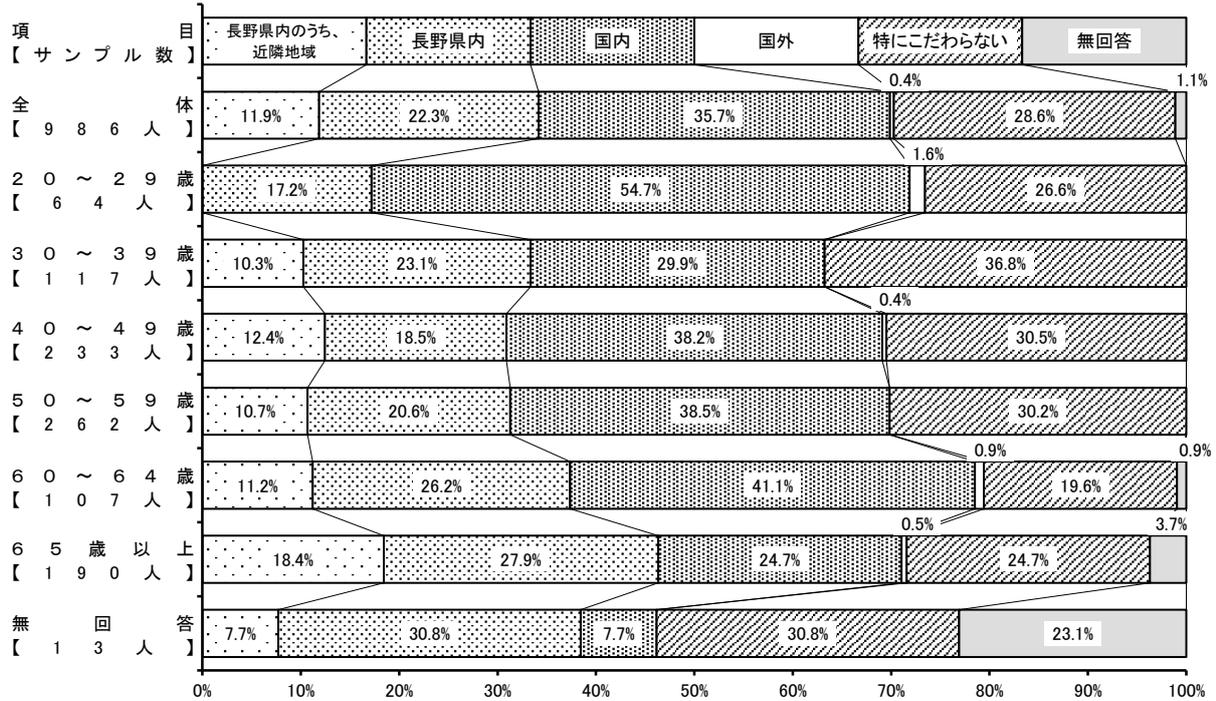
|                | 回答者数 | 割合     |
|----------------|------|--------|
| 1 長野県内のうち、近隣地域 | 117人 | 11.9%  |
| 2 長野県内         | 220人 | 22.3%  |
| 3 国内           | 352人 | 35.7%  |
| 4 国外           | 4人   | 0.4%   |
| 5 特にこだわらない     | 282人 | 28.6%  |
| 無回答            | 11人  | 1.1%   |
| サンプル数          | 986人 | 100.0% |



### 【地域別】

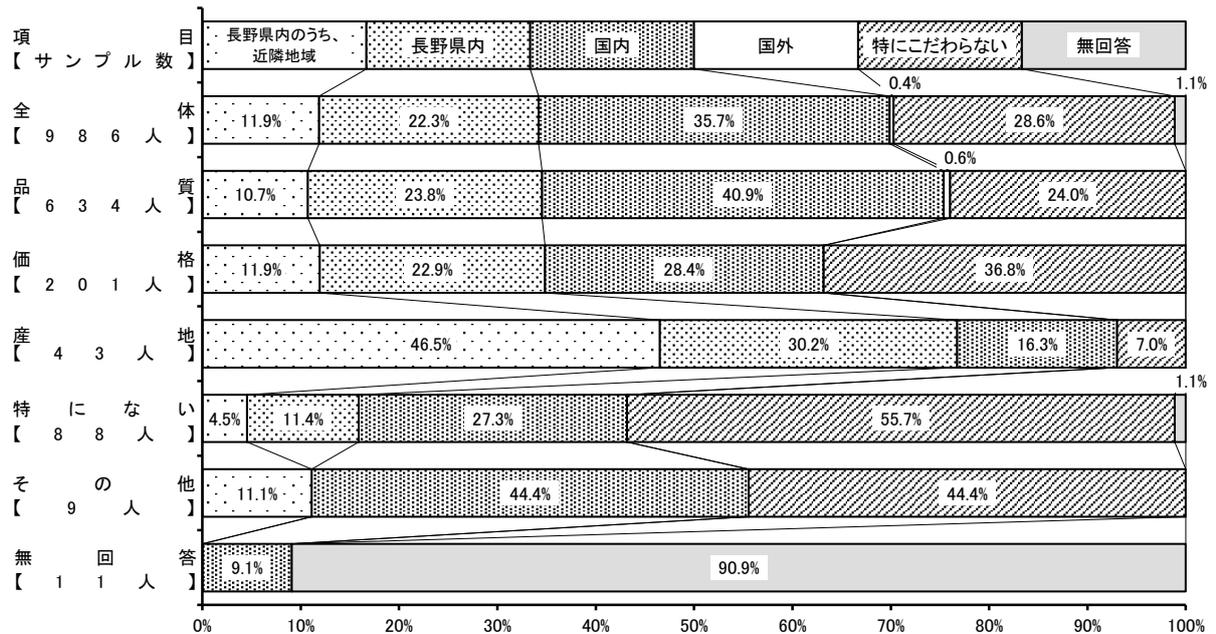


【年代別】



【設問間クロス集計（問26）】

\*問26 あなたは、新築やリフォームで木材を使うとしたら、どのような点を最も重視しますか。

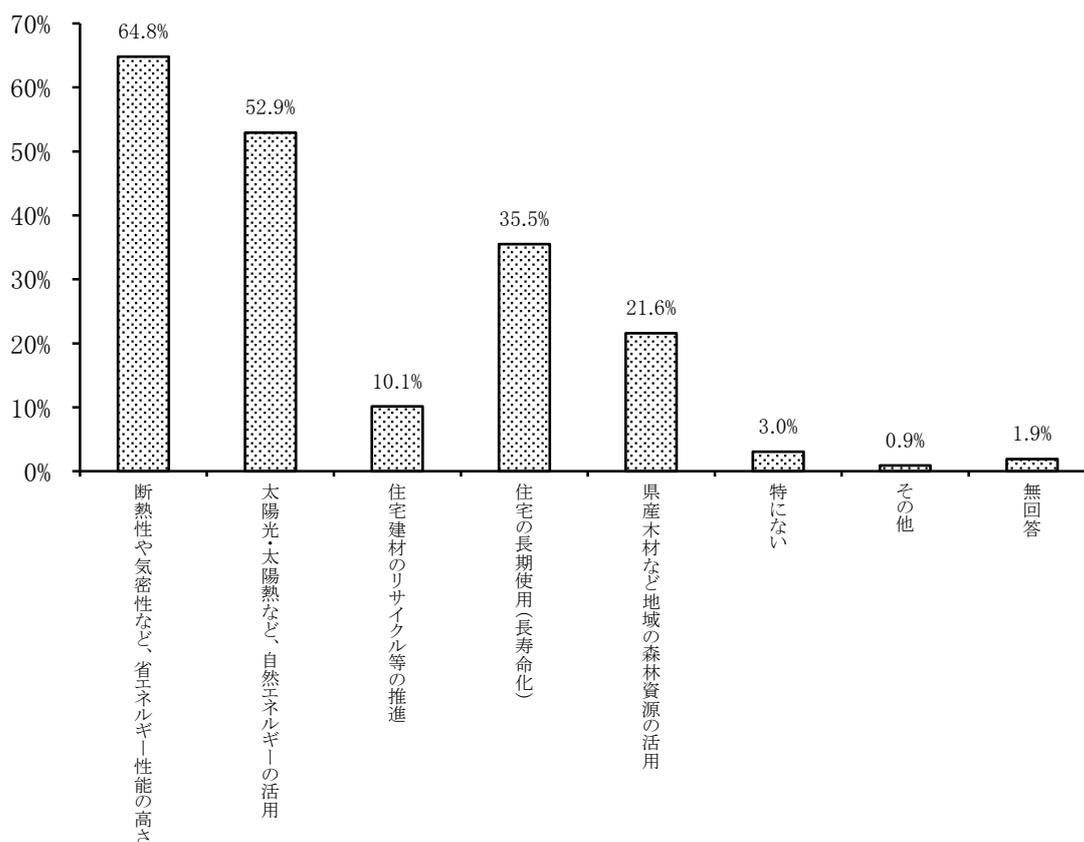


◆ 地球環境と住宅「省エネルギー性能の高さ」トップ

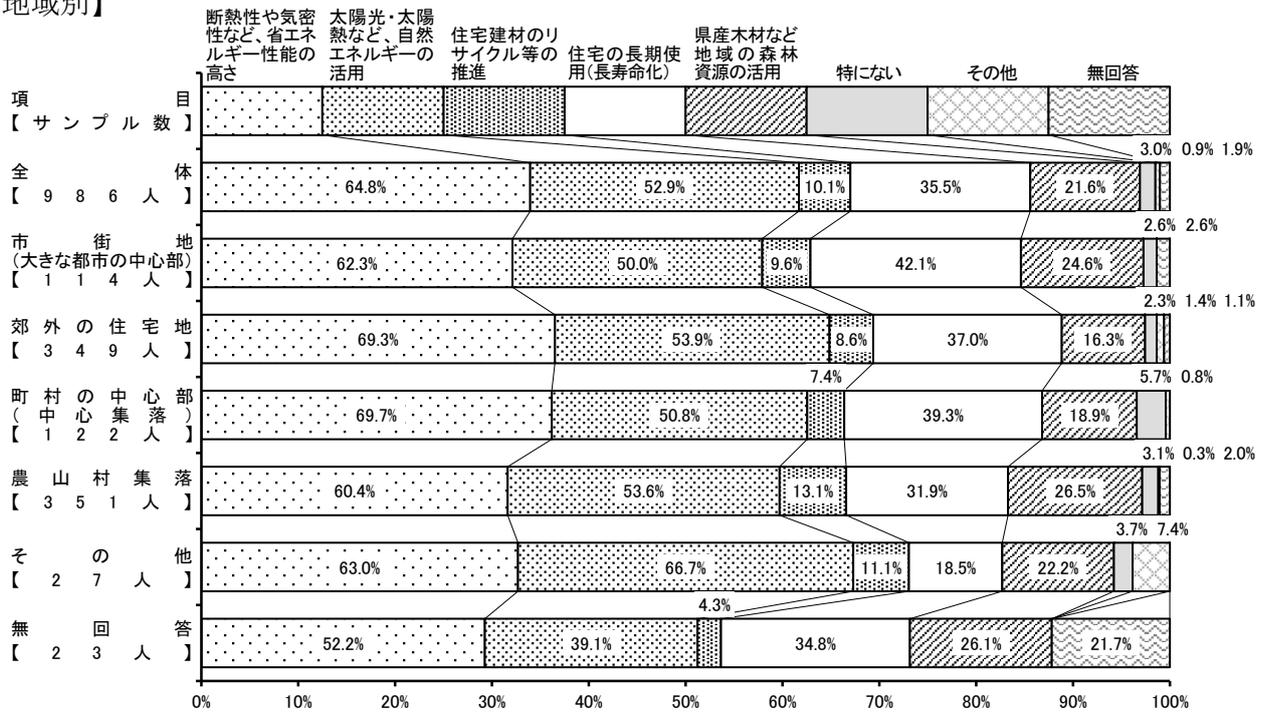
- 地球環境に配慮するためどのようなことが住宅に求められるか尋ねたところ、「断熱性や気密性など、省エネルギー性能の高さ」が64.8%、「太陽光・太陽熱など、自然エネルギーの活用」が52.9%、「住宅の長期使用(長寿命化)」が35.5%と続いている。
- 前回調査では、自然エネルギーの活用が最も多く、次いで省エネルギー性能の高さとなっていたが、今回調査により逆転し、太陽光発電等より断熱性・気密性が重視されていることがわかる。

問 28 あなたが、住宅の建設にあたって、地球環境に配慮するために特に重要だと思うことは何ですか。次の中から2つ以内で選んでください。

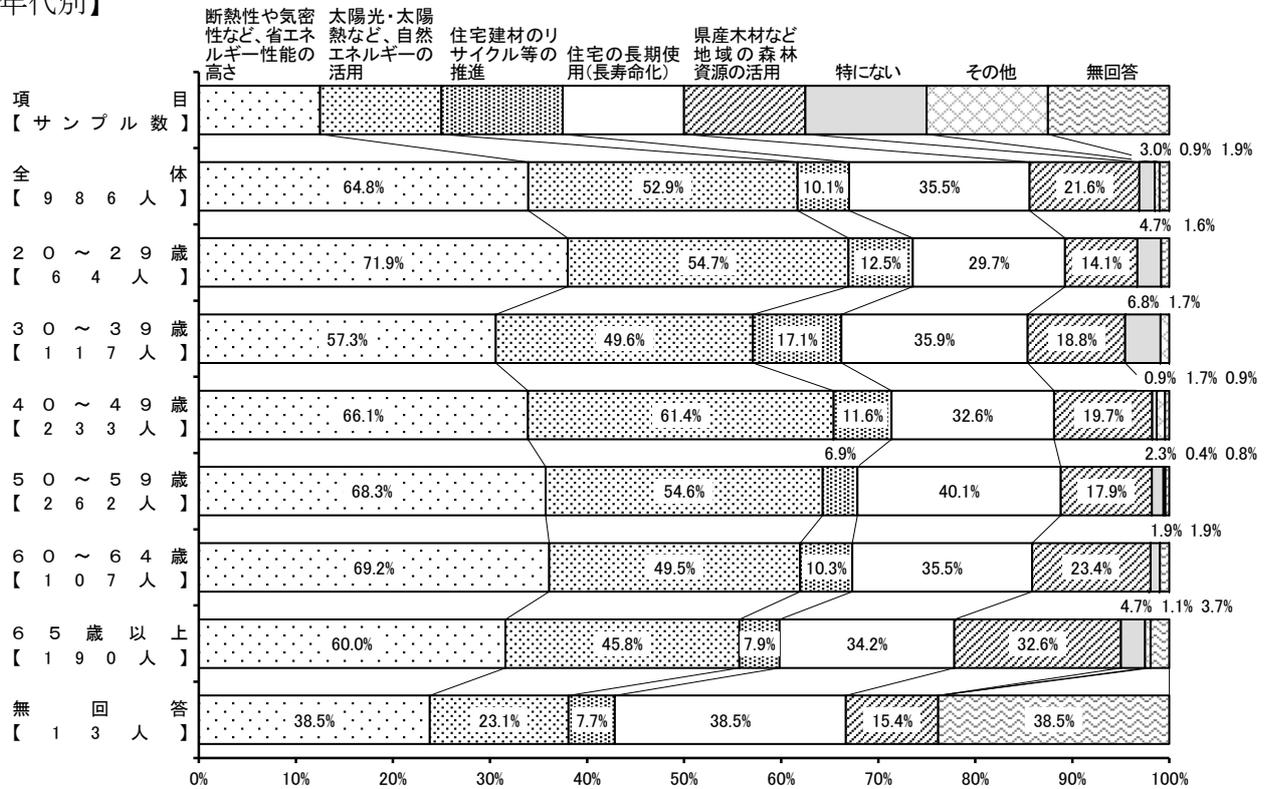
|                         | 回答者数 | 割合     |
|-------------------------|------|--------|
| 1 断熱性や気密性など、省エネルギー性能の高さ | 639人 | 64.8%  |
| 2 太陽光・太陽熱など、自然エネルギーの活用  | 522人 | 52.9%  |
| 3 住宅建材のリサイクル等の推進        | 100人 | 10.1%  |
| 4 住宅の長期使用(長寿命化)         | 350人 | 35.5%  |
| 5 県産木材など地域の森林資源の活用      | 213人 | 21.6%  |
| 6 特にない                  | 30人  | 3.0%   |
| 7 その他                   | 9人   | 0.9%   |
| 無回答                     | 19人  | 1.9%   |
| サンプル数                   | 986人 | 100.0% |



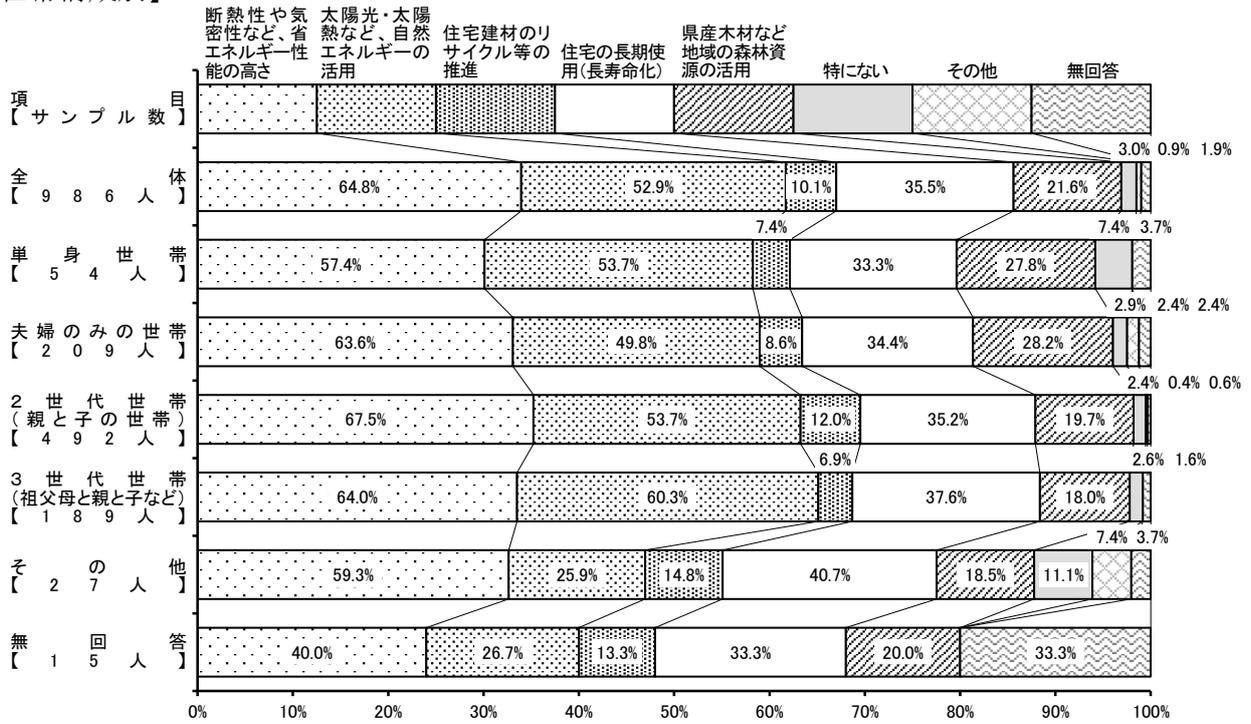
【地域別】



【年代別】



【世帯構成別】



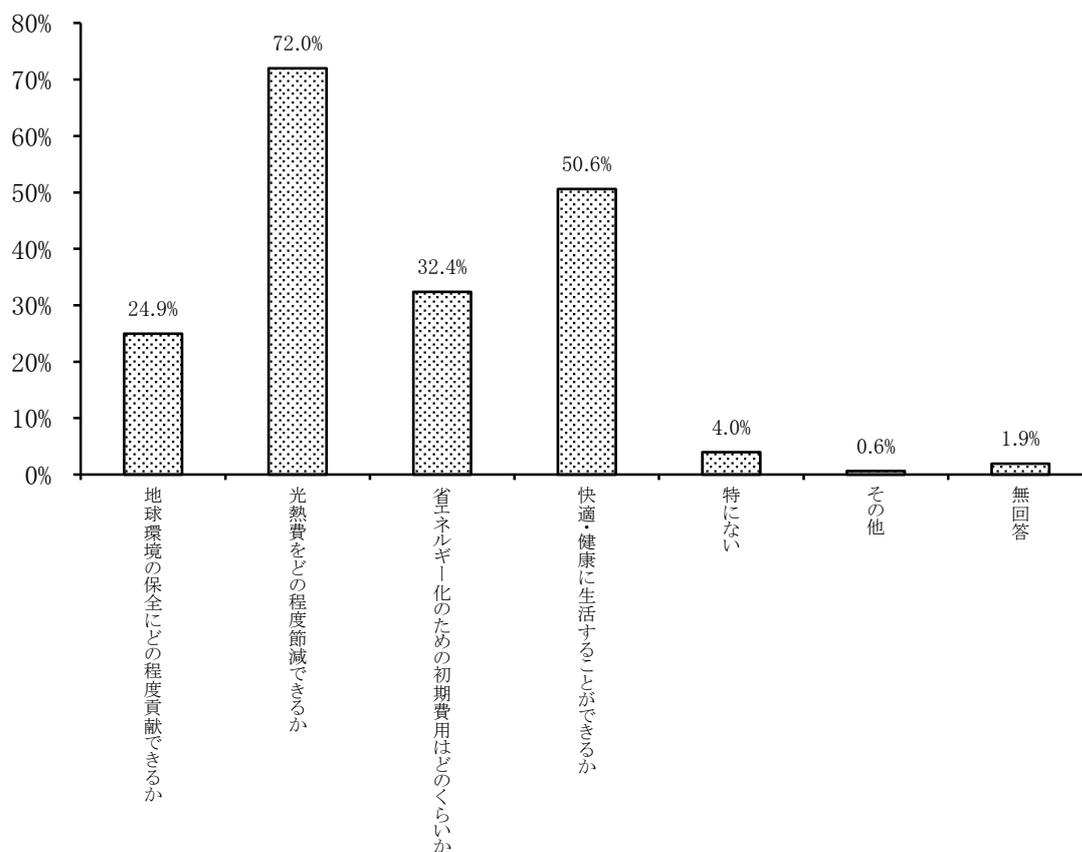
## 問29 住宅の省エネルギー化への関心

### ◆ 省エネルギー化への関心「光熱費の節減」7割以上

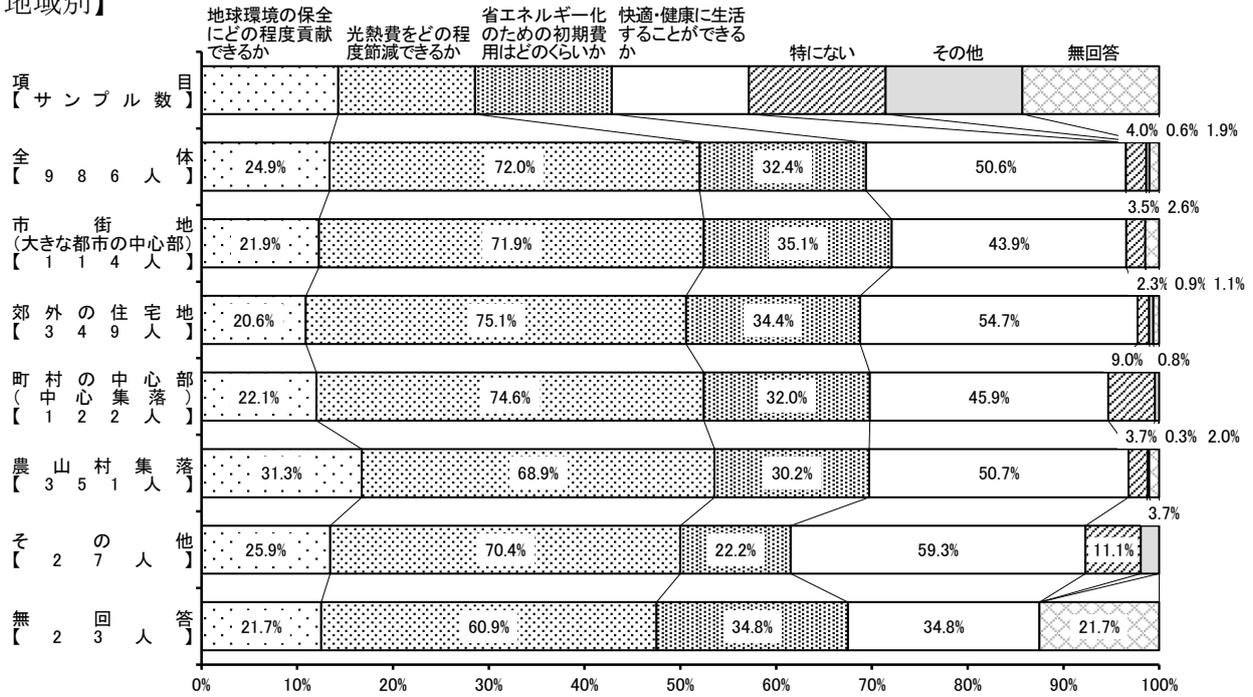
- 「光熱費の節減」「快適・健康な生活」の割合が高いことから、省エネルギー化には日常生活に即した点からの関心が高く、また費用を支出するより抑えたい傾向にあることがうかがえる。
- 年代別にみると「光熱費をどの程度節減できるか」が上位を占めているなか、65歳以上では「快適・健康に生活することができるか」がトップとなっている。

問 29 あなたが住宅の省エネルギー化について、最も関心があるのはどのような点ですか。次の中から2つ以内で選んでください。

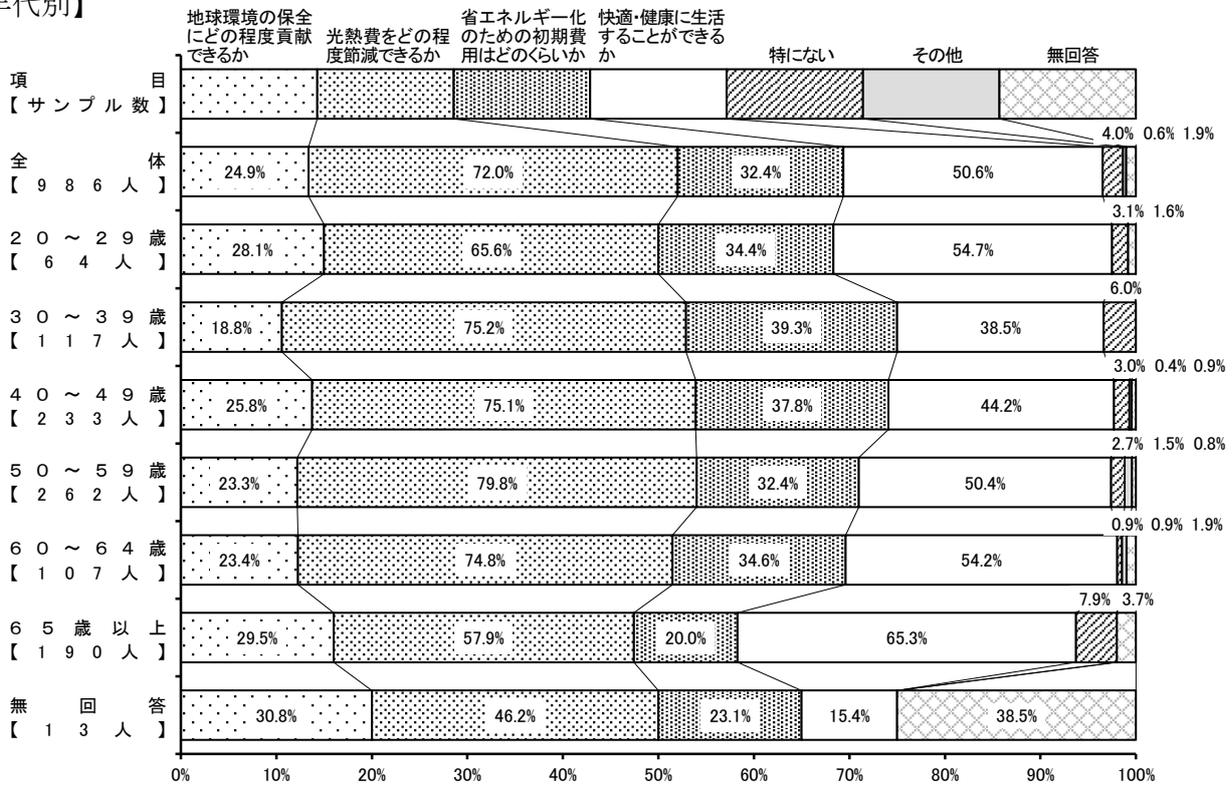
|                          | 回答者数 | 割合     |
|--------------------------|------|--------|
| 1 地球環境の保全にどの程度貢献できるか     | 246人 | 24.9%  |
| 2 光熱費をどの程度節減できるか         | 710人 | 72.0%  |
| 3 省エネルギー化のための初期費用はどのくらいか | 319人 | 32.4%  |
| 4 快適・健康に生活することができるか      | 499人 | 50.6%  |
| 5 特にない                   | 39人  | 4.0%   |
| 6 その他                    | 6人   | 0.6%   |
| 無回答                      | 19人  | 1.9%   |
| サンプル数                    | 986人 | 100.0% |



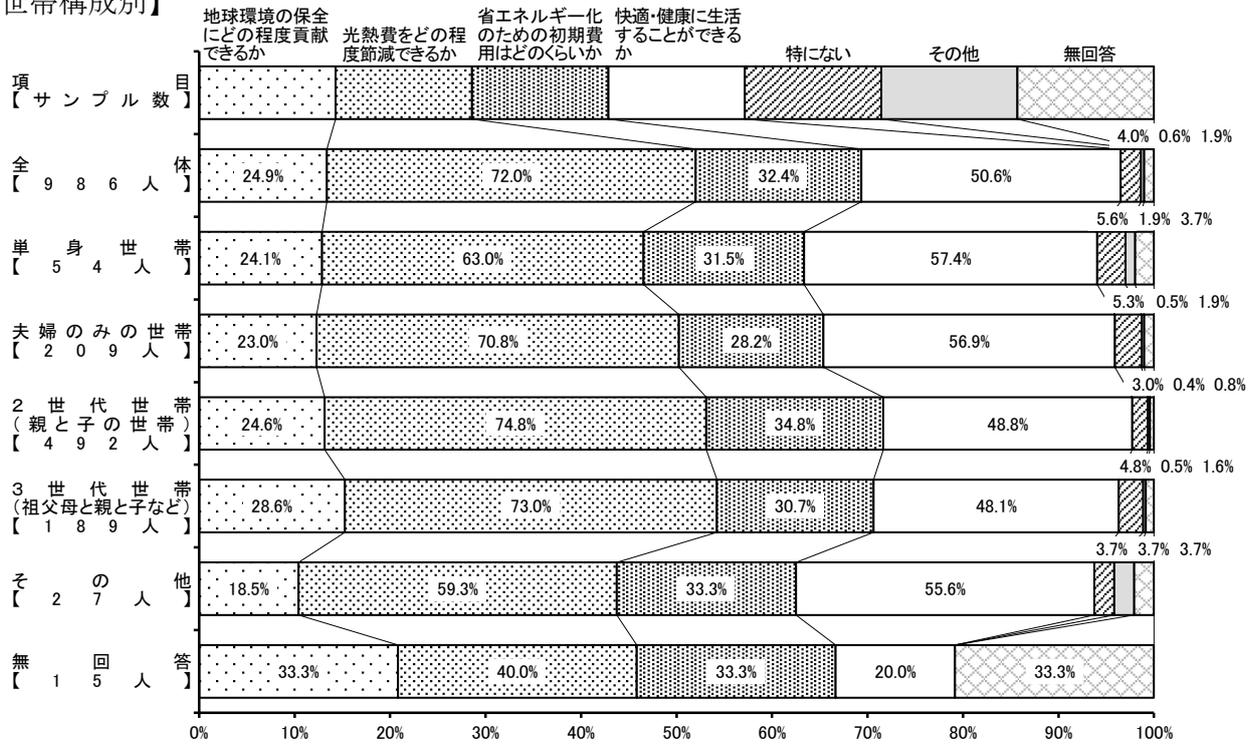
【地域別】



【年代別】



【世帯構成別】



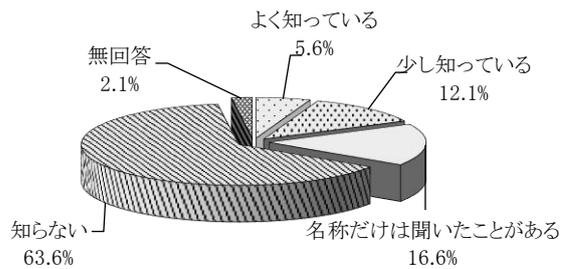
## 問30 長期優良住宅への関心

### ◆ 長期優良住宅について「知らない」63.6%

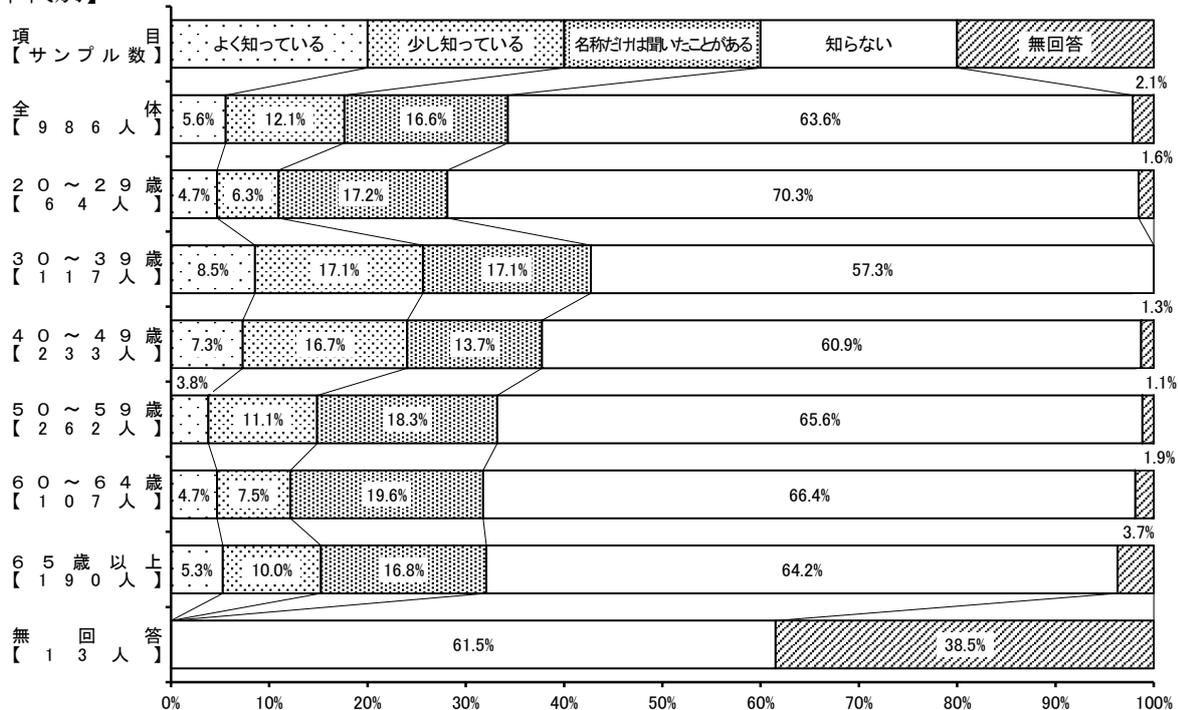
- 各年代とも「知らない」が圧倒的に多くっており、特に20代では70.3%となっているが、30代では「知らない」57.3%と比較的低く「知っている」もしくは「名称だけは聞いたことがある」42.7%と同程度となっている。
- 築年数別にみると、平成23年以降は「知っている」もしくは「名称だけは聞いたことがある」が89.7%に上り、その他の築年数では「知らない」が6割以上となっているため、築年数別で認知度に大きな差が出ていることがうかがえる。

問30 あなたは、長期にわたり良好に使用するための措置が講じられた新築住宅を「長期優良住宅」として認定する制度を知っていますか。

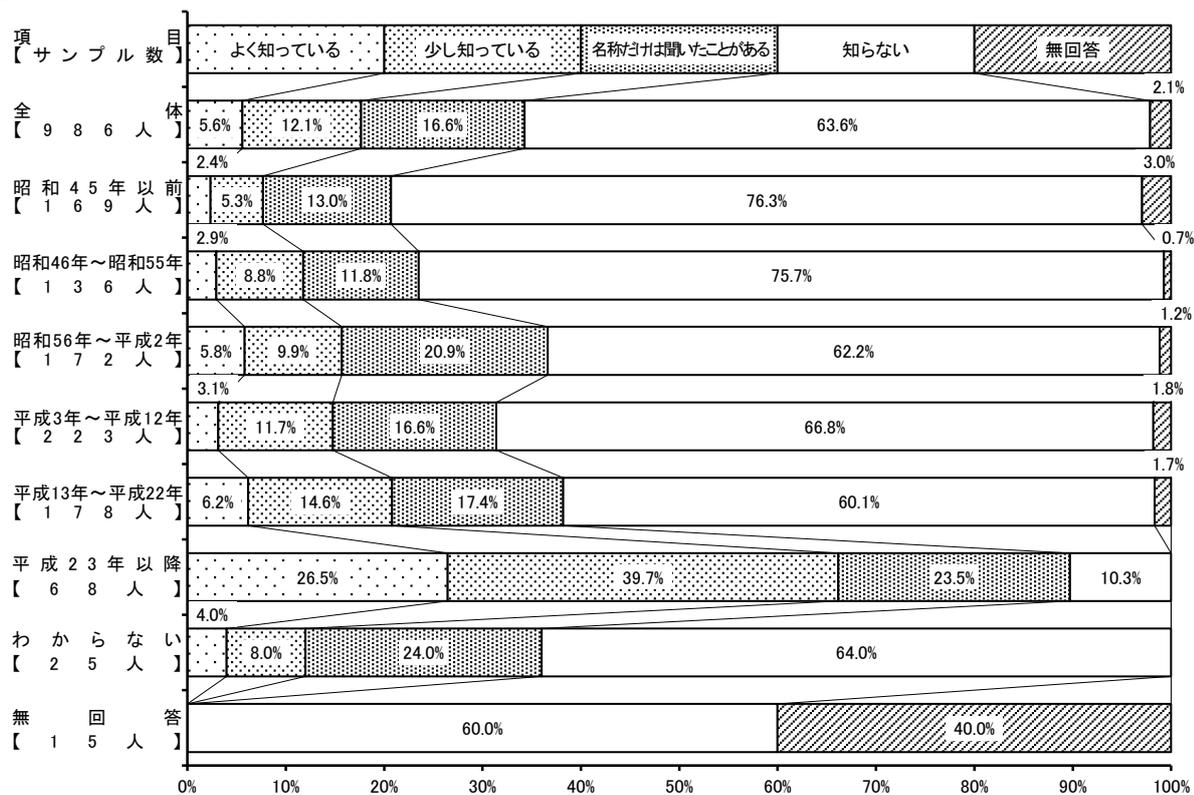
|                 | 回答者数 | 割合     |
|-----------------|------|--------|
| 1 よく知っている       | 55人  | 5.6%   |
| 2 少し知っている       | 119人 | 12.1%  |
| 3 名称だけは聞いたことがある | 164人 | 16.6%  |
| 4 知らない          | 627人 | 63.6%  |
| 無回答             | 21人  | 2.1%   |
| サンプル数           | 986人 | 100.0% |



### 【年代別】



【築年数別】



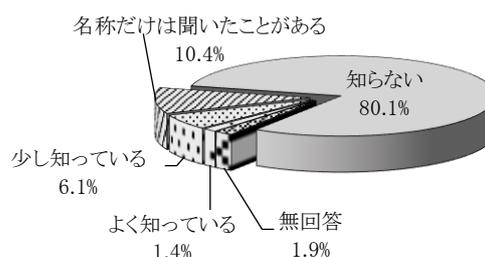
## 問31 低炭素建築物(住宅)への関心

### ◆ 低炭素建築物(住宅)について「知らない」80.1%

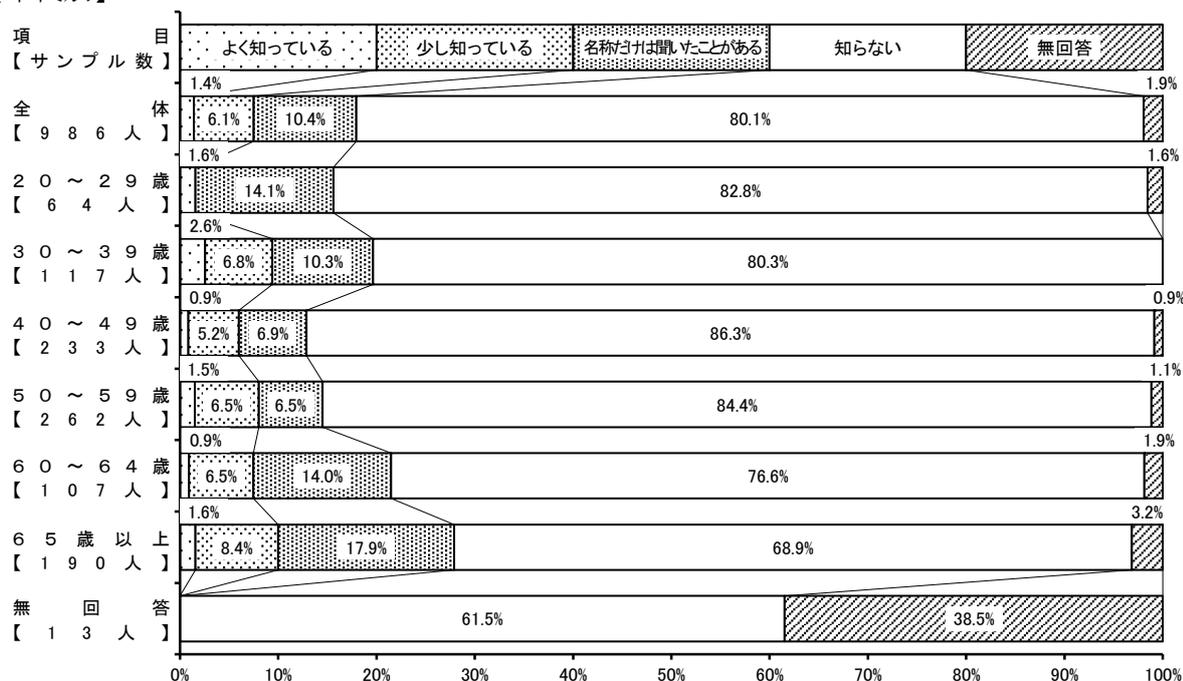
- 20代・30代・40代・50代では「知らない」が8割以上に上るのに対し、60～64歳では76.6%、65歳以上では68.9%となっており、年齢が上がるほど知っているもしくは聞いたことがある方が増える傾向にある。
- 築年数別でみると、平成23年以降では「知っている」もしくは「名称だけは聞いたことがある」32.3%と若干高くなっているものの、全築年数で「知らない」が上位を占めており、前問の「長期優良住宅」制度よりも認知度が低いことがうかがえる。

問 31 あなたは、二酸化炭素の排出の抑制に特に配慮された新築住宅を「低炭素建築物(住宅)」として認定する制度を知っていますか。

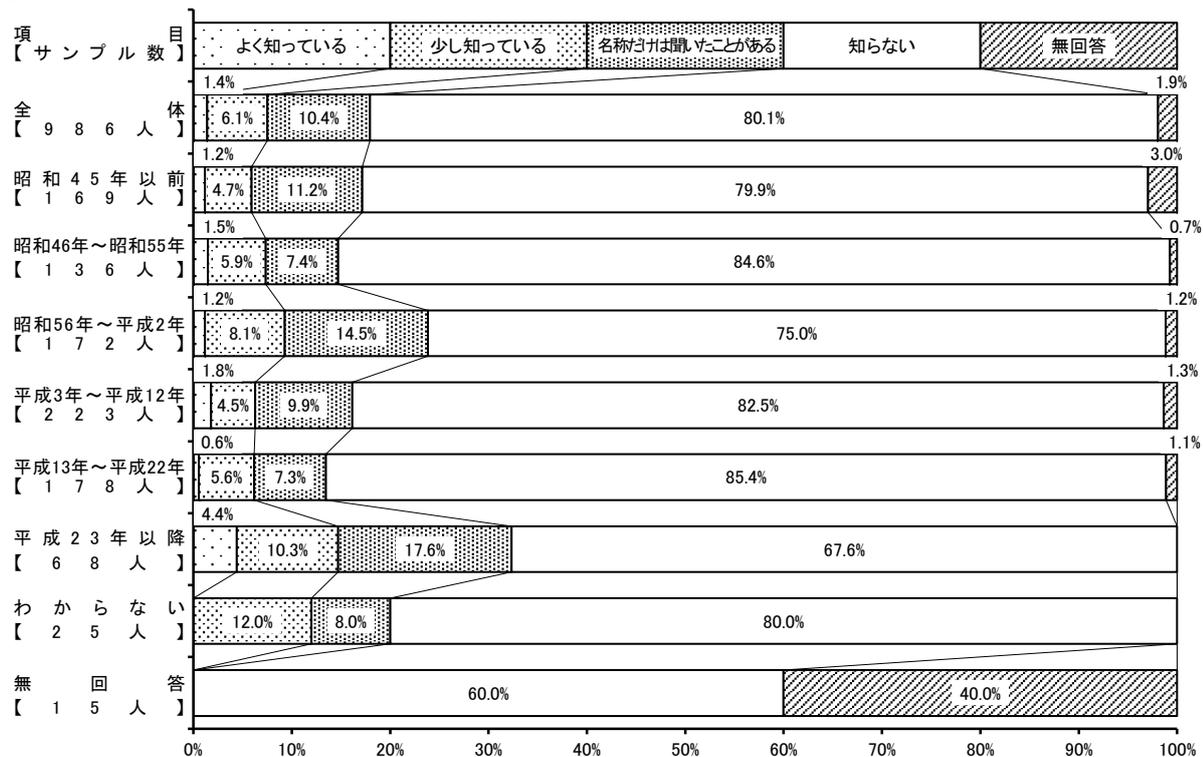
|                 | 回答者数 | 割合     |
|-----------------|------|--------|
| 1 よく知っている       | 14人  | 1.4%   |
| 2 少し知っている       | 60人  | 6.1%   |
| 3 名称だけは聞いたことがある | 103人 | 10.4%  |
| 4 知らない          | 790人 | 80.1%  |
| 無回答             | 19人  | 1.9%   |
| サンプル数           | 986人 | 100.0% |



### 【年代別】



## 【築年数別】



## 問32 住宅の耐震性

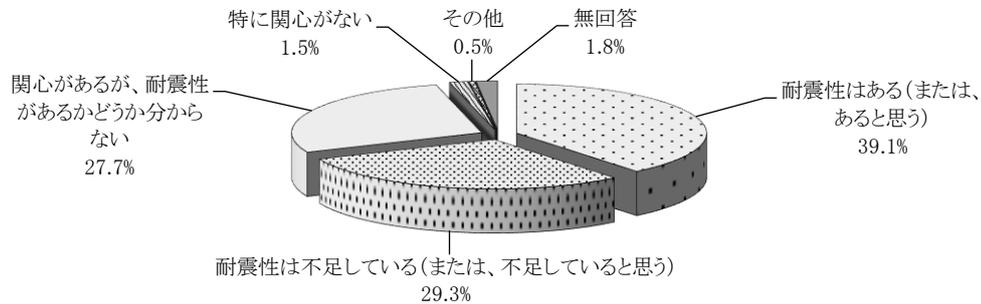
(H22調査 問29)

### ◆ 住宅の耐震性「ある」トップ 続く「不足」「分からない」

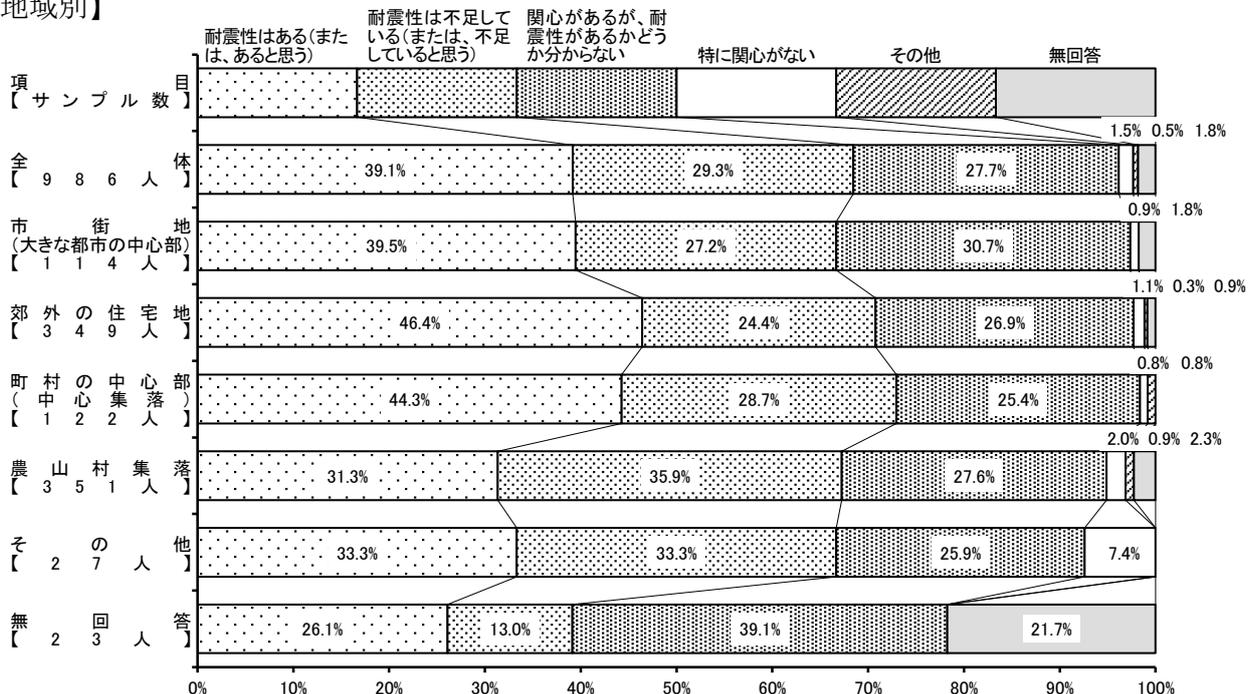
- 前回調査では耐震性不足の回答が48.7%と最も多かったのに対し、今回調査では「耐震性はある(または、あると思う)」が39.1%と最も多い結果となったが、「分からない」も27.7%に上っている。
- 築年数で見ると、「耐震性がある」としたのは昭和45年以前では7.7%で、その後上昇傾向が続き、平成23年以降では88.2%となっており、以降築年数が経過するほど耐震性に不安を感じる事がわかる。

問 32 あなたは、現在住んでいる住宅の地震に対する安全性(耐震性)について、どう考えていますか。

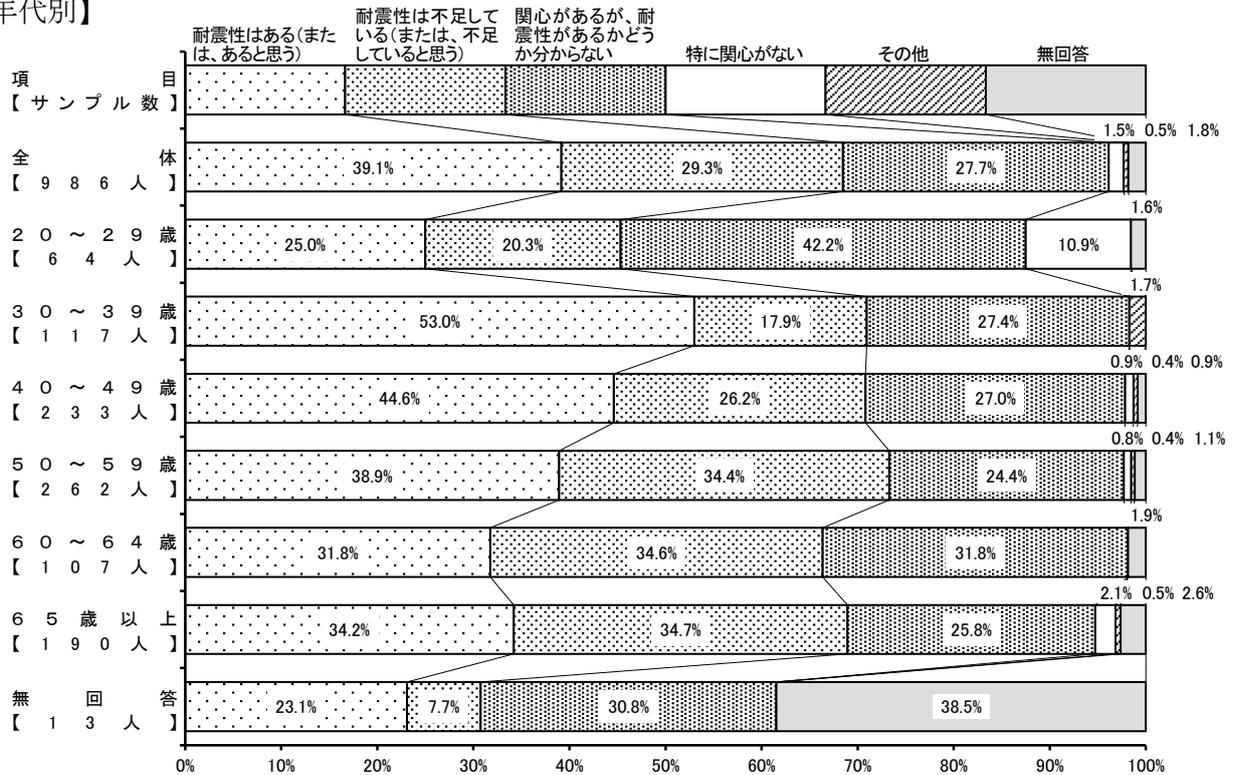
|                             | 回答者数 | 割合     |
|-----------------------------|------|--------|
| 1 耐震性はある(または、あると思う)         | 386人 | 39.1%  |
| 2 耐震性は不足している(または、不足していると思う) | 289人 | 29.3%  |
| 3 関心があるが、耐震性があるかどうか分からない    | 273人 | 27.7%  |
| 4 特に関心がない                   | 15人  | 1.5%   |
| 5 その他                       | 5人   | 0.5%   |
| 無回答                         | 18人  | 1.8%   |
| サンプル数                       | 986人 | 100.0% |



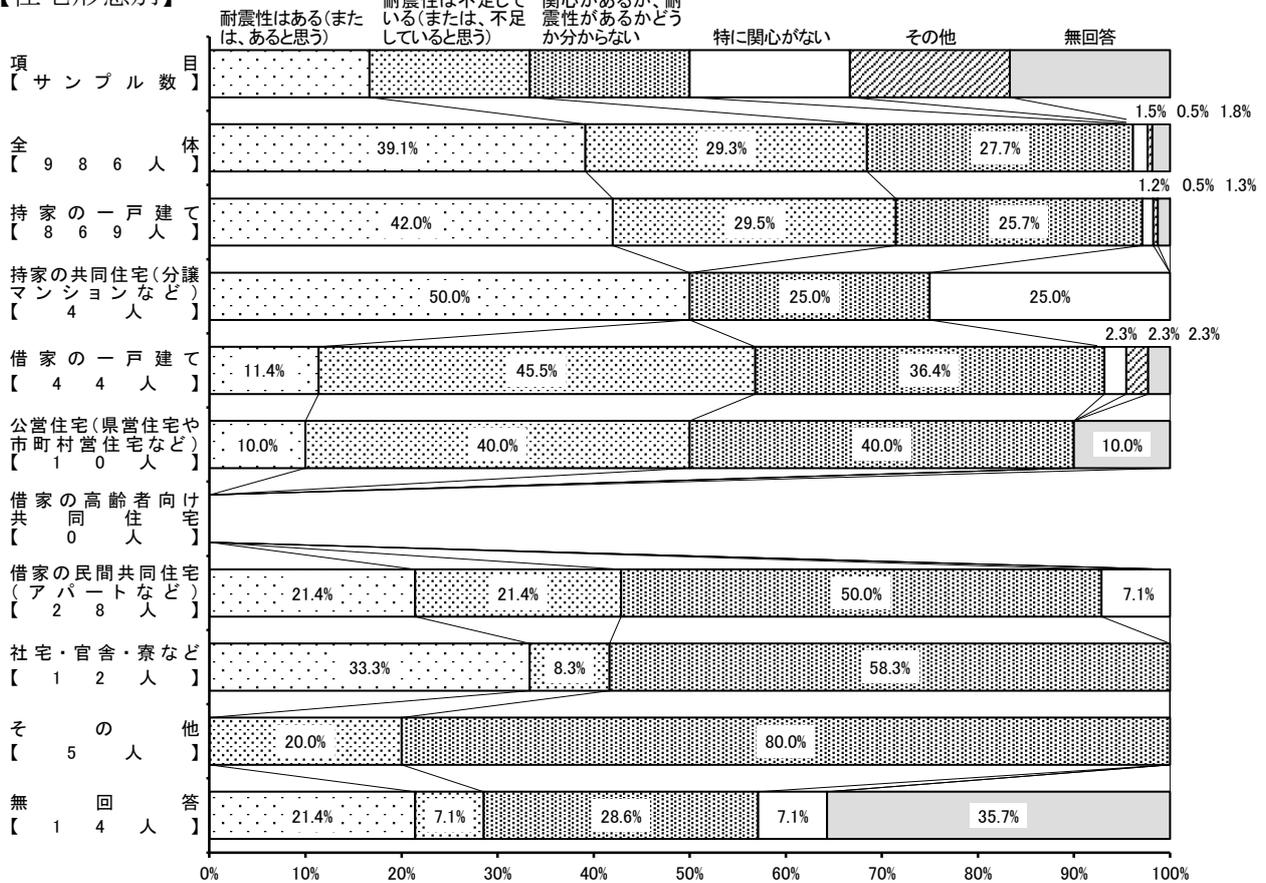
### 【地域別】



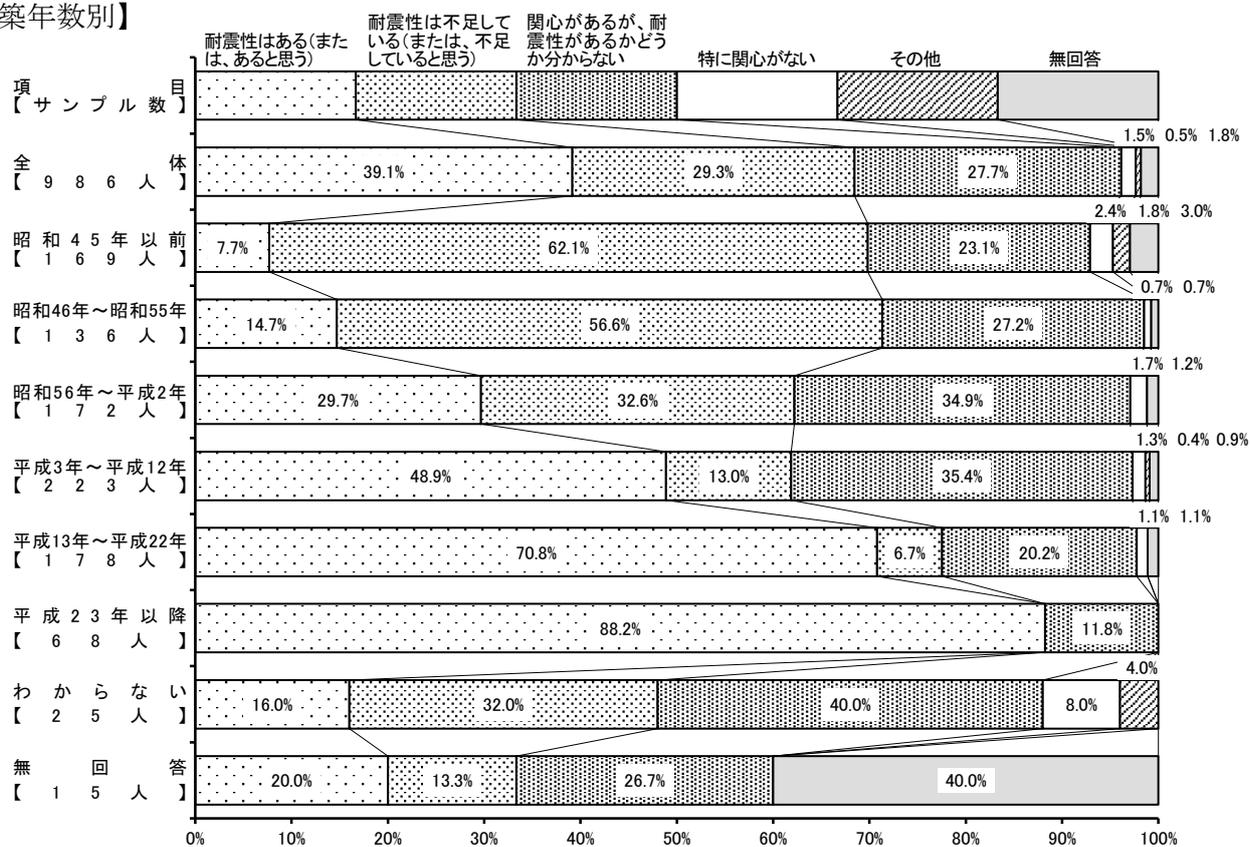
【年代別】



【住宅形態別】



【築年数別】



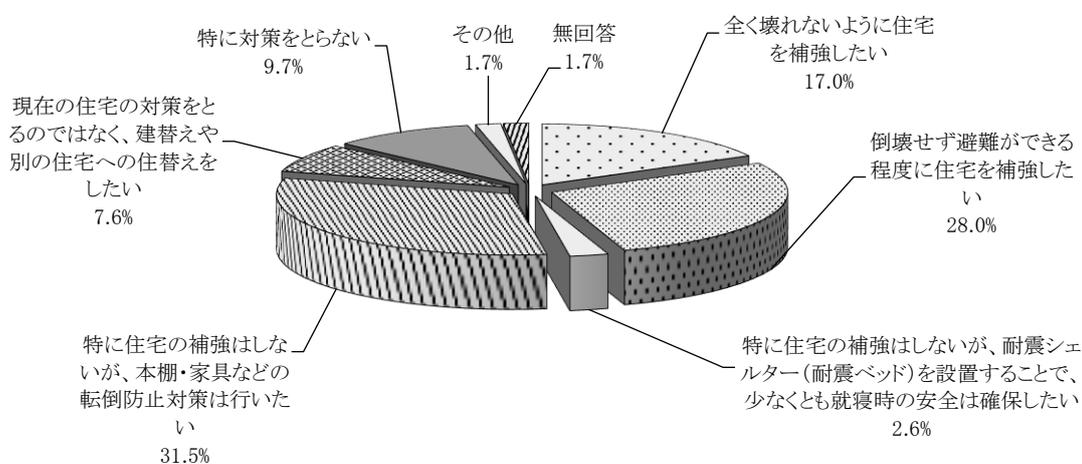
◆ 耐震性の対策

「住宅補強はせずに家具などの転倒防止対策」31.5%

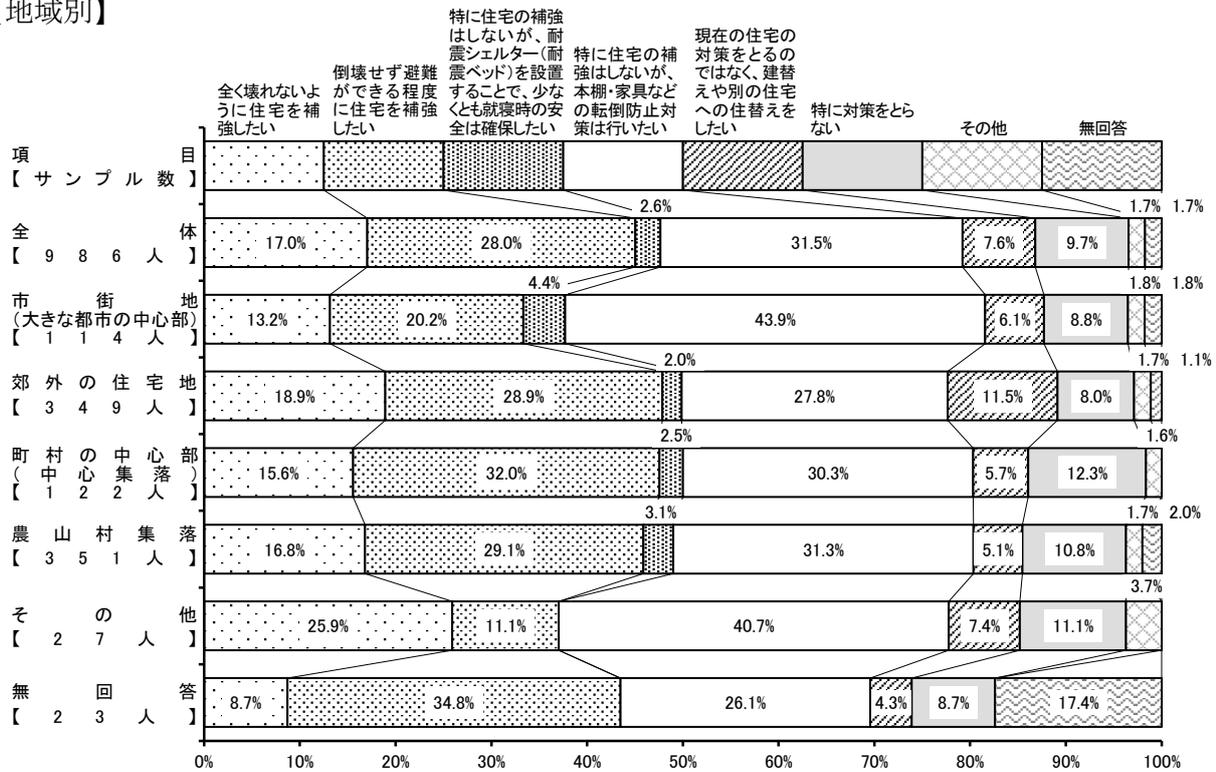
- 耐震性が不足していると分かった場合の対策について尋ねたところ、「特に住宅の補強はしないが、本棚・家具などの転倒防止対策は行いたい」が31.5%と最も多く、「特倒壊せず避難ができる程度に住宅を補強したい」が28.0%、次いで「全く壊れないように住宅を補強したい」が17.0%と続いている。
- 「特に対策をとらない」も前回調査7.8%から今回調査9.7%と、1.9%の増となった。

問 33 あなたは、仮に現在住んでいる住宅の耐震性が不足していることが分かった場合、どのような対策をとろうと思いますか。

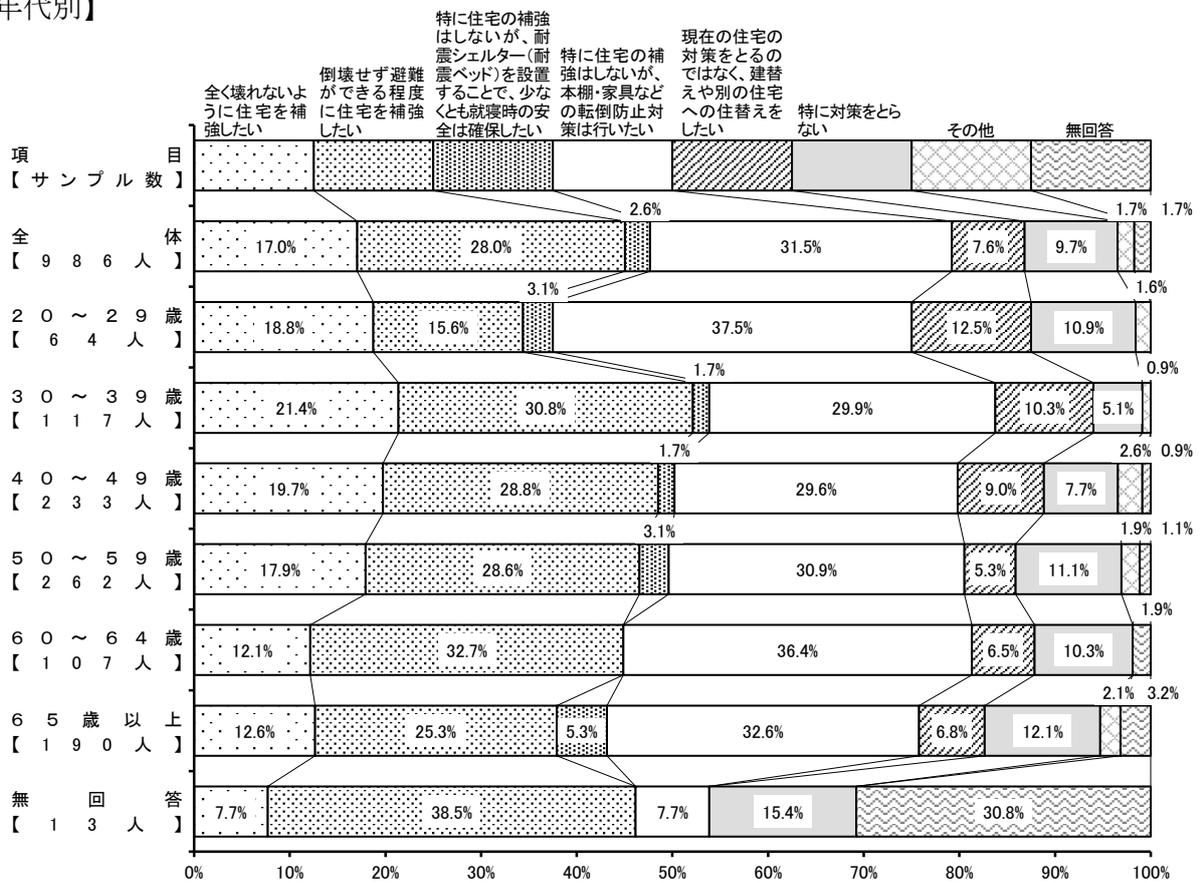
|   | 回答者数 | 割合     |
|---|------|--------|
| 1 全く壊れないように住宅を補強したい                                     | 168人 | 17.0%  |
| 2 倒壊せず避難ができる程度に住宅を補強したい                                 | 276人 | 28.0%  |
| 3 特に住宅の補強はしないが、耐震シェルター(耐震ベッド)を設置することで、少なくとも就寝時の安全は確保したい | 26人  | 2.6%   |
| 4 特に住宅の補強はしないが、本棚・家具などの転倒防止対策は行いたい                      | 311人 | 31.5%  |
| 5 現在の住宅の対策をとるのではなく、建替えや別の住宅への住替えをしたい                    | 75人  | 7.6%   |
| 6 特に対策をとらない   | 96人  | 9.7%   |
| 7 その他   | 17人  | 1.7%   |
| 無回答   | 17人  | 1.7%   |
| サンプル数   | 986人 | 100.0% |



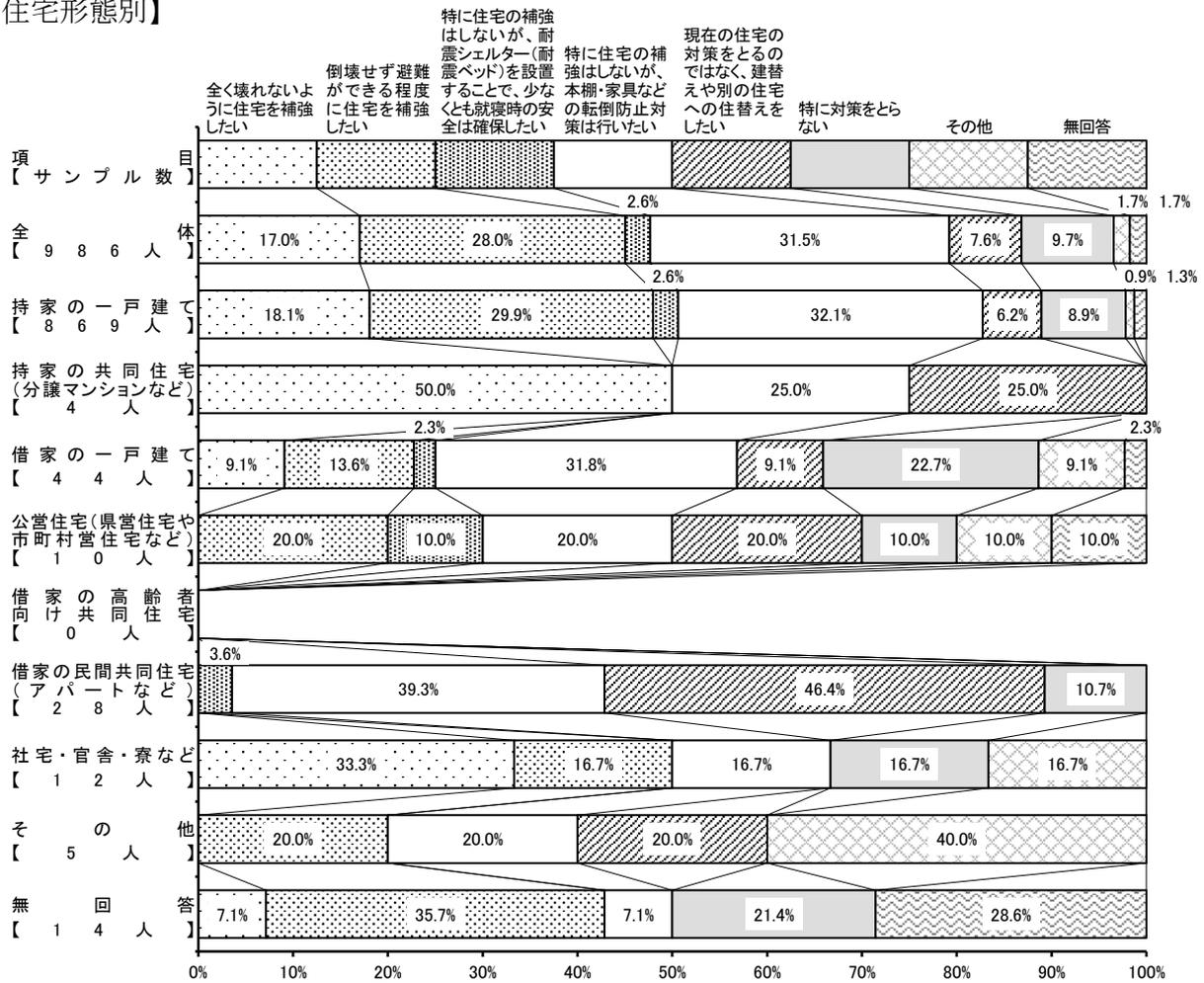
【地域別】



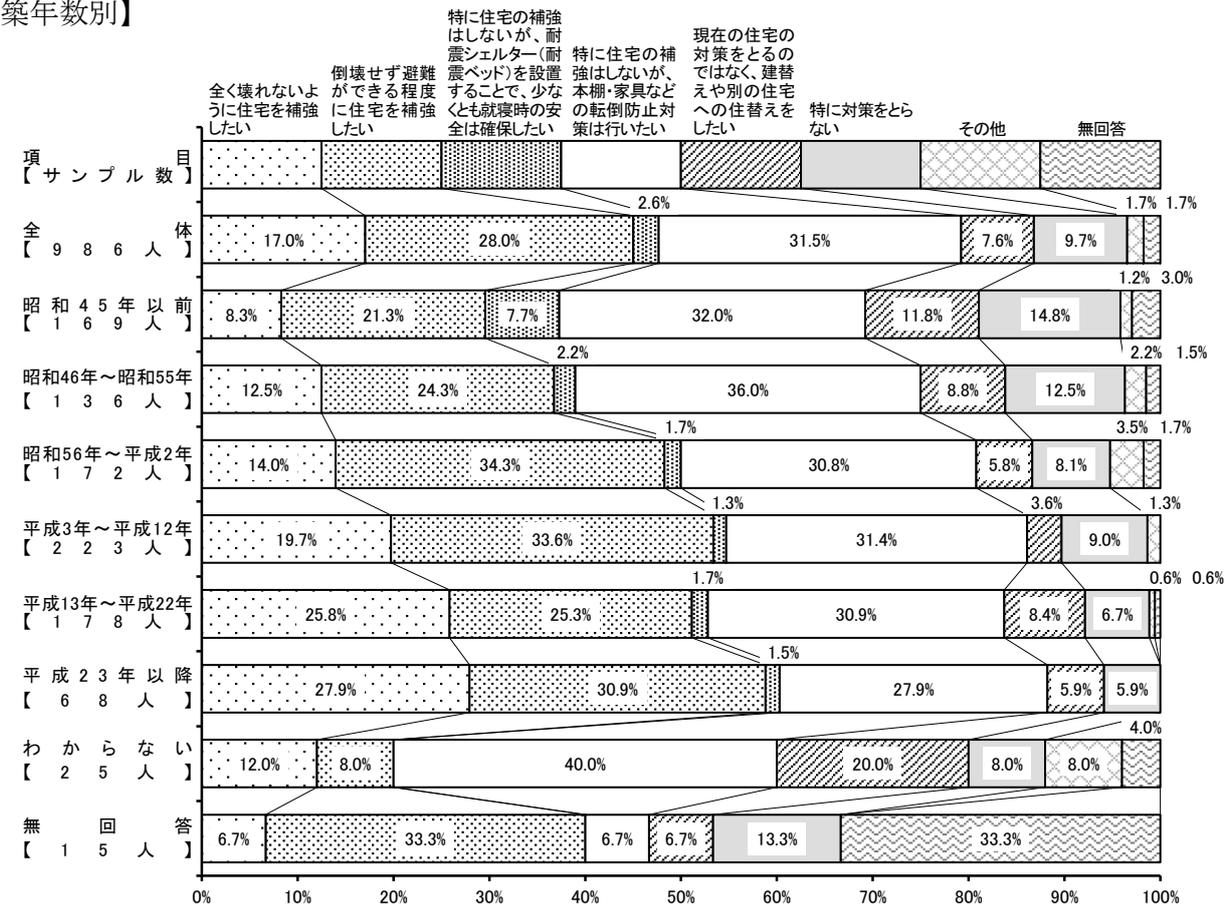
【年代別】



## 【住宅形態別】

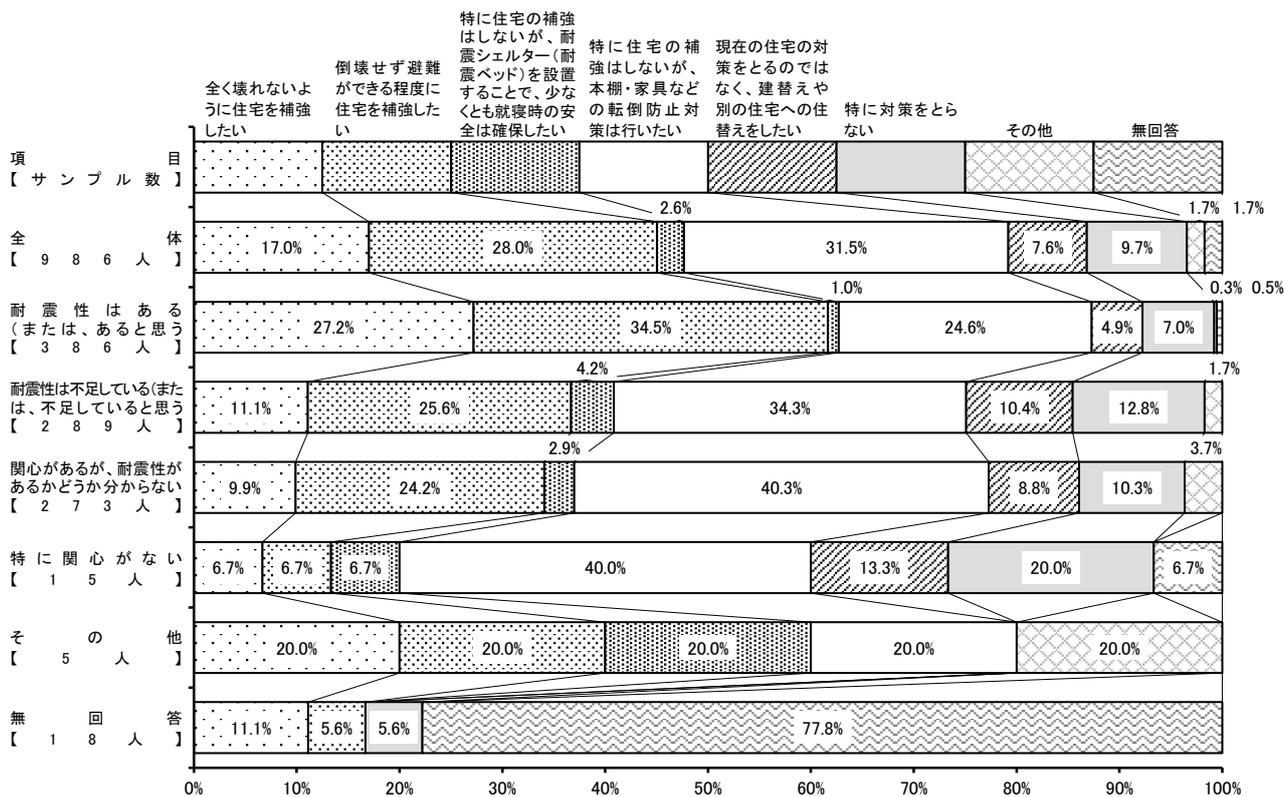


## 【築年数別】



【設問間クロス集計（問32）】

\*問32 あなたは、現在住んでいる住宅の地震に対する安全性(耐震性)について、どう考えていますか。



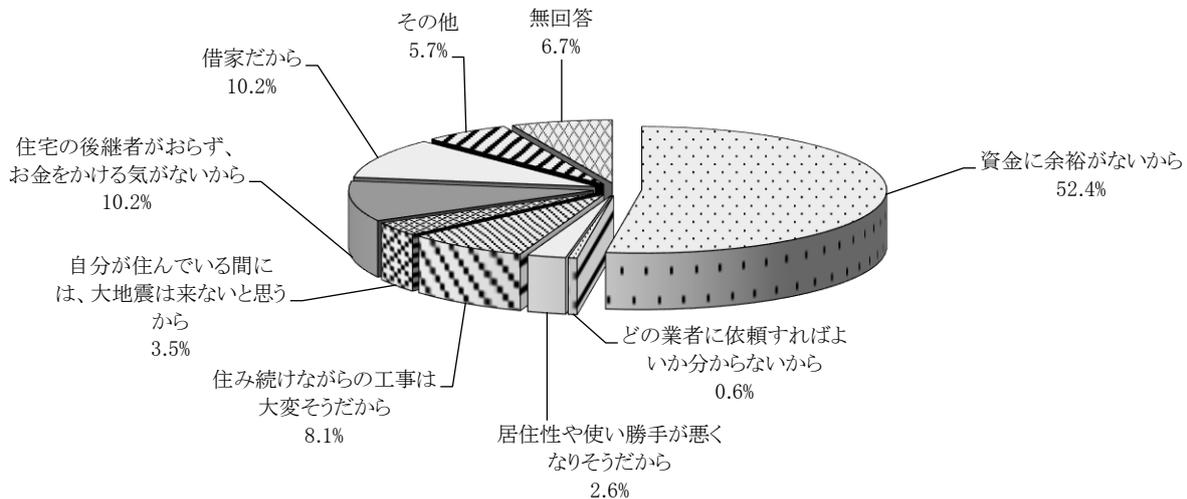
## 問34 耐震対策を行わない理由

### ◆ 耐震性の対策をしない理由「資金に余裕がない」5割以上

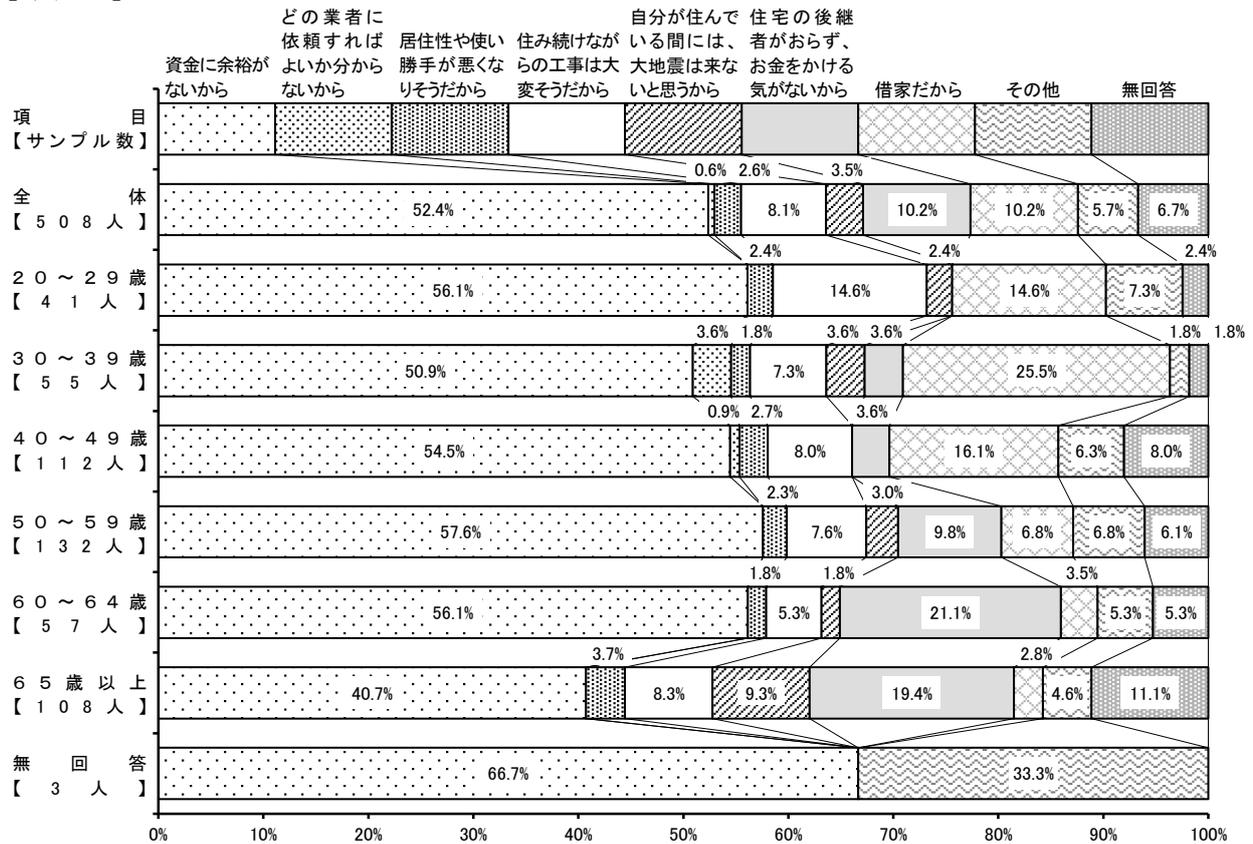
- 問33の、現在の住まいが耐震不足だった場合の対策として住宅自体の補強は行わないとした方に、主な理由を聞いたところ、「資金に余裕がない」52.4%が最も多い結果となり、対策を行いたくても出来ない状況にある方が多いと思われる。
- 年代別に見ると、各年代とも「資金に余裕がない」が上位を占めているが、60歳以上では「住宅の後継者がおらず、お金をかける気がないから」が約2割と、他の年代に比べ多くなっている。

問34 問33で3から6を選んだ方におたずねします。その主な理由を次の中から1つ選んでください。

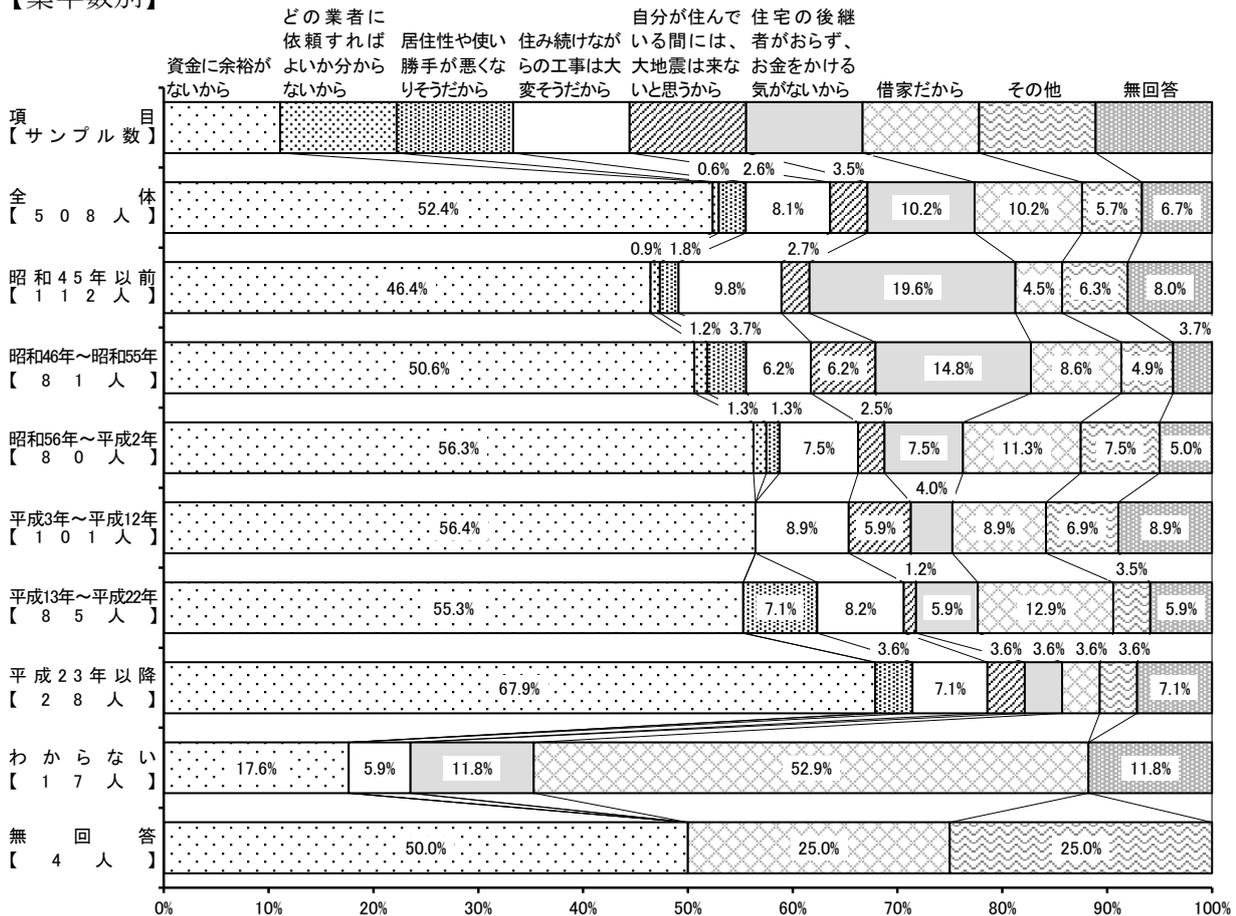
|                            | 回答者数 | 割合     |
|----------------------------|------|--------|
| 1 資金に余裕がないから               | 266人 | 52.4%  |
| 2 どの業者に依頼すればよいか分からないから     | 3人   | 0.6%   |
| 3 居住性や使い勝手が悪くなりそうだから       | 13人  | 2.6%   |
| 4 住み続けながらの工事は大変そうだから       | 41人  | 8.1%   |
| 5 自分が住んでいる間には、大地震は来ないと思うから | 18人  | 3.5%   |
| 6 住宅の後継者がおらず、お金をかける気がないから  | 52人  | 10.2%  |
| 7 借家だから                    | 52人  | 10.2%  |
| 8 その他                      | 29人  | 5.7%   |
| 無回答                        | 34人  | 6.7%   |
| サンプル数                      | 508人 | 100.0% |



【年代別】



【築年数別】



## 問35 高齢時の住まいへの不安理由

(H22調査 問32)

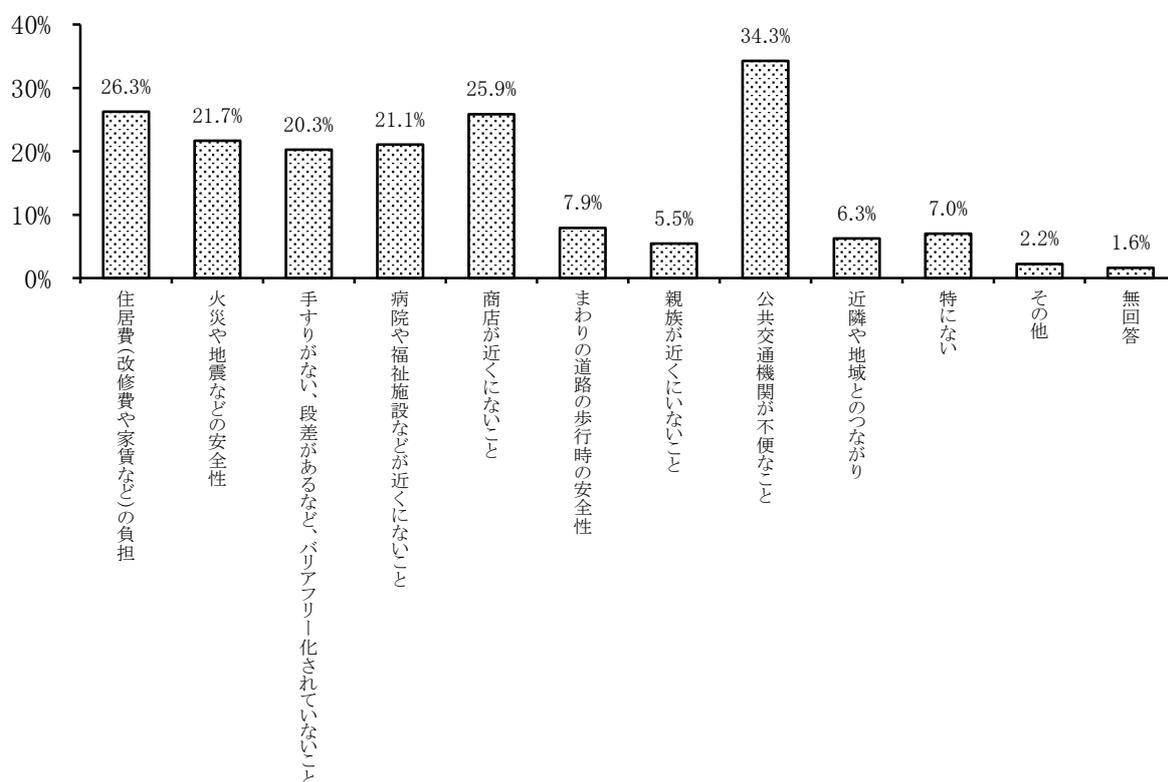
### ◆ 高齢の不安

「公共交通機関が不便」「商店が近くにない」「住居費の負担」上位に

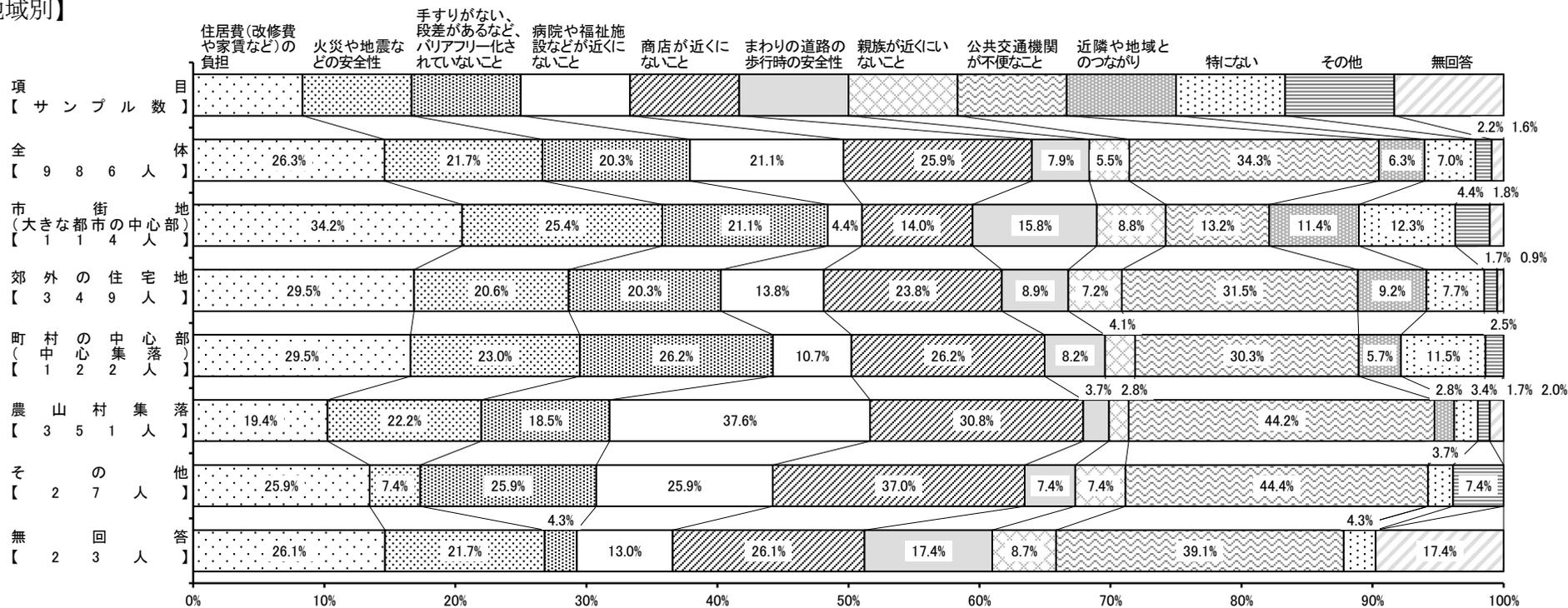
- 高齢となった時の住宅の不安について尋ねたところ、前回調査の項目になかった「公共交通機関が不便なこと」が34.3%と最も多く、次いで「住居費(改修費や家賃など)の負担」26.3%、前回調査で最も多かった「商店が近くにないこと」は25.9%と三番手となった。
- 住宅形態別にみると、持家の共同住宅で「住居費(改修費や家賃など)の負担」75.0%、また公営住宅で「火災や地震などの安全性」60.0%とそれぞれ非常に高くなっている。
- 地域別では、農山村集落で「公共交通機関が不便なこと」44.2%と「病院や福祉施設などが近くにないこと」37.6%と、ほかの居住地と比べ当該2項目が突出して高い結果となった。

問 35 あなたが高齢者になったとき(現在高齢者の方も含まず。 )のことを考えて、現在住んでいる住宅及びその周辺について不安を感じることはありますか。次の中から2つ以内で選んでください。

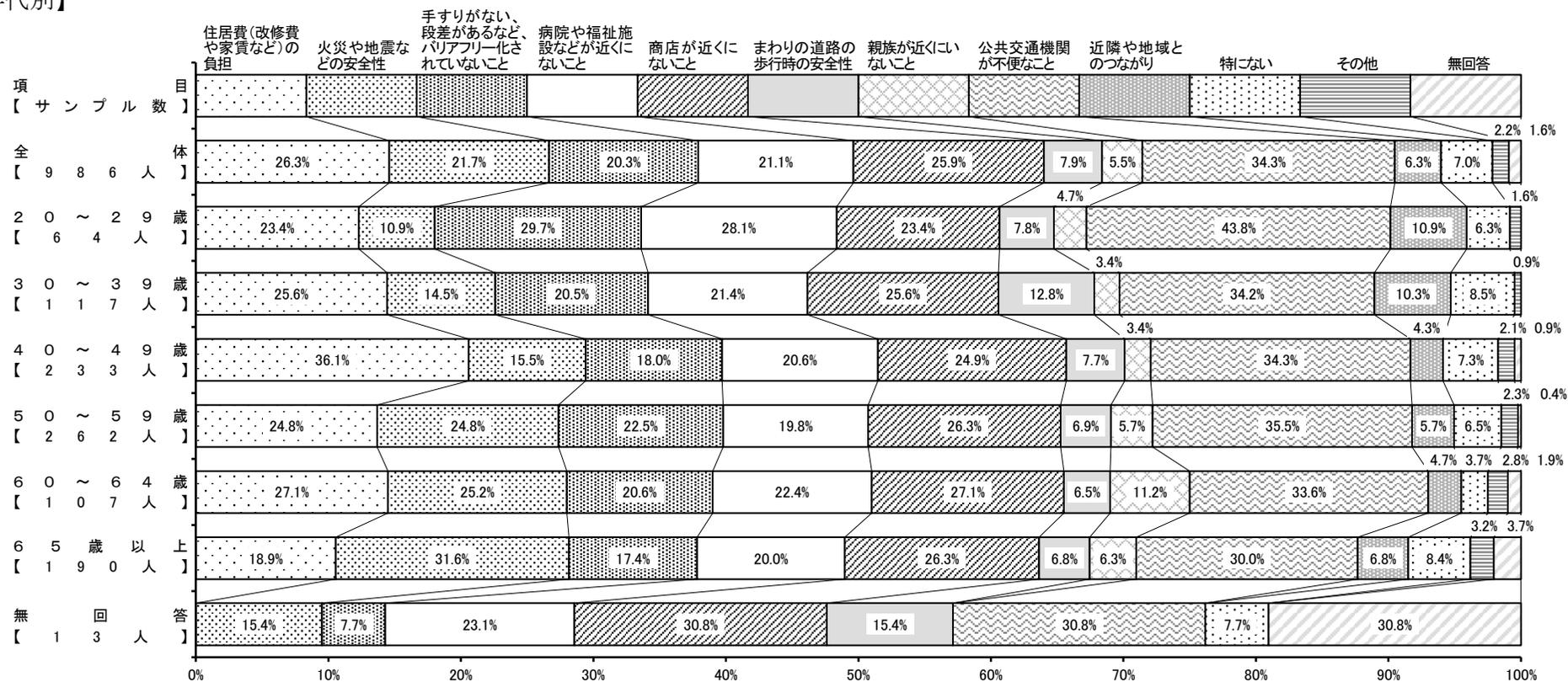
|                                  | 回答者数 | 割合     |
|----------------------------------|------|--------|
| 1 住居費(改修費や家賃など)の負担               | 259人 | 26.3%  |
| 2 火災や地震などの安全性                    | 214人 | 21.7%  |
| 3 手すりがない、段差があるなど、バリアフリー化されていないこと | 200人 | 20.3%  |
| 4 病院や福祉施設などが近くにないこと              | 208人 | 21.1%  |
| 5 商店が近くにないこと                     | 255人 | 25.9%  |
| 6 まわりの道路の歩行時の安全性                 | 78人  | 7.9%   |
| 7 親族が近くにいないこと                    | 54人  | 5.5%   |
| 8 公共交通機関が不便なこと                   | 338人 | 34.3%  |
| 9 近隣や地域とのつながり                    | 62人  | 6.3%   |
| 10 特にない                          | 69人  | 7.0%   |
| 11 その他                           | 22人  | 2.2%   |
| 無回答                              | 16人  | 1.6%   |
| サンプル数                            | 986人 | 100.0% |



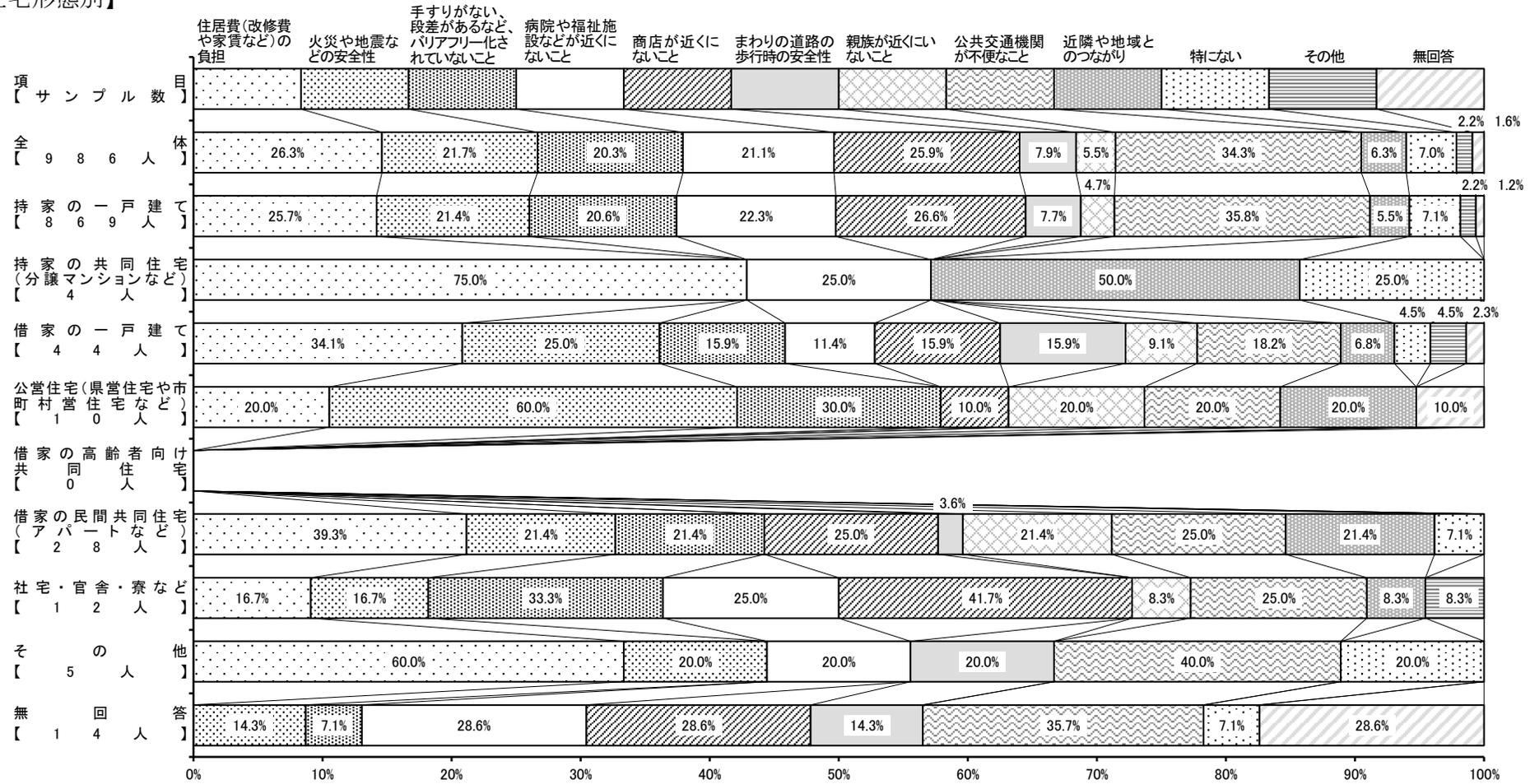
【地域別】



【年代別】



【住宅形態別】



## 問36 高齢時の住まい方

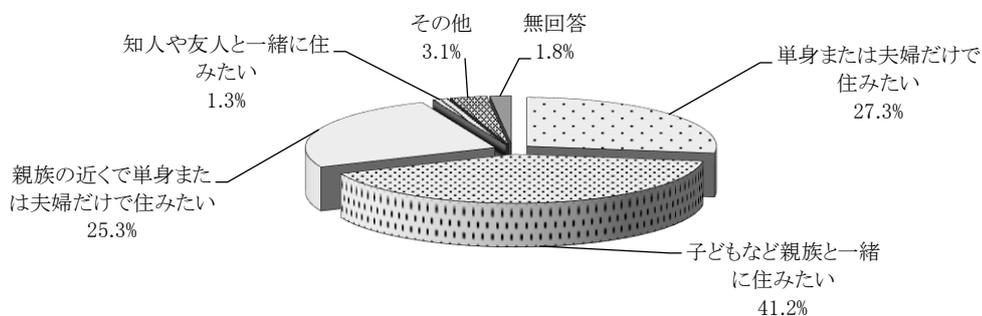
(H22調査 問33)

### ◆ 高齢になったら「子どもなど親族と一緒に住みたい」41.2%

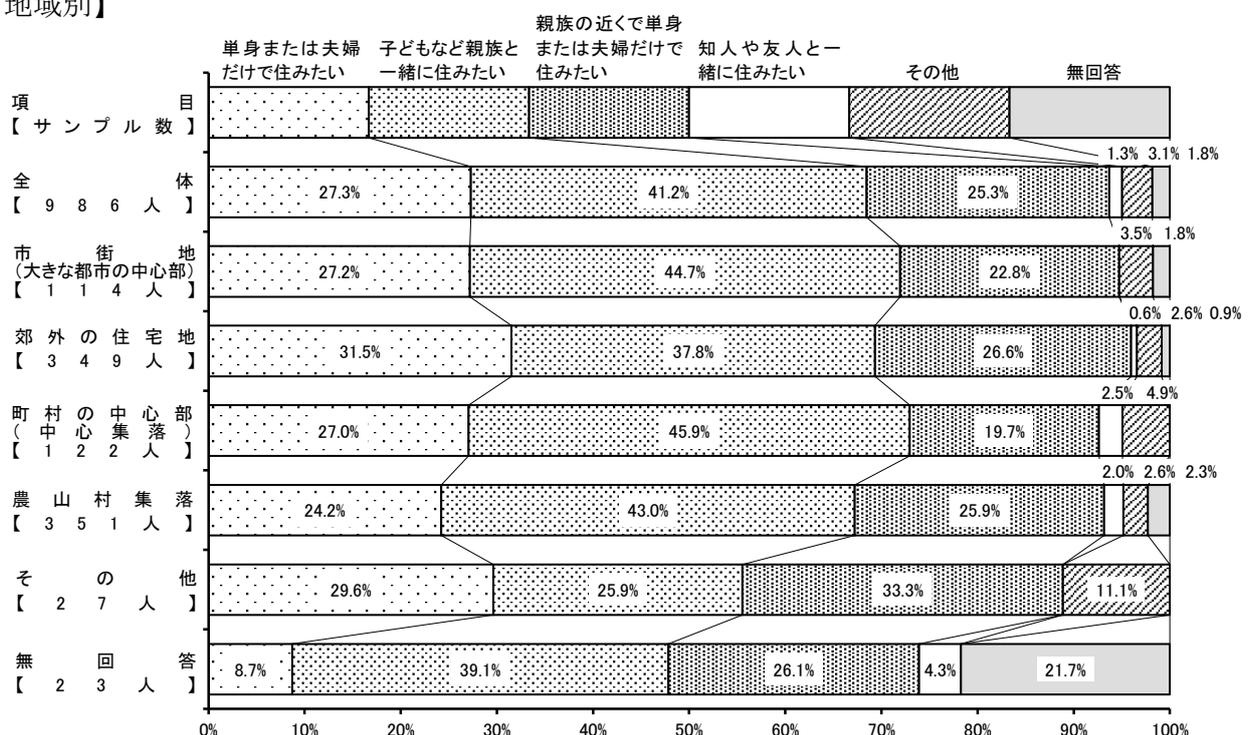
- 高齢者となったときの同居者についての問いに対し、前回調査と同様に約4割が「子どもなど親族と一緒に住みたい」を希望する結果となった。次いで「単身または夫婦だけで住みたい」が27.3%、僅差で「親族の近くで単身または夫婦だけで住みたい」が25.3%と続いている。
- 年代別にみると、「子どもなど親族と一緒に住みたい」が最も多いのは20代で48.4%となった。
- 地域別では、郊外の住宅地で「単身または夫婦だけで住みたい」が3割を超えている。

問 36 あなたが高齢者になったとき(現在高齢者の方も含まます。)、誰と一緒に住みたいと望んでいますか。

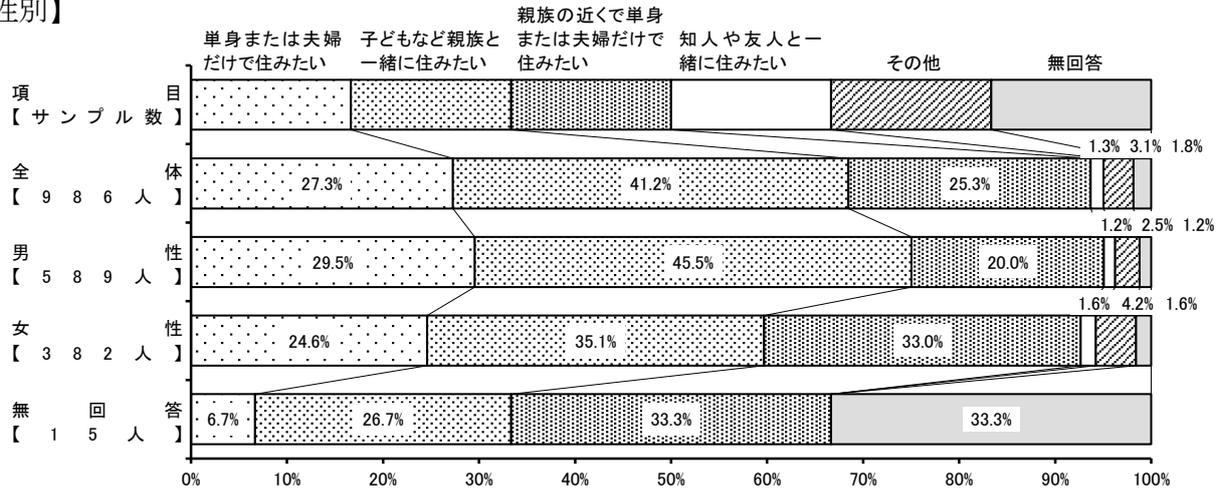
|                        | 回答者数 | 割合     |
|------------------------|------|--------|
| 1 単身または夫婦だけで住みたい       | 269人 | 27.3%  |
| 2 子どもなど親族と一緒に住みたい      | 406人 | 41.2%  |
| 3 親族の近くで単身または夫婦だけで住みたい | 249人 | 25.3%  |
| 4 知人や友人と一緒に住みたい        | 13人  | 1.3%   |
| 5 その他                  | 31人  | 3.1%   |
| 無回答                    | 18人  | 1.8%   |
| サンプル数                  | 986人 | 100.0% |



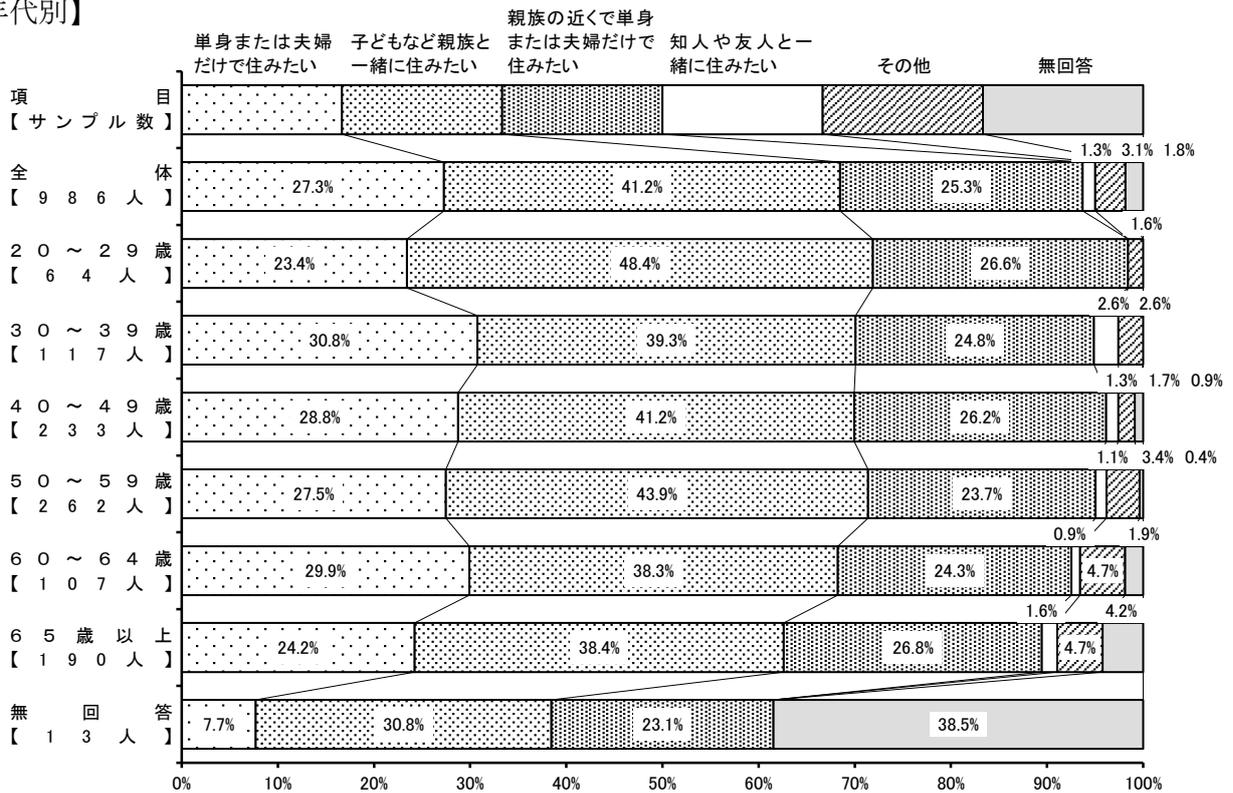
### 【地域別】



【性別】



【年代別】



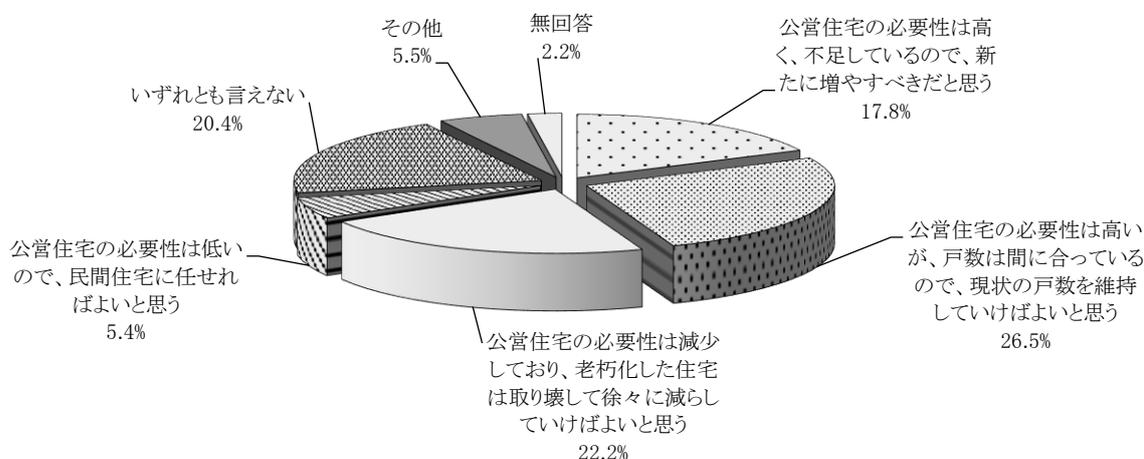
◆ 公営住宅の整備

「必要性高く現状戸数維持」「必要性低く徐々に減らす」僅差

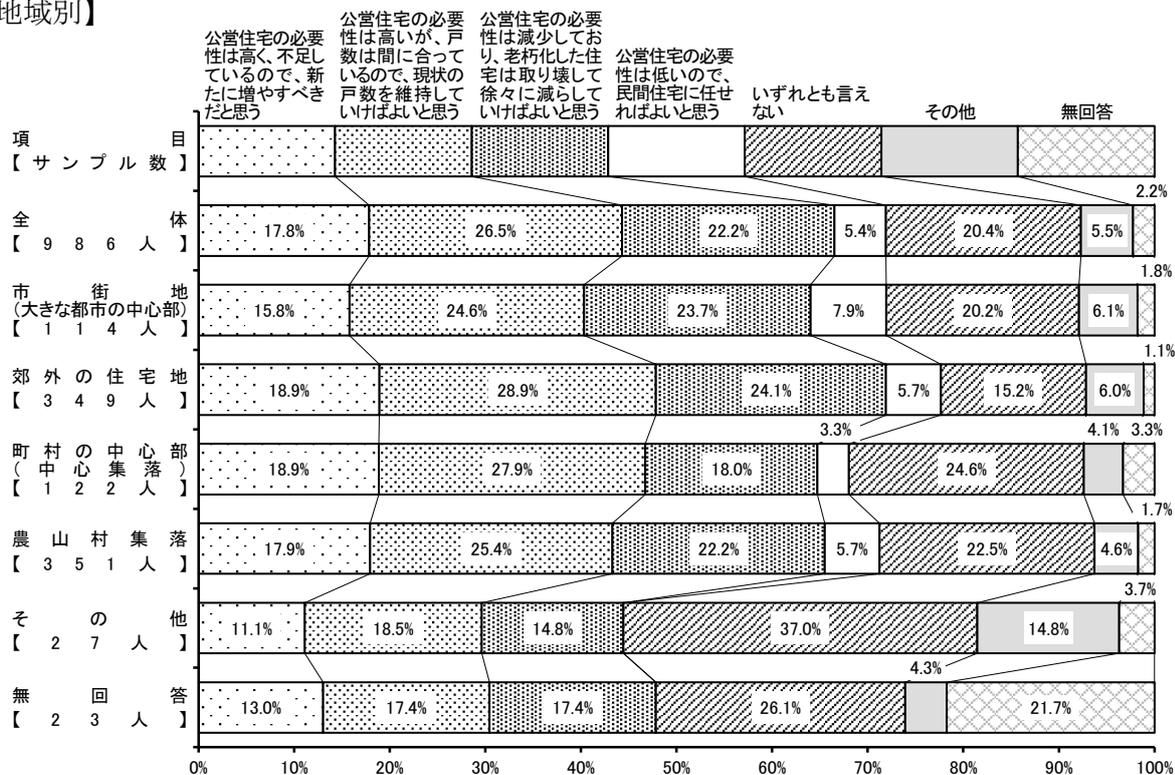
- 公営住宅整備について尋ねたところ、「公営住宅の必要性は高く、不足しているので、新たに増やすべき」17.8%に対し、「公営住宅の必要性は高いが、戸数は間に合っているので、現状の戸数を維持していけばよい」26.5%、「公営住宅の必要性は減少しており、老朽化した住宅は取り壊して徐々に減らしていけばよい」が22.2%という結果となり、およそ半数以上の方は公営住宅を新しく増やす必要はないと感じている。
- 年代別に見ると20代～50代までは「現状の戸数を維持」がトップになっているが、60代以上では「老朽化した住宅は取り壊して徐々に減らす」がトップになっている。

問 37 公営住宅は、低廉な家賃の住宅を賃貸することを目的としていますが、現状では昭和30年～40年代に建設された公営住宅が数多くあり、老朽化が進行しています。あなたは、今後、老朽化した公営住宅の整備をどのようにしたらよいと思いますか。

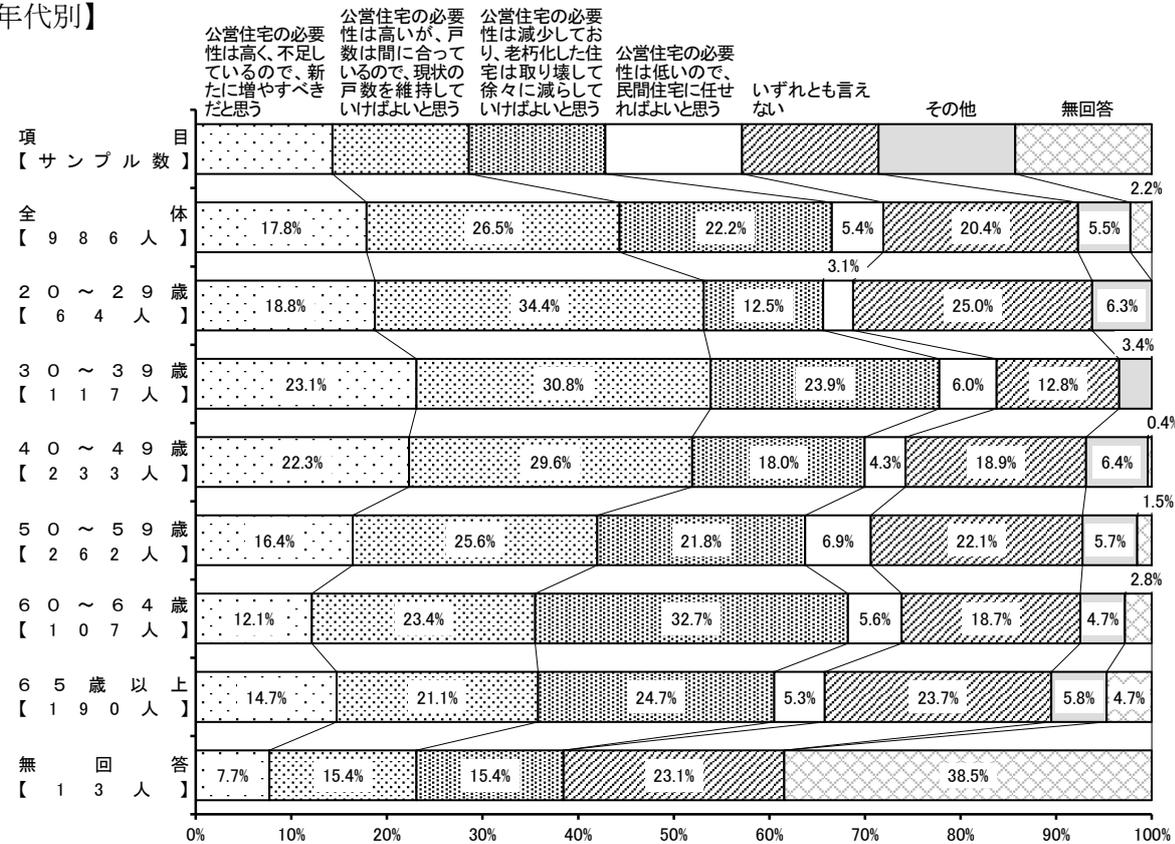
|  | 回答者数 | 割合     |
|--|------|--------|
| 1 公営住宅の必要性は高く、不足しているので、新たに増やすべきだと思う            | 176人 | 17.8%  |
| 2 公営住宅の必要性は高いが、戸数は間に合っているので、現状の戸数を維持していけばよいと思う | 261人 | 26.5%  |
| 3 公営住宅の必要性は減少しており、老朽化した住宅は取り壊して徐々に減らしていけばよいと思う | 219人 | 22.2%  |
| 4 公営住宅の必要性は低いので、民間住宅に任せればよいと思う                 | 53人  | 5.4%   |
| 5 いずれとも言えない                                    | 201人 | 20.4%  |
| 6 その他  | 54人  | 5.5%   |
| 無回答  | 22人  | 2.2%   |
| サンプル数  | 986人 | 100.0% |



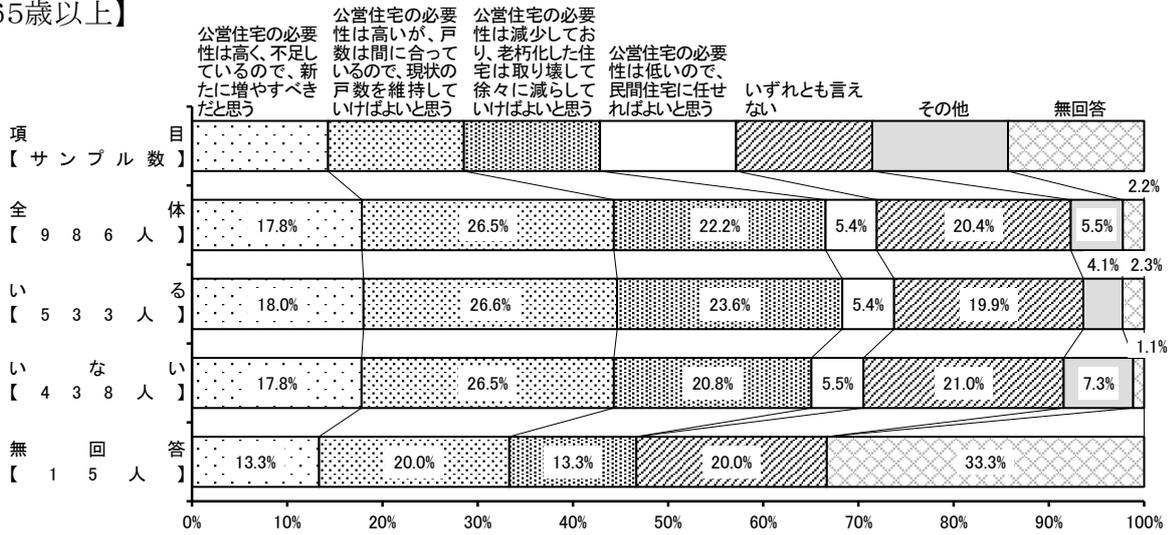
【地域別】



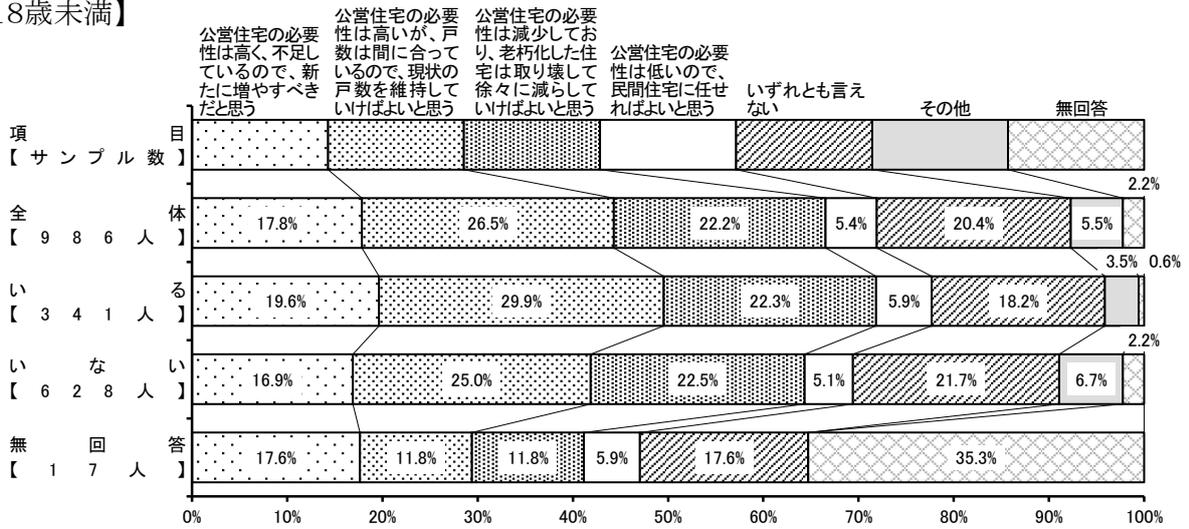
【年代別】



【65歳以上】



【18歳未満】



## 問38 公営住宅の供給

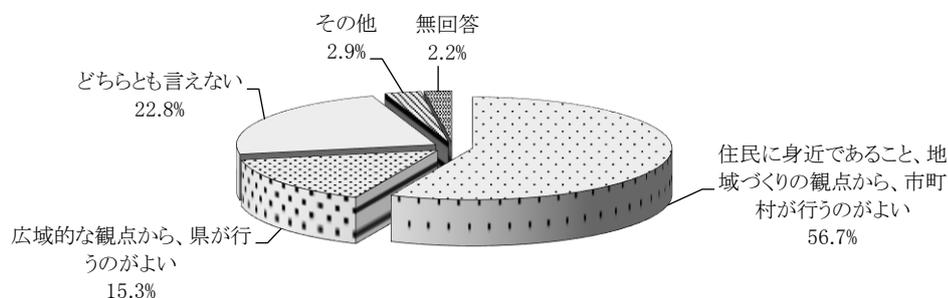
(H22調査 問39)

### ◆ 公営住宅の供給「市町村が行う」5割以上

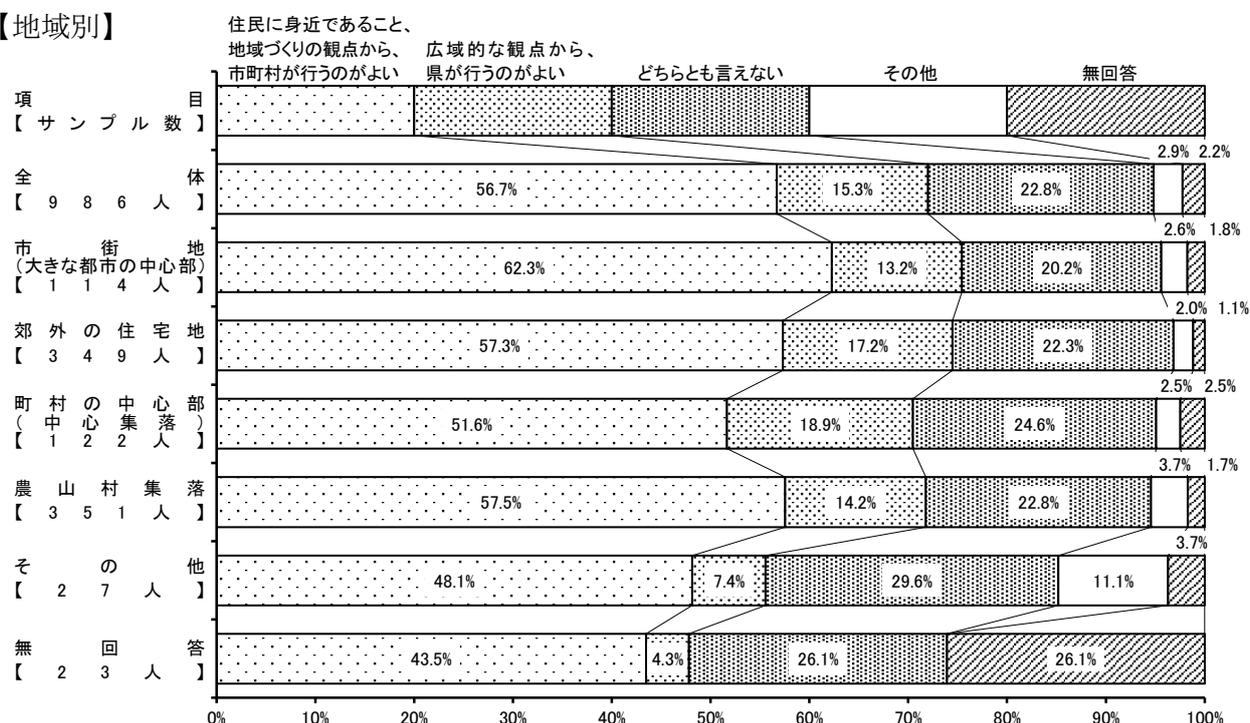
- 公営住宅の供給の行い方について尋ねたところ、「市町村が行うのがよい」56.7%に対し「県が行うのがよい」は15.3%となり、市町村での管理・供給を望む声が多いことがわかる。
- 一方で「どちらとも言えない」も22.8%と全体の2割を超えている。

問 38 公営住宅は、県と市町村がそれぞれ建設し管理していますが、管理が異なることにより、募集情報の提供や入居申込みの窓口が別になるなど、入居希望者にとって不便であるとの指摘があります。また、高齢化社会が進んでいく中、公営住宅は住まいの提供ということだけでなく、健康や見守り等の福祉の分野、コミュニティの形成や地域、まちづくりの分野との連携が、ますます必要になっていきます。このような状況で、あなたは今後の公営住宅の供給はどのように行うのがよいと思いますか。

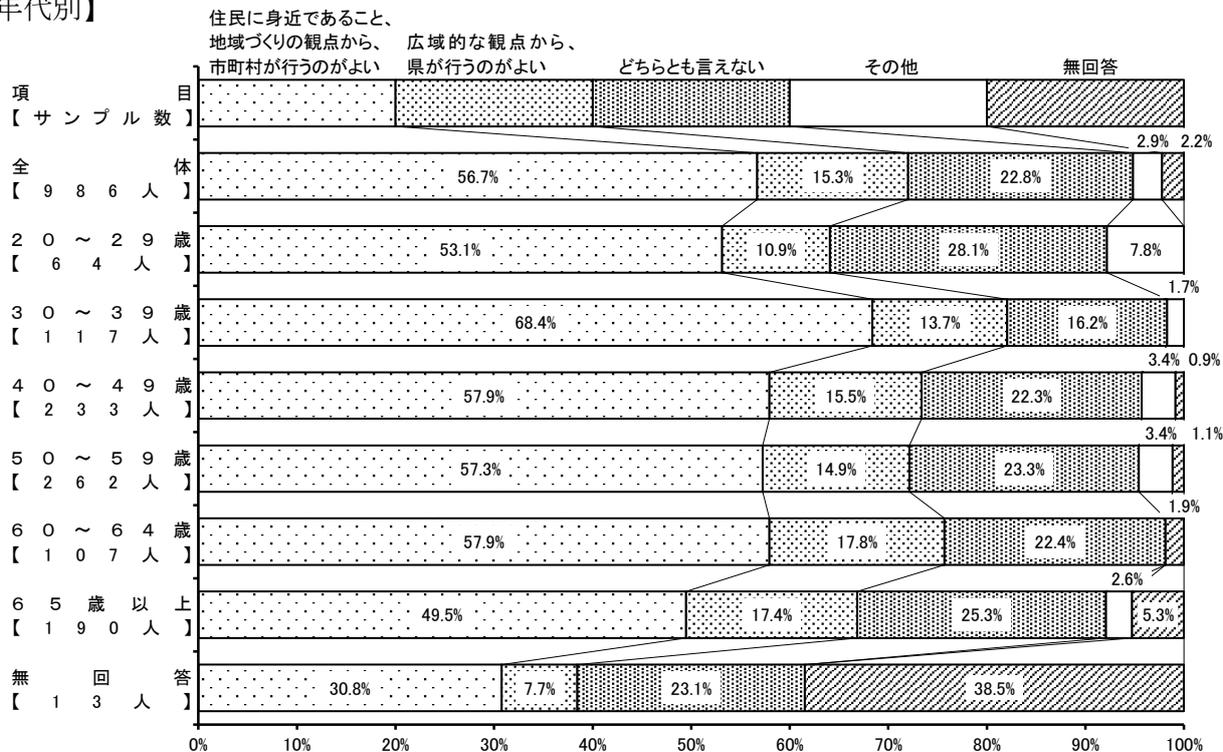
|                                    | 回答者数 | 割合     |
|------------------------------------|------|--------|
| 1 住民に身近であること、地域づくりの観点から、市町村が行うのがよい | 559人 | 56.7%  |
| 2 広域的な観点から、県が行うのがよい                | 151人 | 15.3%  |
| 3 どちらとも言えない                        | 225人 | 22.8%  |
| 4 その他                              | 29人  | 2.9%   |
| 無回答                                | 22人  | 2.2%   |
| サンプル数                              | 986人 | 100.0% |



### 【地域別】

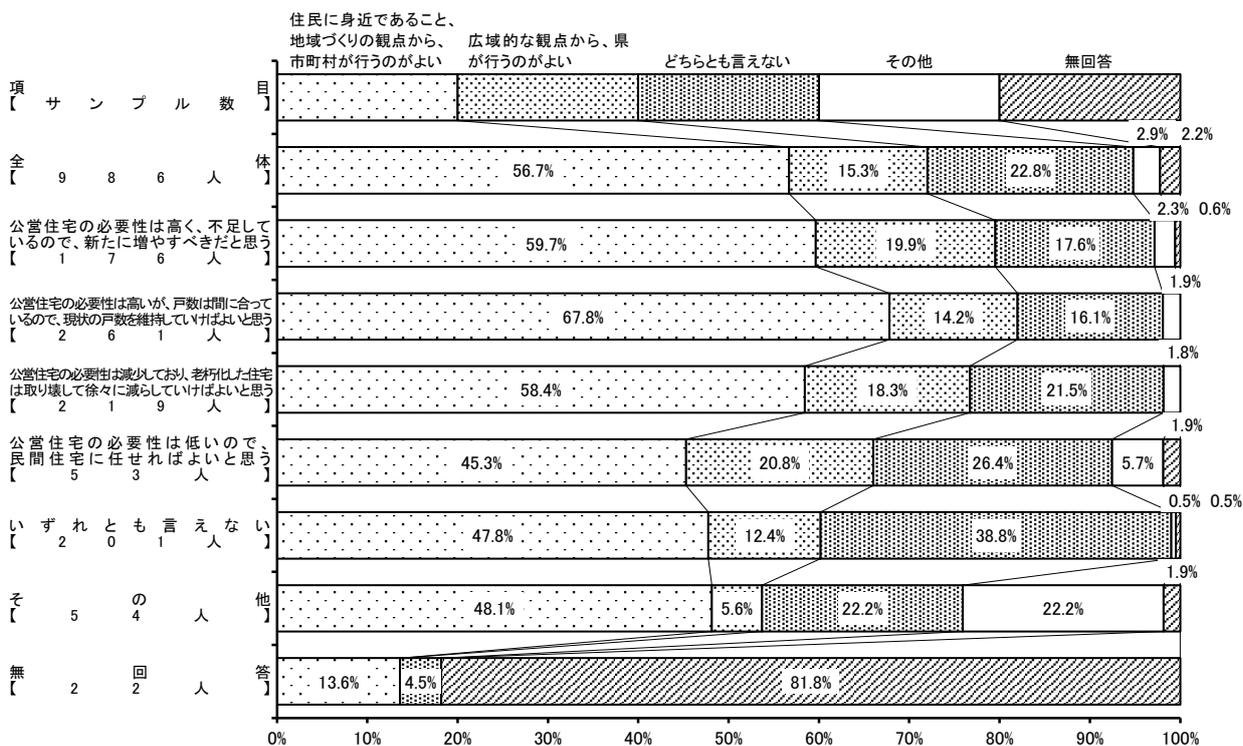


【年代別】



【設問間クロス集計（問37）】

\*問37 公営住宅は、住宅にお困りで一定の収入以下の方に、低廉な家賃の住宅を賃貸することを目的としています。現状では昭和30年～40年代に建設された公営住宅が数多くあり、老朽化が進行しています。あなたは、今後、老朽化した公営住宅の整備をどのようにしたらよいと思いますか。



## 問39 住宅を借りる際に重要視する条件(場所)

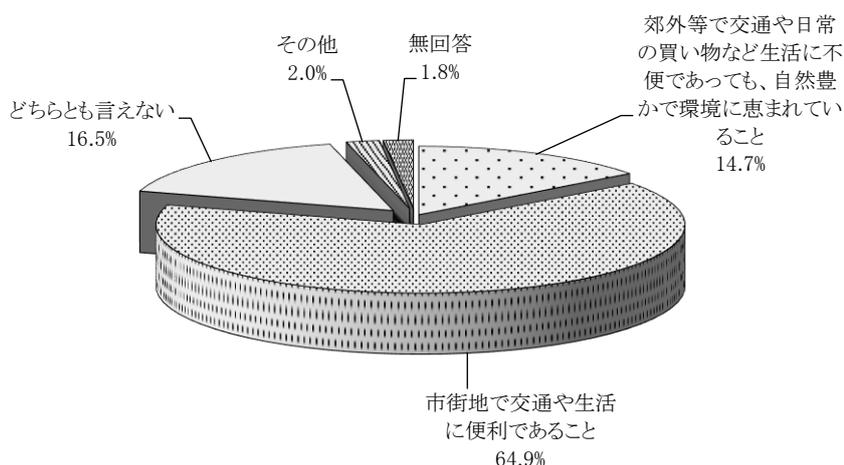
### ◆ 重要視する住宅場所の条件

「市街地で交通・生活に便利であること」トップ

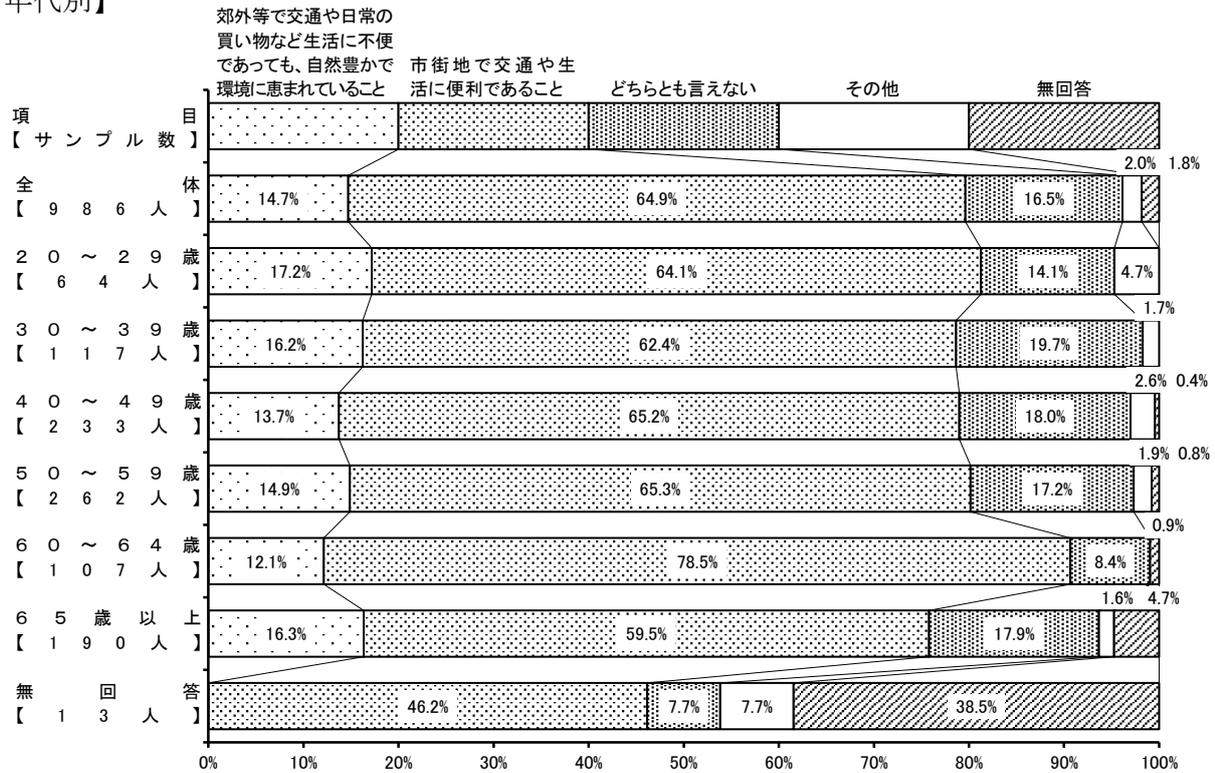
- 住宅を借りる際に重要視する条件として、場所については「市街地で交通や生活に便利であること」が64.9%となり、多くが生活の便利さを重視して住宅を選択したいと感じているようである。
- 年代別では60～64歳が「市街地」を重要視する割合が78.5%と、最も高くなっている。
- 世帯構成別で見ると「市街地」は各世帯とも60%台半ばで同程度となっているが、「郊外等」を重視する割合は単身世帯が最も低く9.3%となっている。

問39 あなたがこれから住宅を借りるとしたら、場所について何が重要だと思いますか。

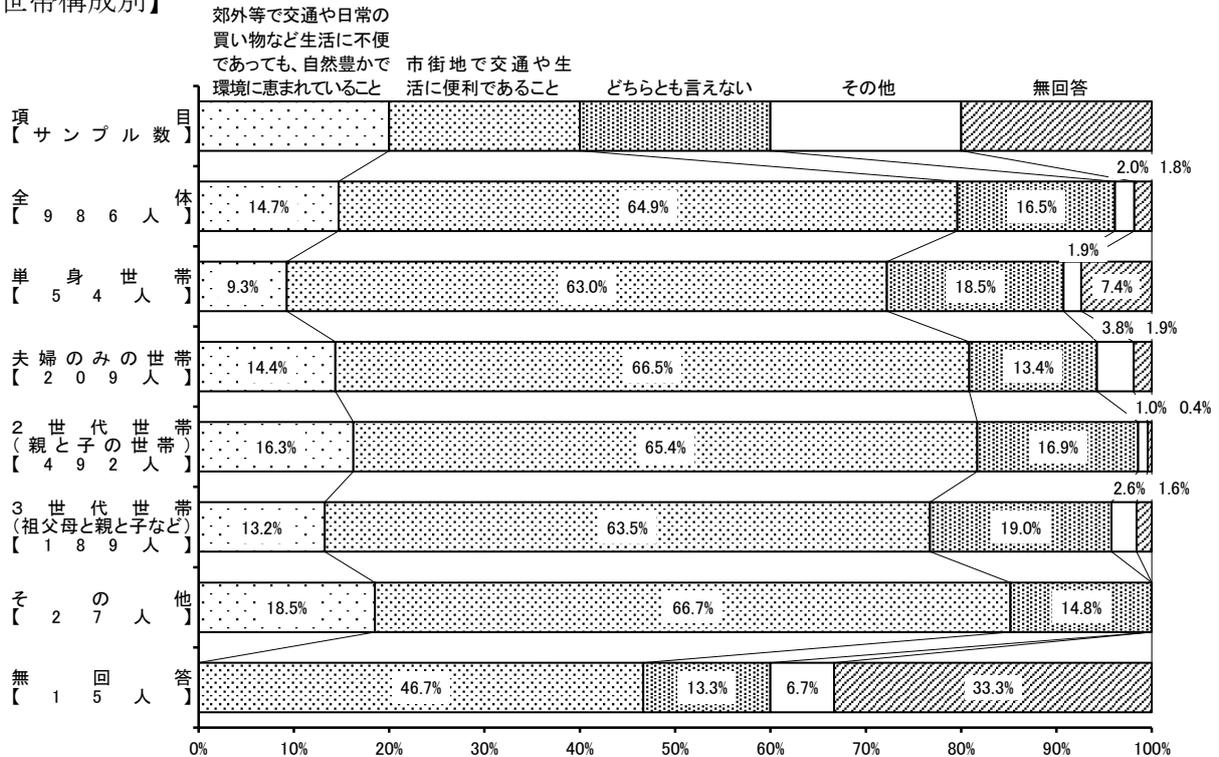
|  | 回答者数 | 割合     |
|--|------|--------|
| 1 郊外等で交通や日常の買い物など生活に不便であっても、自然豊かで環境に恵まれていること | 145人 | 14.7%  |
| 2 市街地で交通や生活に便利であること                          | 640人 | 64.9%  |
| 3 どちらとも言えない                                  | 163人 | 16.5%  |
| 4 その他  | 20人  | 2.0%   |
| 無回答  | 18人  | 1.8%   |
| サンプル数  | 986人 | 100.0% |



【年代別】



【世帯構成別】



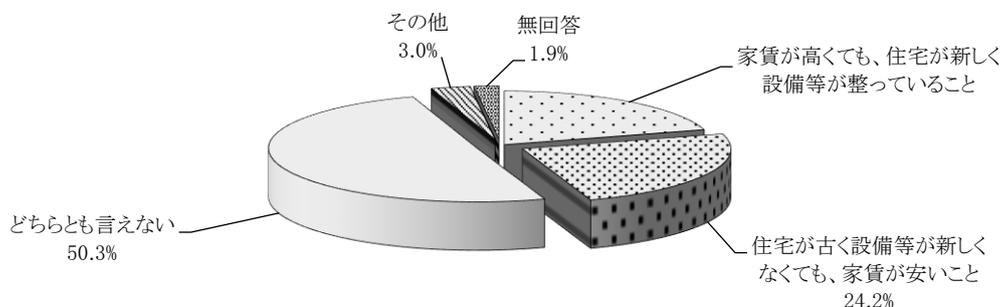
## 問40 住宅を借りる際に重要視する条件(新しさ・家賃)

### ◆ 住宅の新しさと家賃の重要性 「どちらとも言えない」トップ

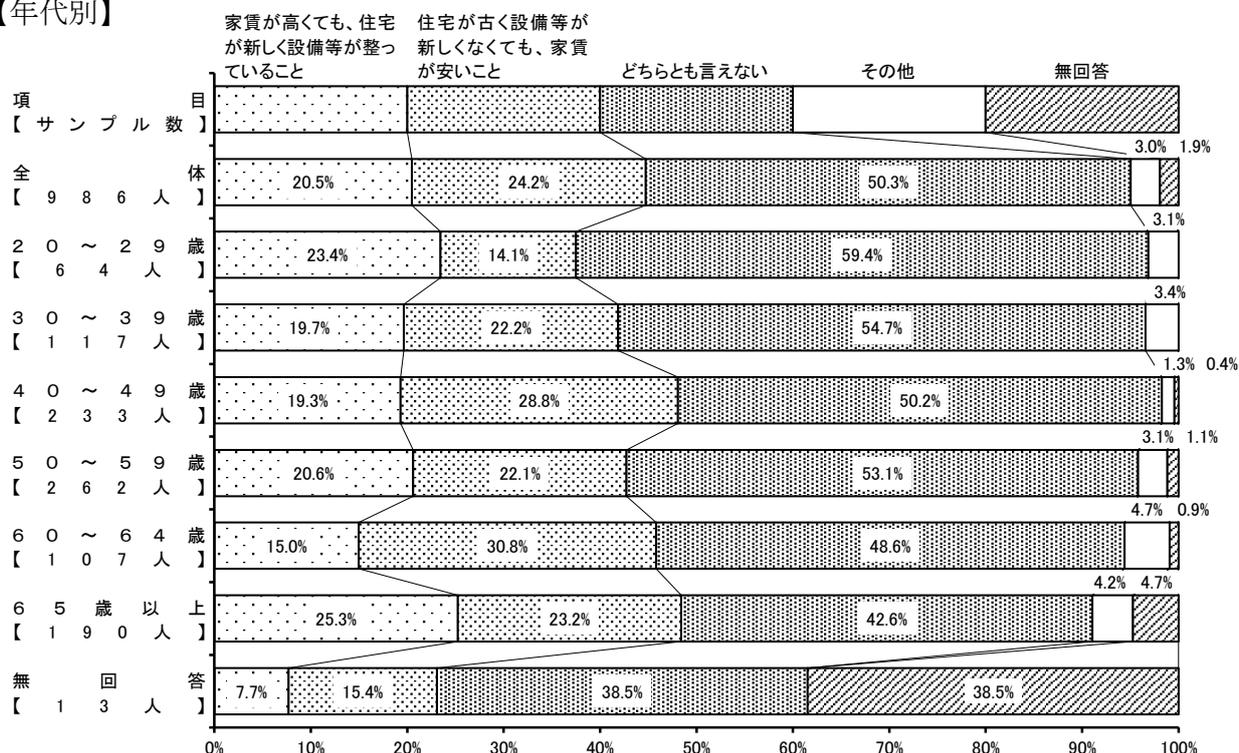
- 住宅を借りる際に重要視する条件として、新しさと家賃の重要度を尋ねたところ「どちらともいえない」が50.3%と半数を超え、また、「住宅の新しさ」「家賃の安さ」はそれぞれ20.5%、24.2%と均衡する結果となり、安ければよいもしくは新しければよいと、一概には言えないと感じていることがうかがえる。
- 年代別では20代と65歳以上の年代が住宅の新しさを、その他の年代は家賃の安さを重視する傾向にあり、特に40代と60～64歳で家賃の安さを重視する傾向が強くなっている。
- 世帯構成別で見ると、単身世帯では「住宅の新しさ」11.1%、「家賃の安さ」31.5%となっており家賃の安さを重要視する傾向にあるといえる。

問40 あなたがこれから住宅を借りるとしたら、住宅の新しさと家賃について何が重要だと思いますか。

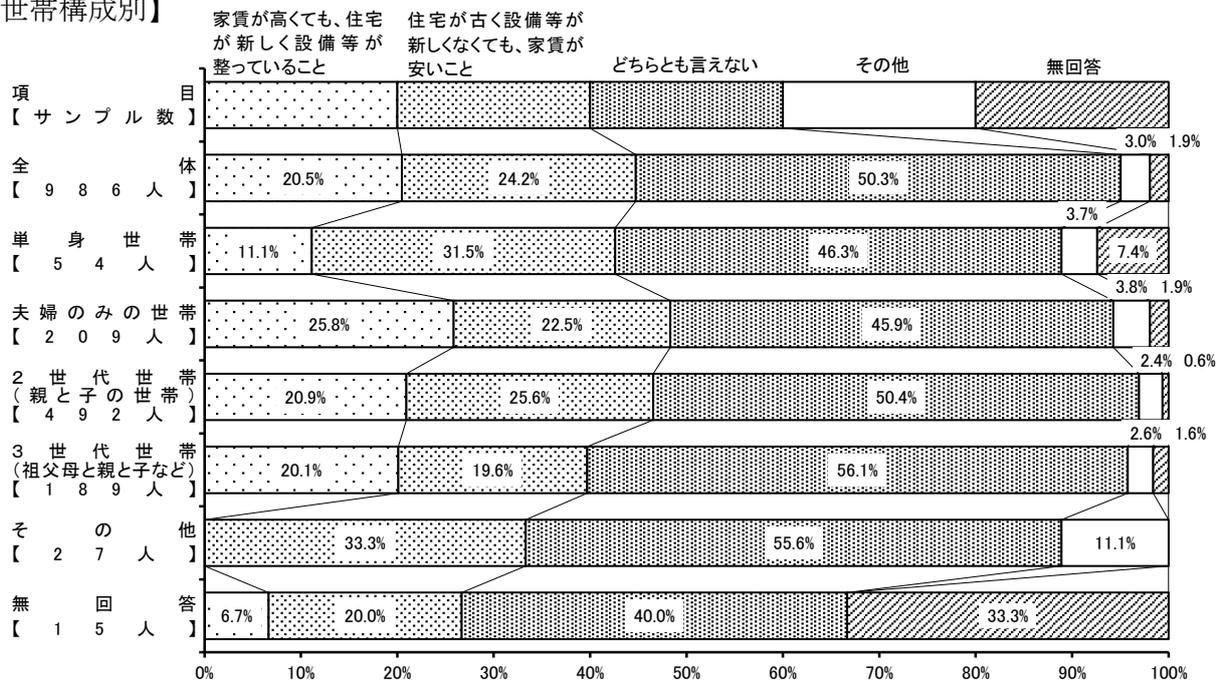
|                             | 回答者数 | 割合     |
|-----------------------------|------|--------|
| 1 家賃が高くても、住宅が新しく設備等が整っていること | 202人 | 20.5%  |
| 2 住宅が古く設備等が新しくなくても、家賃が安いこと  | 239人 | 24.2%  |
| 3 どちらとも言えない                 | 496人 | 50.3%  |
| 4 その他                       | 30人  | 3.0%   |
| 無回答                         | 19人  | 1.9%   |
| サンプル数                       | 986人 | 100.0% |



### 【年代別】

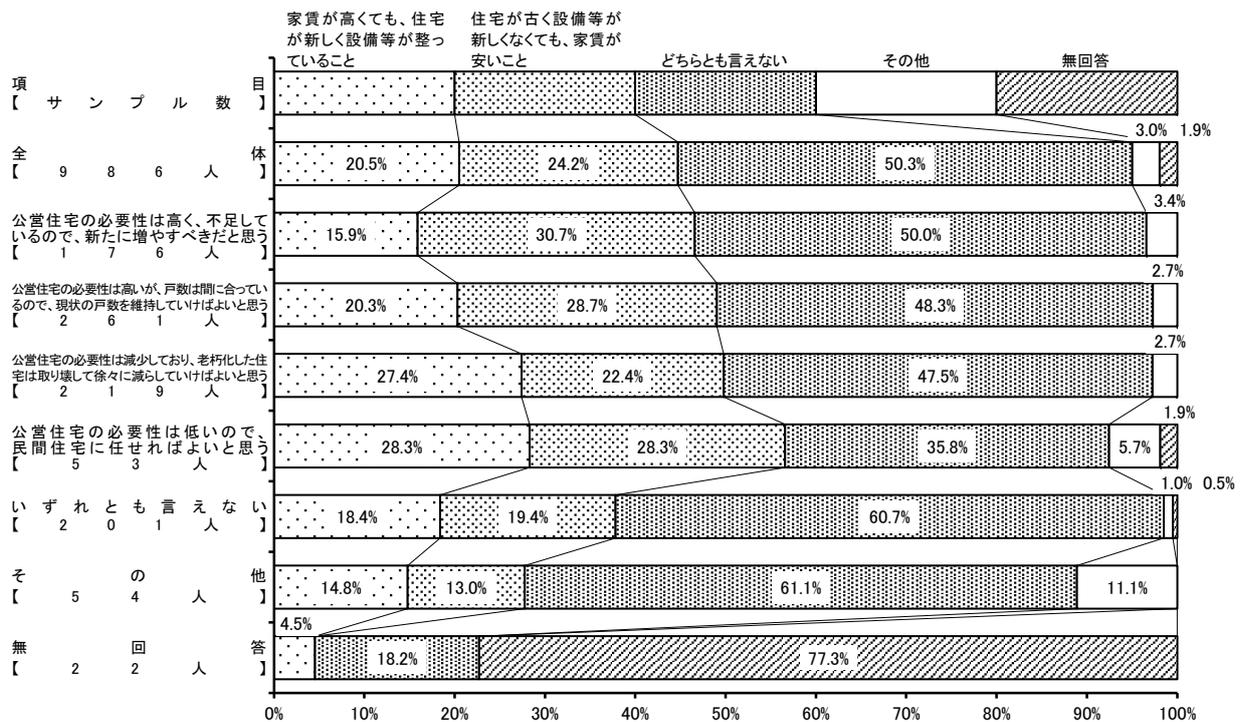


【世帯構成別】



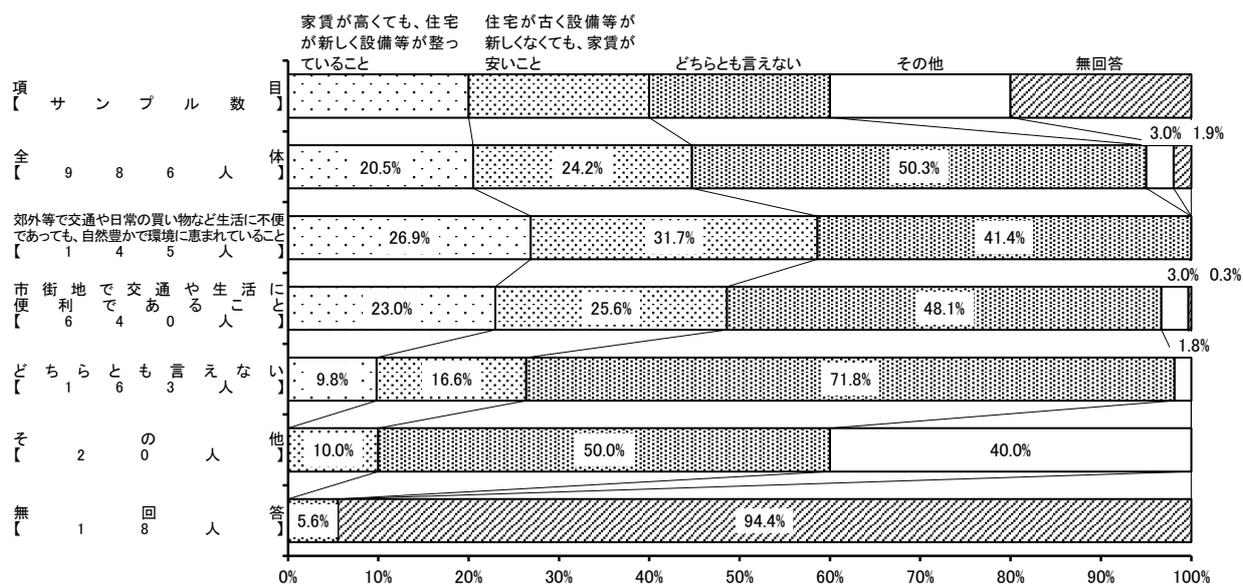
【設問間クロス集計 (問37)】

\*問37 公営住宅は、住宅にお困りで一定の収入以下の方に、低廉な家賃の住宅を賃貸することを目的としています。現状では昭和30年～40年代に建設された公営住宅が数多くあり、老朽化が進行しています。あなたは、今後、老朽化した公営住宅の整備をどのようにしたらよいと思いますか。



【設問間クロス集計（問39）】

\*問39 あなたがこれから住宅を借りるとしたら、場所について何が重要だと思いますか。



## 問41 地域の景観に対する満足度

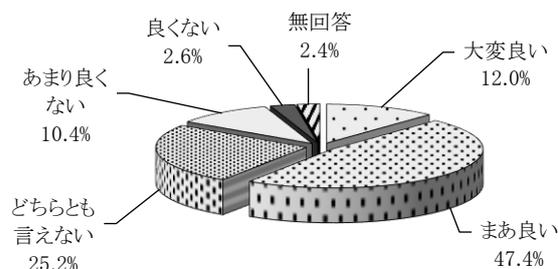
(H22調査 問26)

### ◆ 地域の景観「良い」約6割 「良くない」1割強

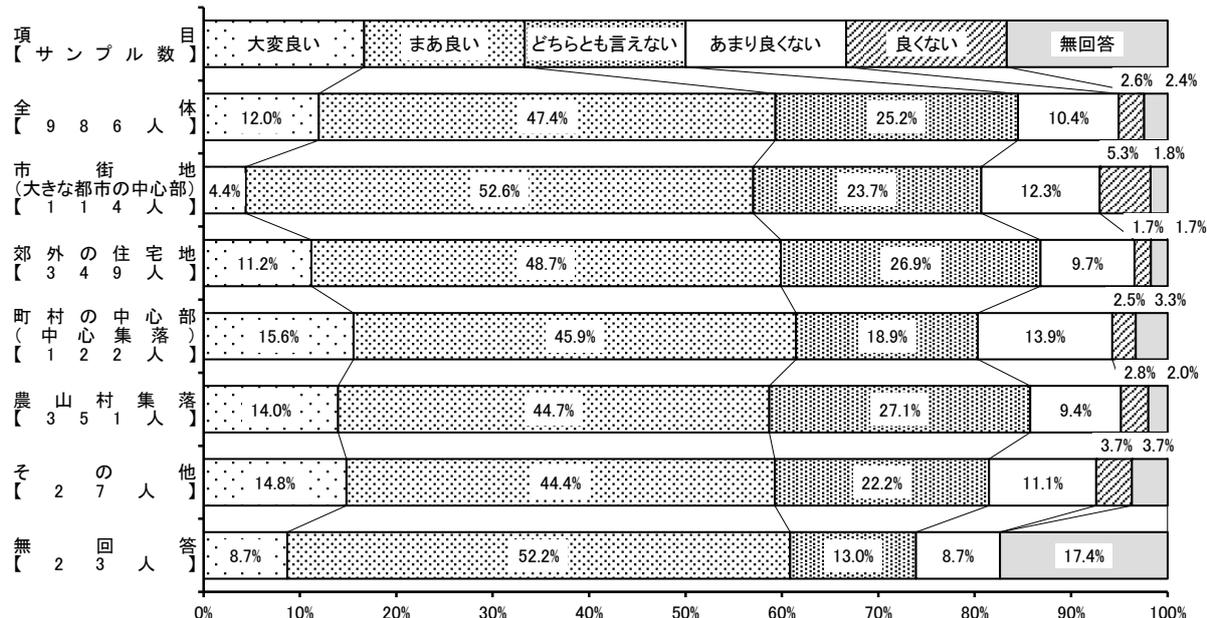
- 現在居住する地区の景観の印象については、「大変良い」が12.0%、「まあ良い」が47.4%、であり、全体の59.4%の方が満足されている結果となった。
- 地域別に「大変良い」+「まあ良い」の割合を見ると各地域とも60%前後と大差はないが、「あまり良くない」+「良くない」の割合は、郊外の住宅地11.4%、農山村集落12.2%、町村の中心部16.4%、市街地17.6%となっており、市街地および町村の中心部での割合が高くなっている。

問 41 あなたは、現在住んでいる地区のまちなみ景観について、どのような印象をお持ちですか。

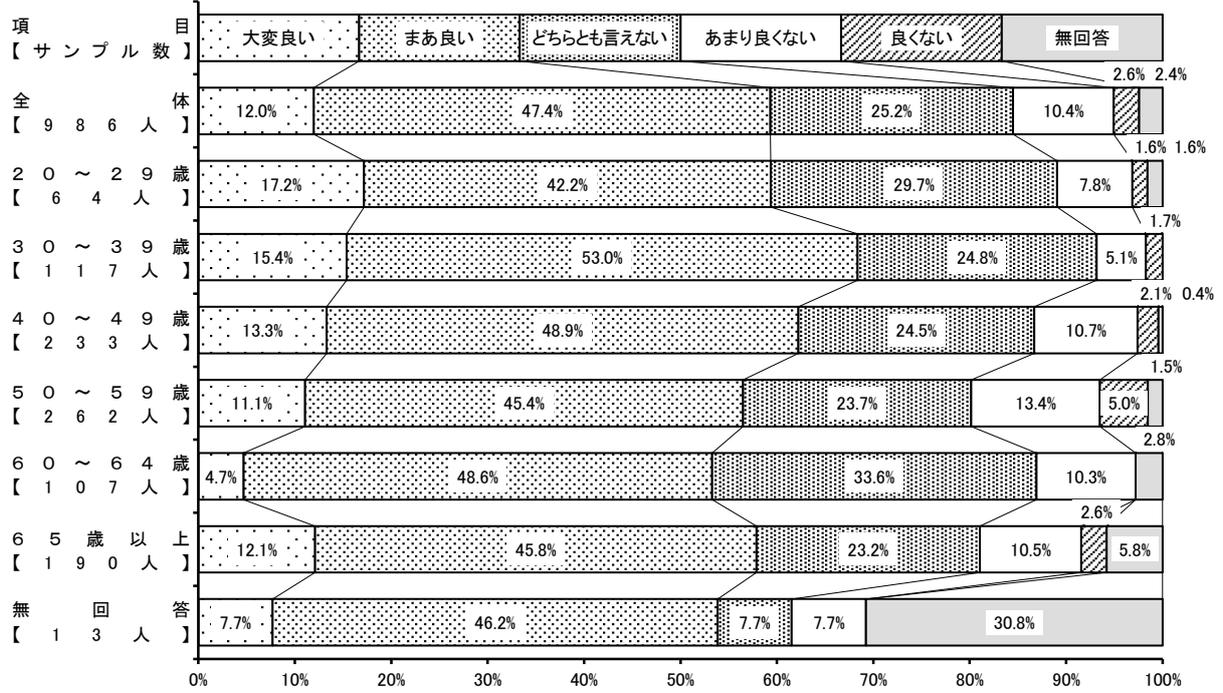
|             | 回答者数 | 割合     |
|-------------|------|--------|
| 1 大変良い      | 118人 | 12.0%  |
| 2 まあ良い      | 467人 | 47.4%  |
| 3 どちらとも言えない | 248人 | 25.2%  |
| 4 あまり良くない   | 103人 | 10.4%  |
| 5 良くない      | 26人  | 2.6%   |
| 無回答         | 24人  | 2.4%   |
| サンプル数       | 986人 | 100.0% |



### 【地域別】



【年代別】



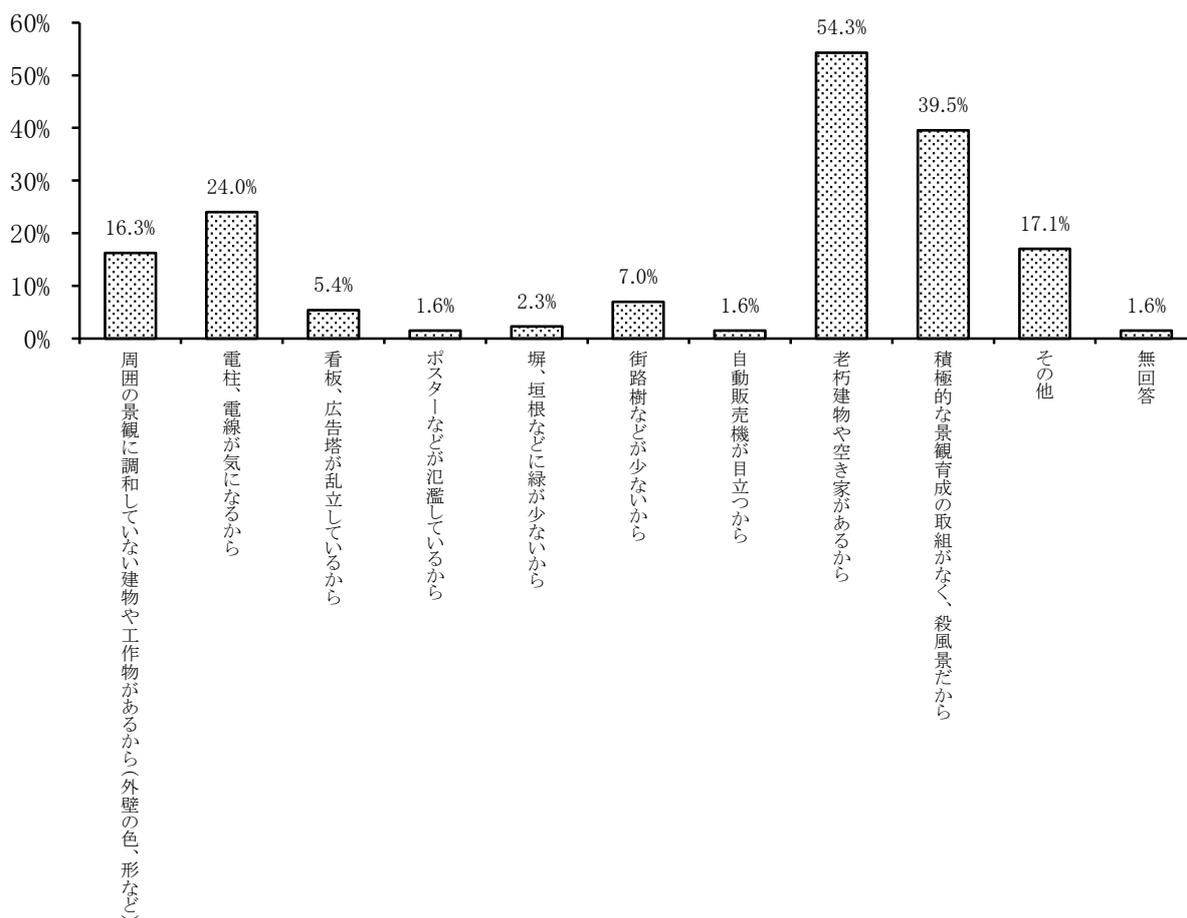
◆ 不満ワースト3

「老朽建物・空き家」「取組みなく殺風景」「電柱・電線」

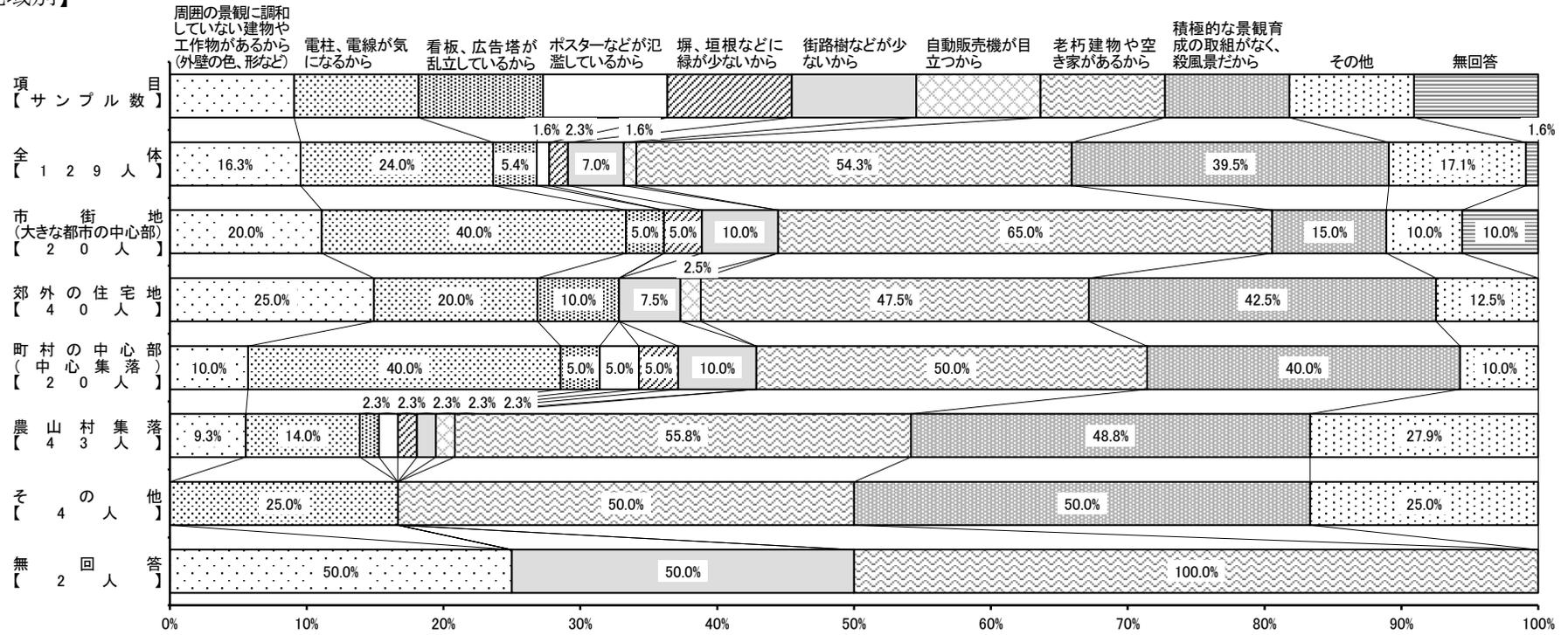
- 問41の、現在居住する地区の景観の印象について「良くない」「あまり良くない」とした方に対しその理由を尋ねたところ、最も多かったのは「老朽建物や空き家がある」54.3%、次いで「積極的な景観育成がなく殺風景」39.5%、「電柱、電線が気になる」24.0%と続いた。
- 地域別に見ると、「老朽建物や空き家がある」は全地域で上位を占めているが特に市街地で多く、「積極的な景観育成がなく殺風景」は市街地以外の地域で特に多くなっている。また、「電柱、電線が気になる」は郊外の住宅地および農山村集落では少ない傾向となっている。

問 42 問41で4または5を選んだ方におたずねします。その主な理由を次の中から2つ以内で選んでください。

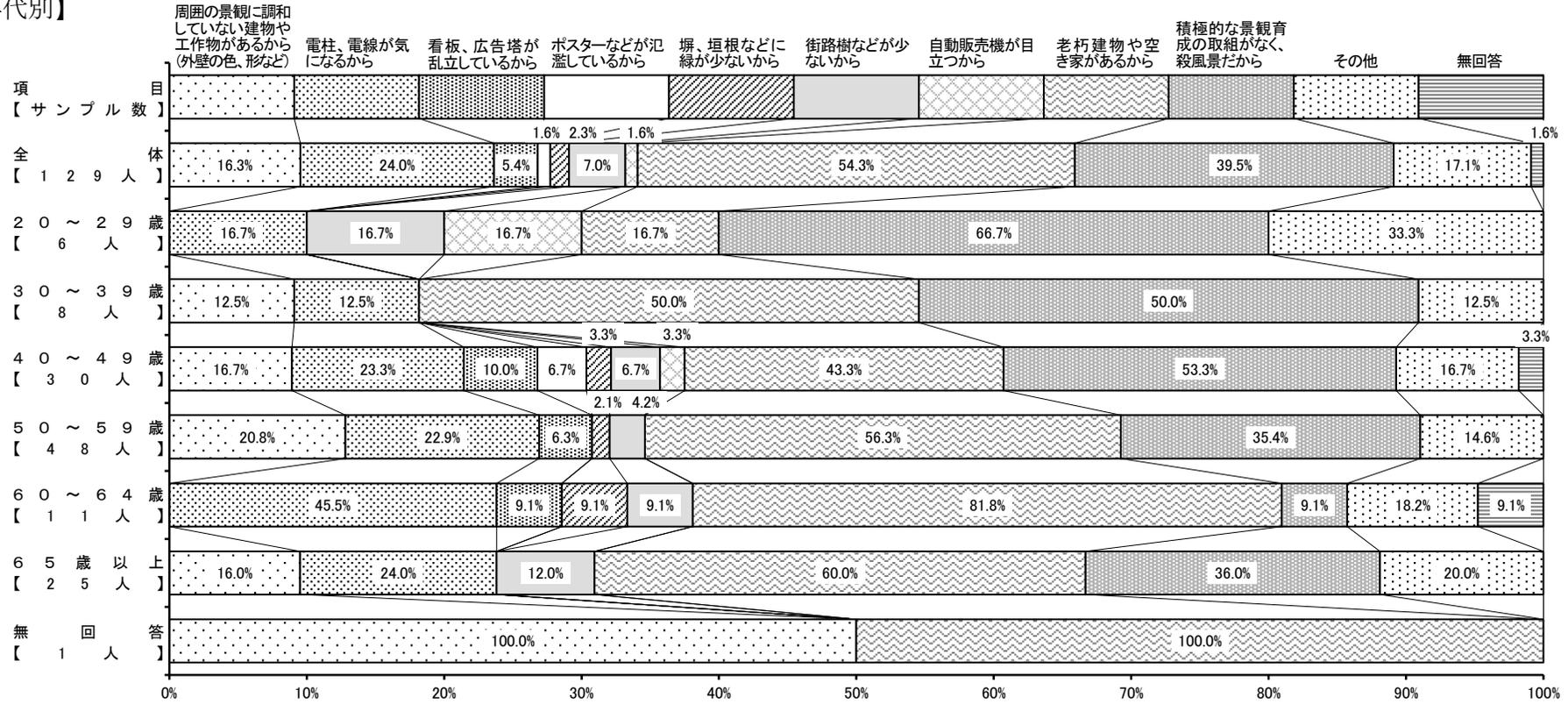
|                                      | 回答者数 | 割合     |
|--------------------------------------|------|--------|
| 1 周囲の景観に調和していない建物や工作物があるから(外壁の色、形など) | 21人  | 16.3%  |
| 2 電柱、電線が気になるから                       | 31人  | 24.0%  |
| 3 看板、広告塔が乱立しているから                    | 7人   | 5.4%   |
| 4 ポスターなどが氾濫しているから                    | 2人   | 1.6%   |
| 5 塀、垣根などに緑が少ないから                     | 3人   | 2.3%   |
| 6 街路樹などが少ないから                        | 9人   | 7.0%   |
| 7 自動販売機が目立つから                        | 2人   | 1.6%   |
| 8 老朽建物や空き家があるから                      | 70人  | 54.3%  |
| 9 積極的な景観育成の取組がなく、殺風景だから              | 51人  | 39.5%  |
| 10 その他                               | 22人  | 17.1%  |
| 無回答                                  | 2人   | 1.6%   |
| サンプル数                                | 129人 | 100.0% |



【地域別】



【年代別】

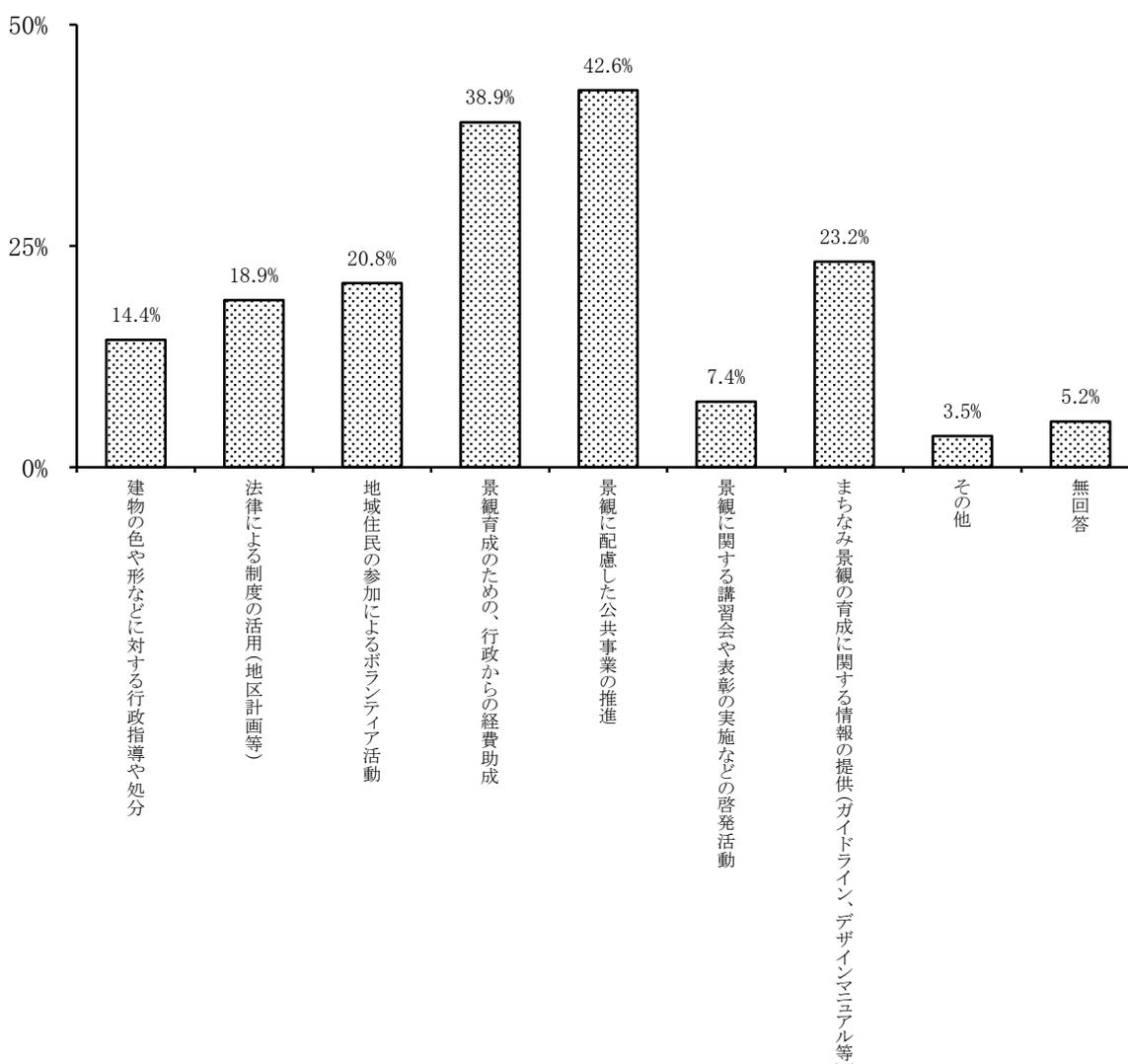


◆ 景観育成「景観に配慮した公共事業の推進」最も高く

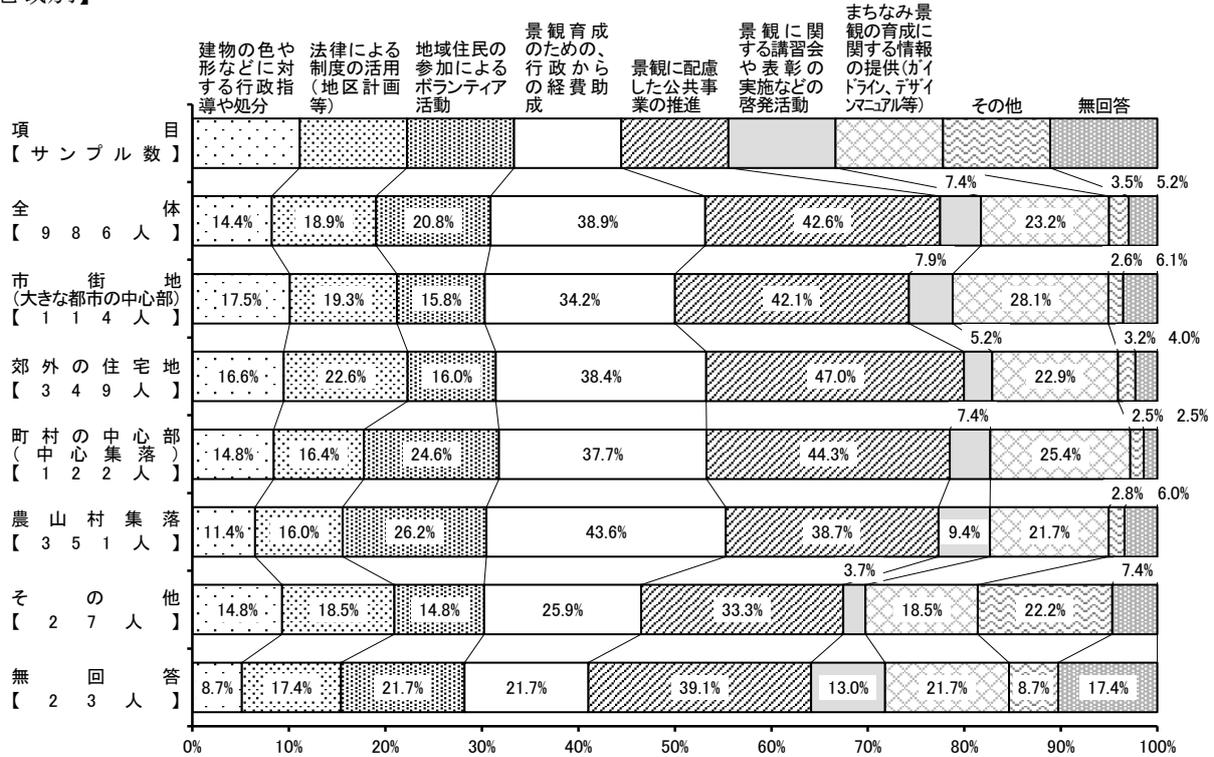
- これからの景観育成について何が大切かという問いに対して、最も多かったのは「景観に配慮した公共事業の推進」が42.6%、次いで「景観育成のための、行政からの経費助成」38.9%、「まちなみ景観の育成に関する情報の提供(ガイドライン、デザインマニュアル等)」23.2%と続いており、上位3項目は前回調査と同様の結果となった。

問 43 あなたは、これからの景観育成のためには、どのようなことが大切だと思いますか。次の中から2つ以内で選んでください。

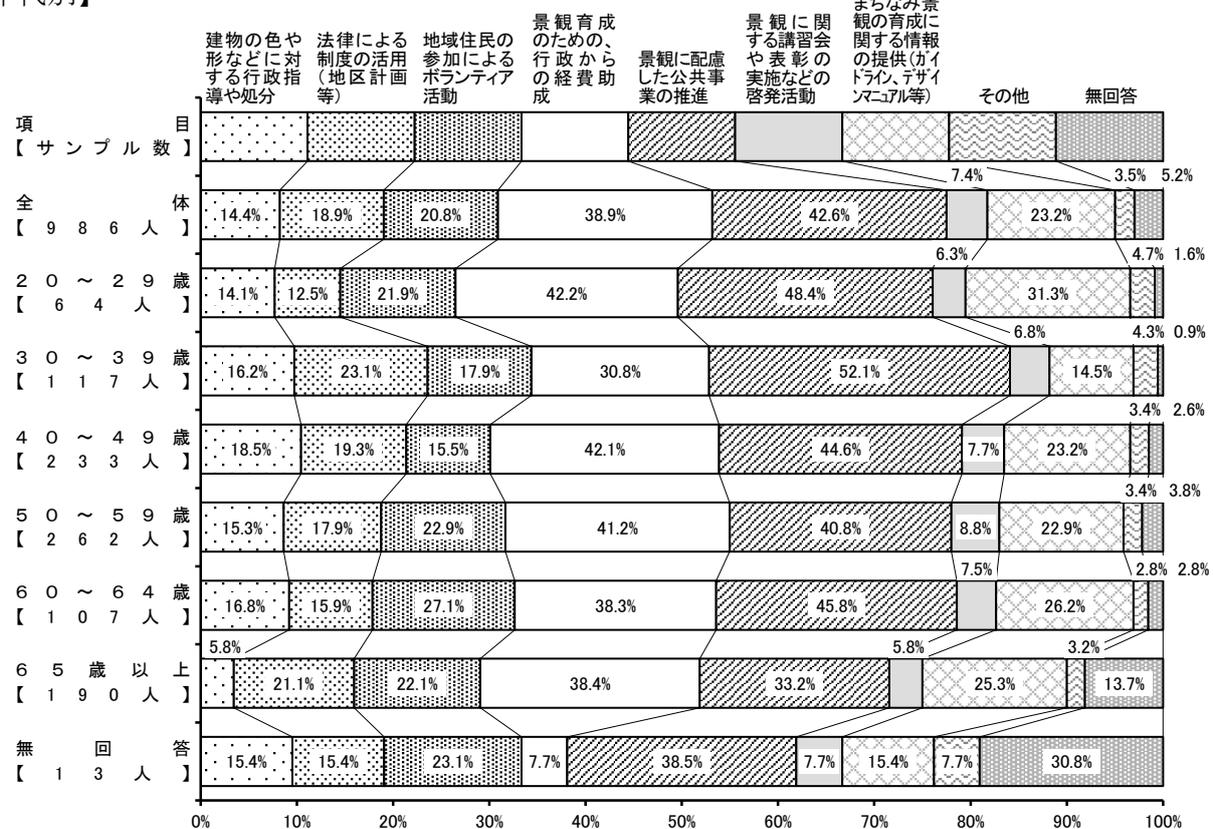
|   | 回答者数 | 割合     |
|---|------|--------|
| 1 建物の色や形などに対する行政指導や処分                   | 142人 | 14.4%  |
| 2 法律による制度の活用(地区計画等)                     | 186人 | 18.9%  |
| 3 地域住民の参加によるボランティア活動                    | 205人 | 20.8%  |
| 4 景観育成のための、行政からの経費助成                    | 384人 | 38.9%  |
| 5 景観に配慮した公共事業の推進                        | 420人 | 42.6%  |
| 6 景観に関する講習会や表彰の実施などの啓発活動                | 73人  | 7.4%   |
| 7 まちなみ景観の育成に関する情報の提供(ガイドライン、デザインマニュアル等) | 229人 | 23.2%  |
| 8 その他                                   | 35人  | 3.5%   |
| 無回答                                     | 51人  | 5.2%   |
| サンプル数                                   | 986人 | 100.0% |



【地域別】

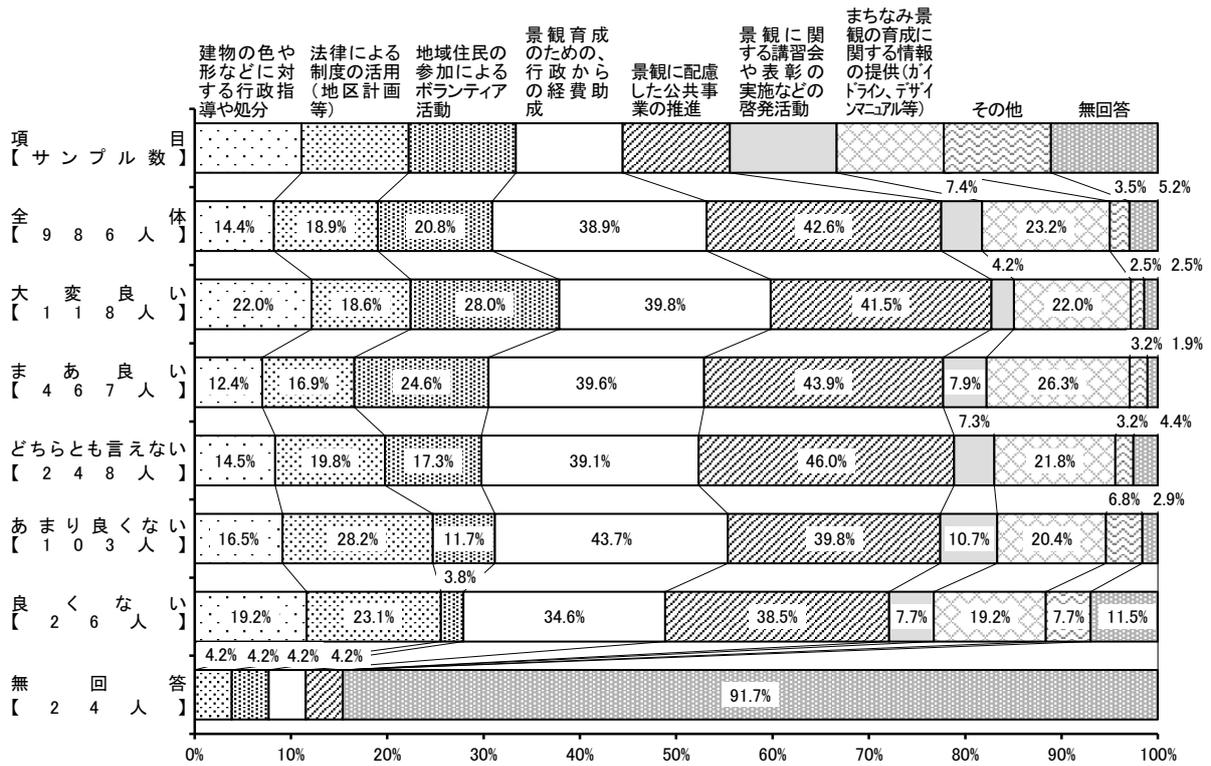


【年代別】



【設問間クロス集計（問41）】

\*問41 あなたは、現在住んでいる地区のまちなみ景観について、どのような印象をお持ちですか。

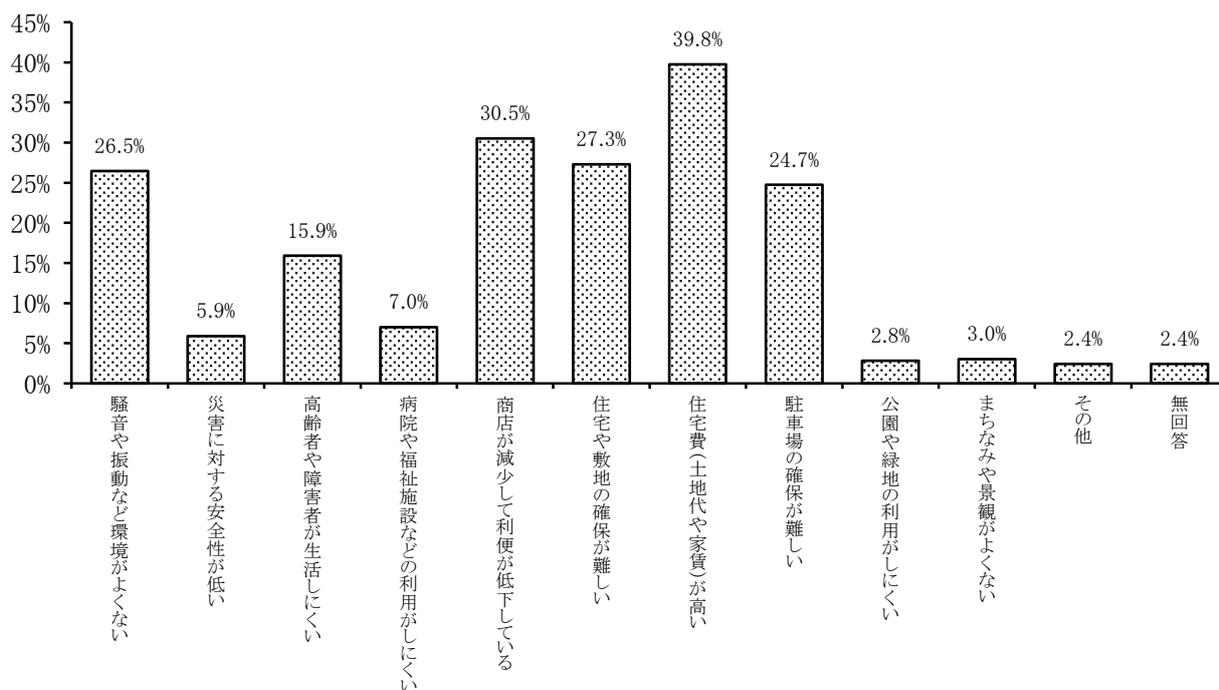


◆ 中心街の人口減「住宅費が高い」39.8%でトップ

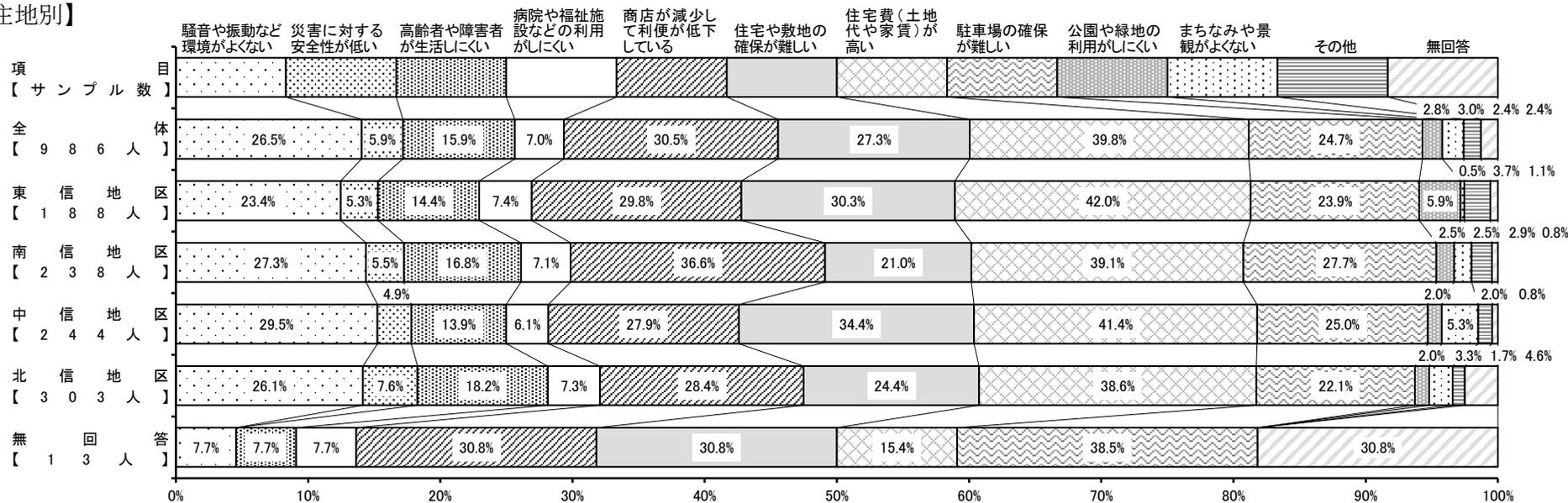
- 市街地の中心部で居住人口が減少している理由を尋ねたところ、「住宅費が高い」が39.8%で最も多く、次いで「商店の減少による利便の低下」が30.5%となっており、「住宅や敷地の確保」「騒音や振動などの環境」「駐車場の確保」と続くそれぞれが2割を越えている。

問 44 あなたは、市街地の中心部に住む人が減少している傾向について、住む環境から見て主にどのような問題があるからだと思いますか。次の中から2つ以内で選んでください。

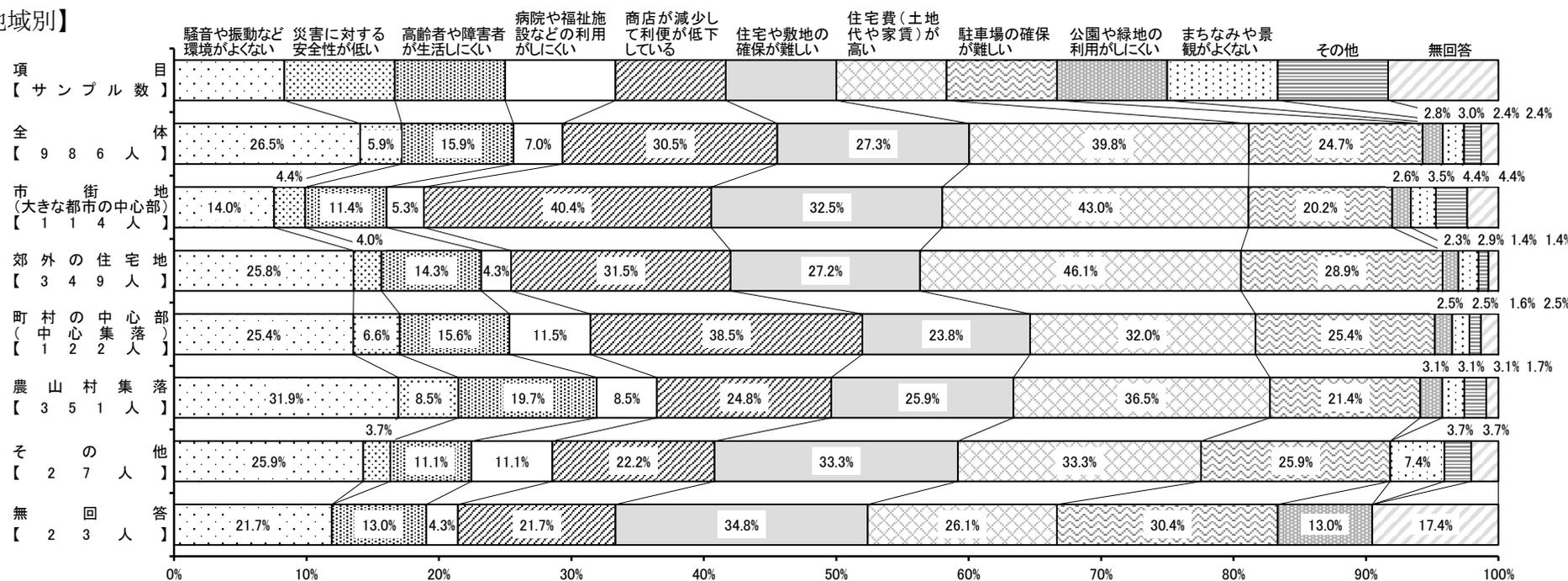
|                     | 回答者数 | 割合     |
|---------------------|------|--------|
| 1 騒音や振動など環境が良くない    | 261人 | 26.5%  |
| 2 災害に対する安全性が低い      | 58人  | 5.9%   |
| 3 高齢者や障害者が生活しにくい    | 157人 | 15.9%  |
| 4 病院や福祉施設などの利用がしにくい | 69人  | 7.0%   |
| 5 商店が減少して利便が低下している  | 301人 | 30.5%  |
| 6 住宅や敷地の確保が難しい      | 269人 | 27.3%  |
| 7 住宅費(土地代や家賃)が高い    | 392人 | 39.8%  |
| 8 駐車場の確保が難しい        | 244人 | 24.7%  |
| 9 公園や緑地の利用がしにくい     | 28人  | 2.8%   |
| 10 まちなみや景観が良くない     | 30人  | 3.0%   |
| 11 その他              | 24人  | 2.4%   |
| 無回答                 | 24人  | 2.4%   |
| サンプル数               | 986人 | 100.0% |



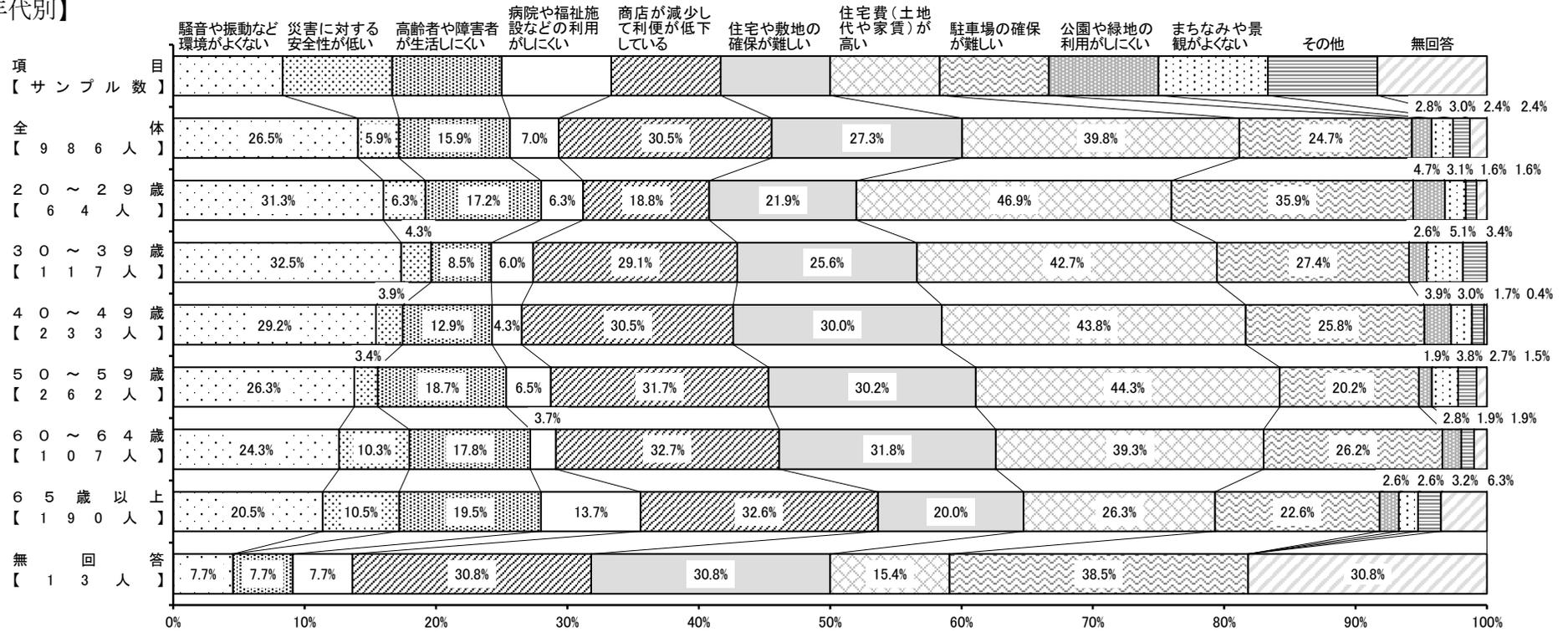
【居住地別】



【地域別】



【年代別】



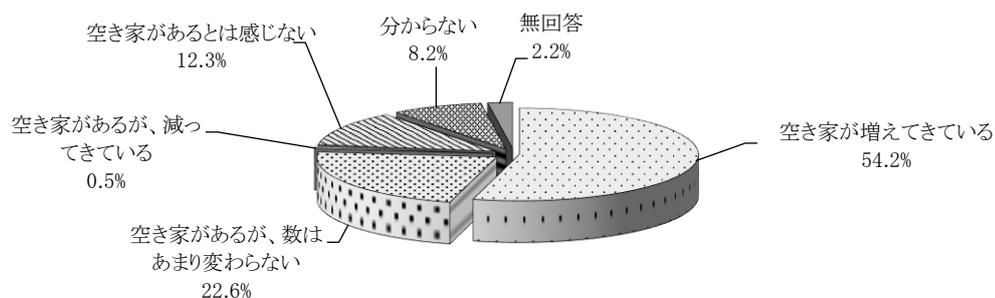
## 問45 周囲の空き家の状況

### ◆ 周囲の空き家「増えてきている」5割以上

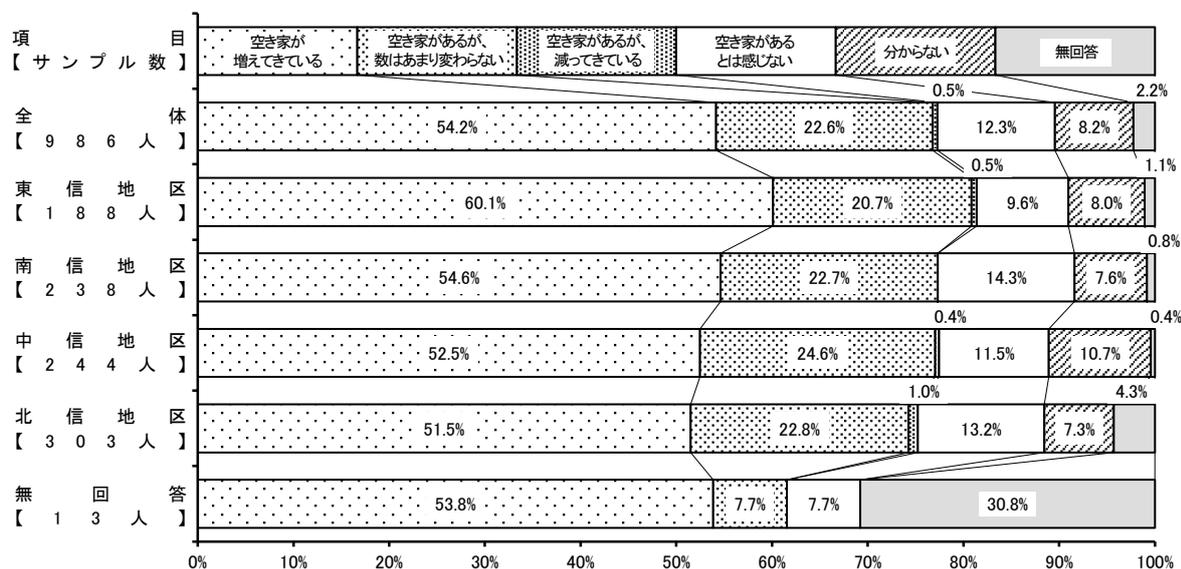
- 周囲の空き家については「増えてきている」54.2%、「減ってきている」0.5%となり、増加を感じている方が多い結果となった。一方で、「数はあまり変わらない」「あるとは感じない」も34.9%となり3割を超えている。
- 地区別にみると、東信地区において「空き家が増えてきている」60.1%となっており、他地区に比べ5%以上高くなっている。
- 地域別では、郊外住宅地の「空き家が増えてきている」の割合が4割程度と最も少なく、また「空き家があるが、数はあまり変わらない」「空き家があるとは感じない」の割合も他地域と比べ高く、空き家が少ないことがうかがえる。

問45 近年、空き家の増加が社会問題になっていますが、あなたは周囲の空き家について、どう感じていますか。

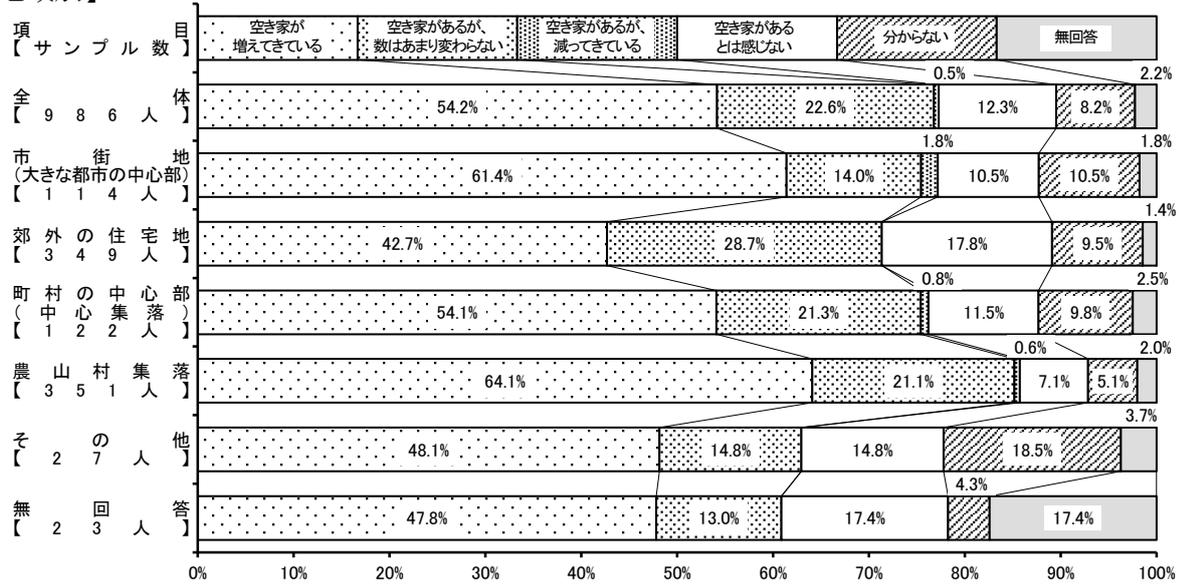
|                      | 回答者数 | 割合     |
|----------------------|------|--------|
| 1 空き家が増えてきている        | 534人 | 54.2%  |
| 2 空き家があるが、数はあまり変わらない | 223人 | 22.6%  |
| 3 空き家があるが、減ってきている    | 5人   | 0.5%   |
| 4 空き家があるとは感じない       | 121人 | 12.3%  |
| 5 分からない              | 81人  | 8.2%   |
| 無回答                  | 22人  | 2.2%   |
| サンプル数                | 986人 | 100.0% |



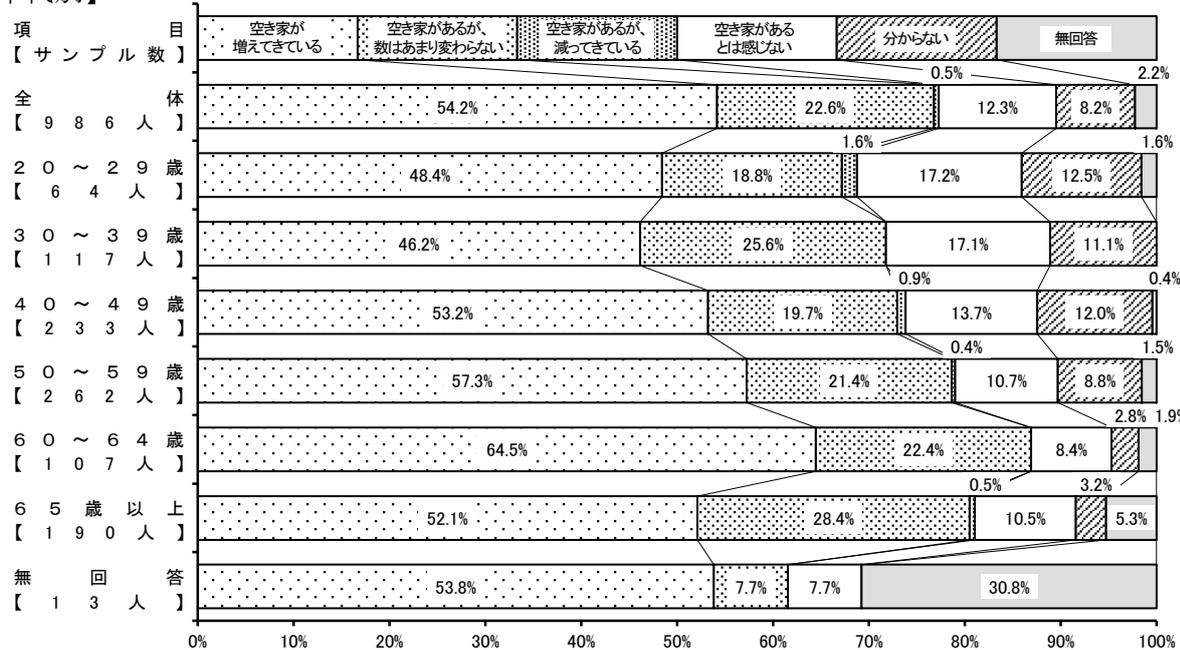
### 【居住地別】



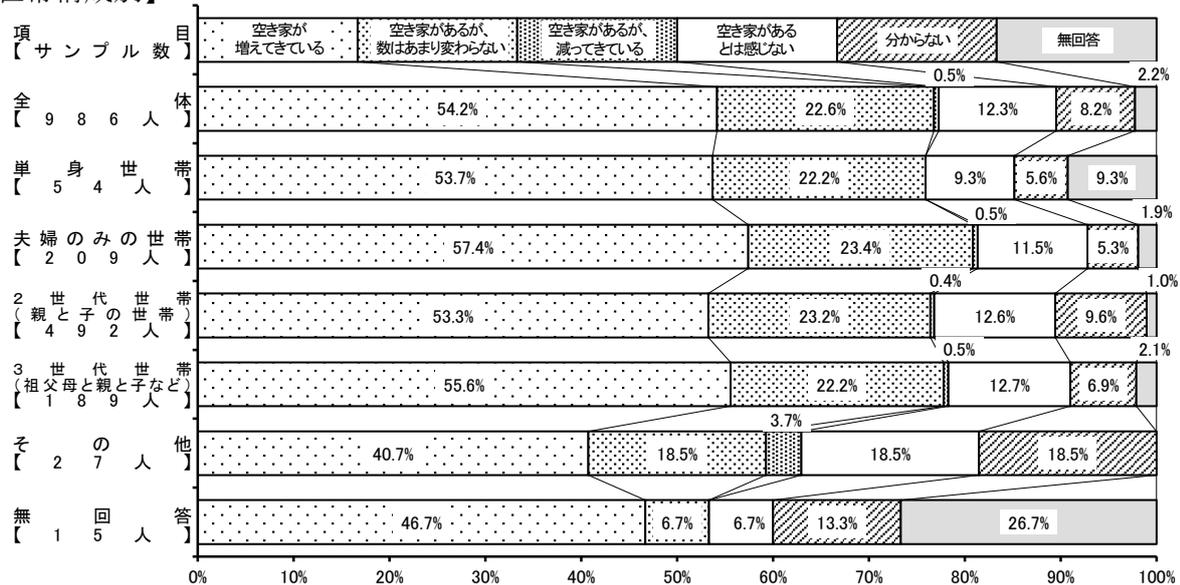
【地域別】



【年代別】



【世帯構成別】



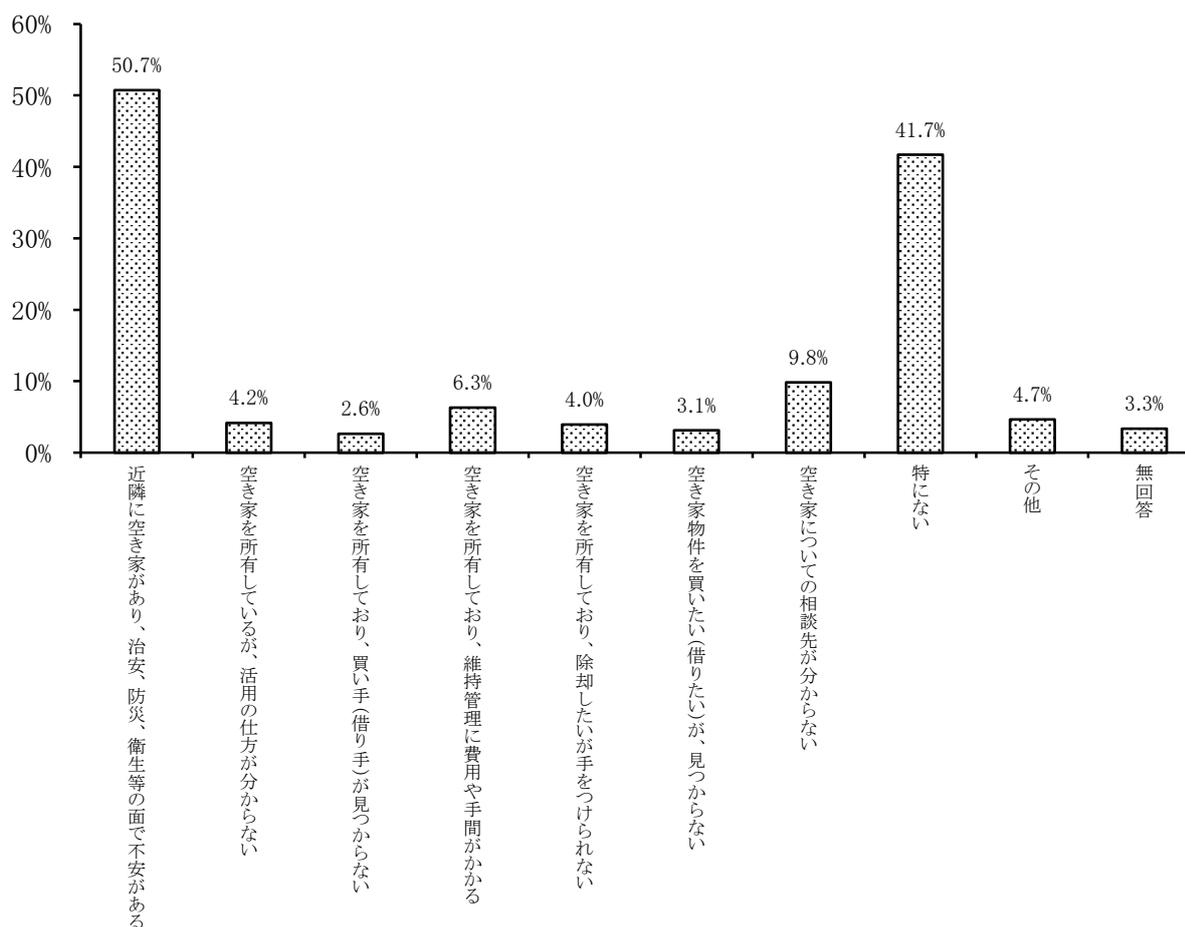
## 問46 空き家に対する不安・問題

### ◆ 空き家に対する不安「近隣に空き家」トップ 「特にない」も高く

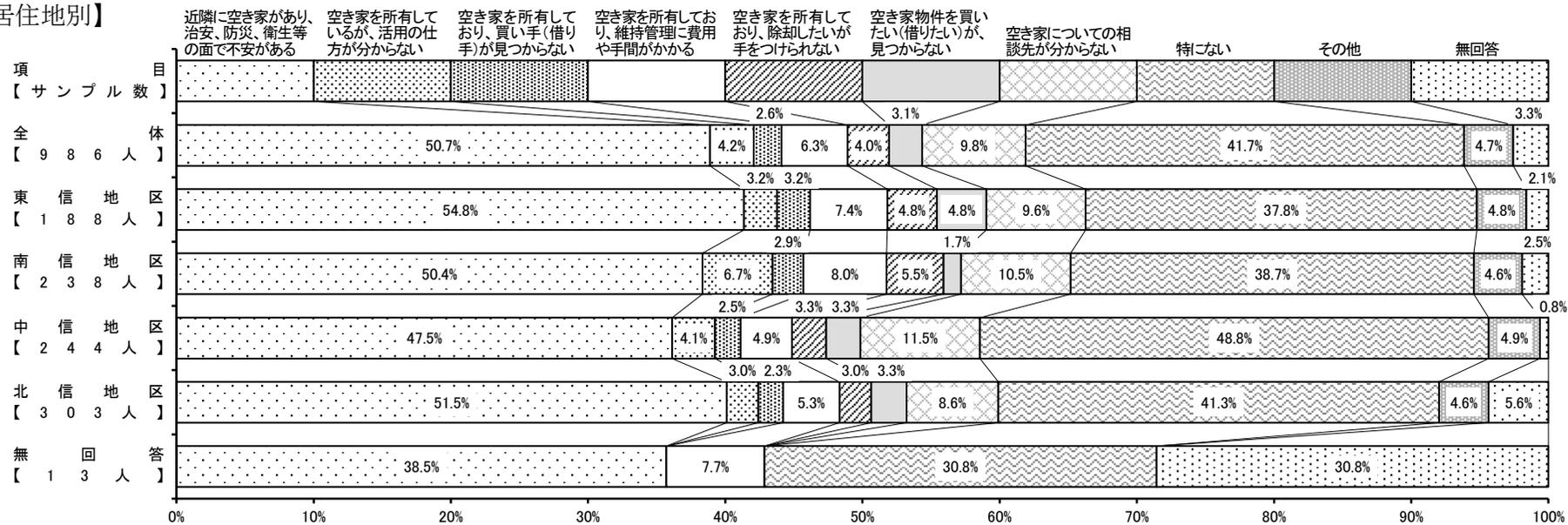
- 「近隣に空き家があり、治安、防災、衛生等の面で不安がある」「空き家を所有しており、維持管理に費用や手間がかかる」と感じている方は高齢者になるほど多くなる傾向がある。
- 地区別にみると、中信地区では「近隣に空き家があり、治安、防災、衛生等の面で不安がある」が47.5%と最も少なくなっている。また、空き家の所有者については南信地区が23.1%と最も多くなっている。

問 46 あなたにとって、空き家に関する不安、問題、困っていること等がありますか。次の中から3つ以内で選んでください。

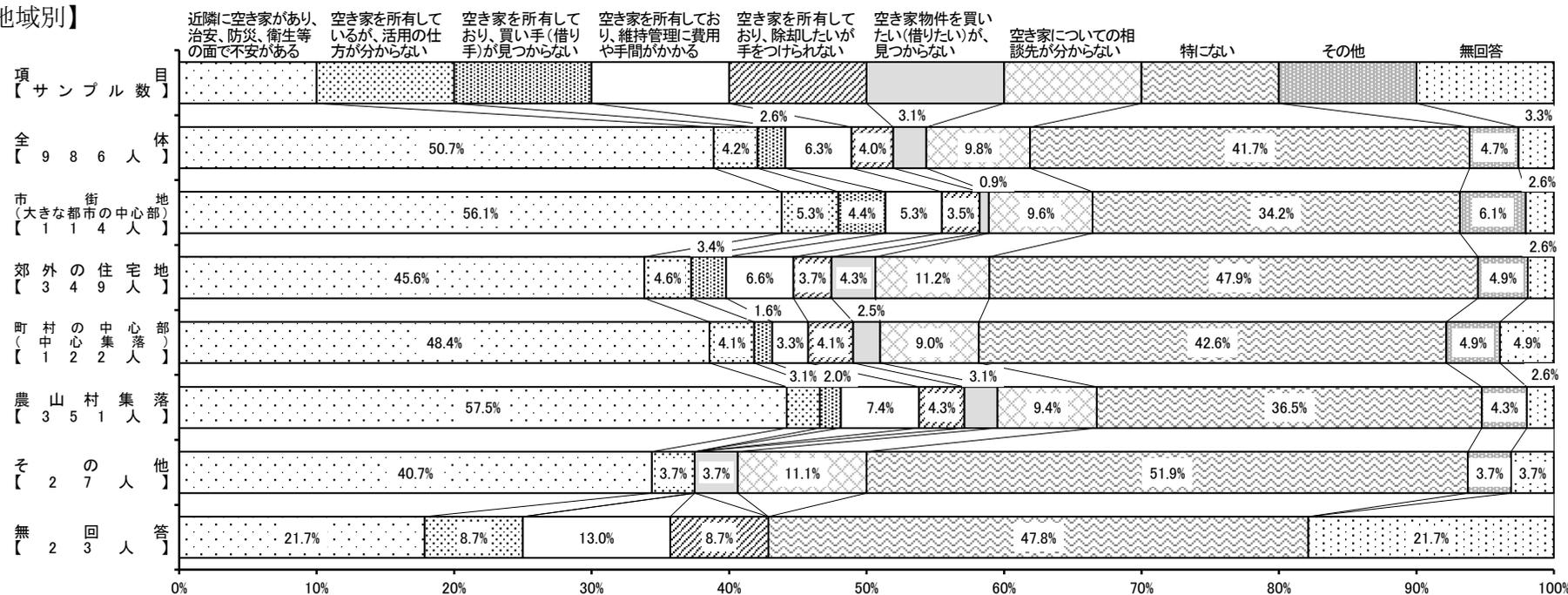
|                               | 回答者数 | 割合     |
|-------------------------------|------|--------|
| 1 近隣に空き家があり、治安、防災、衛生等の面で不安がある | 500人 | 50.7%  |
| 2 空き家を所有しているが、活用の仕方が分からない     | 41人  | 4.2%   |
| 3 空き家を所有しており、買い手(借り手)が見つからない  | 26人  | 2.6%   |
| 4 空き家を所有しており、維持管理に費用や手間がかかる   | 62人  | 6.3%   |
| 5 空き家を所有しており、除却したいが手をつけられない   | 39人  | 4.0%   |
| 6 空き家物件を買いたい(借りたい)が、見つからない    | 31人  | 3.1%   |
| 7 空き家についての相談先が分からない           | 97人  | 9.8%   |
| 8 特にない                        | 411人 | 41.7%  |
| 9 その他                         | 46人  | 4.7%   |
| 無回答                           | 33人  | 3.3%   |
| サンプル数                         | 986人 | 100.0% |



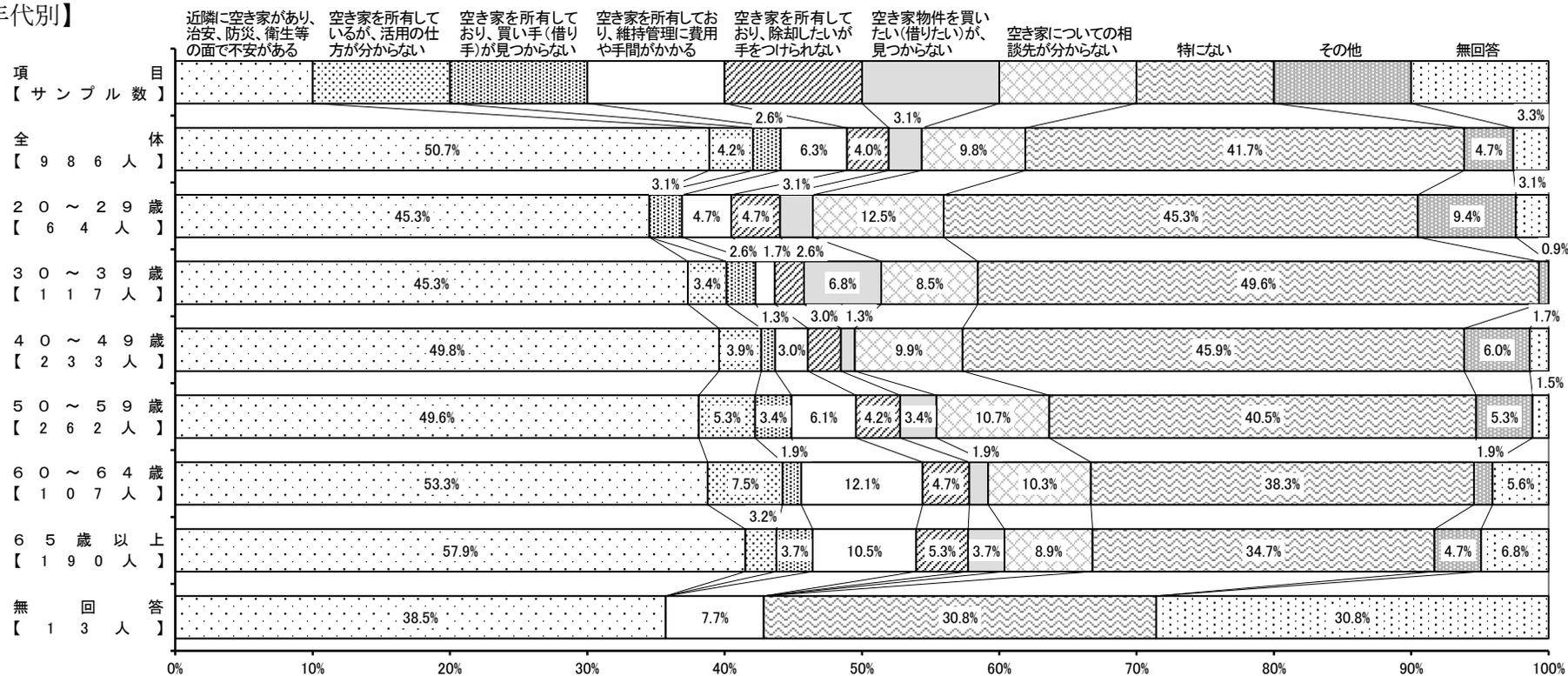
【居住地別】



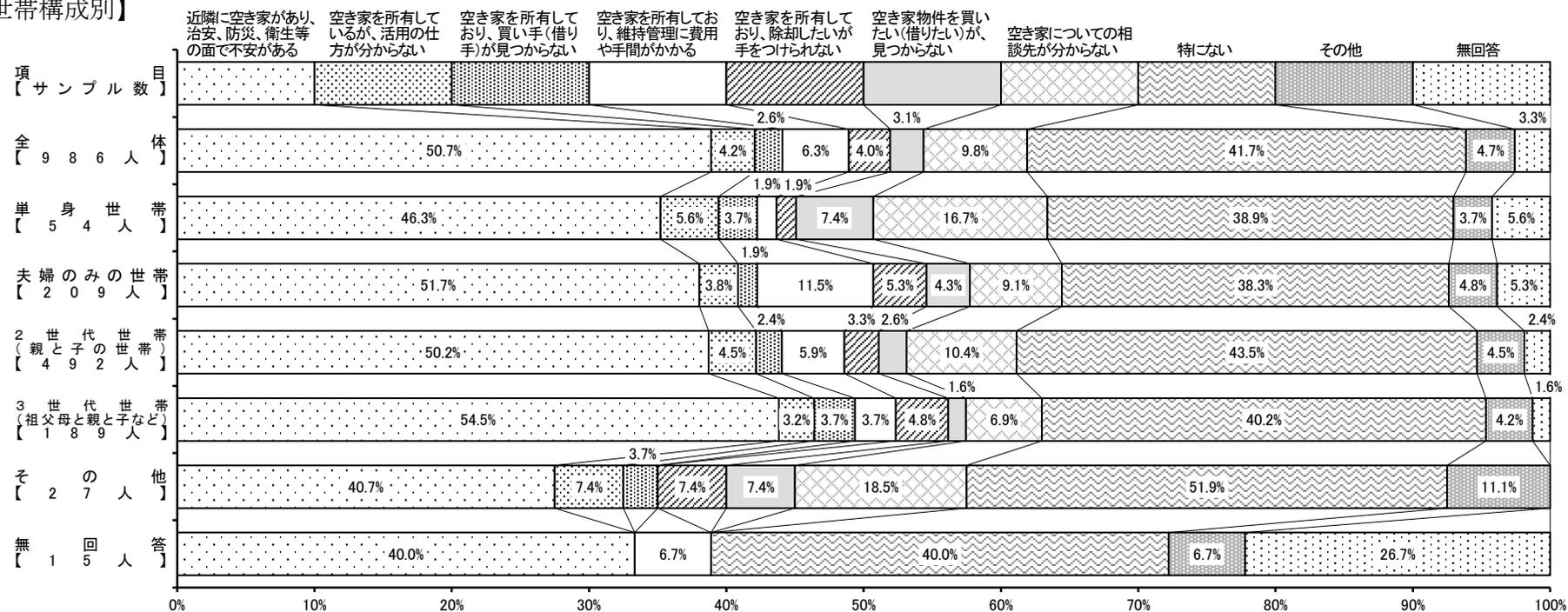
【地域別】



【年代別】

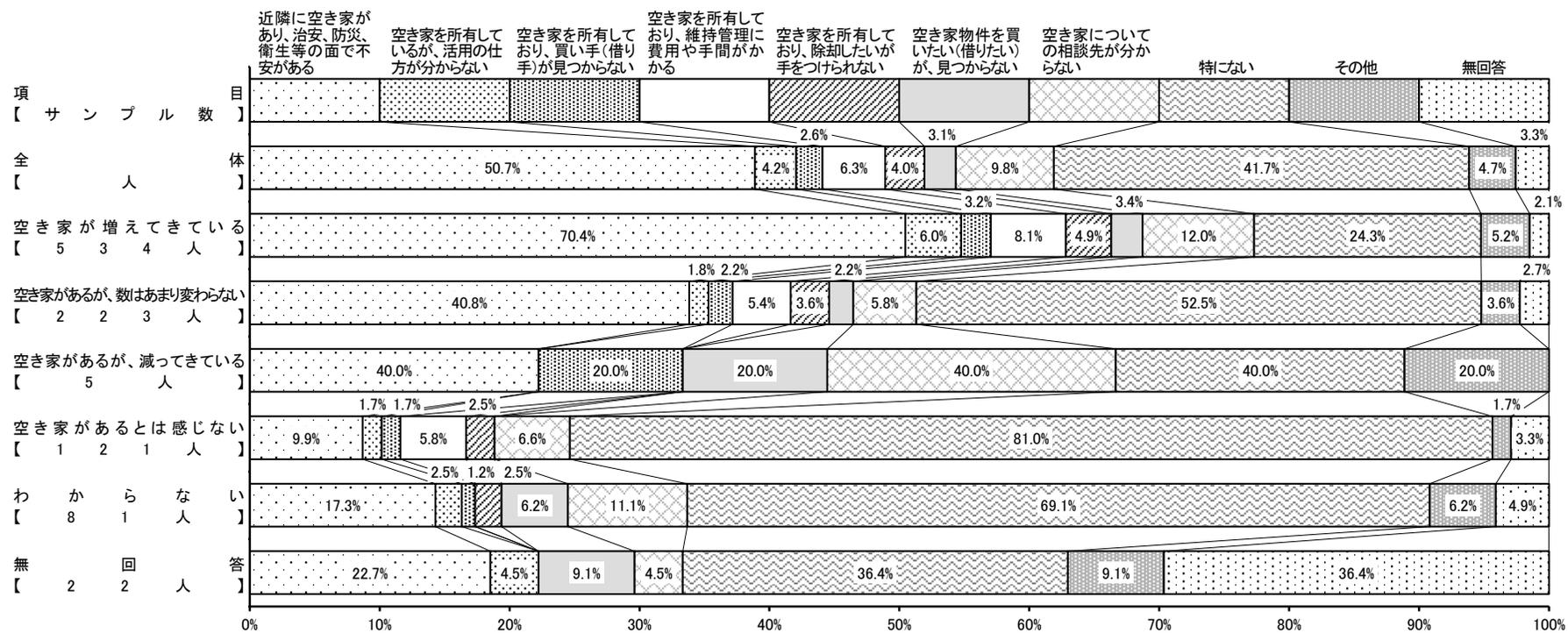


【世帯構成別】



【設問間クロス集計（問45）】

\*問45 近年、空き家の増加が社会問題になっていますが、あなたは周囲の空き家について、どう感じていますか。



## 問47 「信州らしい住まい」のイメージ

問 47 あなたにとって「信州らしい住まい」とはどのようなイメージですか。どんなことでも構いませんので、ご自由にお書きください。

- 自由記入方式で回答を求めたところ、次のようなイメージとキーワードが多く得られた。

### 1. 自然と調和した住まい

自然豊か(水、空気、緑、山、森林)、自然素材、景観 など

### 2. 木を活かした住まい

木造、県産材、まきストーブ、生垣、庭木 など

### 3. 農業を取り入れた住まい

家庭菜園、田園風景、自給自足、農家住宅 など

### 4. 伝統、文化と調和した住まい

古民家、和風、地域文化、旧街道、田舎の原風景、昔ながら、在来工法 など

### 5. 寒冷地に適した住まい

高断熱、冬寒くない、床暖房、雪に強い など

### 6. あたたかい交流のある住まい

近所付き合い、世代間交流、三世代同居、縁側 など

### 7. ゆとりのある住まい

一戸建て、隣家との間隔が広い、駐車場が広い、広い間取り、庭 など

### 8. 自然エネルギーを活用した住まい

高い晴天率、太陽光・太陽熱、通風 など

- その他、居住環境も含めて、次のようなイメージが見られた。

- ・ 近隣同士のつながりがあり、幅広い年齢層の人々が生き生きと生活できる
- ・ はっきりした四季を感じることができる
- ・ 豊かな自然の中で、子どもたちがのびのびと育つ
- ・ 多少の不便があってもゆったりのんびり住んでいける  
(交通の便が悪い、公園が少ない)

## 問48 行政に期待すること

問 48 住宅・景観・まちづくりなどについて、行政に期待することや意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

- 自由記入方式で回答を求めたところ、次のような意見が多く得られた。

### 1. 景観

- ・ 色彩や形状などに統一感のある街並みづくりを進めてほしい。
- ・ 街路樹の剪定や雑草の処理を行き届かせて、沿道の景観をよくしてほしい。
- ・ 農村風景を生かしていくべき。なくなってしまうたら復活できない。

### 2. まちづくり

- ・ 道幅を広くするなど、自動車、自転車、歩行者がゆとりをもって通行できるまちづくりをしてほしい。
- ・ 整備された遊歩道や公園を増やしてほしい。子育てのしやすさにつながる。
- ・ 高齢者など車を使用しない方の生活を考慮して、交通の利便性を高めてほしい。

### 3. 公営住宅

- ・ 公営住宅の充実をお願いしたい。安心して住める公営住宅を増やしてほしい。
- ・ 公営住宅の老朽化が目立つため、改善が望まれる。
- ・ 若い人用、高齢者用など、その土地のニーズに応えられるものを整備してほしい。

### 4. 空き家

- ・ 宅地開発より既存宅地の有効利用に誘導すべき。
- ・ 空き家が多く、防犯上問題がある。処理が進むようにしてほしい。
- ・ 空き家を住宅困窮者や子育て世代のために役立てられないか。
- ・ 空き家の所有者が賃貸や売却をしやすいような施策をとってほしい。

- その他、全般的なものとして、次のような意見が見られた。

- ・ 地域の要望にすばやく対応してほしい。
- ・ 地域住民のやる気を育てる後押しをお願いしたい。
- ・ 行政に依存せず自分たちの問題だと考えるよう、啓発活動をしてほしい。
- ・ 市民による市民のためのまちづくりを行政は推進してほしい。
- ・ 低所得層の県民を支える、あたたかみのある住宅政策を期待する。
- ・ 安全で安心して暮らせるまちづくりを期待する。
- ・ 優遇措置など、積極的に情報提供してほしい。

### Ⅲ 調 査 票

# 住まいに関する県民アンケート

平成27年12月  
長野県 建設部

## 〔ご記入に際してのお願い〕

- ・ご記入は、鉛筆または黒・青のペン・ボールペンでお願いします。
- ・質問番号順にお答えください。質問の中には、一部の方だけにだけお尋ねするものがありますが、その場合は、(→)等の指示にそってご覧ください。
- ・回答は、あてはまる選択肢についている番号を、質問右側の枠内に記入してください。
- ・「その他( )」にあてはまる時は、その番号を枠内に記入し、( )内に具体的に記入してください。
- ・ご記入が終わりましたら、調査票を返信用の封筒に入れて、12月22日(火)までにご返送くださるようお願いいたします。

## 〔目次〕

- I 住宅・居住環境に関する意識・志向について
- II 住宅建設における環境対策について
- III 住宅の地震対策について
- IV 高齢社会における住宅対策について
- V 公営住宅のあり方について
- VI 景観・地域コミュニティについて
- VII その他

○アンケートにお答えいただく前に、アンケート結果を統計的に分析するため、あなたご自身のことについてお聞かせください。

問1 あなたの居住地を選んでください。

- [東信地域] 1 上田市      2 小諸市      3 佐久市      4 東御市  
5 南佐久郡      6 北佐久郡      7 小県郡
- [南信地域] 8 岡谷市      9 飯田市      10 諏訪市      11 伊那市      12 駒ヶ根市  
13 茅野市      14 諏訪郡      15 上伊那郡      16 下伊那郡
- [中信地域] 17 松本市      18 大町市      19 塩尻市      20 安曇野市  
21 木曾郡      22 東筑摩郡      23 北安曇郡
- [北信地域] 24 長野市      25 須坂市      26 中野市      27 飯山市      28 千曲市  
29 埴科郡      30 上高井郡      31 下高井郡      32 上水内郡      33 下水内郡

問2 あなたがお住まいの地域を選んでください。

- 1 市街地 (大きな都市の中心部)      2 郊外の住宅地 (大きな都市の中心部周辺や隣接町村)  
3 町村の中心部 (中心集落)      4 農山村集落  
5 その他 ( )

問3 あなたの性別を選んでください。

- 1 男性      2 女性

問4 あなたの年齢を選んでください。

- 1 20～29歳      2 30～39歳      3 40～49歳  
4 50～59歳      5 60～64歳      6 65歳以上

問5 あなたの世帯の構成を選んでください (同居世帯を含む)。

- 1 単身世帯      2 夫婦のみ世帯  
3 2世代世帯 (親と子の世帯)      4 3世代世帯 (祖父母と親と子など)  
5 その他 ( )

問6 あなたの世帯には65歳以上の方がいますか。

- 1 いる      2 いない

問7 あなたの世帯には18歳未満の方がいますか。

- 1 いる      2 いない

問8 あなたが現在住んでいる住宅は、次のどれに該当しますか。

- [持家] 1 持家の一戸建て      2 持家の共同住宅 (分譲マンションなど)  
[借家] 3 借家の一戸建て      4 公営住宅 (県営住宅や市町村営住宅など)  
5 借家の高齢者向け民間共同住宅 (高齢者専用住宅、サービス付き高齢者向け住宅など)  
6 借家の民間共同住宅 (高齢者向け以外のアパート、賃貸マンションなど)  
7 社宅・官舎・寮など  
[他] 8 その他 ( )

問9 あなたが現在住んでいる住宅は、いつ頃建築されましたか。

- 1 昭和45年以前      2 昭和46年～昭和55年      3 昭和56年～平成2年  
4 平成3年～平成12年      5 平成13年～平成22年      6 平成23年以降  
7 分からない

(注) 借家などにお住まいの方もご承知されている範囲で記入してください。

## I 住宅・居住環境に関する意識・志向について

住宅は、あなたの健康や生活の基盤であるとともに、あなたの家族を育むかけがえのない生活の場所でもあります。安心して心豊かに生活するためには、良質で、希望に合った住宅に住むことができる環境を整えることが重要となります。そこで、住宅や居住環境に対するあなたのご意見やお考えをお聞きします。

(全員の方におたずねします。)

問10 生活の基本的な要素は「衣」・「食」・「住」であるといわれていますが、あなたの「住」(住まい)は、10年前に比べて良くなっていますか。

- 1 良くなっている      2 やや良くなっている      3 どちらとも言えない  
4 やや悪くなっている      5 悪くなっている

(全員の方におたずねします。)

問11 あなたは、自分が住む住宅は持家と借家のどちらがよいと思いますか。

- 1 持家      2 借家      3 特にこだわらない

(全員の方におたずねします。)

問12 あなたは、新たに住宅を取得するとしたら、新築住宅と中古住宅のどちらがよいと思いますか。

- 1 新築住宅 (→問14へ)      2 中古住宅 (→問13へ)  
3 特にこだわらない (→問14へ)

(問12で2を選んだ方におたずねします。)

問13 中古住宅がよいと思う理由を次の中から2つ以内で選んでください。

- 1 実物を見て生活をイメージできるから  
2 省資源・環境保全に貢献できると思うから  
3 自分の手でリフォームすることを楽しめそうだから  
4 新築住宅に比べて価格が手頃だと思うから  
5 すぐに入居できるから  
6 昔ながらの雰囲気が好きだから  
7 その他 ( )

(問12で1または3を選んだ方におたずねします。)

問14 中古住宅を選択しなかった理由を次の中から2つ以内で選んでください。

- 1 早い時期にリフォーム(修繕や増改築など)が必要となりそうだから  
2 耐久性に問題がありそうだから  
3 資産価値の割に価格が高そうだから  
4 他の人が利用した住宅に住みたくないから  
5 希望通りの間取りや内装の住宅が見つかりにくそうだから  
6 見えない部分の状態に不安があるから  
7 その他 ( )

(全員の方におたずねします。)

問15 あなたは、新たに住宅を取得するとしたら、どのような構造の住宅を選びたいと思いますか。

- 1 一戸建ての木造住宅で、在来工法のもの(→問16へ)  
2 一戸建ての木造住宅で、在来工法以外のもの(プレハブ工法、ログハウスなど)  
3 一戸建ての非木造住宅(鉄骨造や鉄筋コンクリート造の住宅)  
4 マンションなどの集合住宅  
5 特にこだわらない  
6 その他 ( )
- } (→問17へ)

(注) 「在来工法」とは、木造軸組工法ともいい、土台の上に柱を立てて梁を架ける工法で、日本では最も一般的な建て方です。「プレハブ工法」とは、規格化された部品や部材をあらかじめ工場で生産し、建築場所で組み立てる建て方です。

(問15で1を選んだ方におたずねします。)

問16 構造材(土台、柱、梁・桁等)の加工について、どのような住宅を選びたいと思いますか。

- 1 大工職人の手作業による加工(いわゆる「手刻み」)を中心にしたもの
- 2 工場での機械加工(いわゆる「プレカット」)を中心にしたもの
- 3 特にこだわらない

(全員の方におたずねします。)

問17 あなたは、住宅を新築したりリフォームするとしたら、どこに依頼しようと思いますか。

- 1 大手ハウスメーカー
- 2 地場の建築会社や大工・工務店
- 3 設計は建築士(設計事務所)、建設は建築会社、大工・工務店
- 4 特にこだわらない
- 5 その他( )

(→問18へ)

(→問19へ)

(問17で1から3を選んだ方におたずねします。)

問18 その主な理由を次の中から2つ以内で選んでください。

- 1 技術力が高いから
- 2 経験が豊富だから
- 3 知名度が高いから
- 4 建設費が安いから
- 5 アフターサービスが良いから
- 6 知り合いがいる、または自分が関係しているから
- 7 人柄が信頼できるから
- 8 細かな要望にも応えてくれそうだから
- 9 その他( )

(全員の方におたずねします。)

問19 あなたは、新たに住宅を取得するとしたら、どのような点を特に重視しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- 1 地震・台風などに対する強さ
- 2 火災時の避難のしやすさや建物の燃えにくさ
- 3 耐用年数の長さ・耐久性
- 4 給排水管やガス管の修理や修繕のしやすさ
- 5 断熱性や気密性
- 6 内装材などの健康への配慮
- 7 日照、採光、通風のよさ
- 8 維持管理のしやすさ
- 9 高齢者をはじめ誰もが使いやすい構造や設備
- 10 防犯性
- 11 間取りの変更のしやすさ
- 12 十分な広さ、ゆとりのスペース
- 13 光熱費などランニングコストの低さ
- 14 外観や内装などのデザイン
- 15 その他( )

(全員の方におたずねします。)

問20 あなたが現在住んでいる住宅をリフォームする予定または希望はありますか。

- 1 ある(→問21、問22、問23へ)
- 2 ない(→問24へ)

(問20で1を選んだ方におたずねします。)

問21 どのようなリフォームをしたいですか。次の中から3つ以内で選んでください。

- 1 リビングを広くするなど間取りの変更
- 2 手すり設置、段差解消などバリアフリー化
- 3 面積の拡大(増築)
- 4 台所・キッチンの設備の性能向上・更新
- 5 浴室・トイレの性能向上・更新
- 6 天井・壁・窓などの高断熱化(省エネルギー化)
- 7 太陽光発電設備など省エネルギー機器の設置
- 8 地震に対する安全性の向上(耐震改修)
- 9 天井・壁・床など内装の修繕・模様替え
- 10 屋根・外壁など外装の修繕・改修
- 11 その他( )

(問20で1を選んだ方におたずねします。)

問22 予算の上限はどのくらいですか。

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1 50万円未満           | 2 50万円以上100万円未満  |
| 3 100万円以上300万円未満   | 4 300万円以上500万円未満 |
| 5 500万円以上1,000万円未満 | 6 1,000万円以上      |

(問20で1を選んだ方におたずねします。)

問23 時期はいつ頃を想定していますか。

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 1年以内     | 2 1年先～3年以内  |
| 3 3年先～5年以内 | 4 5年先～10年以内 |
| 5 10年先以降   | 6 未定        |

(問20で2を選んだ方におたずねします。)

問24 その主な理由を次の中から1つ選んでください。

- 1 現在の住宅に満足しているから
- 2 資金に余裕がないから
- 3 どの業者に依頼すればよいか分からないから
- 4 住み続けながらの工事は大変そうだから
- 5 住宅の後継者がおらず、お金をかける気がないから
- 6 借家だから
- 7 その他( )

(全員の方におたずねします。)

問25 あなたは、自分が住む住宅の環境について、不満に思っていることがありますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 1 火災・地震・水害などに対する安全性 | 2 まわりの道路の歩行時の安全性       |
| 3 治安                | 4 騒音、振動、空気・水の汚れ        |
| 5 通勤・通学などの利便性       | 6 日常の買い物、医療・福祉施設などの利便性 |
| 7 大型商業施設、娯楽施設の充実    | 8 公共交通機関の利便性           |
| 9 子どもの遊び場・公園などの充実   | 10 緑・水辺など自然の豊かさ        |
| 11 日当たり、風通しなど空間のゆとり | 12 まちなみの景観             |
| 13 近隣の人たちや地域とのつながり  | 14 親族(親・子どもなど)の住宅との距離  |
| 15 特にない             | 16 その他( )              |

## II 住宅建設における環境対策について

県内の森林は、人工林の6割以上が50年生以上となり伐期を迎えていることから、これらを順次有効に活用していく必要があります。また、環境対策として建築物分野におけるエネルギー消費量を抑えることが重要です。そこで、住宅建設における環境対策について、あなたのご意見やお考えをお聞きます。

(全員の方におたずねします。)

問26 あなたは、新築やリフォームで木材を使うとしたら、どのような点を最も重視しますか。

- |        |          |      |
|--------|----------|------|
| 1 品質   | 2 価格     | 3 産地 |
| 4 特にない | 5 その他( ) |      |

(全員の方におたずねします。)

問27 あなたは、住宅を新築したりリフォームするとしたら、木材の産地はどこのものがよいと思いますか。

- |                |            |      |
|----------------|------------|------|
| 1 長野県内のうち、近隣地域 | 2 長野県内     | 3 国内 |
| 4 国外           | 5 特にこだわらない |      |

(全員の方におたずねします。)

問28 あなたが、住宅の建設にあたって、地球環境に配慮するために特に重要だと思うことは何ですか。次の中から2つ以内で選んでください。

- 1 断熱性や気密性など、省エネルギー性能の高さ
- 2 太陽光・太陽熱など、自然エネルギーの活用
- 3 住宅建材のリサイクル等の推進
- 4 住宅の長期使用（長寿命化）
- 5 県産木材など地域の森林資源の活用
- 6 特にない
- 7 その他（

(全員の方におたずねします。)

問29 あなたが住宅の省エネルギー化について、最も関心があるのはどのような点ですか。次の中から2つ以内で選んでください。

- 1 地球環境の保全にどの程度貢献できるか
- 2 光熱費をどの程度節減できるか
- 3 省エネルギー化のための初期費用はどのくらいか
- 4 快適・健康に生活することができるか
- 5 特にない
- 6 その他（

(全員の方におたずねします。)

問30 あなたは、長期にわたり良好に使用するための措置が講じられた新築住宅を「長期優良住宅」として認定する制度を知っていますか。

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 1 よく知っている       | 2 少し知っている |
| 3 名称だけは聞いたことがある | 4 知らない    |

(注) 「長期優良住宅」とは、構造躯体の劣化対策、耐震性、維持管理・更新の容易性等の措置が講じられ、維持保全計画を策定して認定を受けた住宅のことで、所得税、固定資産税等の軽減、住宅ローン金利の引下げ、建設費補助等の優遇制度があります。

(全員の方におたずねします。)

問31 あなたは、二酸化炭素の排出の抑制に特に配慮された新築住宅を「低炭素建築物（住宅）」として認定する制度を知っていますか。

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 1 よく知っている       | 2 少し知っている |
| 3 名称だけは聞いたことがある | 4 知らない    |

(注) 「低炭素建築物（住宅）」とは、エネルギー消費量の低減対策のほか、節水対策・木材利用等の措置を講じた建築物（住宅）のことで、所得税等の軽減、住宅ローン金利の引下げ、建設費補助、容積率緩和等の優遇措置があります。

### Ⅲ 住宅の地震対策について

大地震で住宅が倒壊すると、大勢の人が犠牲になるばかりか、消防活動や救出活動の妨げにもなります。そのため、長野県では大きな地震が起きたときに住宅が倒れないようにするための耐震改修へ助成するなど対策に取り組んでいますが、思うように耐震改修が進んでいないのが実状です。そこで、住宅の地震対策について、あなたのご意見やお考えをお聞きます。

(全員の方におたずねします。)

問32 あなたは、現在住んでいる住宅の地震に対する安全性(耐震性)について、どう考えていますか。

- 1 耐震性はある（または、あると思う）
- 2 耐震性は不足している（または、不足していると思う）
- 3 関心があるが、耐震性があるかどうか分からない
- 4 特に関心がない
- 5 その他（

(全員の方におたずねします。)

問33 あなたは、仮に現在住んでいる住宅の耐震性が不足していることが分かった場合、どのような対策をとろうと思いますか。

- |   |           |           |                          |
|---|-----------|-----------|--------------------------|
| 1 全く壊れないように住宅を補強したい                                     | } (→問35へ) | } (→問34へ) | <input type="checkbox"/> |
| 2 倒壊せず避難ができる程度に住宅を補強したい                                 |           |           |                          |
| 3 特に住宅の補強はしないが、耐震シェルター(耐震ベッド)を設置することで、少なくとも就寝時の安全は確保したい |           |           |                          |
| 4 特に住宅の補強はしないが、本棚・家具などの転倒防止対策は行いたい                      |           |           |                          |
| 5 現在の住宅の対策をとるのではなく、建替えや別の住宅への住替えをしたい                    |           |           |                          |
| 6 特に対策をとらない   |           |           |                          |
| 7 その他 ( ) (→問35へ)                                       |           |           |                          |

(注) 「耐震シェルター」、「耐震ベッド」とは、地震で住宅が倒壊しても寝室や睡眠スペースを守るため、住宅内の一部に木材や鉄骨等で作る強固な箱型の空間のことです。

(問33で3から6を選んだ方におたずねします。)

問34 その主な理由を次の中から1つ選んでください。

- |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 資金に余裕がないから               | ) <input type="checkbox"/> |
| 2 どの業者に依頼すればよいか分からないから     |                            |
| 3 居住性や使い勝手が悪くなりそうだから       |                            |
| 4 住み続けながらの工事は大変そうだから       |                            |
| 5 自分が住んでいる間には、大地震は来ないと思うから |                            |
| 6 住宅の後継者がおらず、お金をかける気がないから  |                            |
| 7 借家だから                    |                            |
| 8 その他 ( )                  |                            |

#### IV 高齢社会における住宅対策について

全国有数の健康長寿を誇る長野県には元気な高齢者が多く、また団塊の世代が定年を迎えていることから、すべての高齢者が地域で安心して生活できる住まいづくりが重要な課題となっています。そこで、高齢社会における住宅対策について、あなたのご意見やお考えをお聞きます。

(全員の方におたずねします。)

問35 あなたが高齢者になったとき(現在高齢者の方も含みます。)のことを考えて、現在住んでいる住宅及びその周辺について不安に感じることはありますか。次の中から2つ以内で選んでください。

- |                                  |                            |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1 住居費(改修費や家賃など)の負担               | ) <input type="checkbox"/> |
| 2 火災や地震などの安全性                    |                            |
| 3 手すりがない、段差があるなど、バリアフリー化されていないこと |                            |
| 4 病院や福祉施設などが近くにないこと              |                            |
| 5 商店が近くにないこと                     |                            |
| 6 まわりの道路の歩行時の安全性                 |                            |
| 7 親族が近くにいないこと                    |                            |
| 8 公共交通機関が不便なこと                   |                            |
| 9 近隣や地域とのつながり                    |                            |
| 10 特になし                          |                            |
| 11 その他 ( )                       |                            |

(全員の方におたずねします。)

問36 あなたが高齢者になったとき(現在高齢者の方も含みます。)、誰と一緒に住みたいと望んでいますか。

- |                        |                   |                            |
|------------------------|-------------------|----------------------------|
| 1 単身または夫婦だけで住みたい       | 2 子どもなど親族と一緒に住みたい | ) <input type="checkbox"/> |
| 3 親族の近くで単身または夫婦だけで住みたい | 4 知人や友人と一緒に住みたい   |                            |
| 5 その他 ( )              |                   |                            |

## V 公営住宅のあり方について

県と市町村は、住宅にお困りで一定の収入以下の方々のために、約3万3千戸の公営住宅（県営住宅や市町村営住宅など）を整備・運営しています。人口増社会が続いた時代には、多くの公営住宅を建設してきましたが、人口減社会を迎えた現在では、公営住宅を含めた県内の住宅の総数は総世帯数を上回っており、数の上では住宅の数は足りている状況にあります。一方、近年では、高齢者、ひとり親家庭、ドメスティックバイオレンス（DV）被害者等の様々な住宅困窮者や子育て世代のための住宅の確保など、住宅におけるセーフティーネットとしての整備が求められています。そこで、公営住宅についてのあなたのご意見やお考えをお聞きします。

（全員の方におたずねします。）

問37 公営住宅は、低廉な家賃の住宅を賃貸することを目的としていますが、現状では昭和30年～40年代に建設された公営住宅が数多くあり、老朽化が進行しています。

あなたは、今後、老朽化した公営住宅の整備をどのようにしたらよいと思いますか。

- 1 公営住宅の必要性は高く、不足しているので、新たに増やすべきだと思う
- 2 公営住宅の必要性は高いが、戸数は間に合っているので、現状の戸数を維持していけばよいと思う
- 3 公営住宅の必要性は減少しており、老朽化した住宅は取り壊して徐々に減らしていけばよいと思う
- 4 公営住宅の必要性は低いので、民間住宅に任せればよいと思う
- 5 いずれとも言えない
- 6 その他（ )

（全員の方におたずねします。）

問38 公営住宅は、県と市町村がそれぞれ建設し管理していますが、管理が異なることにより、募集情報の提供や入居申込みの窓口が別になるなど、入居希望者にとって不便であるとの指摘があります。また、高齢化社会が進んでいく中、公営住宅は住まいの提供ということだけでなく、健康や見守り等の福祉の分野、コミュニティの形成や地域、まちづくりの分野との連携が、ますます必要になっていきます。

このような状況で、あなたは今後の公営住宅の供給はどのように行うのがよいと思いますか。

- 1 住民に身近であること、地域づくりの観点から、市町村が行うのがよい
- 2 広域的な観点から、県が行うのがよい
- 3 どちらとも言えない
- 4 その他（ )

（全員の方におたずねします。）

問39 あなたがこれから住宅を借りるとしたら、場所について何が重要だと思いますか。

- 1 郊外等で交通や日常の買い物など生活に不便であっても、自然豊かで環境に恵まれていること
- 2 市街地で交通や生活に便利であること
- 3 どちらとも言えない
- 4 その他（ )

（全員の方におたずねします。）

問40 あなたがこれから住宅を借りるとしたら、住宅の新しさと家賃について何が重要だと思いますか。

- 1 家賃が高くても、住宅が新しく設備等が整っていること
- 2 住宅が古く設備等が新しくなくても、家賃が安いこと
- 3 どちらとも言えない
- 4 その他（ )

## VI 景観・地域コミュニティについて

長野県では、信州の美しい景観を守るために重点的な取組を行ってきました。心豊かに生活できる居住環境を実現するためには、今後、更に歴史や文化に根ざした地域の個性を生かした景観づくりを推進する必要があります。また、近年では空き家の増加が社会問題となっており、景観や地域コミュニティ等への影響が心配されています。そこで、長野県の景観・地域コミュニティや空き家問題について、あなたのご意見やお考えをお聞きます。

(全員の方におたずねします。)

問41 あなたは、現在住んでいる地区のまちなみ景観について、どのような印象をお持ちですか。

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 1 大変良い (→問43へ)      | 2 まあ良い (→問43へ)    |
| 3 どちらとも言えない (→問43へ) | 4 あまり良くない (→問42へ) |
| 5 良くない (→問42へ)      |                   |

(問41で4または5を選んだ方におたずねします。)

問42 その主な理由を次の中から2つ以内で選んでください。

- |                                      |                         |
|--------------------------------------|-------------------------|
| 1 周囲の景観に調和していない建物や工作物があるから(外壁の色、形など) |                         |
| 2 電柱、電線が気になるから                       | 3 看板、広告塔が乱立しているから       |
| 4 ポスターなどが氾濫しているから                    | 5 塀、垣根などに緑が少ないから        |
| 6 街路樹などが少ないから                        | 7 自動販売機が目立つから           |
| 8 老朽建物や空き家があるから                      | 9 積極的な景観育成の取組がなく、殺風景だから |
| 10 その他 ( )                           |                         |

(全員の方におたずねします。)

問43 あなたは、これからの景観育成のためには、どのようなことが大切だと思いますか。次の中から2つ以内で選んでください。

- |   |  |
|---|--|
| 1 建物の色や形などに対する行政指導や処分                   |  |
| 2 法律による制度の活用(地区計画等)                     |  |
| 3 地域住民の参加によるボランティア活動                    |  |
| 4 景観育成のための、行政からの経費助成                    |  |
| 5 景観に配慮した公共事業の推進                        |  |
| 6 景観に関する講習会や表彰の実施などの啓発活動                |  |
| 7 まちなみ景観の育成に関する情報の提供(ガイドライン、デザインマニュアル等) |  |
| 8 その他 ( )                               |  |

(全員の方におたずねします。)

問44 あなたは、市街地の中心部に住む人が減少している傾向について、住む環境から見て主にどのような問題があるからだと思いますか。次の中から2つ以内で選んでください。

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1 騒音や振動など環境がよくない   | 2 災害に対する安全性が低い      |
| 3 高齢者や障害者が生活しにくい   | 4 病院や福祉施設などの利用がしにくい |
| 5 商店が減少して利便が低下している | 6 住宅や敷地の確保が難しい      |
| 7 住宅費(土地代や家賃)が高い   | 8 駐車場の確保が難しい        |
| 9 公園や緑地の利用がしにくい    | 10 まちなみや景観がよくない     |
| 11 その他 ( )         |                     |

(全員の方におたずねします。)

問45 近年、空き家の増加が社会問題になっていますが、あなたは周囲の空き家について、どう感じていますか。

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1 空き家が増えてきている     | 2 空き家があるが、数はあまり変わらない |
| 3 空き家があるが、減ってきている | 4 空き家があるとは感じない       |
| 5 分からない           |                      |



---

平成28年2月発行

発行 長野県

編集 長野県建設部 建築住宅課  
長野市大字南長野字幅下692-2 電話026(235)7339(直通)  
E-mail : kenchiku@pref.nagano.lg.jp

---